兵庫県文化財調査報告　第 482 冊

朝来市

生野代官所跡関連遺跡

- 一般国道 429 号電線共同溝・歩道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

平成 28（2016）年 3 月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

朝来市

生野代官所跡関連遺跡

いくのだいかんしょあとかんれんいせき

- 一般国道 429 号電線共同溝・歩道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

平成 28（2016）年 3 月

兵庫県教育委員会

出土土器・陶磁器

M28 権

5 区西壁断面

生野代官所跡関連遺跡出土の主要遺物

SX1017（北から）

SX1017 第二次面（西から）

SK5022（東から）

生野代官所跡関連遺跡の主要遺構

例　　言

1　本書は、兵庫県朝来市生野町口銀谷に所在する、生野代官所跡関連遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査は一般国道 429 号電線共同溝・歩道整備工事に伴うもので、兵庫県但馬県民局養父土木事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体とし、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターを調査機関として、平成 23・25（2011・2013）年度に実施した。また整理事業は、同事務所の委託により、平成 26・27（2014・2015）年度に、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部において実施した。

3　調査の推移

分布調査　平成 20 年 4 月 22 日
　実施機関：兵庫県立考古博物館
確認調査　平成 22 年 8 月 23 日・9 月 9 日
　実施機関：兵庫県立考古博物館
　平成 23 年 5 月 26 日・平成 24 年 3 月 16 日
　実施機関：兵庫県立考古博物館
本発掘調査　平成 23 年 6 月 27 日・28 日・7 月 4 日
　実施機関：兵庫県立考古博物館
　工事請負：直接執行調査
本発掘調査　平成 25 年 5 月 17 日～平成 25 年 9 月 12 日
　実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
　工事請負：長野建設（株）
出土品整理作業
　平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
　実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

4　本書の編集・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部久保弘幸が担当した。

5　出土した遺物および作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。

6　遺構面の基本図化（1/50）は写真測量によっておこない、（株）ＧＥＯソリューションズに委託して実施した。遺物写真撮影は、（株）クレアチオに委託して実施した。

7　本書中の図で示した方位は、調査地点における座標北による。また、標高は東京湾平均海水準を基準とした。

8　発掘調査及び報告書の作成にあたっては、下記の方々よりご指導を頂戴した。記して謝意を表したい（順不同・敬称略）。鈴木久男・神崎　勝・田畑　基・中島雄二・岡田章一

9　放射性炭素年代測定は(株)加速器分析研究所、木製品の樹種同定は(株)パレオ・ラボ、土壌中金属の分析はパリノ・サーヴェイ（株）に、それぞれ委託して実施した。また、土壌中の金属類の蛍光 X 線分析については当センターの岡本一秀がおこなった。

10　本書中で用いた地層および土器の色調の記号番号は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』によっている。

11　挿図中で用いた遺構の略称は次のとおりである。SP：柱穴　SK：土坑　SD：溝　SX：その他の遺構

本 文 目 次

第１章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 2

第２章　調査の概要
　第１節　調査に至る経緯 …… 4
　第２節　発掘調査の概要 …… 4

第３章　遺構と遺物
　第１節　調査の概要 …… 7
　第２節　平成 23（2011）年度の調査 …… 7
　第３節　平成 25（2013）年度の調査 …… 7

第４章　結　語
　第１節　遺構面とその時期 …… 27
　第２節　輸入陶磁器類および国内産の陶器類について …… 28
　第３節　総括 …… 28

報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図　遺跡の位置（日本地図＋兵庫県地図） …… 1
第 2 図　生野代官所跡関連遺跡と周辺の遺跡（1/35,000） …… 3
第 3 図　小学生見学状況 …… 29
第 4 図　調査風景 …… 29
第 5 図　現地説明会状況 1 …… 29
第 6 図　現地説明会状況 2 …… 29

表 目 次

第 1 表　生野代官所跡関連遺跡調査一覧 …… 4
第 2 表　生野代官所跡関連遺跡整理事業工程 …… 6
第 3 表　収録遺構一覧表 …… 30・31
第 4 表　収録遺物観察表 …… 32 ～ 38

巻頭図版

巻頭図版１　生野代官所跡関連遺跡出土の主要遺物
巻頭図版２　生野代官所跡関連遺跡の主要遺構

図版目次

図版 1　調査区位置図
図版 2　1 区南壁地層断面図
図版 3　1 区第 1 面・第 2 面平面図
図版 4　1 区第 3 面・第 4 面平面図
図版 5　1 区遺構平面図・断面図（1）
SP1001・SK1002・SK1006・SK1007・
SK1009・SP1013
図版 6　1 区遺構平面図・断面図（2）
SX1011・SX1017
図版 7　1 区遺構平面図・断面図（3）
SX1015・SX1018
図版 8　1 区遺構平面図・断面図（4）
SK1019・SK1020・SD1021・SK1023
図版 9　1 区遺構平面図・断面図（5）
SK1030・SK1033・SK1034・SK1035
図版 10　1 区遺構平面図・断面図（6）
SX1038
図版 11　1 区遺構平面図・断面図（7）
SK1035・SX1038・SK1039・SK1040・
SK1041・SX1046
図版 12　1 区遺構平面図・断面図（8）
SK1039・SK1044・SX1046
図版 13　2 区南壁地層断面図
図版 14　2 区第 1 面・第 2 面・第 3 面平面図
図版 15　2 区遺構平面図・断面図（1）
SK2001・SX2002・SK2005
図版 16　2 区遺構平面図・断面図（2）
SP2003・SK2004・SK2006・SK2012・
SP2014・SK2015・SK2017・SK2018・
SK2019
図版 17　3・4 区北壁地層断面図
図版 18　3・4 区第 1 面・第 2 面・第 3 面平面図
図版 19　3・4 区遺構平面図・断面図（1）
SK3001・SX3003・SK3004・SX3005・
SX3007
図版 20　3・4 区遺構平面図・断面図（2）
SX4003・SX4004・SK4005・SK4007・
SK4008
図版 21　3・4 区遺構平面図・断面図（3）
SK4009・SX4010・SD4011・SK4012
図版 22　3・4 区遺構平面図・断面図（4）
SX3013・SK3014・SK4016
図版 23　3・4 区遺構平面図・断面図（5）
SK3018・SP3019・SP3020・SK3022・
SK4017・SK4019・SK4022・SK4023
図版 24　5 区南壁・西壁地層断面図
図版 25　5 区南壁・西壁地層断面図地層名記載
図版 26　5 区第 1 面平面図
図版 27　5 区第 2 面平面図
図版 28　5 区第 3 面平面図
図版 29　5 区第 4 面・第 5 面平面図
図版 30　5 区遺構平面図・断面図（1）
SK5001・SK5002・SK5012・SK5016・
SK5017・SK5019
図版 31　5 区遺構平面図・断面図（2）
SX5018・SK5021・SK5023・SK5024
図版 32　5 区遺構平面図・断面図（3）
SK5022・SK5031・SK5032
図版 33　5 区遺構平面図・断面図（4）
SK5039・SE5041・SX5095・SK5139
図版 34　5 区遺構平面図・断面図（5）
SP5042・SK5043・SK5146・SE5147・
SK5148
図版 35　5 区遺構平面図・断面図（6）
SD5045・SX5149・SD5150・SX5151
図版 36　5 区遺構平面図・断面図（7）
SX5046・SX5047・SX5048・SK5049・
SK5050・SK5051・SP5071
図版 37　5 区遺構平面図・断面図（8）
SK5054・SK5055・SP5061・SK5072・
SK5073・SK5074
図版 38　5 区遺構平面図・断面図（9）
SX5052
図版 39　5 区遺構平面図・断面図（10）
SX5059
図版 40　5 区遺構平面図・断面図（11）
SK5064・SK5070・SX5075・SK5078
図版 41　5 区遺構平面図・断面図（12）
SK5087・SK5088・SX5089・SK5090
図版 42　5 区遺構平面図・断面図（13）
SK5155・SK5164・SP5165・SX5166・
SX5167・SX5168
図版 43　5 区遺構平面図・断面図（14）
SX5114・SP5116
図版 44　5 区遺構平面図・断面図（15）
SX5091・SX5092・SX5098・SX5100・
SK5101
図版 45　5 区遺構平面図・断面図（16）
SK5122・SX5123
図版 46　5 区遺構平面図・断面図（17）
SK5122・SX5123・SK5133
第 5 面の遺構
図版 47　1 区出土土器・陶磁器（1）
図版 48　1 区出土土器・陶磁器（2）
図版 49　1 区出土土器・陶磁器（3）
2 区出土陶磁器
図版 50　3・4 区出土土器・陶磁器
図版 51　5 区出土土器・陶磁器（1）
図版 52　5 区出土土器・陶磁器（2）
図版 53　5 区出土土器・陶磁器（3）

図版 54　5 区出土土器・陶磁器（4）
図版 55　5 区出土土器・陶磁器（5）
図版 56　5 区出土土器・陶磁器（6）
図版 57　各地区出土の木製品
図版 58　各地区出土の金属製品（1）
図版 59　各地区出土の金属製品（2）
図版 60　各地区出土の金属製品（3）
図版 61　各地区出土の金属製品（4）
　　各地区出土の石製品（1）
図版 62　各地区出土の石製品（2）
図版 63　T6・東区および 1 区出土銅銭（1）S=1:1
図版 64　1 区出土銅銭（2）2 区出土銅銭　S=1:1
図版 65　3・4 区出土銅銭　S=1:1
図版 66　5 区出土銅銭（1）S=1:1
図版 67　5 区出土銅銭（2）S=1:1

写真図版目次

写真図版 1　1 区第 1 面
　　1 区第 3 面
写真図版 2　2 区第 1 面
　　2 区第 3 面
写真図版 3　3・4 区第 1 面
　　3・4 区第 3 面
写真図版 4　5 区第 1 面
写真図版 5　5 区第 3 面
写真図版 6　第 1 面全景（東から）
　　第 1 面全景（西から）
　　第 2 面全景（東から）
　　第 2 面全景（西から）
写真図版 7　第 3 面全景（東から）
　　第 3 面全景（西から）
　　第 4 面全景（東から）
　　第 4 面全景（西から）
写真図版 8　SP1001・SK1002 検出状況（南から）
　　SP1001 完掘状況（南から）
　　SK1003(右)・SP1004 検出状況（南から）
　　SK1003(右)断面・SP1004 完掘状況
　　（南から）
　　SX1005 検出状況（西から）
　　SK1007 断面（南から）
　　SK1006 検出状況（南から）
　　SK1006 断面（南から）
写真図版 9　調査区西部第 1 面検出状況（北から）
　　SX1011 検出状況（北から）
　　SX1011 断面（北から）
　　SP1013 完掘状況（北から）
　　SK1009 断面（南から）
写真図版 10　SP1008 銅銭出土状況（東から）
　　SP1008 銅銭出土状況アップ（東から）
　　SX1015 断面（北から）
　　SK1020 断面（北から）
　　SK1019 検出状況（東から）
　　SK1019 断面（南から）
　　礎石 2・礎石 3・SP1024・SP1025・
　　SK1026・SP1027・SK1028 検出状況
　　（東から）
　　礎石 2・礎石 3（東から）
写真図版 11　SX1017 第 1 面礫検出状況（北から）
　　SX1017 第 1 面礫検出状況（西から）
　　SX1017 製錬関係遺物出土状況（北から）
　　SX1017 炭層除去後（北から）
　　SX1017 炭層除去後（部分：西から）
写真図版 12　SX1017 第 1 面断割断面（西から）
　　SX1017 第 2 面石組（西から）
写真図版 13　SX1017 第 3 面石組（西から）
　　SX1017 第 3 面石組（北から）
写真図版 14　SX1017 完掘状況（北西から）
　　SX1017 完掘状況（西から）
写真図版 15　SX1018 検出状況（西から）
　　SX1018 検出状況（北から）
写真図版 16　SX1018 断面（北から）
　　SX1018 南北断割断面（西から）
写真図版 17　第 2 面焼土・炭層中銭出土状況（北から）
　　第 2 面焼土・炭層中銭出土状況
　　（部分：北から）
　　第 2 面焼土・炭層中銭出土状況 1
　　（北から）
　　第 2 面焼土・炭層中銭出土状況 2
　　（北から）
　　SD1021 断面（東から）
　　SK1023 断面（北から）
　　SK1029 断面（北から）
　　SP1036 断面（北から）
写真図版 18　SK1030 礫検出状況（西から）
　　SK1030 断面（西から）
　　SK1028 礫検出状況（北から）
　　SK1033 断面（北から）
　　礫・カラミによるタタキ上面（北から）
写真図版 19　調査区西端第 2 面検出状況（北から）
　　調査区中央部第 3 面遺構検出状況
　　（北から）
写真図版 20　調査区東部第 3 面検出状況（東から）
　　第 3 面クロボク・焼土層境界
　　銭出土状況 1（北から）
　　第 3 面クロボク・焼土層境界
　　銭出土状況 2（北から）
　　SX1046 検出状況（南から）
　　SK1039 断面（北から）
写真図版 21　SX1038 全景（東から）
　　SX1038 石垣側面（東から）
写真図版 22　SX1038 裏込検出状況（南から）
　　SX1038 裏込断面（南から）

写真図版 23　SK1039 礫検出状況（南から）
SK1039 礫検出状況および南北アゼ断面（西から）
写真図版 24　第 4 面検出状況（東から）
第 4 面検出状況（西から）
写真図版 25　SK1041 検出状況（北から）
SP1047・SP1048 検出状況（北から）
SK1041 南北断面（西から）
SK1044 断面（西から）
写真図版 26　南壁断面（北東から）
南壁断面（北西から）
写真図版 27　西部南壁断面（北西から）
西部北壁断面（南東から）
写真図版 28　第 1 面全景（東から）
第 2 面全景（東から）
南壁断面（北西から）
写真図版 29　第 3 面全景（東から）
第 3 面遺構検出状況（西から）
SK2001 検出状況（東から）
SK2001 断面（南から）
写真図版 30　SX2002 検出状況（南から）
SP2003・SK2004 断面（東から）
SK2004 遺物出土状況（東から）
SK2004 遺物出土状況アップ（東から）
SK2005 検出状況（北から）
SK2005 礫検出状況（北から）
SK2005 断面（東から）
写真図版 31　SK2005 下部石組・焼土面検出状況（東から）
SK2005 下部石組・焼土断面（東から）
写真図版 32　SK2005 下層石組検出状況（北から）
SK2005 下層石組完掘状況（東から）
SK2005 下層石組完掘状況（南から）
SK2006 断面（東から）
SK2009 検出状況（北から）
写真図版 33　SP2010 検出状況（東から）
SP2013 検出状況（東から）
SK2012 検出状況（東から）
SK2012 断面（東から）
SK2015 断面（南から）
SP2016 完掘状況（東から）
SK2017 断面（南から）
SK2018・SK2019 断面（北から）
写真図版 34　第 1 面全景（東から）
第 1 面全景（西から）
第 1 面東端（東から）
第 1 面（部分：西から）
第 1 面（部分：東から）
第 2 面（部分：西から）
写真図版 35　第 2 面全景（東から）
第 2 面全景（西から）
第 3 面全景（東から）
第 3 面全景（西から）
写真図版 36　東部第 1 面遺構検出状況（南から）
中央部～東部第 1 面遺構検出状況（南から）
写真図版 37　SK3001・SP3002・SX3003 検出状況（東から）
SK3001 礫検出状況（南から）
SK3001 断面（南から）
SX3003 調査状況（南から）
SX3003 断面（南から）
写真図版 38　SX3005 検出状況（北から）
SX3005 断面（北から）
写真図版 39　SX3007・SX3008 礫敷検出状況（南から）
SX3007 断面（南から）
写真図版 40　SX3013（右）・SK3014 検出状況（南から）
SX3013 断面（西から）
SK3014 断面（東から）
SK3004 断面（南から）
SK3018 断面（東から）
写真図版 41　SP3019 礫検出状況（西から）
SP3019 礫除去後（西から）
SP3020 検出状況（東から）
SP3020 断面（東から）
SK3021 検出状況（南から）
SK3022 断面（西から）
SK4005 断面（東から）
SK4007 断面（東から）
写真図版 42　SX4003 礫敷検出状況（南から）
SX4003 断面（南から）
SX4003・SD4006 断面（南から）
SK4008 断面（東から）
SK4009 断面（南から）
写真図版 43　SX4010 検出状況（南から）
SX4010 断面（東から）
SK4012 断面（南から）
SK4013 断面（北から）
SK4015 完掘状況（南から）
SK4016 断面（北から）
SK4016 石組（北から）
SK4016 石組（部分：北西から）
写真図版 44　SX4004 検出状況（北から）
SX4004 検出状況（南から）
SK4017 断面（東から）
SX4018 下底柱穴検出状況（南から）
SK4019 礫検出状況（南から）
SK4022 断面（南から）
SK4023 断面（西から）
写真図版 45　東壁断面（西から）
北壁断面（南東から）
写真図版 46　3 区北壁断面（南西から）
4 区北壁断面（南西から）
写真図版 47　第 1 面全景（東から）

第 1 面全景（西から）
調査区東端第 1 面（東から）
第 1 面全景中央より西（東から）
写真図版 48　第 2 面全景（西から）
第 2 面全景（東から）
第 2 面東端検出状況
第 2 面全景（中央から東方向）
写真図版 49　第 3 面全景（東から）
第 3 面全景（西から）
第 3 面東端検出状況（北東から）
SX5114 礫検出状況（南から）
写真図版 50　第 4 面全景（東から）
第 4 面全景（西から）
SK5133 礫検出状況（北から）
SX5123 礫検出状況（西から）
写真図版 51　SK5001 検出状況（東から）
SK5001 断面（東から）
SK5002 検出状況（北から）
SK5002 断面（北から）
SK5012 断面（南から）
SK5016 断面（南から）
SK5017 断面（北東から）
SK5021 断面（東から）
写真図版 52　SK5022 断割断面（南から）
SK5022（北から）
SK5022（東から）
SK5022 遺物出土状況（東から）
SK5022 完掘状況（東から）
写真図版 53　SX5018 検出状況（南から）
SX5018 断面（東から）
SK5019・SK5023 検出状況（東から）
SK5023 断面（東から）
SK5024 断面（東南から）
SX5025 検出状況（北から）
SK5028 断面（東から）
SK5030 検出状況（東から）
写真図版 54　SK5031 断面（東から）
SK5031 完掘状況（東から）
SK5032 遺物出土状況（南から）
SK5145 断面（西から）
SP5042 断面（北から）
SP5042 完掘状況（北から）
SK5043 礫検出状況（東から）
SK5043 断面（南東から）
写真図版 55　SE5041 石組完掘状況（北から）
SE5041 検出状況（東から）
SE5041 断面（北から）
SE5041 断割状況（北から）
SE5041 完掘状況（北から）
写真図版 56　SX5095 検出状況（北から）
SX5095 木枠検出状況（北から）
SX5095 木枠検出状況（部分：北から）
SX5095 断面（北から）
SX5095 上部構造除去後（北から）
写真図版 57　SK5139 検出状況（南から）
SK5139 断面（南から）
SK5139 断割断面（南から）
SK5139 完掘状況（南から）
SK5140・SK5141 検出状況（南から）
SK5140 断面（南から）
SK5141 断割断面（南から）
SE5147 断割断面（南から）
写真図版 58　SK5148 断面（南から）
SX5149・SX5151 検出状況（北から）
SX5149 断割断面（南から）
SX5151 断割断面（南から）
SD5045 断面（南から）
SD5044 断面（南から）
SX5046 ～ 5048 検出状況（東から）
SX5046 ～ 5048 完掘状況（東から）
写真図版 59　SK5049 礫検出状況（東から）
SK5050 断面（南から）
SK5051 断面 1（西から）
SK5051 断面 2（西から）
SK5054 断面（南東から）
SK5055 断面（南から）
SP5061 断面（南から）
SP5071 断面（北東から）
写真図版 60　SX5052 検出状況（北から）
SX5052 断面 1（東から）
SX5052 断面 2（東から）
SX5052 上部被覆層除去後 西半（北から）
SX5052 上部被覆層除去後 東半（北から）
写真図版 61　SX5052 焼土除去後（北から）
SX5052 東半焼土除去後の状況（北から）
SX5052 遺物出土状況（北から）
SX5052 焼土下の遺物出土状況（東から）
SX5059 検出状況（北から）
写真図版 62　SX5059 断面（東から）
SX5059 完掘状況（北から）
SX5059 付近南壁断面（北から）
SK5072 完掘状況（北から）
SK5073 断面（東から）
SX5075 検出状況（北から）
SX5075 断面 1（東から）
SX5075 断面 2（東から）
写真図版 63　SK5074 断面（南から）
SP5081 断面（南から）
SK5078 礫検出状況（南から）
SK5078 断面（東から）
SP5083 礎板石検出状況（東から）
SP5083 断面（東から）
SP5096（北から）
SK5155 断面（東から）

写真図版 64　SK5087・SK5088・SX5089・SK5090
検出状況（東から）
SK5087 検出状況（東から）
SK5087 焼土除去後（東から）
SK5087 側面の炭化材（東から）
SX5089 検出状況（西から）
写真図版 65　SX5089 断面（東から）
SX5089 焼土除去後（東から）
SK5088 検出状況（西から）
SK5088 断面（東から）
SK5090 横断面（南から）
SK5090 断割断面（東から）
SK5090 完掘状況（東から）
写真図版 66　SX5167・SX5168 断面（北から）
SX5167・SX5168 完掘状況（北から）
SP5165 断面（北から）
SP5094 遺物出土状況（南から）
SX5092 断面（西から）
SX5091 断面（南から）
SX5098 検出状況（西から）
SX5098 断面（東から）
写真図版 67　SK5102・SP5136 断面（西から）
SP5107 礫検出状況（南から）
SP5110 完掘状況（南から）
SP5113 根石（東から）
SX5114 検出状況（南から）
SP5115 礫検出状況（南から）
SP5116 断面（南から）
写真図版 68　SK5169 断面（北から）
SK5172 断面（東から）
SP5137 断面（北から）
SP5137 根石（北から）
SK5122 検出状況（東から）
SK5122 断面（南から）
SK5122 完掘状況（東から）
SX5123 礫面遺物出土状況（南から）
写真図版 69　SK5133 検出状況（北から）
SK5133 断面（東から）
SK5138 断面（南から）
第 5 面の土坑（南から）
第 5 面全景（東から）
第 5 面検出状況（西から）
南壁断面№. 5 ～ 6 間（1）
南壁断面№. 5 ～ 6 間（2）
写真図版 70　南壁断面№. 4 ～ 5 間（1）
南壁断面№. 4 ～ 5 間（2）
南壁断面№. 4 ～ 5 間（3）
南壁断面№. 4 ～ 5 間（4）
南壁断面№. 1+5 付近から№. 0（1）
南壁断面№. 1+5 付近から№. 0（2）
調査区西壁断面
写真図版 71　1 区出土土器・陶磁器（1）
写真図版 72　1 区出土土器・陶磁器（2）
写真図版 73　1 区出土土器・陶磁器（3）
写真図版 74　1 区出土土器・陶磁器（4）
写真図版 75　1 区出土土器・陶磁器（5）
写真図版 76　1 区出土土器・陶磁器（6）
2 区出土土器・陶磁器（1）
写真図版 77　2 区出土土器・陶磁器（2）
3・4 区出土土器・陶磁器（1）
写真図版 78　3・4 区出土土器・陶磁器（2）
写真図版 79　3・4 区出土土器・陶磁器（3）
5 区出土土器・陶磁器（1）
写真図版 80　5 区出土土器・陶磁器（2）
写真図版 81　5 区出土土器・陶磁器（3）
写真図版 82　5 区出土土器・陶磁器（4）
写真図版 83　5 区出土土器・陶磁器（5）
写真図版 84　5 区出土土器・陶磁器（6）
写真図版 85　5 区出土土器・陶磁器（7）
写真図版 86　5 区出土土器・陶磁器（8）
写真図版 87　5 区出土土器・陶磁器（9）
各地区出土土器・陶磁器（1）
写真図版 88　各地区出土土器・陶磁器（2）
写真図版 89　各地区出土土器・陶磁器（3）
写真図版 90　各地区出土の木製品
写真図版 91　各地区出土の金属製品（1）
写真図版 92　各地区出土の金属製品（2）
写真図版 93　各地区出土の金属製品（3）
各地区出土の石製品（1）
写真図版 94　各地区出土の石製品（2）
写真図版 95　T6・東区および 1 区出土銅銭（1）表面
T6・東区および 1 区出土銅銭（1）裏面
写真図版 96　1 区出土銅銭（2）2 区出土銅銭　表面
1 区出土銅銭（2）2 区出土銅銭　裏面
写真図版 97　3・4 区出土銅銭　表面
3・4 区出土銅銭　裏面
写真図版 98　5 区出土銅銭（1）表面
5 区出土銅銭（1）裏面
写真図版 99　5 区出土銅銭（2）表面
5 区出土銅銭（2）裏面

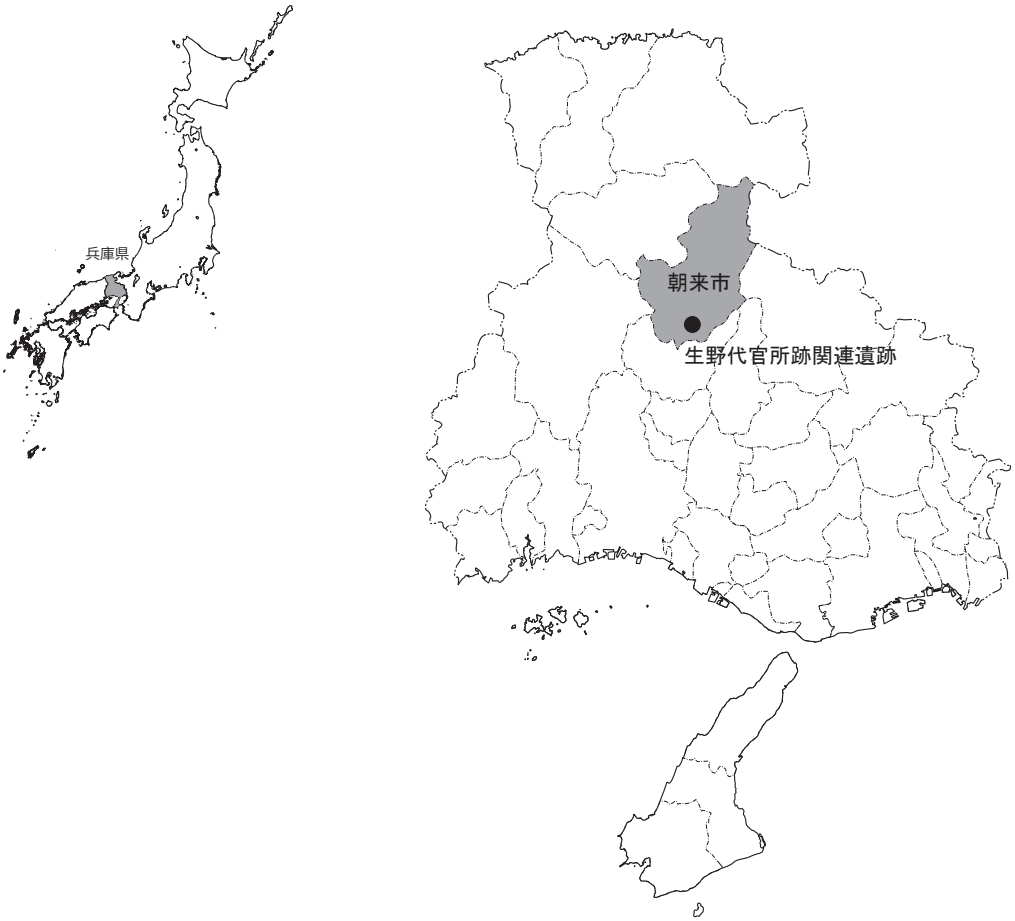
第１章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

生野代官所跡関連遺跡は、朝来市生野町の市街地中心部に所在する。朝来市は、兵庫県の但馬地方南部に位置し、北は豊岡市、南は神河町、西は養父市、東は丹波市にそれぞれ接している。朝来市は、2005 年に、朝来郡内の 4 町が合併して成立したが、生野町はその最南端にあって、播磨と但馬の境界に接している。

生野町域は、播磨地域から瀬戸内海へと流下する市川の上流部と、日本海へ流下する円山川の上流域が、ともに源流をもち、生野町市街地の北にある生野北峠（標高約 350 m）付近が、その中央分水界にあたる。こうした事情から、生野町域は、古くから但馬・播磨を結ぶ交通路の要衝としての機能を果たしてきた。生野町中心部からは、豊岡市中心部までは約 42 ㎞、姫路市中心部までは約 40 ㎞を測り、瀬戸内、日本海のほぼ中間にあたる。現在では、播但連絡道路と北近畿豊岡自動車道が、両地域を結ぶ大動脈として機能している。

生野町域の西には、段ヶ峰（1,103 m）、フトウガ峰（1,071 m）などの、1,000 m級の山塊がそびえ、東には播磨、丹波との国境をなす 800 m級の山々が連なる。これらの山地は、生野層群と総称される、中生代白亜紀の火山岩、堆積岩類から成り、その間隙を充填した熱水性鉱脈に対して、生野鉱山（生野銀山）が開発されてきた。



第１図　遺跡の位置（日本地図＋兵庫県地図）

第２節　歴史的環境

朝来市域南部にあたる旧生野町域で確認されている埋蔵文化財包蔵地は、わずかに 17 か所である（兵庫県教育委員会　2011）。それらのうち最も古い遺跡は、奈良時代とされる内山寺跡であり、他はすべて中世以降の遺跡である。狭隘な山間への開墾は、中世に至って初めて本格化したことが推測される。以下では、生野鉱山跡および生野代官所を中心に、調査地周辺の遺跡について概観する。

【生野鉱山】

生野鉱山（生野銀山）は、大同 2 年（807 年）に発見されたと伝えられている（神戸新聞出版センター 1983）が、これまでの調査等では、平安時代初頭の採鉱、精錬などに関連する遺構、遺物はまったく知られていない。旧生野町域における当該期の遺跡も知られておらず、律令期の生野鉱山については、伝承以上のことはまったく不明である。

天文 11 年（1542 年）に、山名祐豊によって石見銀山から採掘・精錬技術が導入され、鉱山の本格的開発が開始された。祐豊は生野城を改修し、山麓に居館（平城）を設けてこれを拠点としたが、天正 6 年（1578 年）の織田信長による但馬攻略で山名氏が退くと、織田氏は生野奉行を置いて生野銀山の経営をおこなった。

【生野奉行・生野代官所】

信長の死後は、豊臣秀吉が奉行を置いて生野銀山を支配した。慶長 5 年（1600 年）には、豊臣氏に代わって徳川氏が奉行を置き、生野奉行は当初、朝来・養父・気多の 3 郡、5 万石余を領したが、所領は次第に増加して、最終的には 8 万石余に達している。

生野奉行は 11 代を数えたが、銀の産出量が減少した享保元年（1716 年）に、奉行が廃されて代官所に改組された。以後、慶応 4 年（1868 年）までに 28 人の代官が任ぜられている。

生野代官には旗本が任ぜられ、産出された銀、銅などの収納と幕府への納入といった銀山経営のみならず、生野代官領の民政、財政、徴税、治安維持などもおこなっていた（神戸新聞出版センター 1983）。

【明治以降の生野鉱山】

明治初期に、生野鉱山は官営とされ、いわゆる「お雇い外国人技師」の指導の下に模範鉱山として近代化が進められた。また明治 22 年（1889 年）には、皇室財産に編入されている。

明治 29 年（1896 年）に、三菱に払い下げがおこなわれ、国内有数の鉱山として採掘が進められた。その後、昭和 48 年（1973 年）に至るまで採掘が続けられたが、鉱石の品質低下、坑道が深度 880 m、総延長 350 ㎞に達したことによる、採掘コストの上昇と安全管理の困難さなどにより、同年、閉鉱となった。

昭和 49 年（1974 年）に、三菱の関連会社が管理する「史跡生野銀山」として、坑道の一部などが見学できるようになり、あわせて採掘された鉱物を展示する鉱山資料館も設立された[注]。「史跡生野銀山」は、最盛期の昭和 61 年（1986 年）には、年間 24 万人の来場者を数えた（渡邊公章　2009）。

平成 19 年（2007 年）に、経済産業省が指定する近代化産業遺産および日本の地質百選に選定され、さらに平成 26 年（2014 年）には、「生野鉱山及び鉱山町の文化的景観」が国の重要文化的景観に選定された。これらにより生野鉱山および周辺に残る建造物およびそれらが形成する歴史的景観は、我が国における鋼業史を語る上で欠かせない文化遺産として、整備、保存されるに至っている。

現在も、生野鉱山は年間 7 万人の来場者を迎えているが（渡邊　前掲）、より観光客を誘致するために、同じ但馬地域に所在する明延鉱山、神子畑鉱山などとの連携が図られつつある。

第２図　生野代官所跡関連遺跡と周辺の遺跡（1/35,000）

1　生野代官所跡関連遺跡　2　生野城跡　3　生野鉱山（古城山・大盛山地区）　4　口山神社跡　5　奥山神社跡

6　玉翁院跡　7　内山寺跡　8　西林寺跡　9　生野鉱山（金香瀬地区）　10　生野鉱山（白口地区）

注

「史跡生野銀山」とは、これを経営する三菱マテリアルによる命名であり、生野銀山自体は国、あるいは兵庫県の史跡には指定されていない。

参考文献

神戸新聞出版センター　1983 『兵庫県大百科事典』上巻

渡邊公章　2009 「観光産業資源としての生野銀山の評価に関する研究」『日本国際観光学会論文集』第 16 号

兵庫県教育委員会　2011 『兵庫県遺跡地図』

第２章　調 査 の 概 要

第１節　調査に至る経緯

今回の発掘調査は、兵庫県但馬県民局養父土木事務所が実施する、一般国道 429 号電線共同溝・歩道整備工事に先立つものである。兵庫県教育委員会では、平成 20（2008）年度に、養父土木事務所の事業計画に基づいて対象地の分布確認調査を実施した。この分布調査では遺物は採集されなかったが、事業対象地が周知の遺跡である生野代官所跡関連遺跡の範囲内に位置するため、兵庫県教育委員会は養父土木事務所に対し、事業地内に埋蔵文化財が存在するとの回答（教埋文第1049号　平成18年5月9日付）をおこなった。

この回答を基に、平成 22（2010）～ 23（2011）年度には、兵庫県教育委員会によって、事業地内の確認調査および小範囲の本発掘区調査が断続的に実施された。さらに平成 23 年度の確認調査結果に基づいた、養父土木事務所の依頼（但馬（養土）第 1631 号　平成 25 年 3 月 27 日付）を受けて、本発掘調査を実施した。

確認調査および本発掘調査の位置を、図版１に示す。

第１表　生野代官所跡関連遺跡調査一覧

調査年度	調査番号	調査種別	調 査 期 間	担　当　者	調査面積（㎡）
2008	2008049	分布調査	2008/4/22	西口圭介・上田健太郎	5,210
2010	2010188	確認調査	2010/8/23・9/9	深江英憲	16
2011	2011201	確認調査	2011/5/26	別府洋二・山上雅弘	12
2011	2011239	本発掘調査	2011/6/27・6/28・7/4	上田健太郎	90
2011	2011282	確認調査	2012/3/16	上田健太郎	16
2013	2013002	本発掘調査	2013/5/17 ～ 2013/9/12	久保弘幸・大本朋弥	290

第２節　発掘調査の概要

（１）分布調査

分布調査は、上記事業地を対象として、地表面の観察により実施した。調査対象面積は、5,210 ㎡である。分布調査の時点では、地表面で観察可能な遺構は見いだされず、遺物の散布も認められなかったが、事業地が、周知の遺跡である生野代官所跡関連遺跡の範囲内にあったため、確認調査を実施することとなった。

【調査の体制】

調査主体　兵庫県教育委員会

分布調査担当者　兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財調査部

調査第２班　　西口圭介・上田健太郎

（２）確認調査

【調査の体制】

平成 22（2010）年度の調査

確認調査は、上記事業地の東端付近を対象として実施した。調査は、１ｍ×２ｍおよび２ｍ×３ｍの試掘

坑を合計4か所設定して実施した。調査体制は以下のとおりである。

発掘調査主体　兵庫県教育委員会

発掘調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部

企画調整課　深江英憲

確認調査の結果、試掘坑の範囲からは遺構・遺物は検出されなかった。

平成23（2011）年度の調査

2011年度には確認調査2回と本発掘調査1回が実施された。

【確認調査】

確認調査2011201では、事業地内に6か所の試掘坑を設定して調査をおこなった。調査体制は以下のとおりである。

発掘調査主体　兵庫県教育委員会

発掘調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部

調査第2課　別府洋二・山上雅弘

調査の結果、すべての試掘坑で層厚0.2～0.4ｍの重層する整地層と、この間に位置する2～4面の遺構面が検出され、本発掘調査が必要であると判断された。

確認調査2011282では、事業地内に試掘坑4か所を設定して調査をおこなった。調査体制は以下のとおりである。

発掘調査主体　兵庫県教育委員会

発掘調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部

企画調整課　上田健太郎

調査の結果、試掘坑T8を除き、整地層と焼土層、ならびに井戸(?)などの遺構が検出され、本発掘調査が必要であると判断された。

（３）本発掘調査

本発掘調査は、平成23（2011）年度と25（2013）年度の2年度にわたって実施した。調査体制は以下のとおりである。

【調査の体制】

平成23（2011）年度の調査

発掘調査主体　兵庫県教育委員会

発掘調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部

企画調整課　上田健太郎

平成25（2013）年度の調査

発掘調査主体　兵庫県教育委員会

発掘調査担当者　兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部

調査第2課　久保弘幸・大本朋弥

【調査の方法と成果の概要】

本発掘調査区は2年度、4地区にわたり、総面積は380㎡である。

2011年度の本発掘調査は、養父土木事務所の依頼（但馬（養土）第1110号　平成23年6月14日付）に基づき、90㎡を対象に実施した。調査は、重機による表土掘削の後、遺物包含層以下を人力により掘削し、遺構検出作業を実施するという手順でおこなった。また遺構面の図化は、調査担当者がこれを作成し、あわせて写真撮影も実施した。

2013年度の本発掘調査は、養父土木事務所の依頼（但馬（養土）第1631号　平成25年3月27日付）に基づき、290㎡を対象に実施した。調査区は、電線共同溝が設置される部分を対象として設定した。現在供用されている道路部分、地下埋設物による除外部分等が存在するため、1区～5区の、合計5地区に分かれている。

試掘調査の成果では、遺構面は上下2面と判断されていたため、まず、表土層から最上位の遺物包含層までを機械掘削し、以下、遺構面までを人力によって掘削するという手法を採用した。その過程で、遺構面の深さと遺構の状況を確認するために、調査区の長軸沿いに側溝掘削をおこない、地層の検討をおこなった。その結果、各調査区で3～5面にわたり遺構面が存在することが明らかとなったため、電線共同溝・歩道整備工事の及ぶ深度（概ね地表下1.5ｍ）の範囲にあるすべての遺構面について、調査を実施した。

調査は、重機による表土掘削の後、遺物包含層以下を人力により掘削し、遺構検出作業を実施するという手順でおこなった。また遺構面の図化は、（株）ＧＥＯソリューションズに委託して空中写真測量（ポール写真）を実施したが、個別遺構の平面・断面図を必要とする場合は調査担当者がこれを作成し、あわせて写真撮影も実施した。

第３節　整理事業の概要

整理事業は、平成26（2014）～27（2015）年度に、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部において実施した。実施工程は第2表に示したとおりである。

整理事業は久保の担当の下に、兵庫県立考古博物館において公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部整理保存課、長濱誠司がこれを主管し、非常勤嘱託員が各作業を担当した。木製品および金属器の保存処理については、同課の岡本一秀が担当した。

また、本書に収録した遺物写真については、（株）クレアチオに委託して撮影を実施したほか、放射性炭素14のＡＭＳによる年代測定を（株）加速器分析研究所、土壌内含有金属の分析をパリノ・サーヴェイ（株）に委託して実施し、その成果は分析対象とした遺構の記述内に収録している。なお、本報告書に収録した遺物、写真、図等については、すべて兵庫県立考古博物館に保管している。

第２表　生野代官所跡関連遺跡整理事業工程

	水洗	ﾈｰﾐﾝｸﾞ	接合・補強	実測・拓本	復元	写真撮影	写真整理	図面補正	ﾄﾚｰｽ	ﾚｲｱｳﾄ	分析鑑定	保存処理	報告書印刷
平成26年度													
平成27年度													

第３章　遺 構 と 遺 物

第１節　調査の概要

図版１に示したとおり、2011・2013 年度の発掘調査区は、朝来市生野町口銀谷の一般国道 429 号に沿って設定された。兵庫県教育委員会では、平成 20（2008）年度に、養父土木事務所の事業計画に基づいて対象地の分布確認調査を実施した。分布調査では遺物は採集されなかったが、事業対象地が周知の遺跡である生野代官所跡関連遺跡の範囲内に位置するため、兵庫県教育委員会は養父土木事務所に対し、事業地内に埋蔵文化財が存在するとの回答をおこなった。

この回答を基に但馬県民局より調査が依頼され（但馬（養土）第 1075 号　平成 23 年 5 月 25 日付）、同年度に兵庫県教育委員会によって、事業地内の確認調査および小範囲の本発掘区調査が実施された。さらに平成 23 年度の確認調査結果に基づいた、兵庫県但馬県民局養父土木事務所の依頼（但馬（養土）第 1631 号　平成 25 年 3 月 27 日付）を受けて、本発掘調査を実施した。確認調査および本発掘調査の位置も、合わせて図版１に示している。

第２節　平成 23（2011）年度の調査

１　概要（図版 1）

国道 429 号線の歩道に沿った、総延長約 90 m、幅約 1 mの本発掘調査および 6 か所の試掘坑を設けた確認調査を実施した。本発掘の調査位置は平成 25 年度調査区の南縁に接しており、確認調査の試掘坑は、平成 25 年度調査区と重なる。ただし本調査は、歩道沿いに設けられるＵ字溝の埋設工事に伴うものであり、工事の掘削深度である、現地表下 30 ㎝までの調査にとどまった。

調査区西部（平成 25 年度調査区の 5 区西半付近）と東部（同 3・4 区付近）において、整地層上面より遺構面が検出されている。整地層の所属時期は、出土遺物から 19 世紀前半とされており、遺構はこれ以後に形成されたものであろう。

２　遺構と遺物（図版 57・63　写真図版 90・95）

調査区西部では礎石・柱穴・土坑・埋桶が、東部では木棺墓が検出された。これらの遺構は、その基盤をなす整地層の出土遺物から、江戸時代末、明治期以降の所産と判断して大過ないだろう。個別の遺構としての記載はおこなわない。

確認調査によって出土した板材（T2 より出土：W1・W2）、銅銭（寛永通寶 M45：T6 より出土）、平成 23 年度本発掘調査区東部出土の銅銭（寛永通寶：M46）を図示している。

第３節　平成 25（2013）年度の調査

１　微地形と基本的な層序の状況（図版 1）

調査地付近の旧地形は、市街化が進んだ現在、視覚的にとらえることは困難である。しかし調査に伴う図化作業などと、現地表面に見られる傾斜、および水路などの位置などから、おおよその地形の傾向を把握することができる。

調査区の標高は、東側ほど高くなる。これは、東が市川の谷奥側にあたることから当然であり、5 区の西端と 1 区の東端では、現地表の高度で約 1 mの比高差が認められる。また同時に、現地表の傾斜は、北

側が高く、南へ向かって緩やかに傾斜する。これは、北側にある古城山(609 m)山麓から続く傾斜面であり、同時に、この傾斜に沿って市川へと流下する小河川（現状では用水路と化している）が認められる。調査地付近の地形形成には、市川本流とともに、こうした小河川群が大きな影響を及ぼしたであろう。調査地から 100 mほど南には、市川が岩盤を浸食して形成された崖面があり、現河床まで、3 ～ 5 mの比高差を見せている。

1 ～ 5 区すべての調査区において共通する地層は、現表土を除けば、今回の調査で確認し得た最下部の地層である黄褐色の礫混砂層と、この上位に見られる黒色シルト質砂層である。調査途上では、この層を「クロボク」と呼称していたが、実際には、完新世の早い段階で形成された火山灰性土壌のクロボクではなく、水成堆積層が土壌化した古土壌と考えられる。本文中等で、クロボクの表現を用いる場合があるが、いずれも上記の主旨で用いている。

この黒色シルト質砂層より上位には、町並みの形成に伴うと見られる盛土が繰り返しおこなわれている。盛土の層厚は、地形の凹凸によって変化しており、最も厚い 5 区の西端では 1 m近くに達している。それぞれの盛土は、数㎝～ 10 数㎝の層厚を見せるが、平面的な広がりが限定されていることと、焼土、炭粒などの含有物の偏在が著しいため、わずか 1 ～ 2 mの撹乱部を隔てると、層の連続性を追跡することさえ困難な状況であった。このため 1 ～ 5 区の調査区間で、共通する盛土を識別することはできなかった。このため各調査区間のみならず、5 区のように延長が大きい調査区内でも、遺構面の対応関係を認識することは極めて困難であった。従って、調査区ごとに設定した「第 1 遺構面」以下が、すべて同時期に形成されたという意味ではないことを、予めお断りしておく。

発掘調査は、電線共同溝建設のための掘削が到達する、現地表下 1.5 mまでの実施が前提であった。従って最も遺構面数が多かった 5 区の西半では、最西端の一部のみで最終検出面である第 5 面までを調査したが、第 4 面で －1.5 mに達していた領域では、それより下面の調査は実施しなかった。

以下では、調査区別に遺構と遺物について記述を進めるが、紙幅の都合上、遺構の規模等および遺物については巻末の第 3・4 表に一括する。また、本文中で記載しなかった遺構についても、第 3 表に収録している。

２　遺構記載の方法について

なお平成 25 年度の調査では、調査区が 1 ～ 5 区に細分されていたこと、遺構面が重層して存在したこと、一見して種別を判断できない遺構が多く見られたことから、遺構の記載については、調査地区ごとに遺構の種別を問わず、検出順に通番でおこない、調査を通じて遺構か撹乱か確認する手法を採用した。従って、遺構番号を付されたものの中にも、事後に撹乱であることが確認されたものが含まれる。

３　1 区の遺構と遺物

(1) 層序と遺構面（図版 2）

1 区の基底をなすのは、にぶい黄褐色のシルト質砂（20 層）で、東から西に向けて緩やかに下る傾斜を見せている。この 20 層上面が、最終検出面（第 4 面）である。黄褐色シルト質砂層の上位には、調査途上で「クロボク」と呼称していた黒色シルト層（19 層）が堆積しており、調査区全域を広く覆う。この黒色シルト層の上位に堆積した黒褐色砂質シルト層（18 層）上面が第 3 面である。

これより上位は、盛土（整地土）が重層しており、複雑な様相を呈するが、おおむね現地表下 60 ㎝付近

にある 44 層上面に第 2 面、28 層上面に第 1 面が位置している。各面の全体図は、図版 3・4 に示している。

(2) 第 1 面の遺構と遺物

SP1001・SK1002（図版 5　写真図版 8）

調査区東部に位置しており、SP1001 は柱穴、SK1002 は土坑と判断した。SP1001 の下底には、礎盤として平坦面をもつ石材が置かれていたが、対応する柱穴は調査区内では検出されなかった。

SK1006（図版 5・57　写真図版 8・90）

調査区東部北壁際に位置する、不整楕円形または四辺形の土坑である。途中に段をもつ掘り込みを見せ、底面はほぼ平坦に仕上げられている。堆積物の検討からは、土坑は自然埋積したと思われるが、上面付近には鉱滓片をまじえる。形態不明の加工材（W3）が出土している。

SK1007（図版 5　写真図版 8）

調査区中央に位置する円形の土坑である。土坑内には、大型の礫が人為的に投入されていた。

SP1008（図版 63　写真図版 10・95）

調査区中央に位置する。嘉祐通寶(？)および文字判読不能の銅銭各 1 点が出土している（M47・M48)。

SK1009（図版 5・47　写真図版 9・71）

調査区中央北壁際に位置する不整円形の土坑である。ほぼ垂直に掘り込まれており、土坑内は黒褐色の礫混砂層で埋没していた。19 世紀前半に属する京焼系陶器碗、埋土下層（4 層以下）より、16 ～ 17 世紀代の備前焼盤（1）が出土している。

SX1011・SX1017（図版 6・47・58・63　写真図版 9・11 ～ 14・71・72・91・95）

調査区西部に位置する。両者は重複する位置にあり、同一遺構と解釈すべきと考えられるため、一括して図示し、記載をおこなう。

SX1011 は、灰白色粘土を、不整四辺形に薄く敷いた遺構として識別された(断面図 1 層)。調査の過程では、この粘土敷を SX1011 とし、掘り下げをおこなった。粘土層直下には焼土層があり、さらに掘削を進めた結果、SX1011 の下位からは土坑状の掘り込みと、これに伴う石組みが検出されたため、調査の手順上、新たに SX1017 と命名した。SX1017 は、西側を撹乱によって破壊され、南側は調査区外へ広がるため、全体の規模は不明であるが、土坑状に掘り下げた後、下底面に石敷を、側壁に石組みを設けて、長方形の窯状に構築していたと思われる。

この石組みは、少なくとも 3 回にわたって構築し直されている。第一段階には、下底面の石敷きは設けられず、側壁のみが積まれていた可能性がある。次いで下底の石敷きが構築され、その後側壁の内側に、さらに石組みの側壁を構築している。石組みの石材が、すべて強い火熱によって赤変しており、また内部には焼土や炭が顕著に堆積していたことから、SX1017 の石組みは、遺構内で強い火熱を受ける作業が繰り返される過程で、再構築がおこなわれたものと推定される。SX1011 の粘土は、このような過程の中で SX1017 が機能を喪失した後に、その上位に新たな構造物を形成するために敷かれた可能性がある。

SX1017 内の堆積物については、パリノ・サーヴェイ（株）により、最上層の第 1 次炉壁焼土および第 3 次石組（床）面上の土壌分析が、岡本により第 2 次石組（床）面上および第 3 次石組（床）面上の土壌の蛍光 X 線がおこなわれた。パリノ・サーヴェイ（株）による分析では、銀、ヒ素、銅、鉛、硫黄、亜鉛、鉄などの金属成分が検出されたが、その量は、生野銀山を背後にした本地域の土壌に通有のものであり、精錬を想定しうるほど多くないという結果が報告された。また岡本による分析では、第 2 次床面上の試料

からヒ素が検出されたものの、第3次床面上の試料からは検出されなかった。また、第2次床面上では、第3次床面上よりも相対的に鉄の含有が多いことが示された。

以上のような分析成果は、本遺構が金属の精錬用の窯であると断定することを、些か躊躇させるものではある。しかしながら、SK1017の第3次・第2次床面間で見られた土壌中金属組成の相違は、本遺構の用途の相違を示す可能性を捨象できないだろう。従って本報告書では、SK1017が精錬炉である可能性を敢えて指摘しておきたい。

SX1011およびSX1017からは、明青花皿、丹波焼擂鉢・甕、備前焼擂鉢・徳利、唐津焼碗などが出土しており、それらの所属年代は、16世紀後半～17世紀前半に相当している（2～6･11･12）。また、鉄釘（M1～M6）、銅銭（天禧通寶？：M49）が出土している。

SP1013（図版5　写真図版9）

調査区東部に位置する柱穴である。柱根が遺存していた。

SX1015・SK1016（図版7・47　写真図版10・71・90）

調査区東部に位置する隅丸長方形の遺構であり、SK1016は、SX1015の堆積物上面から掘り込まれた土坑である。SX1015は、土坑としても誤りではなさそうであるが、自然埋積される過程で、巨礫を含む多量の礫が投入されている。

SX1015内からは、明青花碗、華南産褐釉壺および土師器皿などが出土している（7～10）。明青花碗（10）、褐釉壺（9）の所属年代は、16世紀代と考えられる。また、漆椀の細片が出土しており、写真のみを掲載している（写真図版90　W12）。

（3）第2面の遺構と遺物

鍖（カラミ）および礫によるタタキ面（写真図版18）

第2面の中央部で検出された。細礫～中礫と、同程度のサイズの鉱滓を混ぜたものを、5㎝前後の厚さで敷き詰めて固く敲き締めた遺構である。SX1018がこれに隣接することから、屋内土間であった可能性が考慮される。

SX1018（図版7　写真図版15・16）

調査区中央付近に位置する竈遺構である。2基の竈が並列しており、竈本体は細礫を含む粘土を積んで構築されている。焼成部付近は、被熱により赤色化している。

SK1019（図版8　写真図版10）

調査区中央付近に位置する不整円形の土坑である。極めて急斜な掘り込みを見せ、坑内には、巨礫を含む多量の礫が投入されていた。

SK1020（図版8　写真図版10）

調査区中央付近南壁際に位置する。浅い皿状を呈し、土坑内は焼土片、炭化物を含む土壌で埋積されていた。

SD1021（図版8　写真図版17）

調査区東部に位置する。北壁に発して南へ延びた後、調査区内でほぼ直角に屈折して東へと延びる溝である。垂直に近い掘り込みを見せており、断面形はほぼ長方形状を呈する。地割り溝の可能性が高いが、東側が撹乱によって破壊されているため詳細は不明である。

SK1023（図版 8・58　写真図版 17・91）

調査区中央北壁際に位置する不整円形の土坑である。ほぼ垂直に近い急斜な掘り込みを見せ、底面は平坦に仕上げられている。鉄釘のほか、不明鉄製品が出土している（M7 ～ M11）。不明鉄製品のうち、M10 は刀子柄の可能性がある。

SK1030（図版 9　写真図版 18）

調査区中央に位置する円形の土坑である。椀形の掘り込みを見せ、巨礫を含む礫によって充填されていた。

SX1032（図版 48　写真図版 72）

調査区東端に位置する遺構である。17 世紀～ 18 世紀前半の唐津焼皿（13・14）が出土している。

SK1033（図版 9　写真図版 18）

調査区中央に位置する土坑で、SK1023 に切られる。土坑内は巨礫が充填されていた。

SP1036（図版 9　写真図版 17）

調査区西部に位置する柱穴である。急斜度の掘り込みを見せ、断面は逆台形状を呈する。

（4）第 3 面の遺構と遺物

SK1034・SK1035（図版 9・48・63　写真図版 72・95）

調査区中央西寄りに位置する、歪んだ円形ないしは略方形を呈する大型の土坑で、SK1035 が SK1034 を切る。緩やかな掘り込みを見せ、底面は碗底状を呈する。土坑底堆積物には、焼土片を多量に含む。SK1034 から、明青花碗（15・16）、白磁皿（17）および銅銭（元符通寶？：M52）が出土している。明青花饅頭心碗（15）は 16 世紀後半の所産で、高台内底面に「攸萬同福」の吉祥文が書かれている。

SX1038・SK1041（図版 10・11・62・63　写真図版 21・22・25・72 ～ 74・93・95）

調査区西部に位置する、石垣遺構である。SX1038 の東には、溝状の遺構 SK1041 があり、石垣基底部は、SK1041 の西縁に設けられている。大型の亜円礫～亜角礫が積まれており、最大 3 段までが遺存していた。石垣の裏込最上部から、16 世紀代に属する華南産白磁皿（18）が出土している。

SX1038 からは、銅銭（紹聖元寶:M50）が、SK1041 からは、16 世紀代～ 17 世紀前半に属する明青花碗（28 ～ 31）、備前焼壺（32）、擂鉢（33）等が出土したほか、用途不明の石製品（S3）が出土している。 明青花碗のうち 28・29 には、それぞれ「永保長春」・「天下太平」の文字が、高台内底面に書かれている。

SK1039（図版 11・12・48・58・63　写真図版 20・23・72・73・90・91・95）

SX1038 の西に位置する大型の土坑である。調査区北壁での観察では、SK1039 の埋土は、SX1038 の構築と同時に形成されたと判断される。SK1039 西側の地層の状況から、石垣 SX1038 は、SK1039 と 1041 を合わせた大きな凹地の半ば以上を埋める形で構築された可能性が高い。石垣の背後となる SK1039 は、この際に SX1038 の裏込として埋設されたと考えられる。

SK1039 からは、土師器皿（19・20）、龍泉窯系連弁文青磁碗（21）、明青花碗（23）・ 皿（22）、華南産白磁皿（24・25）、備前焼擂鉢（26・27）等が出土しており、その所属時期は 16 世紀代～ 17 世紀初頭に相当する。ほかに、炭化した加工材（W13）、鉄釘・不明鉄製品（M12・M13）、銅銭（熙寧元寶？:M51）が出土している。

SX1046（図版 11・12　写真図版 20）

調査区西端の北壁断面で検出された石列である。長径 20 ～ 30 ㎝の亜角礫を並べた遺構で、平面的な広がりは不明である。このため確定的な記載ができないが、断面観察の状況からは何らかの土地区画施設かと推測される。

(5) 第 4 面の遺構と遺物

SK1044（図版 12　写真図版 25）

調査区中央付近に位置する、長形の土坑である。図示可能な遺物は出土していない。

(6) 整地層等出土の遺物（図版 49・63・64　写真図版 75・76・95・96）

表土下から第 4 面に至る間の各遺構面、整地層からも、陶磁器類を中心とした多数の遺物が出土している（34 ～ 51）。その大半は 16 ～ 17 世紀代に属しているが、第 2 面の敲き締め土間面より上位では、近世後半の陶磁器が含まれる（38 ～ 42）。43 ～ 48 は 16 世紀代～ 17 世紀前半に属する。43 は華南産白磁皿、44 は明青花碗である。45・46 は、それぞれ備前焼・丹波焼の盤である。48 は備前焼無頸壺である。内面に酸化鉄が広く付着していることから、お歯黒壺と思われる。49 は唐津焼灰釉碗である。

51 は小型の坩堝である。全体に強く被熱しており、内面には金属滓が付着している。調査区西部の第 2 面－第 3 面間の整地層中より出土した。

このほか、第 1 面～第 3 面の遺構検出面上、あるいは遺構面間の整地層中より、多数の銅銭が出土している（M53 ～ M68）。すべて宋銭ないしは明銭と考えられる。

(7) 小結

1 区では、近代以降の撹乱部が多数見られたにもかかわらず、第 1 ～第 3 面の間では、16 世紀～ 17 世紀代の遺物の出土が顕著であり、18 世紀以降の遺物は少数である。SK1009 のように、19 世紀代の遺物を出土する遺構も検出されているが、調査区内の堆積物の状況を考慮するならば、本来、検出面よりも上位から掘り込まれていたものが、下位面の検出作業によってようやく確認されるに至った可能性が高い。

第 3 面の石垣遺構 SX1038 は、屋敷地の境界をなす石垣と考えられるが、西側の SK1039、石垣前面（東側）の SK1041 等を含めた遺構として解釈するのが妥当であろう。これらの遺構からは、16 世紀後半～ 17 世紀前半の遺物が出土しており、以降の遺物を含まない。このことから、少なくともこの間に SX1038 の成立～廃絶の過程があったものと推定できよう。この時期推定を基準とすれば、第 1 面から構築されていた SX1017 が、ほぼ同時期の遺物を出土していることについては、SX1017 構築時に下層から混入したものと解釈される。

第 1・2 面の詳細な時期決定は難しいが、少なくとも第 3 面で出土した遺物のうち、最も新しく推定される時期（17 世紀前半）を遡るとは考え難い。第 2 面に至るまでの整地層中から、18 世紀代以降の遺物が出土していることを勘案すれば、第 1・2 面は、大きな枠組みとしては江戸時代（17 世紀前半以降）に属する可能性を指摘しておきたい。第 4 面は、時期を推定する資料に欠ける。

４　２区の遺構と遺物

(1) 層序と遺構面（図版 13・14）

2 区は今回の調査区では最も狭く、加えて地域包括支援センターなどの、公共施設の敷地内であるため、とりわけ撹乱の影響が著しかった。基本層序は、黄褐色礫混砂層（15・16 層）を基底とし、その上位に黒色礫混シルト層（14 層）が堆積する。これより上位は、炭化物・焼土片などを含む盛土（整地層）が連続している。

第 1 面は現地表下 60 ㎝ほどにある 6 層上面、第 2 面は現地表下 1 m付近にある 14 層上面、第 3 面は 15 層上面にそれぞれ相当している。

（2）第 1 面の遺構と遺物

SK2001（図版 15　写真図版 29）

概ね矩形を呈する土坑で、坑内には大型の礫が多量に投入されていた。

SX2002（図版 15　写真図版 30）

北壁際に位置するごく浅い皿状の掘り込みをもつ遺構で、北半は調査区外へ広がる。機能については、判断し難い。

SP2003・SK2004（図版 16・49　写真図版 30・76）

重複する柱穴・土坑である。SK2004 は不整楕円形を呈し、椀底状の掘り込みを見せる。土坑内は締まりの悪いシルト～砂で自然埋積している。SP2003 は、SK2004 の埋没後に掘り込まれている。SK2004 から、白濁釉を施した鉢の底部（52）が出土している。

SK2005（図版 15　写真図版 30 ～ 32）

南壁際に位置する土坑で、半ば以上が調査区外へ広がる。調査区内での平面形は隅丸不整方形を呈し、断面は緩やかな皿状の掘り込みを見せる。検出面では、焼土を多量に含む堆積物と、土坑内に投入された礫の群集という状況で識別されたが、土坑底面中央では、直方体状の礫を組み合わせた竈状の遺構が検出された。石組を構成する礫は、いずれも顕著に被熱・変色しており、礫に囲まれた部位には顕著な焼土が認められた。竈ないしは精錬窯と推定されるが、パリノ・サーヴェイ（株）による分析では、顕著な金属成分は検出されていない。

SK2006（図版 16　写真図版 32）

調査区北西隅に位置する、不整楕円形の土坑である。緩やかな椀底状の掘り込みを見せ、土坑内は礫混じりのシルト～砂で埋積されていた。

（3）第 2 面の遺構と遺物

SK2012・SP2014（図版 16　写真図版 33）

調査区中央部に位置する。SK2012 は不整形な土坑で、皿状の掘り込みを見せる。土坑内は焼土・炭化物を含む礫混シルト～砂で埋積されていた。SP2014 は土坑埋積後に掘り込まれている。調査区内では SP2014 に対応する柱穴は見いだせなかった。

SK2015（図版 16　写真図版 33）

歪んだ円形の土坑である。椀底状の掘り込みを見せ、土坑内の一部（4 層）には多量の焼土片・炭化物が含まれる。

（4）第 3 面の遺構と遺物

SK2017（図版 16　写真図版 33）

調査区北西隅に位置する不整楕円形の土坑で、一部が調査区外へと広がる。土坑内は礫混シルト～砂で自然埋積されている。

SK2018・SK2019（図版 16　写真図版 33）

調査区西部の南壁際に並ぶ。いずれも歪んだ円形の土坑で、黒色礫混シルトで埋積されている。人為的な遺構か否か判断に躊躇する。

(5) 整地層等出土の遺物（図版 49・64　写真図版 76・77・96）

整地層および撹乱土坑内より、近世後半期の染付磁器皿（53)、華南産白磁皿（54)、備前焼甕（55)、丹波焼盤（56）等が出土しているほか、元符通寶（M70)・淳化元寶（？：M71）等の銅銭が出土している。

(6) 小結

2 区は調査範囲が狭く、撹乱が著しかったため、遺構面が島状に残されるのみで、これを連続的に追跡することが困難であった。遺構からの顕著な出土遺物も少なく、時期の決定にも困難を感ずる。しかし、遺構面の層位的位置を見るならば、その状況は他の調査区とほぼ同様であることから、第 1・2 面の時期は 16 ～ 17 世紀前半を含め、これ以降と判断される。第 3 面の時期については、判断する資料に欠ける。

５　３・４区の遺構と遺物

(1) 層序と遺構面（図版 17・18）

黄褐色礫混砂層が基底となっており､その上面が第 3 面である。基底層の直上を黒色礫混シルト層(34 層)が覆う。34 層の上部は土壌化が進行して黒褐色を呈しており（33 層)、その上面が第 2 面となる。これより上位は焼土・炭化物を多く含む盛土（整地土）で、38 層・64 層・65 層などが切れ切れに堆積しており、その上面が第 1 面となる。現地表面からの深度は、第 1 面が－ 50 ㎝、第 2 面が－70 ㎝、第 3 面が－110 ㎝前後を測る。

3 区と 4 区は、調査設計段階で別個の調査区として計画されていたが、調査地の状況が許したため、最終的に両地区をつないで一体の調査区として調査をおこなった。ただし調査着手時点では別の調査区としていたため、遺構番号は地区別に独立して付している。

(2) 第 1 面の遺構と遺物

SK3001（図版 19　写真図版 37）

調査区東部に位置する、円形の土坑である。土坑内には多数の礫が投入されており、焼土・炭化物混じりの砂～シルトで埋没していた。

SX3003（図版 19　写真図版 37）

調査区東部に位置する焼土遺構である。中央に、灰層で充填された方形の掘り込みがあり、その中央には厚さ 2 ～ 3 ㎝の板石が配されていた。方形掘り込みの周囲には、皿状の浅い掘り込みがあり、その上面は同心円状に被熱した土壌、炭層が取り巻く。方形掘り込みが中核をなす炉と考えられる。

SK3004（図版 19　写真図版 40）

調査区東部に位置する、楕円形の土坑である。緩やかな皿状の掘り込みを見せ、土坑内は焼土片、炭化物を多く含む土壌で埋没していた。

SX3005（図版 19　写真図版 38）

調査区中央南壁に位置する焼土遺構である。断面観察によれば、椀底状ないしは皿状の土坑が同一場所で重複している可能性がある。最終的に形成された焼土（断面 1 層）の下位には、弱い被熱層（2・3 層)、炭層（4 層）などが認められる。炉床面と考えられる。

SX3007（図版 19・50　写真図版 39・77）

調査区中央部に位置する集礫遺構である。南半を撹乱によって破壊されているが、長方形ないしは方形を呈するものであろう。掘方の西側に板石を立て並べ、その東側に5～8㎝ほどの礫を敷き詰めている。機能を判断し難い遺構である。礫敷中より、近世後半期の染付磁器蓋付碗（57）が出土している。

SX4002（図版65　写真図版97）

調査区西部に位置する遺構である。本遺構周辺で寛永通寶（M77）が出土している。

SX4003（図版20・50・59　写真図版42・77・92）

調査区中央部に位置する集礫遺構である。南北はともに調査区外へ延びる。東西両辺は、不規則な凹凸の平面形を見せる。礫敷は、直径10㎝以下の礫を主体として堅緻に敲き締められており、炭層、濃密に焼土片を含む層に覆われていた。石組を持つ炉の基底部の可能性が考慮される。焼土層中より、19世紀前半以降に属する、関西系の染付磁器碗（61）が出土しており、幕末～明治期に形成されたものと思われる。他に鉄釘（M21）、銅製紅皿の高台（M26）が出土している。

SX4004（図版20　写真図版44）

調査区西部に位置する焼土坑で、大半が撹乱により破壊されている。椀形の掘り込みを見せ、下底面が強く被熱している。

SK4005（図版20　写真図版41）

調査区西端に位置する土坑で、西半は調査区外へ広がる。逆台形状の掘り込みを見せ、土坑内は焼土片、炭化物およびブロック状の埋土により充填される。

SD4006（図版65　写真図版42・97）

調査区西部に位置する溝状遺構である。銅銭1点（M78）が出土しているが、銘は判読不能である。

SK4007（図版20　写真図版41）

調査区中央部に位置する楕円形の土坑である。底面がほぼ平坦となる掘り込みを見せ、下底面には炭層が堆積していた。炉の基底部と思われる。

SK4008（図版20　写真図版42）

調査区中央部に位置する歪んだ円形の土坑である。SK4007と類似した掘り込みを見せ、下層には灰を多く含む土壌が堆積し、その上位には炭層が認められた。やはり炉の基底部と思われる。

SK4009（図版21・50　写真図版42・77）

調査区西端に位置する土坑であるが、西・南側を撹乱で破壊されているため、全形は不明である。断面図1層のみが土坑内の堆積物であるが、焼土片･炭化物を比較的多く含む。16世紀代の備前焼舟徳利（59）が出土している。

SX4010（図版21　写真図版43）

調査区西端に位置する焼土遺構であるが、東西を破壊されているため、全形は明らかではない。浅い椀底状の掘り込みを見せ、埋土下部は被熱により変色する。また、埋土上部は灰層となる。

SD4011（図版21）

調査区中央部に位置する不整形な溝状遺構である。南西側は調査区外へ延びる。溝内は、礫を多く含む砂で充填されていた。

SK4012（図版21・50・59・65　写真図版43・77・92・97）

西側に石垣を持つ大型の方形土坑であるが、調査の過程で撹乱であることが確認された。屋敷内の半地下式の倉庫であったと思われる。埋土中より近代以降の色絵磁器皿（60）が出土しているほか、先端が分

岐した鉄製品（M22)、板状鉄製品（M23)、寛永通寶（M79）が出土している。

（3）第 2 面の遺構と遺物

SP3010（図版 50　写真図版 77）

調査区東部に位置する柱穴である。手づくねの土師器杯（広義の京都系土師器杯:58）が出土している。

SX3013（図版 22　写真図版 40）

調査区中央部に位置する石組遺構である。大型の角礫を「コ」の字形に配置しており、内部には焼土片・炭化物を含む土壌が堆積していた。

SK3014（図版 22　写真図版 40）

調査区中央部に位置する集礫土坑である。浅い皿状の土坑の中央が、一段深く掘り下げられており、この内部は、被熱した状況であった。土坑上部は焼土片・炭化物を多く含む土壌が堆積しており、直径 40 ㎝に達する大型礫を含む礫が多数投入されていた。

SX3015（図版 59・65　写真図版 92・97）

調査区東部に位置する遺構である。鉄釘（M18・M19)、銅銭（元豊通寶？：M72）が出土している。

SK3018（図版 23　写真図版 40）

調査区東部に位置する礫土坑である。浅い不規則な掘り込みを見せ、土坑内とその周辺に直径 30 ㎝に達する角礫を含む礫が投入されていた。土坑縁辺には焼土層が認められた。

SP3019（図版 23　写真図版 41）

調査区東部に位置する柱穴である。柱穴上面に、板石が置かれていた。

SP3020（図版 23　写真図版 41）

調査区東部に位置する柱穴である。断面観察により明瞭な柱痕が認められたが、調査区内でこれに対応する柱穴は見いだせなかった。

SK4016（図版 22　写真図版 43）

調査区中央部に位置する、石垣をもつ大型方形土坑である。土坑内は焼土片・炭化物を多く含む土壌で、埋没しており、特に 3 層では炭・灰などの堆積にラミナ構造が認められたことから、坑内の大部分は自然埋積であったと思われる。検出した面は下位であるが、SK4012 と同様のものと思われる。

SK4017（図版 23　写真図版 44）

調査区中央部に位置する小型の円形土坑である。土坑内には薄い炭層の堆積が認められた。埋土を切って、土坑南端に柱穴状の掘り込みが見られたが、これについては柱痕等、柱穴と判断する証左に欠ける。

SK4019（図版 23　写真図版 44）

調査区西部に位置する楕円形の土坑で、東側を別の土坑に切られる。土坑内に長径 40 ㎝に達する大型の礫が投入されていた。

（4）第 3 面の遺構と遺物

SK3022（図版 23　写真図版 41）

調査区東部に位置する不整長楕円形の土坑である。土坑底は舟底状を呈し、黒褐色のシルト層で埋積されていた。

SK4022・SK4023（図版 23　写真図版 44）

調査区中央部に位置する土坑で、2基が接している。SK4022は不整楕円形を呈し、下底面は不規則な掘り込みを見せる。SK4023は楕円形の土坑で、急斜度の掘り込みと、平坦な底面を見せる。SK4022の埋土が基盤土のブロックを含むのに対し、SK4023は上層（第2面）の土壌が堆積することから、両者には時期差が介在するものと思われる。

(5) 整地層等出土の遺物（図版50・59・65　写真図版77～79・92・97）

3・4区の調査では、整地層および撹乱土坑内からも、多数の遺物が出土している。第1面の検出時および第2面を覆う整地層からは、ロクロ成形の土師器皿（62・64・67）、手づくね成形の土師器皿（63・68）・杯（66）、16世紀代に属する明青花碗（71）、華南産白磁皿（70）、備前焼掛花生（72）・片口鉢（73）等が出土している。同層には、江戸時代後期に属する焙烙（65）も認められることから、第1面形成期に、16世紀代の遺物を含む土壌で整地が行われた可能性が高い。

調査区中央部に位置する大撹乱部からは、19世紀後半以降の遺物が多数出土していることから（76～79）、これらの撹乱部は、明治期に形成されたものと思われる。77は大型の染付磁器碗であるが、内部に赤褐色の粉状物質が広く付着していた。この物質は、岡本による蛍光Ｘ線分析で鉄が主体となっていることが確認され、ベンガラと判断された。

また、3・4区撹乱層中より鉄釘（M20・M24・M25）、銅製煙管（M27）が出土している。銅銭も、第1面上で寛永通寳（M80～M82）、判読不能の銅銭（M83・M84）、第1・2面間の整地層より判読不能の銅銭（M87）、補助トレンチ掘削時に判読不能の銅銭（M86）、撹乱部より寛永通寳（M85）が出土している。

(6) 小結

3・4区の調査で検出された遺構のうち、第1面の遺構には近世～近代のものが認められた。第1・2面間の整地層出土遺物の検討からも、第1面の形成は、江戸時代（後半）に属する可能性が高いだろう。第1・2面間の整地層中に、16世紀代の遺物が多数含まれていることは、同層の形成時期が16世紀代から大きな懸隔がないことを示す可能性がある。個別の遺構について時期を確定することは難しいが、一部の遺構（SK4016）を除けば、第2面および第3面の時期は16～17世紀前半代に属するものと思われる。

６　５区の遺構と遺物

(1) 層序と遺構面（図版24～29）

5区では、遺跡の基底をなす黄褐色礫混砂層上面の標高は、調査区東端では307.3m付近、西端では306.3m付近にあって、その比高差は1ｍを測る。この砂礫層は、東から西へ一様な傾斜をもって下がるのではなく、3段の平坦面を形成するように下がるが、これは、人為的な平坦面開削の結果と推測される。最も低位の調査区西端では、自然埋積によって黒色シルト質砂層が形成され、その後は、調査区の広い範囲で繰り返し整地がおこなわれて、人為的な盛土層が形成された。整地の回数は、当然、より低位の調査区西側で顕著である。

既述のとおり、これら整地層は層厚が薄く、平面的広がりも小さい。また、調査全域にわたって深い撹乱が多数存在したため、同一面（同一遺構面）を正確に追跡することは、平面的にも地層断面からも、事実上不可能であった。

調査は、調査区西端から東向きに順次実施したが、当初から遺構面認定の困難性が予測されたため、ま

ず調査区南壁沿いに補助トレンチを掘削し、壁面で層序を確認しつつ、遺構が検出された面を概ね水平に拡張するという調査手法を採用した。こうした地層条件から、整地層の枚数が減ずる調査区東部においては、同一面に上・下位の遺構が混在している可能性がある。

遺構面は、調査区西端付近では第1面が100層上面、第2面が104層上面、第3面が108層上面、第4面が109層、第5面が111層上面にそれぞれ相当する。

(2) 第1面の遺構と遺物

SK5001（図版30　写真図版51）

調査区西端に位置する。土坑内は焼土片を含む、比較的締まりの悪い土壌で充填されていた。

SK5002（図版30　写真図版51）

調査区西端に位置する、浅い皿状の土坑である。土坑内は炭化物を多く含む土壌で埋没していた。

SK5009（図版66　写真図版98）

調査区西部に位置する撹乱土坑である。祥符通寶（M89）と判読不能の銅銭（M88）が出土している。

SK5010（図版66　写真図版98）

調査区西部に位置する撹乱土坑である。永楽通寶（M91）と元豊■寶（M90）が出土している。

SK5011（図版60・66　写真図版92・98）

調査区西部に位置する撹乱土坑である。縁辺が弧状をなす銅製品（M32・M33）、および刀子の基部状をなす鉄製品（M31）、寛永通寶（M92）が出土している。

SK5012（図版30　写真図版51）

調査区中央部に位置する、皿状の土坑である。土坑底には薄い炭の堆積が認められたほか、炭化した板材の断片が出土した。土坑は礫を多く含む土壌で埋没していた。

SK5013（図版51・57　写真図版79・90）

調査区西部に位置する近代以降の撹乱土坑である。土坑内から16世紀後半～17世紀初頭の明青花皿（81）・碗（82）、漆椀（W4）などが出土しているため、遺物のみ掲載している。

SK5016（図版30　写真図版51）

調査区中央部に位置する、皿状の土坑である。土坑は、鉱滓を多量に含む黒褐色のシルト質砂で埋没していた。

SK5017（図版30　写真図版51）

調査区中央部に位置する、不整形な掘り込みを見せる土坑である。礫を多く含む締まりの悪い土壌で埋没していた。

SX5018（図版31　写真図版53）

調査区西部に位置する、浅い皿状の凹みを伴う焼土面である。凹部の底面には薄く粘土が貼られており、埋土上面で、直径20㎝強の顕著な焼土が見られた。

SK5019（図版30　写真図版53）

調査区中央部の南壁際で検出された、椀状の掘り込みを見せる土坑である。一部を撹乱で破壊され、また、半ば以上は調査区南へ広がるため、全形は不明であるが、調査区内では不整四辺形を呈する。土坑底には厚さ数㎝～10㎝の淡い褐色の粘土が貼られていた。SK5023と重複している。

SK5021・SK5024（図版31・52・57・60・61・66　写真図版51・53・80・81・90・92・93・98）

SK5024は調査区中央付近に位置する大型の土坑で、SK5021はこれに接して切られる、より浅い土坑である。SK5024は、ほぼ垂直の掘り込みと平坦な底面を見せ、深さは1m弱を測る。土坑内は多量の炭、礫を含む人為埋土と推定される層で埋没されており、多数の遺物を包含していた。その出土状況から、遺物は一時に廃棄されたものと推定される。調査開始時点においては、SK5021とSK5024との重複が明らかではなく、一部の遺物が、SK5021・SK5024いずれとも判断できない出土状況であったことを付記しておく。

京都系土師器皿（97）、唐津焼鉢（101）・向付（99・100）、朝鮮唐津壺（105）、備前焼建水（103）、丹波焼擂鉢（102）・壺（106）、明青花皿（98）、華南産あるいはベトナム産の壺（107）等が出土しており、大部分の遺物は16世紀後半～17世紀前半に属する。ただし、SK5024上層では、近世後半～近代の陶器壺(104)が出土している。他に一部が炭化した板材（W5）、器種不明銅製品（紅皿高台か？:M30）、銅銭（治平元寳:M93）、鉄釘（M34）、粘板岩製の小型硯（S1）、被熱したアカニシ・ハマグリ等の貝殻が出土している。硯の底面には、文字のような細い線刻があるが、判読はできない。

SK5022（図版32・51　写真図版52・79・80・90）

調査区西部に位置する竈状遺構である。撹乱によって破壊されている部分があるが、ほぼ円形の土坑を掘り、その縁辺に焼土・炭層が顕著に認められた。土坑上面が焼け締まっていることから、この部分が焼成室の基底面であったと推定される。遺構内からは、京都系土師器皿（83～85）・杯（86）、瀬戸・美濃系施釉陶器（黄瀬戸）皿（87）、唐津焼鉢（88）、丹波焼擂鉢（89）等が出土したほか、炭化材の破片、漆器椀（W15）、被熱したアカニシ・ハマグリの貝殻等が出土した。陶磁器類は、16世紀後半～17世紀初頭に属する。

SK5023（図版31・51　写真図版53・80）

調査区中央部に位置する、SK5019を切って掘り込まれた不整形な土坑である。土坑は拳大の礫・鉱滓を含む土壌で埋没していた。近世後半期の丹波焼壺（90）が出土している。

SK5029（図版51・60　写真図版80・92）

調査区東部に位置する近代以降の撹乱土坑である。土坑内から京都系土師器皿（91）、火打金（？：M35）が出土しているため、遺物のみ掲載している。

SK5031（図版32・51　写真図版54・80）

調査区中央部に位置する不整形な土坑である。SK5021・SK5024に接しており、これらに切られている。土坑内は多量の礫を含む砂で人為的に埋積されており、上面では炭化物・焼土が多量に見られた。16世紀代に属する華南産白磁皿（92）が出土している。

SK5032（図版27・32・51・60　写真図版54・80・92）

調査区東部北壁際に位置し、SD5044と重複してこれに切られている。土坑内には大型の礫が埋設されていた。16世紀代～17世紀初頭に属する備前焼擂鉢（93）・甕、丹波焼甕が出土した。他に器種不明銅製品（M36）、被熱したアカニシの貝殻が出土している。なおSD5044は第1面では検出できず、第2面に至って検出され、その後、断面の精査によって第1面の遺構と認定したものである（図版27）。

SK5039（図版33）

調査区中央部に位置する円形の土坑で、下底面に小さな柱穴状の孔をもつ。焼土を多量に含む人為埋土によって埋積されていた。

SE5041（図版33・51　写真図版55・80）

調査区西部に位置する、石組みをもつ井戸状遺構である。石組みは、長方形状に組まれており、深さは

約 80 ㎝を測る。深度が浅く湧水が見込めないことから、貯水施設、ないしは製錬にかかる選鉱施設の可能性も捨象できない。16 世紀後半～ 17 世紀初頭に属する京都系土師器皿(94)、明青花碗(96)、丹波焼擂鉢(95)等が出土している。他に、被熱したアカニシの貝殻が出土している。

パリノ・サーヴェイ（株）による土壌分析では、SE5041 下底の堆積物からは、顕著な金属成分は検出されなかった。

SP5042（図版 34　写真図版 54）

SE5041 に接する柱穴であるが、調査区内では対応する柱穴は見いだせなかった。柱穴は焼土を多量に含む土壌で埋積されていた。

SK5043（図版 34　写真図版 54）

調査区西部に位置する不整形な土坑である。ほぼ垂直の掘り込みを見せ、底面はほぼ水平に仕上げている。

SD5045（図版 35　写真図版 58）

調査区東部に位置する溝である。下層には鉱滓（カラミ）が多量に投入されていた。

SX5095（図版 33・66　写真図版 56・98）

調査区中央付近に位置する焼土遺構である。北側を SK5031 に切られる。浅い土坑を掘り込み、その埋土上面に方形の板囲いを設けている。板囲いの内側は強度に被熱しており、その中央部は煉瓦状に硬化していた。板囲いもすべて炭化していた。遺構内からは、銅銭の皇●元？(M96)、●宋●寳(M97)、永楽通寳(M98)が出土している。第 1 面ないし第 2 面のいずれに属するか、判断に苦しむ遺構である。

強度に被熱した焼土をサンプルとして、パリノ・サーヴェイ（株）により成分分析が、岡本により蛍光 X 線分析がおこなわれたが、鉄が検出されたほかは、金属成分は顕著ではなかった。

SK5139（図版 33・54　写真図版 57・83）

調査区東部に位置する埋甕遺構である。上部は撹乱により破壊されていた。近世後半期以降に属する丹波焼甕の底部（125）が出土している。貯水ないしは便槽として用いられたものであろう。

SK5145（図版 54　写真図版 54・83）

調査区東端に位置する土坑である。18 世紀代後半の肥前系染付磁器碗（126）が出土している。

SK5146・SK5148（図版 34　写真図版 58）

調査区東部に位置する土坑で、ともに SE5147 に切られている。SK5146 は楕円形の土坑で、埋土上面の一部で、人為的に貼られたと思われる薄い粘土層が検出された。また土坑内は炭化物・黄白色粘土のブロックを含む土壌で充填されていた。SK5148 は不整長方形の土坑である。

SE5147（図版 34・54　写真図版 57・84）

調査区東部に位置する、井戸状遺構である。不整円形の掘方内に、やや歪んだ円形の石組みを構築している。石組みは、最大 3 段が遺存していた。上部が破壊されているため、本来の深度は不明であるが SE5041 と同様の施設であった可能性がある。白磁の壺蓋（127）が出土している。

SX5149・SX5151（図版 35　写真図版 58）

調査区東部に位置する、近接して並ぶ焼土面である。SX5149 に接して東西に炭化した板材が遺存し、SX5151 はその東に位置する。遺構の形状から、SX5095 と同様の遺構であった可能性がある。

SD5150（図版 35）

調査区東部に位置する木樋遺構である。溝状の掘方内に、木質がわずかに遺存していたが、樋の腐朽が著しく、取り上げることはできなかった。

礎石（図版 62　写真図版 94）

5 区の第 1 面では礎石数基が検出されたが、調査区内では建物跡の規模等を確定することができなかった。礎石の内 1 基は鉱山臼の上臼を用いている（S4）。

（3）第 2 面の遺構と遺物

SX5046・SX5047・SX5048（図版 36　写真図版 58）

調査区東部に位置する石組遺構である。半円形の石組 3 基が接して構築されており、東に向かって開く。石組みはいずれも 1 段のみが検出された。一見、竈状に見える遺構であるが、明瞭な焼土は検出されなかった。

SK5049（図版 36　写真図版 59）

調査区東部に位置する、略円形を呈する集礫土坑である。急斜度の掘り込みを見せ、底面は概ね平坦である。土坑内に大型の礫を埋設している。

SK5050（図版 36・53　写真図版 59・82）

調査区東部に位置する土坑である。急斜度の掘り込みを見せ、底面は平坦である。明代の青花碗（109）が出土している。

SK5051（図版 36　写真図版 59）

調査区東部に位置する土坑で、浅い皿状の掘り込みを見せる。土坑内は、一見、ラミナ状の堆積構造を見せるシルト～砂で埋没していた。

SX5052・SK5099（図版 38・53・54・60　写真図版 60・61・82・83・92）

調査区中央付近に位置する大規模な焼土遺構で、南側は調査区外へ延びる。調査区内では、明赤褐色の顕著な焼土が不整長方形の平面形を見せ、その縁辺を暗褐色～黒褐色の弱い被熱部が囲んでいる。焼土下には浅い皿状の土坑があり、調査上、焼土面と区別して SK5099 と呼称したが、断面観察からは、堆積物の連続性が明らかであることから、SX5052 と SK5099 は一体の遺構と判断される。

土師器焼塩壷（110）、16 世紀後半～ 17 世紀初頭に属する明青花碗（112・113）・皿（111）、黄瀬戸皿等が出土しているほか、断面が長方形をなす棒状銅製品（M37）が出土している。なお、図版 54 の明青花皿（121）は、SX5109 から同一個体の破片が出土し、接合している。

SP5053（図版 53　写真図版 82）

調査区中央部に位置する遺構である。埋土中より明青花碗（114・115）、土錘等が出土した。

SK5054（図版 37　写真図版 59）

調査区中央部に位置する土坑である。浅い椀底状の掘り込みを見せ、土坑内は焼土片・炭化物を多量に含む土壌で人為的に埋没されていた。

SK5055（図版 37　写真図版 59）

調査区中央部に位置する土坑で、急斜度の深い掘り込みを見せる。土坑内は、拳大の礫を多量に含む土壌で、人為的に埋没されていた。

SX5059（図版 39・53・60・66　写真図版 61・62・82・83・89・92・93・98）

調査区中央付近に位置する土坑で、上面を、焼土ブロックを多量に含む層が覆う。調査時には、この土坑と上面の焼土を、一括して SX5059 として取り扱ったが、壁面の検討からは土坑と焼土面を分離して取り扱うべきかもしれない。焼土層（断面 8 層）下は、焼土片・炭化物・鉱滓等を含む人為埋土であり、この

埋土中より、16 世紀代に属する土師器鍋（116）、坩堝（171）、軟質施釉陶器茶碗（瀬戸黒碗：117）、備前焼鉢（118）･擂鉢（119）等、鉄製包丁（M39）、鉄釘（M38）、銅製煙管雁首（M29）、銅製権（M28）、銅銭（元祐通寳：M94）等が出土した。銅製権は、調査開始直後に南壁沿いに設けた補助トレンチ内で出土したものであるが、出土位置、深度等から本遺構に属していたと判断した。煙管は、古泉氏の編年による第Ⅱ段階に属するものである。

また岡本により、上面の焼土について蛍光 X 線分析がおこなわれた結果、鉄が相対的に多く検出され、亜鉛がこれに次ぐと報告された。

SP5061（図版 37・57　写真図版 59・90）

調査区中央部に位置する柱穴である。柱根（W6）が遺存していた。（株）パレオ・ラボによる樹種同定の結果、柱材はヒノキの心持丸木材と同定された。

SK5064（図版 40）

調査区東部に位置する土坑で、急斜度の掘り込みを見せる。土坑内には、複数の大型礫が埋設されていた。

SK5070（図版 40）

調査区東部に位置する土坑で、逆台形状の掘り込みを見せる。土坑底は水平に仕上げられている。

SP5071（図版 36　写真図版 59）

1 基の柱穴と理解をしていたが、調査の結果 2 基が接して設けられたものと判断された。西側には、板石２枚が重ねて埋設されていた。

SK5072（図版 37・53・66・67　写真図版 62・83・98・99）

調査区東部に位置する土坑である。上部を 2 基の撹乱坑に切られている。土坑の堆積物中位に、多量の焼土・炭化物を含有している。16 世紀後半の備前焼擂鉢（120）が出土したほか、銅銭（判読不能：M95）と聖宋元寳（M113）が出土している。

SK5073（図版 37　写真図版 62）

調査区中央部に位置する土坑で、ほぼ垂直の掘り込みを見せる。土坑内は、焼土・炭化物を多量に含む土壌で、人為的に埋没されていた。

SK5074（図版 37　写真図版 63）

調査区中央部に位置する土坑である。緩やかな掘り込みを見せ、土坑内は自然埋積されている。

SX5075（図版 40　写真図版 62）

調査区西部に位置する。検出時点では焼土面として認識していたが、断面を検討した結果、濃密な焼土ブロック、炭層を含む土壌で皿状の土坑を埋めて整地した状況と判断した。

SK5078（図版 40　写真図版 63）

調査区中央部に位置する土坑である。逆台形状の掘り込みを見せ、土坑内には巨礫を含む多量の礫が投入されていた。

SK5086（図版 61　写真図版 93）

調査区東部に位置する撹乱土坑である。粘板岩製の小型硯(S2)が出土しているため、遺物のみを掲載する。

SK5087（図版 41　写真図版 64）

調査区東部に位置する円形の土坑である。椀形の掘り込みを見せ、内部は礫で充填されていた。土坑内の土壌試料について、岡本により蛍光 X 線分析がおこなわれ、鉄が最も多く検出されたほか、銅、亜鉛等が検出されている。

SK5088・SX5089・SK5090（図版 41　写真図版 64・65）

調査区東部に位置する土坑・焼土である。SK5090 は、やや不整な楕円形の土坑で、一部でオーバーハングするような急斜度の掘り込みを見せる。最上層を除き、坑内の堆積物は人為埋積の可能性が高い。SK5088・SX5089 は、SK5090 が埋積された後に構築されているが、この 3 者が機能的な関連をもって構築されたものか否かについては、判断できない。

SK5088 は埋桶である。内部は自然埋積されており、桶の上部が炭化して遺存していたが、下部は全く遺存していなかった。SX5089 は、SK5090 の埋土上面における焼土面で、薄い炭化物の層を伴う。

SK5155（図版 42　写真図版 63）

調査区東部に位置する土坑である。急斜度の掘り込みと、傾斜する底面を見せ、埋土中には多量の礫が埋設されていた。土坑端部には、木柱が埋められていたものと思われるが、これが土坑の埋没後に、土坑とは無関係に掘削されたものか、木柱を埋設することが土坑の機能の一部であったものか、判断し難い。

SK5164（図版 42）

調査区東部に位置する土坑である、急斜度の掘り込みを見せ、土坑内は自然埋積されていた。埋土中位には、灰・炭からなると思われる堆積が認められた。

SP5165（図版 42　写真図版 66）

調査区東部に位置する柱穴である。上面付近には礫が多数投入されていた。

SX5166・SX5167・SX5168（図版 42　写真図版 66）

調査区東部に位置する遺構群である。SK5167・SX5168 は、検出時にはそれぞれ独立した遺構と認識していたが、断面観察の結果、同一土坑内の堆積物の違いを、水平面で識別していたことが明らかとなった。埋土上面は極めて強く被熱して硬化しており、その直下に炭層が認められた。SX5166 は、方形石組みを持つ土坑で、石組みの石材・土坑底面付近が強く被熱していた。土坑上部は、焼土・炭化物を含む土壌で人為的に埋設されていた。

SX5166 下層の焼土試料について、岡本により蛍光 X 線分析がおこなわれ、鉄が検出されているが、他の金属成分は顕著ではなかった。

(4) 第 3 面の遺構と遺物

SX5091（図版 44　写真図版 66）

調査区東部に位置する土坑である。埋土上部が広く被熱し、一部は顕著に硬化していた。また、上層の堆積物には炭化物が多量に含まれていた。

SX5092（図版 44　写真図版 66）

調査区東部に位置する土坑である。SX5091 とほぼ同様の状況で、埋土上面中央部が強く被熱し、その周辺には、被熱度の差による色調変化が認められた。

SX5098（図版 44　写真図版 66）

調査区中央部に位置する焼土遺構である。断面観察では、椀底状の被熱部が見られる。土坑のような掘り込みではなく、地表面が被熱した状況と判断される。

SX5100（図版 44）

調査区東部に位置する石列遺構である。北北東－南南西方向に、直径 20 ㎝以下の礫が概ね 1 列に並べられている。周辺に関連する遺構はなく、機能は不明であるが、何らかの土地区画ないしは建造物基底の一

部であった可能性が考慮される。図示可能な遺物は出土しなかった。

SK5101（図版 44）

調査区東部に位置する円形の土坑で、南半は調査区外へ広がる。

SX5109（図版 54　写真図版 83）

調査区中央部に位置する遺構である。16 世紀代後半に属する備前焼擂鉢（122）が出土している。

SX5114（図版 43　写真図版 49・67）

調査区西部の第 3 面上で検出された、礫敷遺構である。小礫から直径 30 ㎝ほどまでの礫を並べており、北東－南西方向の方位を持つように見える。検出状況から、遺構の大部分は調査区外にあるものと推定される。何らかの土地区画に伴う遺構の可能性が想起されるが、判然としない。

SP5116（図版 43　写真図版 67）

調査区中央部に位置する柱穴である。柱穴底面は不規則な凹凸を見せる。断面観察により、柱痕と思われる状況が観察されたが、対応する柱穴は、調査区内では見いだされなかった。

SK5121（図版 54　写真図版 83）

調査区西部に位置する土坑である。16 世紀後半に属する備前焼甕の口縁部（123）が出土している。

（5）第 4 面の遺構と遺物

SK5122（図版 45・46　写真図版 68）

調査区西部に位置する土坑である。椀形の掘り込みを見せるが、底面は不規則な凹凸が見られる。土坑内はブロックを含む埋土で、人為的に埋没されていた。

SX5123（図版 45・46　写真図版 50・68）

調査区西半に広く造られた、礫敷遺構である。礫の広がりは延長約30m に達し、南北および西側は調査区外へ広がる。礫は拳大以下が中心で、密度の濃淡はあるもののほとんどの場所で、大きな隙間のない状態で敷かれていた。礫間の清掃では、東播系須恵器椀の破片など、中世前半期に属する遺物のみが出土している。調査時点では、これらの中世遺物が礫に混入した状態で敷かれた可能性を考慮し、遺構の所属時期については中世後半期と推測していたが、礫敷面で検出された炭化物のＡＭＳ年代測定値も中世前半期を示していることから、SX5123 が中世前半期に構築された可能性は排除しがたい。

SX5123 の礫敷きを貫くかたちで、SP5124 ～ 5126、SP5128 ～ 5131、SP5134、SP5135 の、9 基の柱穴が検出されたが、調査区内ではこれらがどのような規模の建物跡をなすものか、判断できなかった。いずれからも、図示可能な遺物は出土していない。

SK5133（図版 46　写真図版 50・69）

SX5123 の礫敷面を切って、掘り込まれた土坑である。碗底状の掘り込みを見せ、土坑埋没後に中央部を柱穴状に掘り込んでいる。この中央部より京都系土師器皿、磁器碗破片等が出土したほか、獣骨片が出土した。

（6）第 5 面の遺構と遺物（図版 46　写真図版 69）

5 区の第 5 面は、同地区西部の最下底面であり、にぶい黄褐色礫混砂層上面が検出面となる。調査によって土坑と溝状以降が検出されたが、いずれからも遺物は出土していない。土坑・溝の形状、埋没状況などから、人為的な遺構ではなく、自然為の可能性が高いと判断された。

(7) 各検出面、整地層等出土の遺物（図版 54 ～ 56・57・61・66・67　写真図版 83 ～ 87・90・93・98・99）

各検出面およびその間を埋める整地層等より、多数の遺物が出土している。それらのうち、遺物としての重要度が高いものを図示、掲載した。紙数の都合上、各遺物の詳細な記述は割愛するが、少数の近世後半期の遺物（陶磁器、銭貨）を除くと、多くが 16 ～ 17 世紀代前半に属する。

土器、陶磁器類（128 ～ 160）のうち、第 1 ～ 2 面間整地層出土の遺物は 137 ～ 142、第 2 ～ 3 面間整地層出土の遺物は 143 ～ 151・157、第 3 ～ 4 面間整地層出土の遺物は 152 である。土師器皿（128）、唐津焼皿（134）、瀬戸・美濃焼皿（135・136）、堺または明石産と思われる擂鉢（151）は第 1 検出面上、軒平瓦（156）は、第 2 面検出面上より出土した。また、129 ～ 133 は、第 1 面より上位の、一部撹乱を含む層位より出土した遺物である。これらの遺物の所属年代を見るならば、第 1 面より上位には、18 世紀後半～ 19 世紀代の遺物を含むが、第 1 ～ 2 面間整地層以下では、概ね 17 世紀前半以前の遺物によって占められる。

これらのうち注目されるのは、明青花碗・皿類、華南産白磁等の舶載陶磁器類である。青花碗の中には、碗内面に型押しによる施文をもつものが見られるほか、釉薬を生掛けした粗製品が見られる。いずれも、茶器として用いられた可能性が高い。国内産陶器類には、備前焼・丹波焼の近隣の産地からもたらされた擂鉢、甕等の中型～大型器種と、瀬戸・美濃焼、唐津焼といった遠隔の産地からもたらされた碗・皿類が認められる。また、土師器皿には、京都系と呼ばれる手づくねの土師器皿が見られるが、少なくともその一部は在地産の可能性を指摘しうるものである。

木製品には、整地層より出土した顕著なものはないが、楔状木製品（W7）を図示している。また、撹乱層では蓋（W8）、曲物底板（W9）、下駄（W10・W11）等が出土している。

金属製品は、釘（M40・M42）、簪？（M43）、ヤリガンナ（M44）および皿状の不明鉄製品（M41）等が出土している。また銅銭は、第 1 面で嘉泰通寶（M99）、治平元寶（M100）、開元■寶（M101）、太平通寶（M102）が、第 2 面で太平通寶（M103）、崇■通寶（M111）、大●●寶（M112）が、第 2 ～ 3 面間の整地層中より元豊通寶（M105）、元祐通寶（？：M106）、元●通寶（M107）、宣和元寶（？：M108）、天聖？元寶（M109）、判読不能（M110）が出土している。このほか、補助トレンチ内、整地層、撹乱部等より M114 ～ M122 までの銅銭が出土している。

(8) 小結

5 区では、第 1 面から第 2 面検出までの整地層からは、江戸時代後半期の遺物が少数ながら出土しており、第 2 面以下については、この時期に属する遺物は見られないようである。この傾向は、各層位、および検出面出土銅銭の所属時期とほぼ合致している。従って、第 1 面形成段階については、18 世紀代以降の可能性が、第 2・3 面については、16 ～ 17 世紀代に属する可能性が高いだろう。ただし既述のように、調査区全域にわたって数多くの撹乱土坑が見られ、その一部は上層から掘り込まれているにもかかわらず、下位の検出面に至ってようやく確認されたものもあった。こうした事情を勘案すると、各遺構面の所属時期を安直に判断することには慎重でありたい。しかしながら、各面における 16 ～ 17 世紀代の遺物の量的卓越は、調査地周辺に当該時期の有力な施設が展開していたことを明確に示しており、それが第 2 面ないし第 3 面にある可能性は高いと考える。

第 4 面については、出土遺物は僅少ながら、12 ～ 13 世紀代の遺物に限られること、ＡＭＳによる年代測定値との間に齟齬がないことから、鎌倉時代前半期に属する可能性を指摘しておきたい。また第 5 面については、出土遺物がなく、「遺構」も人為と判断する根拠に欠ける。

各遺構面および個別の遺構の性格については、なお不明の点が多い。

第２・３面における輸入陶磁器類と国内産陶磁器類からは、大きくふたつの様相が見て取れる。ひとつは土師器鍋・皿および擂鉢、大型の甕などに見られる、日常的な生活用品としての様相であり、もうひとつは碗、花生、向付、盤、建水といった茶道具としての様相である。合わせて煙管、秤量具としての権、多数の宋銭・明銭の出土からは、茶の湯を嗜む富裕な商人層の存在が想起される。

これに対し、第１・２面に顕著に見られる多数の焼土遺構や坩堝の出土は、工房の存在を強く示唆しており、茶の湯とはかけ離れたものと言えよう。

第４章　結　　語

第１節　遺構面とその時期

今回の本発掘調査区で検出された遺構・遺物は、4 段階に大別できる。第 1 期は、5 区の黒色シルト質砂層下で検出された礫敷である。この礫敷面では、織豊期以降の遺物を見いだせず、中世に属する須恵器の細片が出土した。第 2 期は、16 世紀後半～ 17 世紀前半を主体とした時期の遺物と、これに関連する遺構である。第 3 期は、第 2 期より新しい時期に形成された遺構面で、遺物は乏しいものの炉床と思われる焼土面、集礫遺構、および多量の炭、焼土などを含む土坑等から成る。第 4 期は、江戸時代後半～末以降の遺構と遺物である。

第 1 期の遺構は、5 区の第 4 面で検出された機能不明の広い礫敷面と、細片の遺物があるのみで、所属時期について確定的に記述することは躊躇せざるを得ない。しかし、この礫敷面に伴う炭化物のＡＭＳ年代測定をおこなったところ、13 世紀後半～ 14 世紀後半にかけての較正年代が示された。この年代をそのまま採用することには慎重でありたいが、遺構面に伴う須恵器などの所見と矛盾しないことから、ひとまずここでは、第 1 期の年代を 13 世紀代と推定しておきたい。礫敷遺構の範囲、機能を含め、今後の周辺調査の成果に期待する部分が大きい。

第 2 期の遺構には不明瞭な点が多い。遺物は 16 世紀代～ 17 世紀前半のものが明らかに主体を占めており、後述するとおり全体としては 17 世紀初頭を前後する時期が中心と評価できる。この時期に、調査区付近に、国内産陶器の茶器や輸入陶磁器を多用する階層の屋敷が構えられていたことは間違いないだろう。1 区で検出された SX1038 の石垣遺構および周辺の土坑等は、この時期に相当する可能性が高い。また、各調査区で検出された礎石、柱穴なども、この時期の建物跡に関連する可能性があろう。しかし第 2 期の遺構については、調査区の制約から、遺構の規模・機能等に不明の点が多い。当該期の遺物は、いずれも土坑に廃棄された状況、ないしは整地層中に混在した状況で出土しており、多くの場合、遺物が包含される土壌には焼土・炭化物が多量に含まれている。そのような状況からは、次段階における調査区周辺の土地利用の変化に伴って、一括して廃棄された結果である可能性が高いと思われる。すなわち、当該期の遺物を出土した遺構について、すべてが第 2 期に形成されたと断ずることはできないと考える。1 ～ 5 区の第 2 ～ 3 面に相当するものと思われる。

第 3 期の遺構には、多数の規模の大きな焼土面と、度重なる整地が伴う。出土遺物数は多くないが、一部に 17 世紀後半～ 18 世紀代の陶磁器類を含むことから、17 世紀後半以降の可能性を推定しておきたい。

特に 1 区の SX1011・SX1017 は、石組の床面と壁面を 3 次にわたって構築した窯状の遺構で、床面、壁面ともに強度に被熱していることから、精錬に関連した遺構である可能性が高いと思われる。少数ながら出土している坩堝も、この推定と矛盾しない。床面の焼土等を用いた分析では、精錬を十分に裏付けるだけの成果は得られなかったが、各調査区において検出された、広い焼土面や極度に硬化した強被熱面をもつ多数の遺構すべてが、竈のような日常的な生活遺構であるとするのは、これらの遺構に伴う生活遺物がごく貧弱であるという事実と相まって、無理があるだろう。

断定には至らないまでも、これらの焼土を伴う遺構の多くが、精錬、鍛冶等に関連する可能性が高いことを指摘しておきたい。各調査区の第 1 ～ 2 面に相当する。

第 4 期の遺構と遺物は、幕末～近代以降に属する。礎石、柱穴、埋桶および焼土面などで構成されている。平成 23 年度の本発掘調査で検出された遺構などが、この時期に相当するだろう。現生野市街地が形成され

た段階と言えよう。各調査区の第 1 面、ないしはこれより上位の面である。

第 2 節　輸入陶磁器類および国内産の陶器類について

今回の調査では、16 ～ 17 世紀の遺物が多数出土した。それらは、在地産および近隣地域産の土師器類、近隣産地からもたらされた陶器類（丹波焼・備前焼）、国内遠隔地産地の陶器類（瀬戸・美濃焼・唐津焼）および輸入陶磁器類に大別される。

近隣産地の陶器類は、擂鉢、甕など比較的大型の器種を中心とし、在地および近隣地域産の土師器皿類などとともに、日常的な生活に必須の器種が多いが、小壺（茶入れ？）、建水、掛花生等の茶道具も含む。瀬戸・美濃焼、唐津焼にも、向付、軟質施釉陶器（瀬戸黒）の茶器碗をはじめ、絵唐津鉢など、茶席に用いられる器種が多く認められる。

国内産陶器の所属時期を概観するならば、唐津焼の大部分が 17 世紀初頭～前半、瀬戸・美濃焼の多くが 16 世紀後半、丹波焼は大部分が 16 世紀後半～ 17 世紀初頭、備前焼も大部分が 16 世紀後半～ 17 世紀初頭に属するものである。

輸入陶磁器類は、明青花碗・皿を中心に、華南産白磁などの比較的良質な磁器が顕著であることが特徴である。青花には、口径 10 ～ 13 ㎝を測る碗、同じく 9 ～ 15 ㎝の皿が見られる。碗には、釉薬が生掛けされた、器面に虫食いの多いもの（112）が認められる。このような製品は原産地では粗製品とされるものであるが、国内では、茶の湯の流行によって茶人などに珍重される傾向があった。また青花碗に見られる、内面に型押しによってレリーフ状に施文したものも、同様に茶器として用いられたものであろう。すべて 16 世紀代～ 17 世紀前半に属しており、中でも 16 世紀後半～ 17 世紀初頭に属するものが主体を占めている。景徳鎮窯と判断される個体は 16 世紀代の所産、漳州窯系と判断される個体は 17 世紀前半代の所産と、生産地によりやや時期がずれる可能性がある。

華南産陶磁器の主体を占めるのは、森田勉氏による分類で F 類とされる端反りの白磁皿で、他に施釉陶器壺が見られる。いずれも 16 世紀代に属すると考えられ、青花よりもやや時期が古い傾向が認められる。

今回の調査で出土した陶磁器類を全体として俯瞰すると、所属時期の中心が 17 世紀初頭を前後する時期にあることは疑いない。

第 3 節　総括

上述のような状況を総括すると、まず、中世（鎌倉時代後半期～）に、調査地付近に、何らかの施設が設けられた。その後織豊期においては、茶を嗜む富裕層が調査区付近に屋敷を構えた可能性が高い。当時の社会的背景を勘案するならば、彼らは、生野銀山と関わりの深い商人層であった可能性が指摘できる。5 区で出土した銅製権のように、秤に伴って用いられる器種や、輸入銭が多数出土したことも、上記の推定と矛盾しないだろう。この時期は、生野銀山および現在の市街地が豊臣氏の支配下から徳川氏の支配下へと移り変わる時期までを含んでいると思われる。こうした状況から、政権と関連する商人層の存在を推測しても大過ないだろう。

一方で、17 世紀後半以降の遺物が相対的にわずかであることは、この時期には、調査地付近に多くの陶磁器類が持ち込まれる機会がなかったことを示している。このことは、調査地内に多量の焼土（炉跡）、炭層が見られたことと無関係ではあるまい。

生野鉱山では、17 世紀後半以降銀の産出量が減少して銅・錫などの産出量が増加する。その結果、徳川

政権は、それまでの生野奉行を生野代官に改組している。想像をたくましくすれば、豊臣政権下から徳川政権初期に生野の市街地を占有していた商人層が、銀産出の減少とともに衰微、あるいは撤退を余儀なくされ、その後、調査地付近には生野鉱山に関連する精錬や鍛冶などをおこなう工房が成立したとも考えられる。既述のとおり、土壌分析の成果は必ずしも精錬等に肯定的ではなかったが、これについては、未分析の試料の追加的な分析、あるいは分析手法の再検討などをおこなう余地が残されている。

今回の調査は、狭長な、限られた範囲での調査であり、ここに記したような遺構群の消長を跡づけるためには、周辺でのより精緻な調査が必要であることは言うまでもない。

今回の調査範囲では、遺跡を形成する層序の半ば以上が人為的な整地土であった。整地土は、水平方向への連続性が乏しいこと、整地土自体が相互にごく近似した土壌を用いていたこと、加えてその間に撹乱部が多数介在したこと等のため、遺構面の追跡はきわめて困難であった。このため、調査区の壁面に補助トレンチを掘削し、地層断面を精査しつつ、遺構が検出された面で調査区全域について掘削、平面精査をおこなうという、考古学的発掘調査に於いて最も基本的な調査方法を採用した。その結果、1区で4面、5区で最大5面の遺構面について調査をおこなうことができたのである。このような基本的手順を踏襲した調査手法は、調査期間の延長を帰結したが、本遺跡における層序の複雑さと、これに伴う調査の困難性を斟酌すれば、どのような調査方法を採用すべきであったかは自明である。今後、周辺遺跡の調査にあたっても、十分な層序的検討をおこなった上での発掘調査がおこなわれることを期待したい。

引用文献

森田　勉　1982　「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』№.2

第3図　小学生見学状況

第4図　調査風景

第5図　現地説明会状況1

第6図　現地説明会状況2

第３表　収録遺構一覧表１

番号	種別	面	遺構掲載	遺物掲載	自然遺物	備考
1001	SP	1	+			
1002	SK	1	+			
1003	SK	1				
1004	SP	1				
1005	SX	1				攪乱坑
1006	SK	1	+	+		
1007	SK	1	+			
1008	SP	1		+		
1009	SK	1	+	+		
1010	SK	1				
1011	SX	1	+	+		
1012	SP	1				
1013	SP	1	+			
1014	SP	1				
1015	SX	1	+	+		
1016	SK	1	+			
1017	SX	1	+	+		
1018	SX	2	+			
1019	SK	2	+			
1020	SK	2	+			
1021	SD	2	+			
1022	SP	2				
1023	SK	2	+	+	アカニシ	
1024	SP	2				
1025	SP	2				
1026	SK	2				
1027	SP	2				
1028	SK	2				
1029	SK	2				攪乱坑
1030	SK	2	+			
1031	欠					
1032	SX	2		+		攪乱坑
1033	SK	2	+		アカニシ・獣骨	
1034	SK	3	+	+		
1035	SK	3	+			
1036	SP	2	+			
1037	SP	3				
1038	SX	3	+	+		
1039	SK	3	+	+		
1040	SK	3	+			
1041	SK	3		+		
1042	SP	4				
1043	SP	3				
1044	SK	4	+			
1045	欠					
1046	SX	3	+			
1047	SP	4				
1048	SP	4				
礎石１		1				
礎石２		2				
礎石３		2				

番号	種別	面	遺構掲載	遺物掲載	自然遺物	備考
2001	SK	1	+			
2002	SX	1	+			
2003	SP	1	+			
2004	SK	1	+	+		
2005	SK	1	+			
2006	SK	1	+			
2007	SX	1				
2008	欠					
2009	SK	1				
2010	SP	1				
2011	欠					
2012	SK	2	+			
2013	SP	2				
2014	SP	2	+			
2015	SK	2	+			
2016	SP	2	+			
2017	SK	3	+			
2018	SK	3	+			
2019	SK	3	+			
3001	SK	1	+			
3002	SP	1				
3003	SX	1	+			
3004	SK	1	+			
3005	SX	1	+			
3006	SK	1				
3007	SX	1	+	+		
3008	SX	1				
3009	SK	1				
3010	SP	2		+		
3011	SP	2				
3012	SP	2				
3013	SX	2	+			
3014	SK	2	+			
3015	SX	2		+	アカニシ	
3016	SK	2				
3017	SP	2				
3018	SK	2	+			
3019	SP	2	+			
3020	SP	2	+			
3021	SK	2	+			
3022	SK	3	+			
4001	SX	1				
4002	SX	1		+		
4003	SX	1	+	+		
4004	SX	1	+			
4005	SK	1	+			
4006	SD	1		+		
4007	SK	1	+			
4008	SK	1	+			
4009	SK	1	+	+		
4010	SX	1	+			
4011	SD	1	+			
4012	SK	1	+	+		
4013	SK	1				
4014	欠					
4015	SK	2				攪乱坑
4016	SK	2	+			
4017	SK	2	+			
4018	SX	2				
4019	SK	2	+			
4020	SP	2				
4021	SP	2				
4022	SK	3	+			
4023	SK	3	+			

収録遺構一覧表 2

番号	種別	面	遺構掲載	遺物掲載	自然遺物	備考
5001	SK	1	＋			
5002	SK	1	＋			
5003	SP	1				
5004	SP	1				
5005	SK	1				撹乱坑
5006	SK	1				撹乱坑
5007	SK	1			アサリ？	撹乱坑
5008	SP	1				
5009	SK	1		+		撹乱坑　銅銭出土
5010	SK	1		+		撹乱坑　銅銭出土
5011	SK	1		+		撹乱坑
5012	SK	1	+			
5013	SK	1		+		撹乱坑
5014	SK	1				撹乱坑
5015	SK	1				撹乱坑（埋桶）
5016	SK	1	+			
5017	SK	1	+			
5018	SX	1	+			焼土面
5019	SK	1	+			
5020	SK	1				撹乱坑（埋桶）
5021	SK	1	+	+		
5022	SK	1	+	+	アカニシ・ハマグリ	炉
5023	SK	1	+	+		
5024	SK	1	+	+	アカニシ・ハマグリ	
5025	SX	1				礫敷遺構
5026	SK	1			鳥骨？	撹乱坑
5027	SP	1				
5028	SK	1				
5029	SK	1		+		撹乱坑
5030	SK	1				礫敷遺構
5031	SK	1	+	+		
5032	SK	1	+	+	アカニシ	
5033	SK	1				
5034	SK	1				炭化物土坑
5035	SK	1				撹乱坑
5036	SK	1				撹乱坑
5037	SK	1				撹乱坑
5038	SK	1			アカニシ	
5039	SK	1	+			
5040	SP	1				
5041	SE	1	+	+	アカニシ	
5042	SP	1	+			
5043	SK	1	+			撹乱坑SK5007と同じ土坑
5044	SD	1				SK5032と重複
5045	SD	1	+			
5046	SX	2	+			石組炉？
5047	SX	2	+			石組炉？
5048	SX	2	+			石組炉？
5049	SK	2	+			
5050	SK	2	+	+		
5051	SK	2	+			
5052	SX	2	+	+		焼土面
5053	SP	2		+		
5054	SK	2	+			
5055	SK	2	+			
5056	SP	2				
5057	SP	2				
5058	SP	2				
5059	SX	2	+	+	アカニシ	炉
5060	SP	2				
5061	SP	2	+	+		
5062	SP	2				
5063	SP	2				
5064	SK	2	+			礫土坑
5065	SK	2				
5066	SP	2				
5067	SP	2				
5068	SP	2				
5069	SP	2				
5070	SK	2	+			
5071	SP	2	+			
5072	SK	2	+	+		SK5034の下層の可能性
5073	SK	2	+			
5074	SK	2	+			
5075	SX	2	+			焼土面
5076	SP	2				
5077	SP	2				
5078	SK	2	+			鉱滓を多量に投入した土坑
5079	SX	2				石列
5080	SP	2				
5081	SP	2				
5082	SP	2				
5083	SP	2				
5084	SP	2				
5085	SP	2				
5086	SK	2		+		撹乱坑
5087	SK	2	+			礫土坑
5088	SK	2	+			焼土面を伴う土坑

番号	種別	面	遺構掲載	遺物掲載	自然遺物	備考
5089	SX	2	+			焼土面を伴う土坑
5090	SK	2	+			焼土面（炉の基底部か）
5091	SX	3	+			焼土面
5092	SX	3	+			焼土面
5093	SP	2?				
5094	SP	2?				
5095	SX	1	+	+		板囲い土坑
5096	SP	2				SX5059の焼土下
5097	SP	3	+			
5098	SX	3	+			
5099	SK	3		+		SX5052の下層
5100	SX	3	+			石列遺構
5101	SK	3	+			
5102	SK	3				
5103	SP	3				
5104	SP	3				
5105	SP	3				
5106	SP	3				
5107	SP	3				
5108	SP	3				断面にかかる柱穴
5109	SX	3		+		
5110	SP	3				
5111	SP	3				
5112	SP	3				
5113	SP	3				
5114	SX	3	+			礫敷遺構
5115	SP	3				
5116	SP	3	+			
5117	SP	3				
5118	SP	3				
5119	SP	3				
5120	SP	3				SX
5121	SK	3		+		
5122	SK	4	+			
5123	SX	4				礫敷遺構
5124	SP	4				
5125	SP	4				
5126	SP	4				
5127	SK	3				
5128	SP	4				
5129	SP	4				
5130	SP	4				
5131	SP	4				
5132	SX	4				SK5121をパラレルに取り巻く？
5133	SK	4	+	+	獣骨？	礫敷面を切る
5134	SP	4				
5135	SP	4				
5136	SP	3				
5137	SP	3				根石あり
5138	SK	4				
5139	SK	1	+	+		埋甕
5140	SK	1				礎石
5141	SK	1				礎石
5142	SP	1				
5143	SK	1				
5144	SE	1				現代（板ガラス出土）
5145	SK	1		+		
5146	SK	1	+			
5147	SE	1	+	+		石組あり
5148	SK	1	+			
5149	SX	1	+			木組み白粘土
5150	SD	1	+			木樋
5151	SX	1	+			焼土
5152	SD	1				
5153	SP	2				
5154	SX	2				
5155	SK	2	+			
5156	SK	2				
5157	SP	2				
5158	SP	2				
5159	SK	2				
5160	SP	2				
5161	SP	2				
5162	SP	2				
5163	SK	2				
5164	SK	2	+			
5165	SP	2	+			
5166	SX	2	+			炉跡
5167	SX	2	+			
5168	SX	2	+			
5169	SK	3				
5170	SP	3				
5171	SP	3				
5172	SK	3				
5173	SK	3				
5174	SP	3				
5175	SP	3				

第４表　収録遺物観察表１

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（ｃｍ）			調査番号	時期	産地等	調整など特徴	出土地区	面	出土遺構	層位	出土年月日	備考
					口径	器高	底径										
1	47	71	施釉陶器	盤	(31.6)	(3.35)		2013002	16 世紀～17 世紀代	備前焼	チョコレート色の胎土	1 区	1 面	SK1009	下層（砂礫層以下）	2013.06.11	
2	47	71	施釉陶器	碗	11.55	7.4	5.5	2013002	17 世紀初頭	唐津焼	藁灰釉を重ね掛けして白濁（鮫皮手）いわゆる沓茶碗	1 区	1 面	SX1011	焼土層、暗褐色盛土	2013.06.22	断割 SX1017 含む
3	47	71	青花磁器	皿		(1.85)	(7.6)	2013002	16 世紀末～17 世紀初	明	明青花 口径に対して器壁が薄い いわゆる古染付 外面底部：高台裏に虫食い（気泡）ノミ痕あり 文様：濃み技法による 文様は牡丹唐草紋　体部は芙蓉手か	1 区	1 面	SX1011	焼土層、暗褐色盛土	2013.06.22	断割 SX1017 含む
4	47	71	無釉陶器	徳利		(2.9)	5.4	2013002	16 世紀後半～17 世紀初頭	備前焼		1 区	1 面	SX1011	焼土層、暗褐色盛土	2013.06.22	断割 SX1017 含む
5	47	71	無釉陶器	擂鉢	(28.6)	(8.8)		2013002	17 世紀前半	丹波焼		1 区	1 面	SX1011	下層焼土層	2013.06.18	
6	47	71	無釉陶器	擂鉢	(29.5)	14.4	11.7	2013002	17 世紀前半	備前焼　Ｖ期		1 区	1 面	SX1011	焼土層、暗褐色盛土	2013.06.22	断割 SX1017 含む
7	47	71	土師器	小皿	(8.7)	2.05	(4.5)	2013002		在地産	ロクロ成形	1 区	1 面	SX1015 北半		2013.06.18	
8	47	71	土師器	小皿	(9.35)	2.05	(4.5)	2013002		広義の京都系	手づくね成形	1 区	1 面	SX1015 北半		2013.06.18	
9	47	71	施釉陶器	壺	14.9	25.0	(16.8)	2013002	16 世紀代	華南産	褐釉陶器	1 区	1 面	SX1015	ベース（焼土・炭混層）	2013.06.24	
10	47	71	青花磁器	碗		(2.1)	4.6	2013002	16 世紀後半	明	明青花　砂高台	1 区	1 面	SX1015 北半		2013.06.18	
11	47	72	無釉陶器	擂鉢	(37.0)	(10.2)		2013002	16 世紀末～17 世紀初頭	丹波焼	還元が強い	1 区	1 面	SX1017		2013.06.22	礫検出時
12	47	72	無釉陶器	甕	(30.2)	(14.9)		2013002	16 世紀後半～17 世紀初頭	丹波焼		1 区	1 面	SX1017		2013.06.22	礫検出時
13	48	72	施釉陶器	皿		(2.0)	(6.2)	2013002	17 世紀後半～18 世紀前半	唐津焼	緑釉 釉は銅緑釉	1 区	2 面	SX1032		2013.06.29	
14	48	72	施釉陶器	皿	10.15	3.5	4.2	2013002	17 世紀前半	唐津焼	灰釉 三ヶ月高台 外面底部に縮緬皺	1 区	2 面	SX1032		2013.06.29	
15	48	72	青花磁器	碗		(3.7)	5.05	2013002	16 世紀後半	明	明青花饅頭心碗 外面底部に文字 「攸萬同福」	1 区	3 面	SK1034	大礫混粘質土層	2013.07.04	
16	48	72	青花磁器	碗	(12.1)	(5.75)	(5.4)	2013002		漳州窯？		1 区	3 面	SK1034		2013.07.06	
17	48	72	白磁	皿		(2.4)	(7.3)	2013002				1 区	3 面	SK1034		2013.07.06	
18	48	72	白磁	皿	(10.9)	2.65	(4.65)	2013002	16 世紀代	華南産	白磁皿 Ｆ類	1 区	3 面	SX1038	裏込部最上層	2013.07.18	礫検出時
19	48	72	土師器	小皿	(7.6)	(1.55)		2013002	16 世紀代	広義の京都系	手づくね成形	1 区	3 面	SK1039 西	礫層（上部）	2013.07.22	
20	48	73	土師器	小皿	(7.6)	(1.8)		2013002		広義の京都系	手づくね成形	1 区	3 面	SK1039 西	下層	2013.07.23	
21	48	73	青磁	碗		(2.75)	(7.0)	2013002	16 世紀代	龍泉窯系	細連弁文	1 区	3 面	SK1039 西		2013.07.16	
22	48	73	青花磁器	皿	(9.5)	(2.75)	(4.2)	2013002	16 世紀代	明	明青花碁笥底皿	1 区	3 面	SK1039 西		2013.07.16	
23	48	73	青花磁器	碗		(1.85)	(3.2)	2013002	16 世紀後半	明	明青花　砂高台 外面底部中央部に文字か「天（?）」	1 区	3 面	SK1039	アゼ上層	2013.07.23	
24	48	73	白磁	皿	(11.3)	2.95	(5.0)	2013002	16 世紀後半	華南産	白磁皿 器面に虫喰いが多い	1 区	3 面	SK1039 アゼ	上部礫層	2013.07.24	
25	48	73	白磁	皿	(11.8)	(2.8)	(6.0)	2013002	16 世紀後半	華南産	白磁皿 Ｆ類 ヒビ割れ	1 区	3 面	SK1039 西	礫層（上部）	2013.07.22	
26	48	73	無釉陶器	擂鉢	(25.6)	(11.0)	(12.8)	2013002	16 世紀前半	備前焼　Ｖ期	チョコレート色の胎土 外面口縁部：胡麻状の灰被り	1 区	3 面	SK1039 西	礫層（上部）	2013.07.22	
27	48	73	無釉陶器	擂鉢	(31.4)	(11.9)	(13.1)	2013002	16 世紀後半～17 世紀初	備前焼　Ｖ期	内面体部に胡麻状に灰被り　横方向の擂目 26 より新しい	1 区	3 面	SK1039 西	礫層（上部）	2013.07.22	
28	48	73	青花磁器	碗	(11.8)	6.05	4.85	2013002	16 世紀代	明	明青花 外面底部に文字 「永保長春」	1 区	3 面	SK1041	大礫層～焼土層	2013.07.31	
29	48	73	青花磁器	碗	(12.5)	5.8	(5.2)	2013002	16 世紀代	明	明青花 外面底部に文字 「天下太平」	1 区	3 面	SK1041	大礫層～焼土層	2013.07.31	
30	48	74	青花磁器	碗		(4.65)	(5.6)	2013002	17 世紀前半	漳州窯？		1 区	3 面	SK1041	大礫層	2013.07.30	
31	48	74	青花磁器	碗		(3.8)	4.6	2013002	16 世紀後半	明	明青花饅頭心碗 外面底部に文字 「大明年製？」	1 区	3 面	SK1041 東	大礫層	2013.08.03	
32	48	74	無釉陶器	小壺		(7.0)	(7.0)	2013002	16 世紀代	備前焼	茶入れあるいは小形の一輪挿しか	1 区	3 面	SK1041 東	大礫層	2013.08.03	
33	48	74	無釉陶器	擂鉢	(29.5)	12.65	(12.0)	2013002	16 世紀代	備前焼　Ｖ期		1 区	3 面	SK1041	大礫層	2013.07.31	
34	49	74	土師器	灯明皿	(12.6)	(2.4)		2013002		京都系	内外面にススト付着	1 区	1 面	SX1017 付近	第２面下暗褐盛土層	2013.07.10	
35	49	74	土師器	皿	(12.45)	1.9	(6.05)	2013002		広義の京都系	手づくね成形	1 区№0～№0+5			第１～２面の焼土・炭層	2013.07.06	
36	49	74	土師器	不明（底部）		(1.5)	4.35	2013002	近世か	在地産	ロクロ成形	1 区№0+5～№1			暗褐色盛土（タタキ面以上）	2013.06.29	検出面
37	49	74	染付磁器	杯	(6.0)	(2.25)		2013002	近世	京焼系		1 区№1 付近			タタキ床～黒ボク（第３面）	2013.07.04	人力掘削
38	49	75	染付磁器	碗	(12.95)	(5.8)		2013002	近世後半（19 世紀代）か	国産		1 区№0～№0+5			第１～２面の焼土・炭層	2013.07.06	
39	49	75	染付磁器	碗		(4.3)	(5.0)	2013002	近世後半		外面底部に文字あり 「大明年製」のくずれ	1 区				2013.07.11	出土位置不明
40	49	75	染付磁器	碗	(11.8)	(4.85)		2013002	近世後半	国産（備前ではない）	磁器か	1 区			残土	2013.06.29	
41	49	75	染付磁器	碗		(4.3)	(5.4)	2013002	近世後半			1 区				2013.07.25	
42	49	75	青磁	皿	(9.1)	(2.9)	(4.2)	2013002	18 世紀前半～後半	肥前か	近世後半の青磁菊皿	1 区№0+5～№1+5			撹乱層　黒ボク	2013.06.28	側溝掘削時
43	49	75	白磁	皿	(11.1)	2.6	(6.15)	2013002	16 世紀代	華南産	白磁皿　Ｆ類 器面に虫喰い	1 区№1～№2			砂礫層	2013.06.27	人力掘削
44	49	75	青花磁器	碗	(13.6)	(4.25)		2013002	16 世紀後半	明	明青花	1 区			1 面	2013.06.03	機械掘削
45	49	75	無釉陶器	盤	(24.05)	4.2	(13.6)	2013002	16 世紀後半～17 世紀初	備前焼	胡麻状に灰被り	1 区№0～№0+5			第１～２面の焼土・炭層	2013.07.06	
46	49	75	無釉陶器	盤	(29.55)	(6.7)	(27.6)	2013002	16 世紀後半～17 世紀初	丹波焼		1 区№0～№1			暗褐色盛土層（第２層）	2013.06.27	人力掘削
47	49	76	無釉陶器	擂鉢	(31.5)	(6.9)		2013002	16 世紀後半	丹波焼		1 区№0～№0+5			第１～２面の焼土・炭層	2013.07.06	
48	49	76	無釉陶器	無頭壺	(10.0)	8.9	(6.75)	2013002	16 世紀後半～17 世紀前	備前焼	窯印あり 内面に鉄分付着 (お歯黒壺か)	1 区№0～№0+5			焼土＋炭混層	2013.06.28	第２面人力掘削時

収録遺物観察表 2

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）			調査番号	時期	産地等	調整など特徴	出土地区	面	出土遺構	層位	出土年月日	備考
					口径	器高	底径										
49	49	76	施釉陶器	碗		(4.9)	4.4	2013002	17 世紀初	唐津焼	灰釉 三ヶ月高台・外面底部に縮緬皺	1 区№0 ～№0+5			第 1 ～ 2 面の焼土・炭層	2013.07.06	
50	49	76	土師器	小皿	(7.4)	(1.45)		2013002		広義の京都系	手づくね成形	1 区№0 ～№0+5m			～第 3 面	2013.07.11	人力掘削
51	49	76	土製品	坩堝	8.7	3.75		2013002				1 区№0 ～№0+5m			～第 3 面	2013.07.11	人力掘削
52	49	76	施釉陶器	鉢 （底部）		(3.0)	(7.25)	2013002			内外面に白濁釉施釉	2 区	1 面	SK2004		2013.06.12	
53	49	76	染付磁器	小皿	(10.0)	(2.2)	(6.1)	2013002	近世後半			2 区№0+5 付近			炭＋焼土層	2013.06.22	人力掘削
54	49	77	白磁	皿	(10.9)	2.65	(6.0)	2013002	16 世紀代	華南産		2 区№0+5 付近			炭＋焼土層	2013.06.22	人力掘削
55	49	76	無釉陶器	甕		(11.7)		2013002	16 世紀代	備前焼 Ⅴ期		2 区	3 面	西端廃棄土坑		2013.07.09	
56	49	77	無釉陶器	盤	(36.1)	(3.2)	(20.6)	2013002	16 世紀後半	丹波焼		2 区№0+5 付近			炭＋焼土層	2013.06.22	人力掘削
57	50	77	染付磁器	碗	(11.55)	(6.15)	(4.95)	2013002	近世後半		蓋付碗	3 区	1 面	SX3007	礫層（①層）	2013.08.19	北壁より出土
58	50	77	土師器	杯	(12.7)	(2.65)		2013002		広義の京都系	手づくね成形	3 区	2 面	SP3010		2013.08.20	
59	50	77	無釉陶器	徳利	(6.0)	(16.85)		2013002	16 世紀代	備前焼	船徳利 外面は胡麻状に灰被り	4 区	1 面	SK4009		2013.08.12	
60	50	77	色絵磁器	皿	9.2	2.3	4.9	2013002	近代以降～現代			4 区	1 面	SK4012 （撹乱）		2013.08.12	
61	50	77	染付磁器	小碗	(7.6)	5.25	(3.0)	2013002	19 世紀前半以降	関西系		4 区	1 面	SX4003	焼土・炭混層	2013.08.10	
62	50	77	土師器	皿	12.1	2.45	7.45	2013002		在地産	ロクロ成形 京都系を模している	3 区№0 ～№1			第 1 面	2013.08.06	精査時（撹乱層含む）
63	50	77	土師器	小皿	8.25	(2.4)		2013002		京都系	手づくね成形	3 区		大撹乱 A 以東	焼土層及び黒褐色土層 GL-40 ～ -90cm	2013.08.19	第 2 回人力掘削
64	50	77	土師器	灯明皿	8.55	1.95	5.45	2013002		在地産	ロクロ成形 口縁部内面にスス付着	3 区		大撹乱 A 以東	焼土層及び黒褐色土層 GL-40 ～ -90cm	2013.08.19	第 2 回人力掘削
65	50	78	土師器	焙烙	(26.3)	(4.1)		2013002	18 世紀後半～19 世紀前半代			4 区			黄色盛土（第 1 面ベース）	2013.08.08	
66	50	78	土師器	杯	(10.8)	(2.35)		2013002		京都系	手づくね成形	3 区		大撹乱 A 以東	焼土層及び黒褐色土層 GL-40 ～ -90cm	2013.08.19	第 2 回人力掘削
67	50	78	土師器	小皿	(8.7)	(2.2)	(6.3)	2013002		在地産	ロクロ成形	3 区		大撹乱 A 以東	焼土層及び黒褐色土層 GL-40 ～ -90cm	2013.08.19	第 2 回人力掘削
68	50	77	土師器	小皿	(6.95)	2.25		2013002		在地産	手づくね成形	3 区		大撹乱 A 以東	焼土層及び黒褐色土層 GL-40 ～ -90cm	2013.08.19	第 2 回人力掘削
69	50	78	土師器	皿	(12.8)	(1.85)		2013002		京都系	手づくね成形	3 区	2 面	SX3013の下	黒ボク層	2013.08.27	
70	50	78	白磁	皿	(11.2)	(2.8)	(6.7)	2013002	16 世紀代	華南産	白磁 F 群	3 区		大撹乱 A 以東	焼土層及び黒褐色土層 GL-40 ～ -90cm	2013.08.19	第 2 回人力掘削
71	50	78	青花磁器	碗	(11.0)	(5.15)		2013002	16 世紀後半～17 世紀初	明	明青花	3 区		大撹乱 A 以東	焼土層及び黒褐色土層 GL-40 ～ -90cm	2013.08.19	第 2 回人力掘削
72	50	78	無釉陶器	掛花生	(11.7)	(12.0)		2013002	16 世紀後半	備前焼		3 区		大撹乱 A 以東	焼土層及び黒褐色土層 GL-40 ～ -90cm	2013.08.19	第 2 回人力掘削
73	50	78	無釉陶器	片口鉢	(33.3)	(5.9)		2013002	16 世紀代	備前焼 Ⅴ期		3 区		大撹乱 A 以東	焼土層及び黒褐色土層 GL-40 ～ -90cm	2013.08.19	第 2 回人力掘削
74	50	79	瓦質土器	火鉢	(23.8)	(6.75)		2013002	近世か			3 区		大撹乱 A 以西	焼土層及び黒褐色土層 GL-50 ～ -110cm	2013.08.19	第 2 回人力掘削
75	50	78	染付磁器	皿	(10.4)	2.4	(6.9)	2013002	明治以降		手塩皿	3 区				2013.08.09	大撹乱 A
76	50	79	施釉陶器	土瓶		(2.9)	(5.55)	2013002	19 世紀前半以降	京焼系	器壁が薄く外面露胎 ススが付着	3 区				2013.08.09	大撹乱 A
77	50	79	染付磁器	碗	24.3	8.55	13.25	2013002	19 世紀前半以降	肥前系	内面見込みに粉状の赤色顔料(ベンガラ)付着	3 区				2013.08.09	大撹乱 A
78	50	79	染付磁器	碗	(9.8)	5.5	(4.2)	2013002	18 世紀後半	波佐見産	くらわんか手 外面に雪輪文：点々は水分を表す 外面底部に文字か文様あり（判読不能）	3 区				2013.08.09	大撹乱 B
79	50	79	染付磁器	碗	(9.65)	5.25	(3.8)	2013002	19 世紀前半以降	瀬戸焼	内面に山形文と馬ノ目文あり 内面底部に文字 「大(明)年製」	3 区				2013.08.09	大撹乱 A
80	50	79	土製品	土錘	長 3.2	幅 1.65	厚 1.45	2013002				3 区	2 面	大撹乱 B 南付近		2013.08.19	精査面 重量 7.5g
81	51	79	青花磁器	皿	(11.5)	2.3	(6.8)	2013002	17 世紀初頭	明	明青花 外面底部に文字か文様あり（判読不能）	5 区	1 面	SK5013		2013.06.10	
82	51	79	青花磁器	碗	(12.2)	5.55	(5.6)	2013002	16 世紀後半	明	明青花	5 区	1 面	SK5013		2013.06.10	
83	51	79	土師器	小皿	8.1	1.8		2013002		京都系	手づくね成形	5 区	1 面	SK5022		2013.06.24	
84	51	79	土師器	灯明皿	9.65	2.0		2013002		京都系	手づくね成形 口縁部外面にスス付着	5 区	1 面	SK5022		2013.06.24	
85	51	79	土師器	灯明皿	8.6	2.3		2013002		広義の京都系	手づくね成形 口縁部外面にスス付着	5 区	1 面	SK5022		2013.06.24	
86	51	79	土師器	杯	12.7	2.55		2013002		京都系	手づくね成形	5 区	1 面	SK5022		2013.06.24	土器②
87	51	79	施釉陶器	小皿	9.9	2.7	5.7	2013002	16 世紀後半	瀬戸・美濃系	灰釉陶器（黄瀬戸）	5 区	1 面	SK5022		2013.06.24	土器①
88	51	80	施釉陶器	鉢		(1.9)	(5.1)	2013002	17 世紀初頭	唐津焼	絵唐津鉢 外面に白濁釉	5 区	1 面	SK5022		2013.06.24	
89	51	80	無釉陶器	擂鉢	(31.0)	(14.3)	(13.9)	2013002	16 世紀後半～17 世紀初	丹波焼	焼成ムラあり	5 区	1 面	SK5022		2013.06.24	土器③
90	51	80	施釉陶器	壺	(8.8)	13.65	8.8	2013002	近世後半	丹波焼		5 区	1 面	SK5023		2013.06.11	
91	51	80	土師器	小皿	8.65	2.55		2013002		京都系	手づくね成形	5 区	1 面	SK5029		2013.06.12	
92	51	80	白磁	皿	(13.55)	3.4	(7.4)	2013002	16 世紀代	華南産	白磁 F 群	5 区	1 面	SK5031		2013.07.05	
93	51	80	無釉陶器	擂鉢	(31.0)	14.2	13.4	2013002	16 世紀後半～17 世紀初	備前焼 Ⅴ期		5 区	1 面	SK5032		2013.06.13	貝あり
94	51	80	土師器	灯明皿	9.8	1.8	5.35	2013002		広義の京都系	手づくね成形 口縁部内外面にスス付着	5 区	1 面	SE5041		2013.06.24	
95	51	80	無釉陶器	擂鉢	(31.1)	13.5	(13.4)	2013002	16 世紀後半	丹波焼		5 区	1 面	SE5041 南半		2013.06.22	貝あり

収録遺物観察表 3

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）			調査番号	時期	産地等	調整など特徴	出土地区	面	出土遺構	層位	出土年月日	備考
					口径	器高	底径										
96	51	80	青花磁器	碗	(11.7)	5.95	4.7	2013002	17 世紀初頭	明	明青花 器面に虫喰い	5 区	1 面	SE5041		2013.06.24	
97	52	80	土師器	灯明皿	(8.7)	(1.9)		2013002		京都系	手づくね成形 口縁部外面にススト付着	5 区	1 面	SK5024		2013.06.17	
98	52	80	青花磁器	皿	(13.15)	2.75	(7.3)	2013002	17 世紀初頭	明	明青花 外面底部に文字あり (判読不能)	5 区	1 面	SK5024 東半		2013.06.12	貝あり
99	52	80	施釉陶器	向付	12.35	4.2	4.85	2013002	17 世紀初～前半	唐津焼	絵唐津 内面に鉄釉で施文	5 区	1 面	SK5024 西半	上層（炭層）	2013.06.12	100 とセットで取上 貝あり
100	52	81	施釉陶器	向付	(12.1)	4.4	4.45	2013002	16 世紀末～17 世紀	唐津焼		5 区	1 面	SK5024 西半	下層（礫層）	2013.06.12	99 とセットで取上 貝あり
101	52	81	施釉陶器	鉢	(29.9)	(9.55)	9.05	2013002	17 世紀前半	唐津焼		5 区	1 面	SK5021・SK5024	炭層	2013.06.11	
102	52	81	無釉陶器	擂鉢	(32.2)	13.35	(13.4)	2013002	16 世紀後半～17 世紀前半	丹波焼	窯印あり	5 区	1 面	SK5024		2013.06.17	
103	52	81	無釉陶器	建水	(23.2)	(13.65)		2013002	16 世紀代	備前焼		5 区	1 面	SK5021・SK5024	炭層	2013.06.11	
104	52	81	施釉陶器	壺	(10.55)	15.2	(9.35)	2013002	近世後半～近代		釉は白濁釉	5 区	1 面	SK5024 東半	上層	2013.06.11	貝あり
105	52	81	施釉陶器	壺		(5.95)+(9.5)	8.95	2013002		朝鮮唐津？		5 区	1 面	SK5021・SK5024	炭層	2013.06.11	
106	52	81	施釉陶器	壺		(10.35)	(14.7)	2013002		丹波焼		5 区	1 面	SK5021・SK5024	炭層	2013.06.11	
107	52	81	施釉陶器	壺	(10.3)	(10.35)		2013002	16 世紀後半	華南産かベトナム陶器		5 区	1 面	SK5024 西半	上層（炭層）	2013.06.12	
108	52	81	無釉陶器	甕	(23.2)	31.65	(16.1)	2013002		丹波焼？		5 区	1 面	SK5021・SK5024	炭層	2013.06.11	
109	53	82	青花磁器	碗	(11.8)	6.35	4.35	2013002	16 世紀後半～17 世紀初	明	明青花	5 区	2 面	SK5050		2013.07.01	
110	53	82	土師器	焼塩壺		(4.2)	5.7	2013002				5 区	1 面	SX5052	焼土下掘削時	2013.07.09	
111	53	82	青花磁器	皿	(11.8)	2.75	(8.0)	2013002	16 世紀後半～17 世紀初頭	明	明青花 牡丹唐草文	5 区	1 面	SX5052	焼土・灰層の下	2013.07.06	土器 C
112	53	82	青花磁器	碗	12.95	4.2	(4.9)	2013002		漳州窯系	器面に虫喰い 釉は生掛け	5 区	1 面	SX5052	検出時	2013.06.26	
113	53	82	青花磁器	碗	(11.8)	(5.35)		2013002	17 世紀初頭	明	明青花	5 区	1 面	SX5052	焼土・灰層の下	2013.07.06	土器 A
114	53	82	青花磁器	碗	(10.6)	(4.55)		2013002	17 世紀初	明	明青花 器面に貫入	5 区	2 面	SP5053	検出時	2013.06.27	
115	53	82	青花磁器	碗	(10.2)	(4.75)		2013002	17 世紀初頭	明	明青花 牡丹唐草文	5 区	2 面	SP5053	検出時	2013.06.27	
116	53	82	土師器	鍋	(29.2)	(6.3)		2013002	16 世紀後半 (『兵庫津Ⅱ』参照)			5 区	2 面	SX5059	検出面	2013.06.28	
117	53	83	施釉陶器	茶碗	(9.7)	7.8	4.65	2013002	16 世紀後半		瀬戸黒碗	5 区	2 面	SX5059 西半	上層	2013.07.09	
118	53	83	無釉陶器	鉢	(13.8)	7.6	(12.0)	2013002	16 世紀代	備前焼		5 区	2 面	SX5059		2013.07.08	
119	53	82	無釉陶器	擂鉢	(33.5)	(7.9)		2013002	16 世紀後半	備前焼 Ⅴ期		5 区	2 面	SX5059	⑨層	2013.08.06	南壁断面
120	53	83	無釉陶器	擂鉢	(28.8)	(13.95)	(11.2)	2013002	16 世紀後半	備前焼 Ⅴ期	チョコレート色の胎土	5 区	2 面	SK5072		2013.08.29	南壁断面
121	54	83	青花磁器	皿	9.35	2.8	5.0	2013002	16 世紀後半～17 世紀前半	明	明青花 粗製	5 区	3 面	SK5099	埋土	2013.07.10	
122	54	83	無釉陶器	擂鉢	(30.6)	13.4	(11.6)	2013002	16 世紀後半	備前焼 Ⅴ期		5 区	3 面	SX5109	砂礫層	2013.07.11	
123	54	83	無釉陶器	甕		(8.85)		2013002	16 世紀後半	備前焼 Ⅴ期		5 区	3 面	SK5121	焼土混層	2013.07.17	
124	54	83	土師器	椀	(10.4)	2.4		2013002		京都系	手づくね成形	5 区	4 面	SK5133	焼土混層	2013.07.20	
125	54	83	無釉陶器	甕		(12.5)	(22.4)	2013002		丹波焼		5 区	1 面	SK5139		2013.08.19	
126	54	83	染付磁器	碗	(11.7)	5.85	(5.0)	2013002	18 世紀後半	肥前系	くらわんか手　王弁花文 内面底部に文様(コンニャク印判) 外面底部に文様「福」文か	5 区	1 面	SK5145		2013.08.08	
127	54	84	白磁	壺蓋	(6.6)	(2.55)		2013002				5 区	1 面	SE5147		2013.08.08	
128	54	83	土師器	皿	(11.8)	2.6		2013002		京都系	手づくね成形	5 区№.4～№.5			焼土・炭混層	2013.06.22	第 2 回人力掘削
129	54	84	土師器	小皿	(7.9)	1.8		2013002		京都系	手づくね成形	5 区№.4～№.5			焼土・炭混層	2013.07.05	第 3 回人力掘削
130	54	84	染付磁器	角皿	(7.7)	2.0	(5.4)	2013002	18 世紀後半以降	肥前系	ロクロ成形の後、型打ちで六角形にする 外面底部に文字 「大明年製」か	5 区№.1～№.1+5m			3 層焼土・炭混整地層	2013.06.07	一部撹乱含む
131	54	84	染付磁器	碗		(1.7)	3.9	2013002	19 世紀前半	肥前系	線描で中を塗りつぶさない 外面底部に文字 「大明年製」	5 区№.4～№.5			焼土・炭混層	2013.06.22	第 2 回人力掘削
132	54	84	施釉陶器	皿	(11.3)	3.0	(4.4)	2013002	17 世紀初頭	唐津焼		5 区№.1～№.2			北半、焼土・炭混層	2013.06.24	第 2 回人力掘削
133	54	84	施釉陶器	皿	(12.7)	3.55	4.7	2013002	17 世紀前半	唐津焼	溝縁皿 132 より新しい	5 区№.1～№.1+5m			3 層焼土・炭混整地層	2013.06.07	一部撹乱含む
134	54	84	施釉陶器	皿	(12.9)	3.9	5.2	2013002	17 世紀前半	唐津焼	砂目跡	5 区№.2～№.3			焼土・炭混層	2013.06.25	第 2 回人力掘削
135	54	84	施釉陶器	皿	9.95	2.55	5.95	2013002	16 世紀後半	瀬戸・美濃系	灰釉陶器（黄瀬戸）	5 区№.0+9m 付近			第 1 回検出面上	2013.06.25	
136	54	84	施釉陶器	皿	(10.5)	3.15	5.55	2013002	16 世紀後半	美濃焼	長石釉（志野）	5 区 №.2+5m～№.3+3m			暗褐色シルト質砂	2013.07.08	第 3 回人力掘削 SX5052、SX5059 付近
137	54	84	青花磁器	皿	(13.7)	2.8	(8.3)	2013002	17 世紀初頭	明	明青花	5 区			焼土層　壁 4 層対応	2013.06.18	礎石 14 直下
138	54	85	青花磁器	皿	(15.4)	3.5	(8.8)	2013002	16 世紀後半～17 世紀前半	明	明青花	5 区№.1～№.1+5m			3 層焼土・炭混整地層	2013.06.07	一部撹乱含む
139	54	85	青花磁器	皿	(10.5)	1.95	3.15	2013002	17 世紀初頭	明	明青花 ノミ跡・虫喰いが見られる	5 区 №.3～				2013.06.06	南側側溝掘削時
140	54	85	白磁	皿	(8.2)	1.7	3.8	2013002	15 世紀代	華南産		5 区№.4～№.5			焼土・炭混層	2013.07.05	第 3 回人力掘削
141	54	85	白磁	碗		(3.6)		2013002	12 世紀後半～13 世紀前半		白磁器 Ⅳ類	5 区 №.3+5m～№.5			黒褐色シルト質砂	2013.07.20	第 4 回人力掘削
142	54	85	施釉陶器	皿	12.5	3.8	3.9	2013002	17 世紀前半	唐津焼	内面に砂目痕 外面底部に縮緬皺	5 区№.2+2～№.2+7			黒褐色シルト質砂～暗褐色粗砂	2013.07.09	第 3 回人力掘削

収録遺物観察表 4

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）			調査番号	時期	産地等	調整など特徴	出土地区	面	出土遺構	層位	出土年月日	備考
					口径	器高	底径										
143	55	85	施釉陶器	碗		(5.1)	4.9	2013002	17 世紀初頭	唐津焼	鯨皮手	5 区 No.0+5m ～ No.1			3 層焼土・炭混整地層	2013.06.07	一部撹乱層を含む
144	55	85	施釉陶器	碗	(11.2)	7.15	(5.0)	2013002				5 区No.3 ～No.4			焼土・炭混層	2013.06.24	第 2 回人力掘削
145	55	85	青花磁器	碗	(10.9)	(5.0)		2013002	17 世紀初頭か	明	明青花	5 区			焼土層　壁 4 層対応	2013.06.18	礎石 14 直下
146	55	85	青花磁器	碗	(12.5)	5.55	4.8	2013002	17 世紀前半	漳州窯系？	粗製品 内面器面に虫喰い 砂高台	5 区 No.3 ～				2013.06.06	南側側溝掘削時
147	55	85	青花磁器	碗	(12.1)	5.9	(5.0)	2013002	16 世紀後半	明	明青花饅頭心碗 外面底部にノミ痕と文字（判読不能）	5 区No. 1+1m 付近			第 3 回人力掘削	2013.07.05	
148	55	85	青花磁器	碗	(11.65)	5.3	(4.65)	2013002	17 世紀初	明	明青花 器面に虫喰い・施釉生掛け 粗製	5 区No.2+2 ～No.2+7			黒褐色シルト質砂～暗褐色粗砂	2013.07.09	第 3 回人力掘削
149	55	86	無釉陶器	鉢	(15.8)	7.2	(11.6)	2013002	16 世紀代	備前焼		5 区No.2+5 ～No.3+5			焼土・炭混層 GL-80cm	2013.06.06	南側サブトレ
150	55	86	施釉陶器	鉢		(6.9)	7.1	2013002	17 世紀前半	唐津焼	三ヶ月高台 外面底部に縮緬皺 白釉を施釉 鯨皮手	5 区No. 1+5m 付近			SK5011 撹乱坑の縁	2013.06.25	第 2 回人力掘削
151	55	86	無釉陶器	擂鉢	(33.4)	(10.5)		2013002	近世	近世の備前焼系擂鉢→堺・明石産か	V 期備前焼に似る	5 区No.4 ～No.5+5m			第 1 回精査面	2013.06.10	
152	55	86	無釉陶器	擂鉢	(32.6)	(9.7)		2013002	16 世紀後半	丹波焼	内面に自然釉が掛かるのは重ね焼の際、最上段に置かれたためか	5 区No.2 ～No.2+5m			暗褐色シルト質砂礫	2013.07.06	第 3 回人力掘削
153	55	86	無釉陶器	擂鉢	(34.7)	(5.8)		2013002	17 世紀前半	丹波焼		5 区			機械掘削・側溝掘削	2013.06.05	
154	55	86	無釉陶器	壺	(12.4)	(12.2)		2013002	16 世紀後半	備前焼		5 区			機械掘削・側溝掘削	2013.06.05	
155	55	86	無釉陶器	壺		(8.3)	(9.7)	2013002		備前焼		5 区 No.2+5m ～ No.3+3m			暗褐色シルト質砂	2013.07.08	第 3 回人力掘削 SX5052、SX5059 付近
156	56	86	瓦	軒平瓦	長 (7.25)	幅 (10.2)	厚 1.8	2013002				5 区 No.3+5m			焼土混層	2013.07.06	第 3 回人力掘削
157	56	86	無釉陶器	壺		(4.75)		2013002		丹波焼		5 区			南壁 136 層	2013.08.13	
158	56	86	無釉陶器	大甕		(25.65)		2013002	16 世紀代	丹波焼	外面赤土部塗布	5 区No.1 ～No.1+5m			3 層焼土・炭混整地層	2013.06.07	一部撹乱含む
159	56	87	無釉陶器	甕	(56.7)	(8.5)		2013002	16 世紀後半	備前焼 V 期		5 区No.1 ～No.2			黒褐色シルト質砂撹乱部含む	2013.07.06	第 3 回人力掘削
160	56	87	無釉陶器	甕	(59.8)	(7.8)		2013002	16 世紀後半	備前焼 V 期		5 区 No.2+2m			第 2 面	2013.07.09	南壁沿い礫集中部より
161		87	施釉陶器	碗				2013002	19 世紀前半	京焼系	灰釉施釉　内面に目跡	1 区	1 面	SK1009		2013.06.06	
162		87	青花磁器	碗				2013002	16 世紀代	景徳鎮窯	文様はボタン	1 区	3 面	SK1039 東		2013.07.16	
163		87	青花磁器	碗				2013002	16 世紀代	景徳鎮窯	文様は草花文	1 区	3 面	SK1039 西	礫層（上部）	2013.07.22	
164		88	青花磁器	碗				2013002	16 世紀代	景徳鎮窯	内面底部「■保■春」の文字あり　饅頭心碗	1 区No.0 ～No.0+5			第 1 ～ 2 面の焼土・炭層	2013.07.06	
165		88	染付磁器	碗蓋				2013002	18 世紀代	肥前	外面の文様は墨弾き	2 区	1 面	SK2004		2013.06.12	
166		88	青花磁器	皿				2013002	16 世紀代	景徳鎮窯		2 区No.0+5 付近			炭＋焼土層	2013.06.22	人力掘削
167		88	青花磁器	皿				2013002	17 世紀前半	漳州窯	文様は草花文	2 区		不明		2013.07.02	1 ～ 2 面か
168		88	施釉陶器	鉢				2013002	16 世紀代	華南産	外面白濁釉で施文の後、灰釉を施す	5 区	1 面	SK5021	アゼ　炭層	2013.06.11	
169		88	無釉陶器	甕				2013002	16 世紀代	備前焼	備前焼 V 期	5 区	1 面	SK5032		2013.06.28	石材の下
170		89	無釉陶器	甕				2013002	16 世紀代？	丹波焼		5 区	1 面	SK5032		2013.06.28	石材の下
171		89	土製品	坩堝				2013002				5 区	2 面	SX5059	断面アゼ最上部	2013.07.09	
172		89	施釉陶器	皿				2013002	16 世紀代	瀬戸・美濃焼	灰釉陶器（黄瀬戸）	5 区	3 面	SK5099	埋土	2013.07.10	
173		89	青磁	小瓶		(2.75)	3.15	2013002	近代		クローム青磁	5 区No.2 ～No.3			撹乱層	2013.06.06	南側側溝掘削時
174		89	青磁	不明				2013002	13 世紀代	龍泉窯	貫入が大きい	5 区No.3 北盛付近				2013.07.01	側溝掘削時
175		89	青磁	不明				2013002	14 世紀代～15 世紀代	龍泉窯		5 区No.1 ～No.2			黒褐色シルト質砂 撹乱部含む	2013.07.06	第 3 回人力掘削

収録遺物観察表 5

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）				調査番号	備考　特徴	出土地区	面	出土遺構	層位	出土年月日	備考 2
					長さ	幅	厚さ	重量（g）								
W1	57	90	木製品	板材	(22.7)	(4.1)	1.2		2011201		T2				2011.05.26	
W2	57	90	木製品	板材	(16.0)	5.45	1.35		2011201		T2				2011.05.26	
W3	57	90	木製品	加工材	19.6	9.4	4.5		2013002	加工途中材	1 区	1 面	SK1006		2013.06.-	
W4	57	90	木製品	漆椀（底部）		器高 (2.85)	底径 (5.0)		2013002		5 区	1 面	SK5013	撹乱層	2013.06.12	
W5	57	90	木製品	板材	24.7	7.9	0.8		2013002	一部炭化	5 区	1 面	SK5024 西半	下層（礫層）	2013.06.12	
W6	57	90	木製品	柱根？	16.2	6.9	5.3		2013002	一部炭化した表面が残存	5 区	2 面	SP5061		2013.07.05	
W7	57	90	木製品	楔？	6.05	2.75	1.05 0.75		2013002		5 区№.1 ～ 1+5m			3 層　焼土・炭混整地層	2013.06.07	撹乱部を含む
W8	57	90	木製品	蓋	(12.25)	(3.9)	1.1		2013002		5 区№.0+8m 付近			撹乱層（撹乱土坑）	2013.06.05	南側側溝掘削時
W9	57	90	木製品	曲物（底板）	14.8	(4.55)	0.45		2013002		5 区№.0+8m 付近			撹乱層（撹乱土坑）	2013.06.05	南側側溝掘削時
W10	57	90	木製品	下駄	20.9	7.7	3.3		2013002		5 区№.0+8m 付近			撹乱層（撹乱土坑）	2013.06.05	南側側溝掘削時
W11	57	90	木製品	下駄	20.7	10.1	2.75 1.45		2013002		5 区№.0+8m 付近			撹乱層（撹乱土坑）	2013.06.05	南側側溝掘削時
W12		90	木製品	漆椀					2013002		1 区	1 面	SX1015		2013.06.18	焼土下層盛土（ベース）との境界
W13		90	木製品	加工材？					2013002	全面炭化・孔あり	1 区	3 面	SK1039	下層礫層（裏込）	2013.07.30	
W14		90	木製品	漆膜					2013002		5 区№.1 ～№.2			北半　焼土・炭混層	2013.06.24	第 2 回人力掘削
W15		90	木製品	漆器					2013002		5 区	1 面	SK5022		2013.06.24	板⑤
W16		90	木製品	漆器					2013002		5 区№.2 ～ №.2+5m			暗褐色シルト質砂	2013.07.09	第 3 回人力掘削

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）				調査番号	備考　特徴	出土地区	面	出土遺構	層位	出土年月日	備考 2
					長さ	幅	厚さ	重量（g）								
S1	61	93	石製品	硯	(6.85)	(4.6)	1.3	28.2	2013002	やや軟質の粘板岩 黄灰色 裏面文字あり	5 区	1 面	SK5024 東半		2013.06.12	
S2	61	93	石製品	硯	7.7	4.5	1.0	65.0	2013002	硬質の粘板岩 黒色	5 区	2 面	SK5086		2013.08.23	撹乱坑
S3	62	93	石製品	六角柱状石製品	(25.2)	(13.3)	(5.3)	2.33kg	2013002	黒変部あり 黒変部以外はすべて赤変している	1 区	3 面	SK1041	焼土混層	2013.07.25	
S4	62	94	石製品	上臼	31.35	36.65	16.6	24.8kg	2013002		5 区		礎石 21	第 1 検出面	2013.06.18	

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）				調査番号	備考　特徴	出土地区	面	出土遺構	層位	出土年月日	備考 2
					長さ	幅	厚さ	重量（g）								
M1	58	91	鉄製品	釘	(3.3)	0.45	0.3	0.7	2013002		1 区	1 面	SX1017	炉内炭層上	2013.06.24	
M2	58	91	鉄製品	釘	3.95	0.75	0.2	0.6	2013002		1 区	1 面	SX1017	炉内炭層上	2013.06.24	
M3	58	91	鉄製品	釘	(3.65)	0.45	0.3	0.9	2013002		1 区	1 面	SX1017	炉内炭層上	2013.06.24	
M4	58	91	鉄製品	釘	(3.1)	0.8	0.35	0.8	2013002		1 区	1 面	SX1017	炉内炭層上	2013.06.24	
M5	58	91	鉄製品	釘	(4.2)	0.95	0.65	3.2	2013002		1 区	1 面	SX1017	炉内炭層上	2013.06.24	
M6	58	91	鉄製品	釘	(9.3)	1.6	0.45	5.3	2013002		1 区	1 面	SX1017	炉内炭層上	2013.06.24	
M7	58	91	鉄製品	釘	(3.5)	0.6	0.4	1.2	2013002		1 区	2 面	SK1023 北東		2013.06.29	
M8	58	91	鉄製品	釘	(4.6)	0.85	0.4	2.7	2013002		1 区	2 面	SK1023 北東		2013.06.29	
M9	58	91	鉄製品	釘	(7.2)	0.9	0.55	5.3	2013002		1 区	2 面	SK1023 北東		2013.06.29	
M10	58	91	鉄製品	不明	(6.2)	1.0	0.5	4.9	2013002		1 区	2 面	SK1023 北東		2013.06.29	
M11	58	91	鉄製品	不明	(7.4)	14.8	0.5	8.0	2013002		1 区	2 面	SK1023 北東		2013.06.29	
M12	58	91	鉄製品	釘	(5.7)	0.85	0.4	2.0	2013002		1 区	3 面	SK1039 東		2013.07.17	
M13	58	91	鉄製品	不明	(3.5)	0.45	0.45	1.5	2013002		1 区	3 面	SK1039	上層	2013.07.-	礫検出時
M14	58	91	銅製品	小柄？	上）(2.85) 下）(3.95)	上）1.35 下）1.5	上）0.65 下）0.6	上）5.4 下）7.3	2013002		1 区№.0 ～ 0+5			～第 1 面直上焼土層・炭層	2013.07.06	
M15	58	91	鉄製品	釘	(6.1)	1.7	0.5	4.5	2013002		1 区西端		撹乱付近	焼土・炭層～第 2 面	2013.07.01	人力掘削
M16	58	91	鉄製品	釘	4.45	0.9	0.35	1.8	2013002		1 区№.0 ～ 0+5			第 1 ～ 2 面の焼土・炭層	2013.07.06	
M17	58	91	銅製品	小柄	(8.9)	1.45	0.6	12.0	2013002		1 区西端		撹乱付近	焼土炭層～第 2 面	2013.07.01	人力掘削
M18	59	92	鉄製品	釘	5.65	1.0	0.4	1.5	2013002		3 区	2 面	SX3015		2013.08.22	
M19	59	92	鉄製品	釘	5.15	0.9	0.3	1.7	2013002		3 区	2 面	SX3015		2013.08.22	
M20	59	92	鉄製品	釘	(4.6)	1.55	0.5	3.3	2013002		3 区		撹乱		2013.08.08	
M21	59	92	鉄製品	釘	(4.65)	1.75	0.45	1.5	2013002		4 区	1 面	SX4003	焼土炭混層	2013.08.10	
M22	59	92	鉄製品	不明	(9.8)	1.4	1.1	35.8	2013002		4 区	1 面	SK4012	上層	2013.08.12	
M23	59	92	鉄製品	不明	(13.3)	(11.95)	1.0	258.0	2013002	不接合同一個体あり	4 区	1 面	SK4012	上層	2013.08.12	
M24	59	92	鉄製品	釘	(3.65)	0.8	0.3	1.4	2013002				大撹乱 A 以東	焼土層～黒褐色層	2013.08.19	SL-40 cm～ 40 cm 第 2 回人力掘削有り
M25	59	92	鉄製品	釘	6.9	1.65	0.35	2.9	2013002		4 区		撹乱		2013.08.08	
M26	59	92	銅製品	紅皿	器高 (1.7)	(2.0)	約 0.5mm	1.8	2013002		4 区	1 面	SX4003 南半	礫層より下位	2013.08.13	
M27	59	92	銅製品	煙管	(5.9)	1.15	1.0 0.5	7.1	2013002		3 区№.0+3m		北壁	現代盛土	2013.08.19	GL-40 cm
M28	60	92	銅製品	権	2.9	2.55	2.5	59.5	2013002		5 区№.2 ～№.3				2013.06.24	南側側溝掘削時 SX5059 に属する
M29	60	92	銅製品	煙管	(2.5)	1.6	高 2.45	4.5	2013002		5 区	2 面	SX5059 西半	上層	2013.07.09	
M30	60	92	銅製品	不明	2.75	2.8	0.1	5.9	2013002		5 区	1 面	SK5024	上層　最下底	2013.06.11	
M31	60	92	鉄製品	不明	(6.15)	1.55	0.5	11.4	2013002	被覆物あり	5 区	1 面	SK5011		2013.05.10	
M32	60	92	銅製品	不明	(12.45)	3.05	0.1 ～ 0.2	11.4	2013002		5 区	1 面	SK5011		2013.05.10	
M33	60	92	銅製品	不明	(10.45)	(2.2)	0.1	9.7	2013002		5 区	1 面	SK5011		2013.05.10	
M34	60	92	鉄製品	釘	(5.2)	1.45	0.4	3.4	2013002	一部木質で覆われている	5 区	1 面	SK5021・SK5024	炭層	2013.06.11	
M35	60	92	鉄製品	火打金？	(8.0)	(3.85)	0.35	2.9	2013002		5 区	1 面	SK5029 南壁断面	最下層	2013.08.29	
M36	60	92	銅製品	不明	(5.5)	1.0	0.95	10.4	2013002		5 区	1 面	SK5032		2013.06.12	

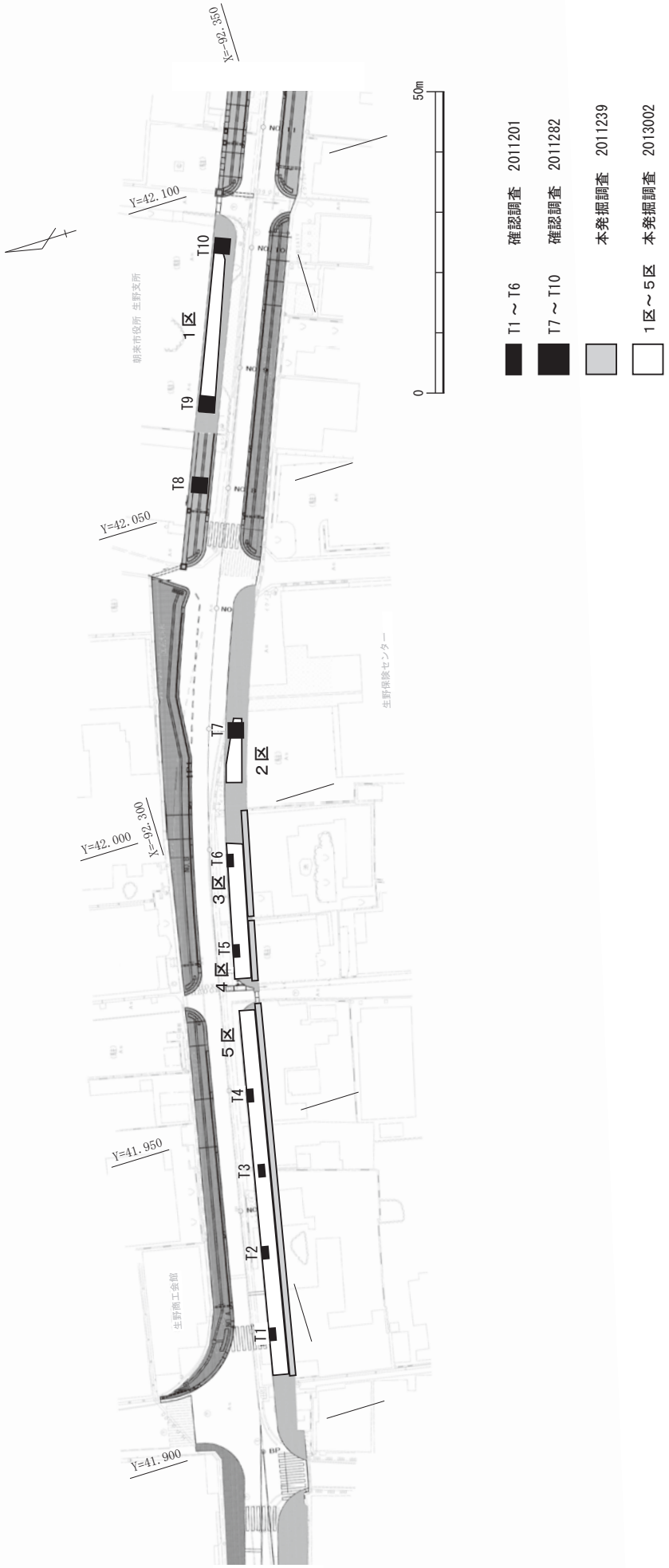
収録遺物観察表 6

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）				調査番号	備考　特徴	出土地区	面	出土遺構	層位	出土年月日	備考 2
					長さ	幅	厚さ	重量（g）								
M37	60	92	銅製品	不明	(10.55)	0.5	0.2	4.3	2013002		5 区	2 面	SX5052 西半	炭層下	2013.07.06	
M38	60	93	鉄製品	釘	(6.1)	0.9	0.3	2.5	2013002		5 区	2 面	SX5059	アゼ最上部	2013.07.09	
M39	60	93	鉄製品	包丁	21.75	4.65	刃 0.45 茎 0.75	100.8	2013002		5 区	2 面	SX5059	下層	2013.07.08	
M40	61	93	鉄製品	釘	(6.15)	1.55	0.6	6.6	2013002		5 区№.4 ～ №.5+5m			第 1 回精査面	2013.06.10	
M41	61	93	鉄製品	不明	口径 7.75	器高 1.45	0.3	29.2	2013002		5 区№.10+9m 付近	1 面	SK5022 北西部焼土下	古土壌層	2013.06.24	
M42	61	93	鉄製品	釘	(9.45)	1.85	0.65	7.4	2013002	木質付着	5 区№.2+2 ～ №.2+7			黒褐色シルト質砂～ 暗褐色粗砂	2013.07.09	第 3 回人力掘削
M43	61	93	銅製品	簪？	(11.1)	0.6	0.35	5.4	2013002		5 区№.3+8m 付近			黒褐シルト質砂	2013.07.06	第 3 回人力掘削
M44	61	93	鉄製品	ヤリガンナ	10.6	0.95	0.4	16.4	2013002		5 区№.1+5 ～ №.2		大部分撹乱		2013.06.07	
M45	63	95	銅製品	銅銭					2011201	寛永通寶	T6（東端）				2011.05.26	
M46	63	95	銅製品	銅銭					2011239	寛永通寶	東区			包含層	2011.07.04	
M47	63	95	銅製品	銅銭					2013002	嘉祐通寶？	1 区	1 面	SP1008		2013.06.06	
M48	63	95	銅製品	銅銭					2013002	■●●寶	1 区	1 面	SP1008		2013.06.06	■は欠 ●は不明
M49	63	95	銅製品	銅銭					2013002	天禧通寶？	1 区	1 面	SX1011	焼土層　暗褐色盛土	2013.06.22	断割 SX1017 含む
M50	63	95	銅製品	銅銭					2013002	紹聖元寶	1 区	3 面	SX1038	石積中	2013.07.30	L=308.162
M51	63	95	銅製品	銅銭					2013002	熙寧元寶？	1 区	3 面	SK1039	アゼ　最上層	2013.07.18	
M52	63	95	銅製品	銅銭					2013002	元符通寶？	1 区	3 面	SK1034	焼土層	2013.07.04	
M53	63	95	銅製品	銅銭					2013002	宣徳通寶？	1 区№.0 ～ 0+5m			～第 2 面　焼土・炭層	2013.07.06	
M54	63	95	銅製品	銅銭					2013002	天聖元寶	1 区№.0 ～ 0+5m			～第 2 面直上焼土・ 炭層	2013.07.06	銭①～⑦よりやや 上層で出土
M55	63	95	銅製品	銅銭					2013002	祥符元寶	1 区№.0 ～ 0+5m			焼土・炭層 第 2 面真上	2013.07.06	銭①～⑦よりやや 上層で出土
M56	63	95	銅製品	銅銭					2013002	皇宋通寶	1 区№.0+5 ～№.1			暗褐色盛土（タタキ 面（第 2 面）以上）	2013.06.29	遺構検出
M57	63	95	銅製品	銅銭					2013002	元豊通寶	1 区西端撹乱付近			第 2 面直上	2013.06.29	
M58	63	95	銅製品	銅銭					2013002	漢通元寶？	1 区西端		撹乱付近	焼土炭層～第 2 面	2013.07.01	人力掘削
M59	63	95	銅製品	銅銭					2013002	皇宋通寶	1 区№.0 ～ 0+5m			第 3 面	2013.07.11	人力掘削
M60	63	95	銅製品	銅銭					2013002	皇宋通寶？	1 区№.0 ～ 0+5m			第 3 面	2013.07.11	人力掘削
M61	64	96	銅製品	銅銭					2013002	①景徳？元寶	1 区 0+9 付近			第 3 面焼土層黒ボク 境界	2013.07.04	L=308.186
M62	64	96	銅製品	銅銭					2013002	②聖宋？元寶	1 区 0+9 付近			第 3 面焼土層黒ボク 境界	2013.07.04	L=308.186
M63	64	96	銅製品	銅銭					2013002	③元？？	1 区 0+9 付近			第 3 面焼土層黒ボク 境界	2013.07.04	L=308.186
M64	64	96	銅製品	銅銭					2013002	皇●●■	1 区 0+9 付近				2013.07.06	銭②
M65	64	96	銅製品	銅銭					2013002	洪武通寶	1 区				2013.07.06	銭③
M66	64	96	銅製品	銅銭					2013002	宣徳通寶	1 区				2013.07.06	銭④
M67	64	96	銅製品	銅銭					2013002	咸平元寶	1 区				2013.07.06	銭⑤
M68	64	96	銅製品	銅銭					2013002	皇宋通寶	1 区				2013.07.06	銭⑥
M69	64	96	銅製品	銅銭					2013002	●通■寶	2 区				2013.06.10	GL70 cm
M70	64	96	銅製品	銅銭					2013002	元符通寶	2 区		撹乱		2013.06.11	
M71	64	96	銅製品	銅銭					2013002	淳化元寶？	2 区				2013.07.08	
M72	65	97	銅製品	銅銭					2013002	元豊通寶？	3 区	2 面	SX3015		2013.08.28	
M73	65	97	銅製品	銅銭					2013002	熙寧元寶？	3 区		大撹乱 A 以 西	焼土層　黒褐色土層	2013.08.19	GL-40 cm～ 90 cm 第 2 回人力掘削
M74	65	97	銅製品	銅銭					2013002	●●元寶	3 区		大撹乱 A 以 西	焼土層および黒褐色 土層	2013.08.19	GL-50 cm～ 110 cm 第 2 回人力掘削
M75	65	97	銅製品	銅銭					2013002	熙寧元寶？	3 区		大撹乱 A 以 西	焼土層　黒褐色土層	2013.08.19	GL-40 cm～ 90 cm 第 2 回人力掘削
M76	65	97	銅製品	銅銭					2013002	淳化元寶？	3 区		大撹乱 A 以 西	焼土層および黒褐色 土層	2013.08.19	GL-50 cm～ 110 cm 第 2 回人力掘削
M77	65	97	銅製品	銅銭					2013002	寛永通寶	4 区	1 面	SX4002 付 近		2013.08.07	精査中
M78	65	97	銅製品	銅銭					2013002		4 区	1 面	SD4006		2013.08.09	
M79	65	97	銅製品	銅銭					2013002	寛永通寶	4 区	1 面	SK4012	上層	2013.08.12	
M80	65	97	銅製品	銅銭					2013002	寛永通寶	4 区№.0 ～ 0+4	1 面			2013.08.06	精査時
M81	65	97	銅製品	銅銭					2013002	寛永通寶	4 区№.0+5 付近			第 1 面直上	2013.08.08	撹乱掘削時
M82	65	97	銅製品	銅銭					2013002	寛永通寶	4 区№.0 ～ 0+4	1 面			2013.08.06	精査時
M83	65	97	銅製品	銅銭					2013002		4 区№.0 ～ 0+4	1 面			2013.08.06	精査時
M84	65	97	銅製品	銅銭					2013002	●●元寶	4 区№.1 ～ 1+4	1 面			2013.08.07	精査中
M85	65	97	銅製品	銅銭					2013002	寛永通寶	4 区				2013.08.09	撹乱 C
M86	65	97	銅製品	銅銭					2013002		4 区№.0+5 ～№.1			焼土層および砂礫層	2013.08.08	側溝掘削時
M87	65	97	銅製品	銅銭					2013002		4 区№.0+5 ～№.1				2013.08.20	GL-70 cm～ 90 cm 第 2 回人力掘削
M88	66	98	銅製品	銅銭					2013002	？	5 区	1 面	SK5009		2013.06.07	
M89	66	98	銅製品	銅銭					2013002	祥符通寶	5 区	1 面	SK5009		2013.06.10	
M90	66	98	銅製品	銅銭					2013002	元豊■寶	5 区	1 面	SK5010		2013.06.07	
M91	66	98	銅製品	銅銭					2013002	永楽通寶	5 区	1 面	SK5010		2013.06.07	
M92	66	98	銅製品	銅銭					2013002	寛永通寶	5 区	1 面	SK5011		2013.05.10	
M93	66	98	銅製品	銅銭					2013002	治平元寶	5 区	1 面	SK5024 東半		2013.06.12	
M94	66	98	銅製品	銅銭					2013002	元祐通寶	5 区	2 面	SX5059	アゼ最上部	2013.07.09	
M95	66	98	銅製品	銅銭					2013002	？？？	5 区	2 面	SK5072	炭層	2013.07.19	
M96	66	98	銅製品	銅銭					2013002	皇●元？	5 区	1 面	SX5095	③層	2013.07.06	
M97	66	98	銅製品	銅銭					2013002	●宋●寶	5 区	1 面	SX5095	掘方内	2013.07.11	
M98	66	98	銅製品	銅銭					2013002	永楽通寶	5 区	1 面	SX5095	西半　上層	2013.07.09	
M99	66	98	銅製品	銅銭					2013002	嘉泰通寶？	5 区№.0+9m 付近			第 1 検出面	2013.06.18	古土壌あり
M100	66	98	銅製品	銅銭					2013002	治平元寶	5 区№.0+9m 付近			第 1 検出面	2013.06.18	古土壌あり
M101	66	98	銅製品	銅銭					2013002	開元■寶	5 区№.4 ～ №.5+5m			第 1 回精査面	2013.06.10	
M102	66	98	銅製品	銅銭					2013002	太平通寶	5 区№.2 付近			第 1 回検出面	2013.06.10	
M103	66	98	銅製品	銅銭					2013002	太平通寶	5 区№.4 ～№.5 間			第 2 回精査面 焼土混整地層	2013.07.01	北壁際

収録遺物観察表 7

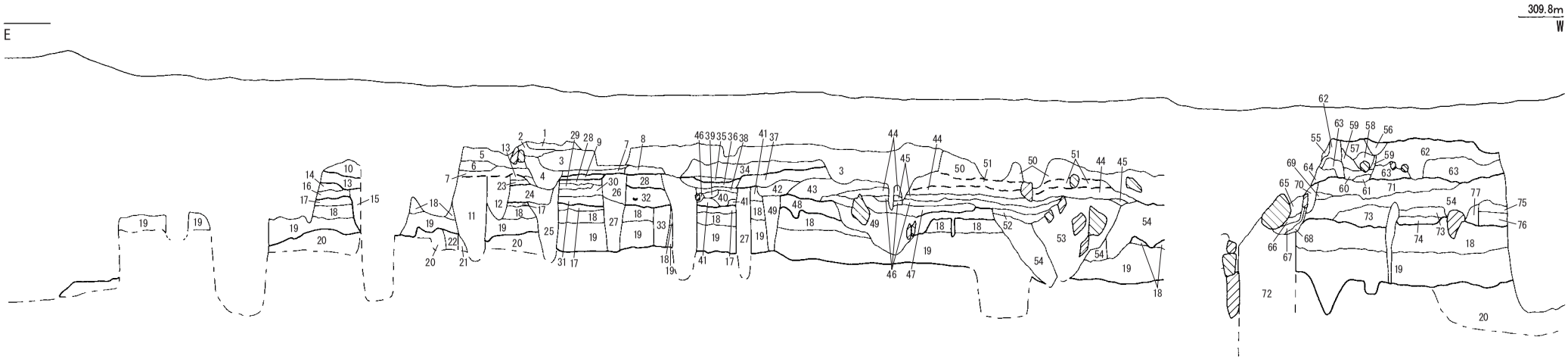
報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（ｃｍ）				調査番号	備考　特徴	出土地区	面	出土遺構	層位	出土年月日	備考 2
					長さ	幅	厚さ	重量（g）								
M104	66	98	銅製品	銅銭					2013002	開元通寶	5 区№. 2+5m ～№. 3+3m			暗褐シルト質砂	2013. 07. 08	第 3 回人力掘削 SX5052、SX5059 付近
M105	67	99	銅製品	銅銭					2013002	元豊通寶	5 区№. 2+6m ～№. 3+3m			暗褐色シルト質砂	2013. 07. 08	第 3 回人力掘削 SX5052、SX5059 付近
M106	67	99	銅製品	銅銭					2013002	元祐通寶？	5 区№. 3+5m 付近			焼土・炭混層	2013. 07. 10	第 3 回人力掘削
M107	67	99	銅製品	銅銭					2013002	元●通寶	5 区№. 3+8m 付近			黒褐シルト質砂	2013. 07. 06	第 3 回人力掘削
M108	67	99	銅製品	銅銭					2013002	宣和元寶？	5 区№. 4 ～№. 5 間			焼土炭混層	2013. 07. 05	第 3 回人力掘削
M109	67	99	銅製品	銅銭					2013002	天聖？元寶	5 区№. 4 ～№. 5 間			焼土炭混層	2013. 07. 05	第 3 回人力掘削
M110	67	99	銅製品	銅銭					2013002		5 区№. 4 ～№. 5 間			焼土炭混層	2013. 07. 05	第 3 回人力掘削
M111	67	99	銅製品	銅銭					2013002	崇■（禎？）通寶	5 区№. 2 ～№. 3			精査面	2013. 07. 11	
M112	67	99	銅製品	銅銭					2013002	大●●寶？	5 区№. 0+3m 付近				2013. 07. 02	第 2 回精査面 SK5043 の東
M113	67	99	銅製品	銅銭					2013002	聖宋元寶	5 区№. 0+3m 付近		SK5072	南壁断面	2013. 07. 17	SK5072 ？
M114	67	99	銅製品	銅銭					2013002	寛永通寶	5 区№. 2 ～№. 3			焼土・炭混層	2013. 06. 07	GL-110 ㎝
M115	67	99	銅製品	銅銭					2013002	天■通寶	5 区№. 0+5m 付近			焼土層	2013. 06. 05	GL-1m 付近　南側側溝掘削時
M116	67	99	銅製品	銅銭					2013002	嘉祐通寶	5 区№. 4+5m 付近			炭・焼土混層	2013. 06. 06	GL-50 ～ 60 ㎝
M117	67	99	銅製品	銅銭					2013002	元寶通寶	5 区№. 1+9 付近			暗褐色砂（4 層）	2013. 06. 10	
M118	67	99	銅製品	銅銭					2013002	景徳元寶	5 区№. 1+9 付近			暗褐色砂（4 層）	2013. 06. 10	
M119	67	99	銅製品	銅銭					2013002	天元聖寶	5 区№. 1+9 付近			暗褐色砂（4 層）	2013. 06. 10	
M120	67	99	銅製品	銅銭					2013002	祥符元寶	5 区№. 1+9 付近			暗褐色砂（4 層）	2013. 06. 10	
M121	67	99	銅製品	銅銭					2013002	元祐通寶？	5 区		大撹乱部	下層付近	2013. 06. 05	南側側溝 №. 0+8m 付近
M122	67	99	銅製品	銅銭					2013002	●■通■	5 区		大撹乱部	下層付近	2013. 06. 05	南側側溝 №. 0+8m 付近

図　版

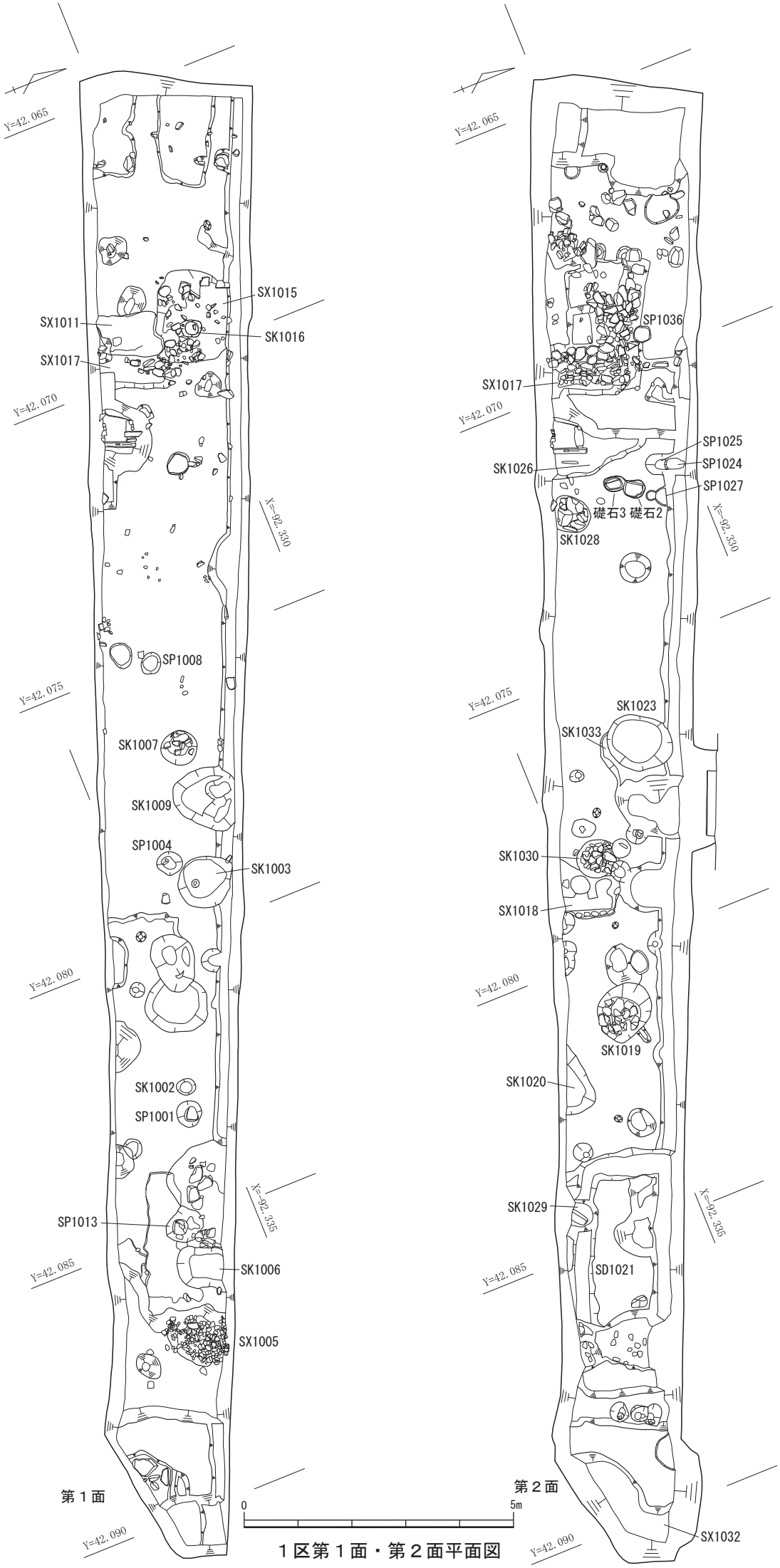

X=-92.350
Y=42.100
Y=42.050
Y=42.000
X=-92.300
Y=41.950
Y=41.900
T10
T9
T8
T7
T6
T5
T4
T3
T2
T1
1区
2区
3区
4区
5区
朝来市役所 生野支所
生野保険センター
生野商工会館
0
50m
T1～T6 確認調査 2011201
T7～T10 確認調査 2011282
本発掘調査 2011239
1区～5区 本発掘調査 20130002

調査区位置図

1区南壁地層断面図

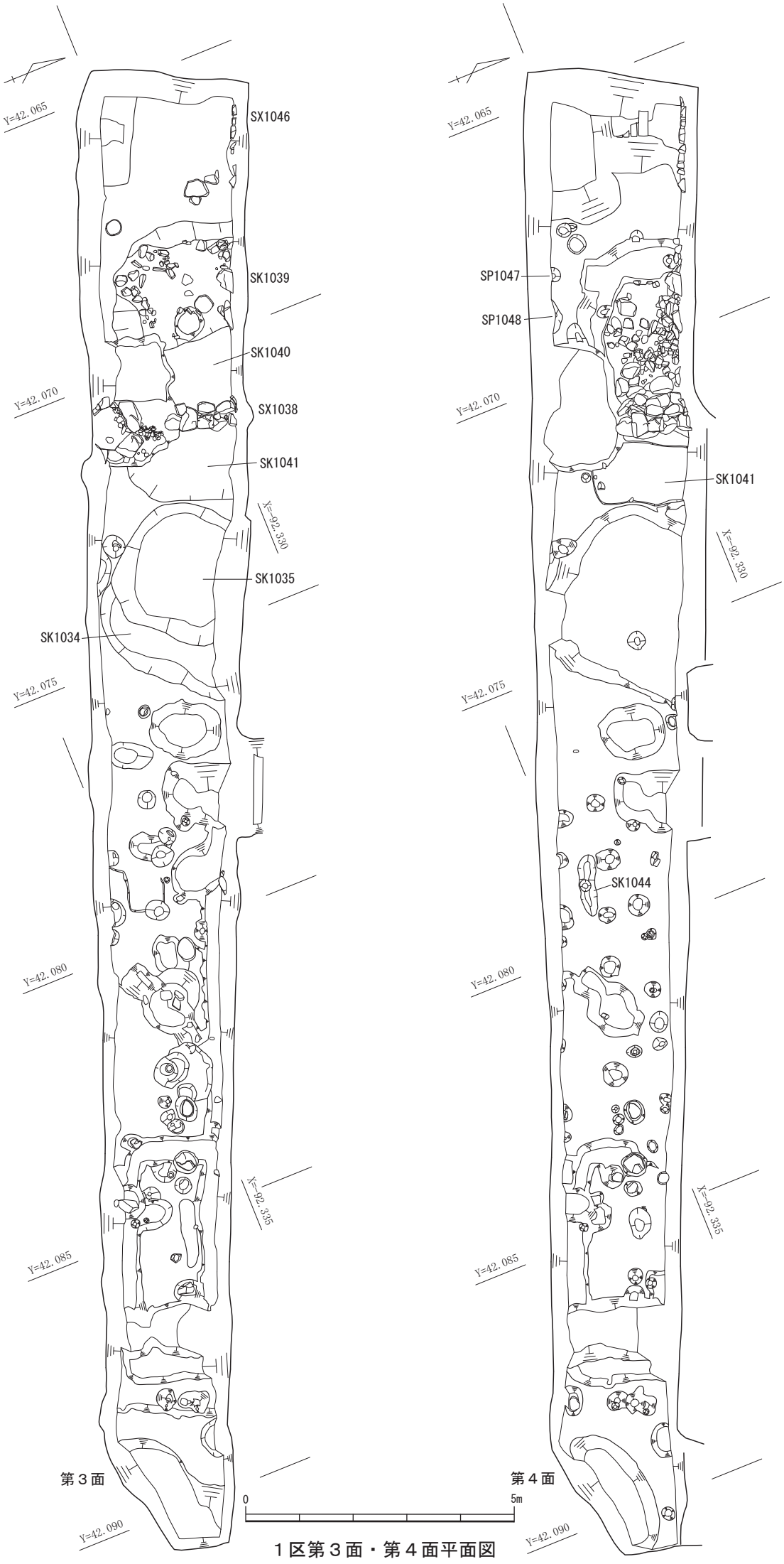


1. 7.5YR7/6　橙　細礫質極細砂
2. 2.5Y3/1　黒褐　細砂質極細砂　細礫・中礫わずかに含む
3. 10YR4/1　褐灰　細砂～粗砂質極細砂　細礫わずかに含む　中礫含む
褐鉄沈着　淘汰悪い
4. 2.5Y5/2　暗灰黄　極細砂～粗砂質シルト　中礫含む　しまり良い
5. 10YR5/4　にぶい黄褐　中砂～極粗砂質細礫～中礫　しまり良い　淘汰悪い　褐鉄沈着
6. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂　中礫わずかに含む －上層からの沈込
7. 10YR4/2　灰黄褐　粗砂～細礫　中礫わずかに含む　しまり良い　木質残存
8. 10YR4.5/2　灰黄褐　細砂～中砂質極細砂　細礫・中礫わずかに含む　淘汰悪い
9. 10YR2/1　黒　粗砂～細礫質極細砂
10YR5/3　灰黄褐色のブロック含む
10. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂　上部に中礫多量に含む　淘汰悪い
11. 10YR3/1　黒褐　中砂～粗砂質シルト　φ～1cmの焼土粒・炭化物含む（15%）
やや軟質　細礫・中砂わずかに含む
12. 10YR3/1　黒褐　中砂～粗砂質極細砂　中礫わずかに含む　淘汰悪い
φ～1cmの焼土・炭化物含む（～10%）
13. 2.5Y8/1　灰白　粘土　粗砂含む －タタキ土間　－第１面
14. 10YR3/1　黒褐　シルト質極細砂　焼土・炭化物含む（～5%）
15. 10YR2.3/1　黒　極細砂質シルト　細礫わずかに含む　φ～1cmの焼土・炭化物含む（～5%）
16. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂　φ～5mmの焼土・炭化物含む（～5%）
17. 10YR4/2　灰黄褐　極細砂～中砂質シルト　しまり良し －タタキしめ？　┐第３面
18. 10YR2.7/1　黒褐　極細砂質シルト　極粗砂わずかに含む　┘
19. 10YR2/1　黒　シルト
20. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極粗砂　－第４面
上部は土壌化し、10YR3/2黒褐色に変色
21. 10YR2/2　黒褐　極粗砂質シルト
22. 10YR2/1.7　黒褐　極粗砂質シルト －Pit
23. 7.5YR4/6　褐　シルト質極細砂　焼土・炭多量に含む　筋状に炭
24. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂　中礫・細礫わずかに含む　φ～2cmの焼土・炭含む（10%）
25. 2.5Y3/2　黒褐　シルト質極細砂～細砂　10YR4/3にぶい黄褐色（地山）を多く巻き上げている
26. 10YR2/2　黒褐　細礫～中礫質極細砂～細砂　φ～5mmの焼土5%含む
27. 10YR3/3　暗褐　細礫～中礫質極細砂　やや軟質
28. 10YR3/2　黒褐　極細砂質細礫～中礫　淘汰悪い　硬くしまる －礫敷　－第１面
29. 10YR3/1　黒褐　細砂～中砂質極細砂
30. 10YR3/1　黒褐　細砂～中砂質極細砂　焼土ブロック（幅20cm）炭層を含む
31. 7.5YR4/3　褐　極細砂～細砂　φ～4cmの焼土15%
層下部に炭層が薄く堆積し、やや焼けている
32. 10YR3/1　黒褐　極細砂～細砂　細礫わずかに含む　φ～5mmの焼土7%
33. 10YR2.5/2　黒褐　粗砂質細砂～極細砂　上部にφ～5mmの焼土5%
34. 10YR5/4　にぶい黄褐　極細砂～中砂質細礫～中礫　非常に硬くしまる
35. 10YR3/1　黒褐　細礫質極細砂～細砂
36. 7.5YR4/4　褐　粗砂～細礫　中礫含む　褐鉄含む？
37. 10YR3/2　黒褐　中砂～粗砂質極細砂　下部に中礫含む　φ～5cm
38. 10YR2/1　黒　粗砂質極細砂～細砂
39. 2.5Y4/1　黄灰　粗砂～細礫質シルト～極細砂 －炭・灰よりなる　┐SX1018
40. 10YR5/4　にぶい黄褐　粗砂～細礫質粘土　大礫・中礫含む －竈基部　┘
41. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂　下部にφ～1cmの焼土（～15%）　炭化物を筋状に含む
42. 10YR2.3/1　黒　シルト質極細砂
43. 10YR2.3/1　黒　シルト質極細砂　細礫・中礫含む　軟質
44. 2.5Y3/2　黒褐　シルト～極細砂質細礫～中礫　カラミ多量に含む（40～50%）
非常に硬くしまる －カラミのタタキ土間　－第２面
45. 10YR3/1.5　黒褐　細礫混シルト質極細砂
46. 10YR3/1　黒褐　細礫混シルト質極細砂　10YR3/3暗褐色ブロック
47. 10YR2/1　黒　極細砂～中砂　やや軟質
48. 10YR3/2　黒褐　粗砂質極細砂～細砂
49. 10YR2.5/2　黒褐　中礫～大礫質シルト～極細砂
50. 10YR3/2.7　暗褐　シルト質極細砂　細礫・中礫わずかに含む　軟質
51. 10YR3/1.7　黒褐　シルト質極細砂～細砂　中礫わずかに含む　φ～1cmの焼土・炭化物含む（5%）
52. 10YR2/2　黒褐　粗砂質極細砂～細砂
53. 10YR2.5/2　黒褐　大礫質シルト～細礫　軟質　φ～1cmの焼土・炭化物10～25%含む －49層と類似
54. 10YR2/3　黒褐　粗砂質シルト～極細砂　中礫含む　φ～1cmの焼土・炭化物7%含む　軟質
54′.　54層と土質は同じで、焼土・炭化物がほとんどない
55. 10YR8/1　灰白　粘土　粘性あり
56. 10YR4/3　にぶい黄褐　細礫質極細砂～中砂
57. 10YR3/1.7　黒褐　シルト質極細砂　細礫・中礫わずかに含む　φ～5mmの焼土・炭化物15%含む
58. 10YR2.5/2　黒褐　シルト質極細砂　細礫～大礫わずかに含む　φ5mmの焼土・炭化物～10%含む
59. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂　細礫わずかに含む　φ～1cmの焼土・炭化物5%含む
5Y7/6黄色ブロック含む
60. 10YR2/1　黒　粗砂～中礫質極細砂～細砂　φ～1cmの焼土・炭化物2%含む
61. 10YR3/3　暗褐　極細砂質粗砂～細礫　しまり悪い　φ～5mmの焼土・炭化物3%含む
62. 10YR1/1　黒　粗砂質極細砂　細礫・中礫わずかに含む　大礫含む
φ～5cmの焼土・炭化物50%ずつ含む
63.　7.5YR4/4褐色極細砂の焼土と10YR1/1黒色の炭層を交互に堆積し、
層下部には被熱による変色が認められる
64. 10YR3/2　黒褐　粗砂～細礫質細砂～中砂　10YR4/4褐色極細砂ブロック（φ～5cm）10%含む
65. 10YR3/2　黒褐　粗砂質極細砂～細砂　中礫含む
66. 10YR5/3　にぶい黄褐　粗砂質極細砂　しまり良い　外側が一部被熱している
67. 7.5YR3/1　黒褐　中砂～粗砂質極細砂 －被熱面
68. 7.5YR2/1　黒　シルト質極細砂　床面に貼石　第３面ベースが被熱して変色
69.　7.5YR1/1黒色の炭層が上部に、10YR3/1黒褐色の極細砂が下部に堆積
その間はやや被熱して変色
70. 10YR3/1　黒褐　粗砂質シルト～極細砂　φ～3cmの焼土・炭化物10%含む　やや軟質
71. 10YR3/1　黒褐　細礫～中礫質シルト～極細砂　φ～1cmの焼土・炭化物3%含む
72. 7.5YR4/4　褐　粗砂～極細砂質細礫～大礫
73. 10YR3/2　黒褐　粗砂～細礫質細砂　しまり悪い　φ～1cmの焼土・炭化物20%含む
74. 10YR4/3　にぶい黄褐　粗砂～中礫
75. 10YR3/2　黒褐　中砂質極細砂　上部は一部被熱して変色
76. 10YR4/3　にぶい黄褐　粗砂質極細砂～中砂
77. 10YR3/1　黒褐　細砂質シルト　やや軟質

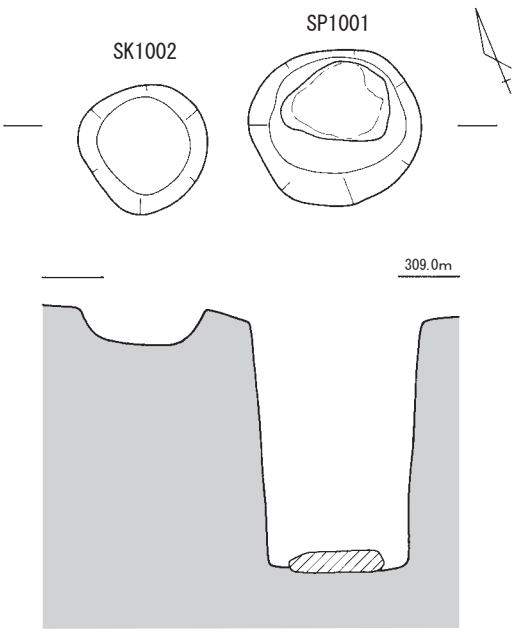


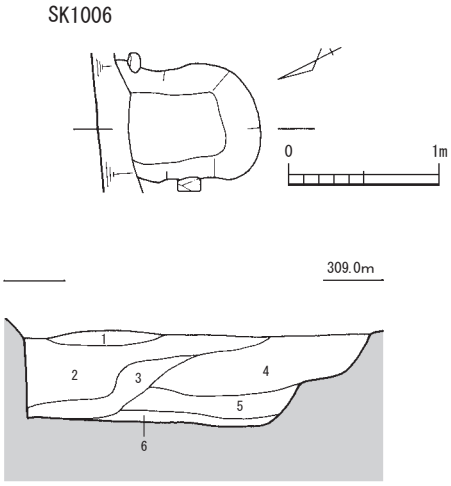
１区第１面・第２面平面図

図版４

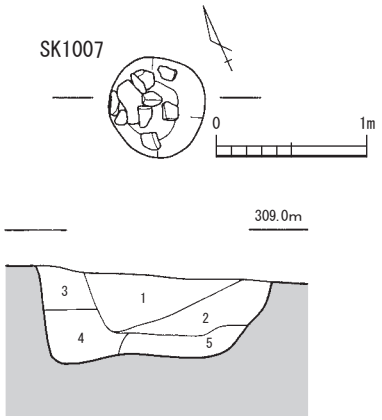


１区第３面・第４面平面図

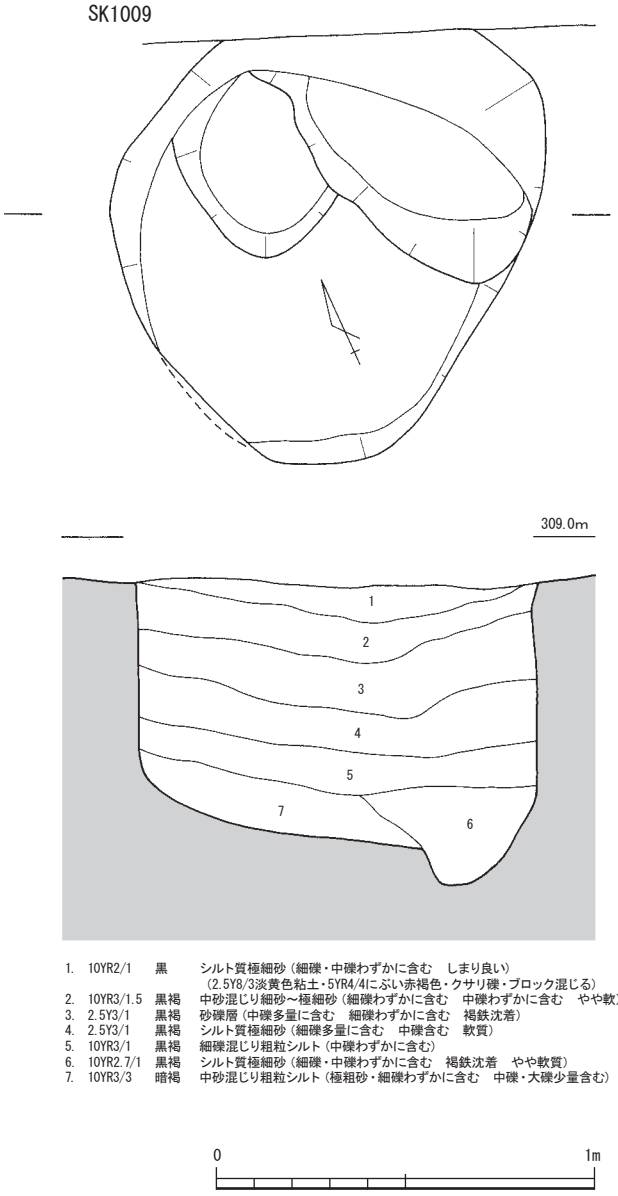




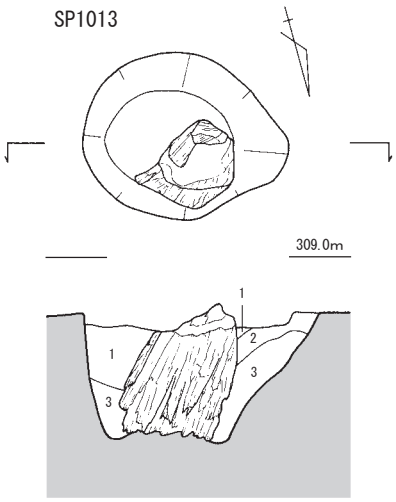
1. 10Y2/1 黒 細砂～極細砂混じりシルト（カラミ含む　褐鉄沈着　しまり良い）
2. N2/0 黒 シルト（細礫少量混じる　しまり良い　木質残る）
3. 2.5Y2/1 黒 粗砂～細礫（軟質　分級悪い）
4. 7.5YR5/6 明褐 中砂～中礫（細礫主体　全体に褐鉄沈着し、非常に硬くしまる）
5. 2.5Y3/1.5 黒褐 砂礫層（粗砂～細礫多量に含む　炭化物含む　分級悪い）
6. 5BG2/1 青黒 シルト質極細砂（上層との境界に褐鉄厚5mm沈着　ベース境界も褐鉄沈着）軟質



1. 10YR3/1.5 黒褐 細砂～中砂質極細砂（焼土・炭化物多く含む　中礫わずかに含む）
2. 10YR3/2 黒褐 細砂混じり極細砂（細礫・中礫わずかに含む）
3. 10YR3/2.7 暗褐 細砂混じり極細砂（細礫含む　しまり良い）
4. 10YR3/2 黒褐 シルト質極細砂（細礫・中礫少量混じる　しまり悪い　分級悪い）
5. 10YR2.5/2 黒褐 砂礫層（極粗粒砂含む　細礫多く含む　大礫含む　分級悪い）

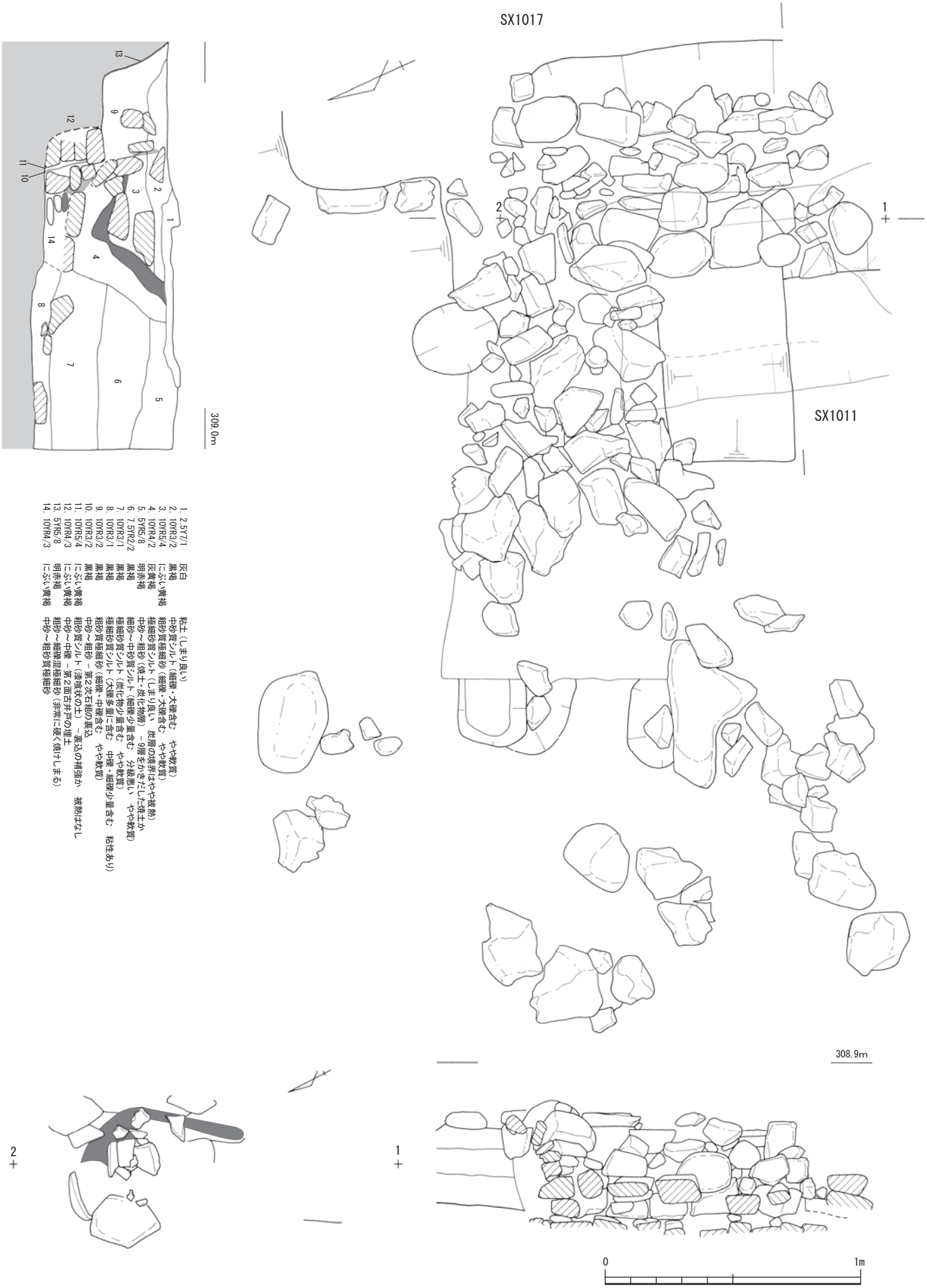


1. 10YR2/1 黒 シルト質極細砂（細礫・中礫わずかに含む　しまり良い）
（2.5Y8/3淡黄色粘土・5YR4/4にぶい赤褐色・クサリ礫・ブロック混じる）
2. 10YR3/1.5 黒褐 中砂混じり細砂～極細砂（細礫わずかに含む　中礫わずかに含む　やや軟）
3. 2.5Y3/1 黒褐 砂礫層（中礫多量に含む　細礫わずかに含む　褐鉄沈着）
4. 2.5Y3/1 黒褐 シルト質極細砂（細礫多量に含む　中礫含む　軟質）
5. 10YR3/1 黒褐 細礫混じり粗粒シルト（中礫わずかに含む）
6. 10YR2.7/1 黒褐 シルト質極細砂（細礫・中礫わずかに含む　褐鉄沈着　やや軟質）
7. 10YR3/3 暗褐 中砂混じり粗粒シルト（極粗砂・細礫わずかに含む　中礫・大礫少量含む）



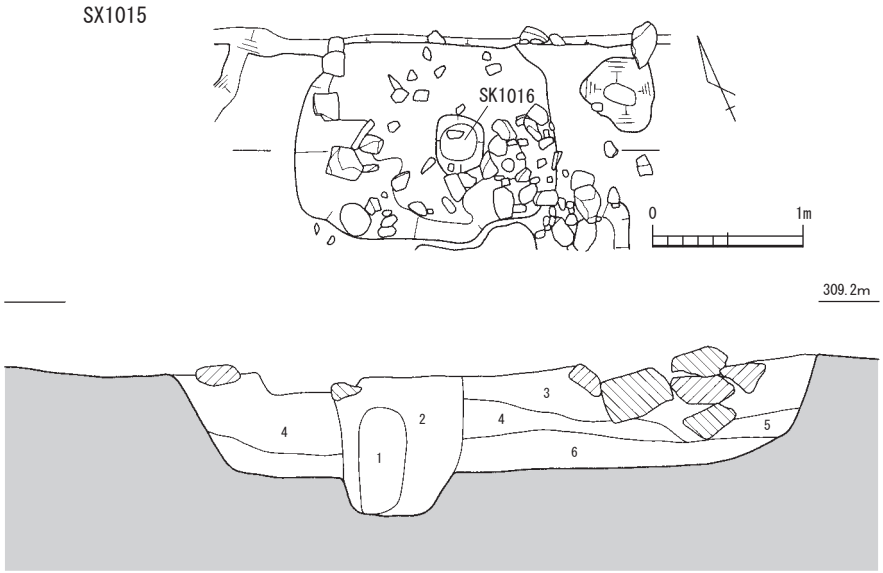
1. 10YR3/1 黒褐 粗砂混じり粗粒シルト（細礫含む
白色粘土ブロック含む　軟質　粘性あり）
2. 10YR2/1 黒 中砂混じり極細砂（中礫φ3cmわずかに混じる）
3. 10YR3/1 黒褐 中砂混じり極細砂（細礫わずかに含む）

1区遺構平面図・断面図（1）



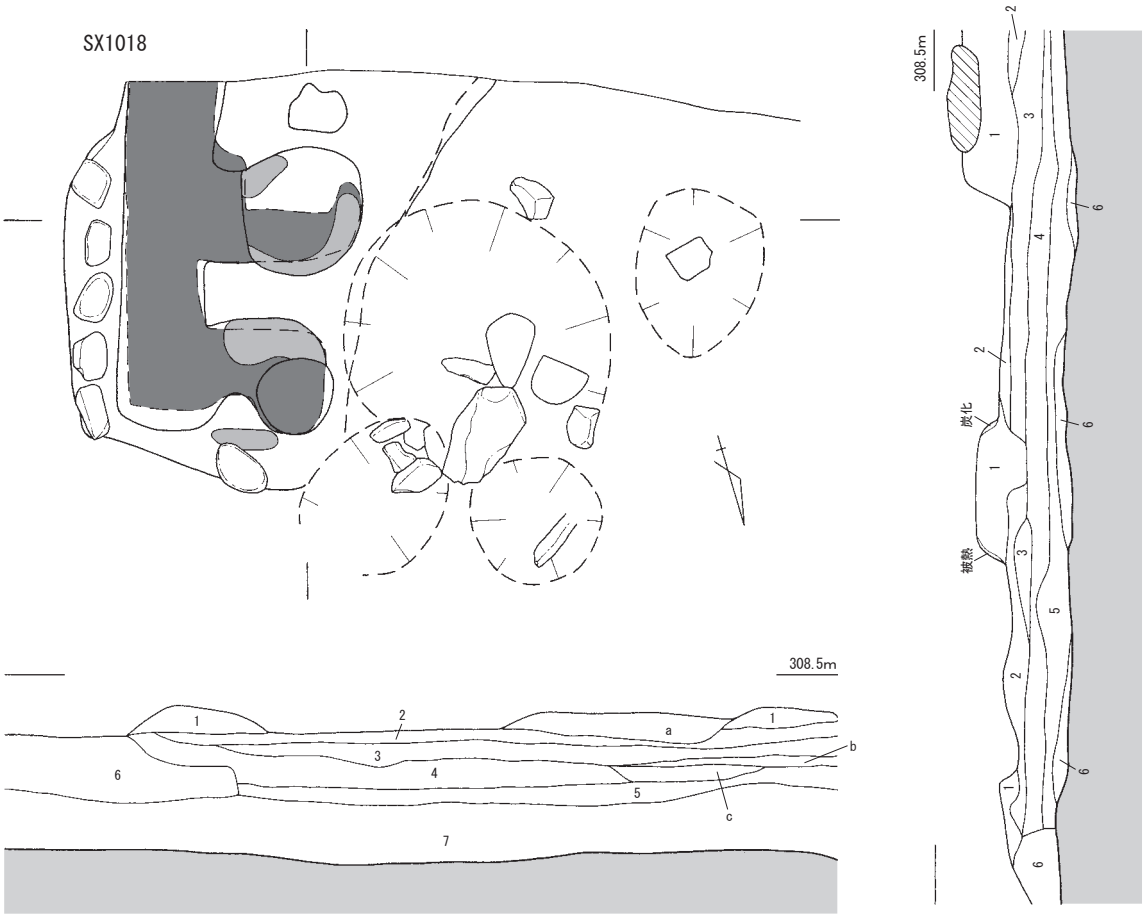
1区遺構平面図・断面図（2）

SX1015



1. 5BG2/1 青黒 シルト質粗砂～細礫（しまり悪い） －SK1016 細かいカラミ？
2. 10YR3/2 黒褐 シルト質極細砂（極粗砂・細礫含む 焼土・炭化物含む）
3. 10YR4/2 灰黄褐 極細砂～極粗砂（max25cm大礫 焼土・炭化物含む）
4. 10YR3/2 黒褐 細砂質極細砂（極粗砂～細礫含む 炭化物含む）
5. N1.5/0 黒 シルト（細礫混じる）
6. 10YR3/1 黒褐 極細砂質シルト（細礫含む）

SX1018

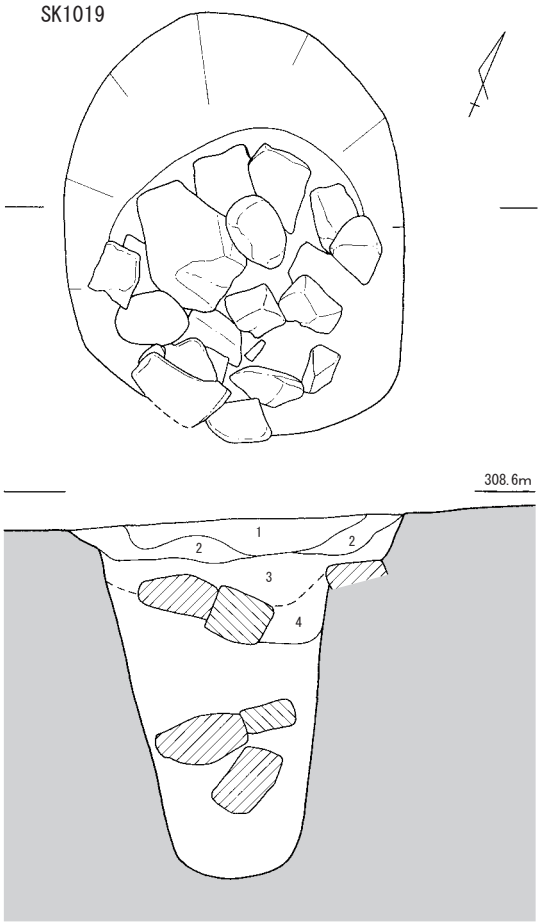


1. 10YR5/4 にぶい黄褐 細礫混粘土 竈
2. 10YR2/2 黒褐 中シルト
3. 10YR3/2 黒褐 粗シルト 焼土ブロック含む
4. 10YR3/1 黒褐 極細砂質シルト 層上面3mm程度被熱
5. 10YR4/2 灰黄褐 細砂～極細砂
6. 10YR2/1 黒 シルト質極細砂
7. 10YR3/1 黒褐 シルト質極細砂 焼土・細礫わずかに含む 6層と類似
a. 褐 極細砂質シルト 焼土層
b. 褐 極細砂質シルト c層の焼土層
c. 黒 極細砂質シルト

0 1m

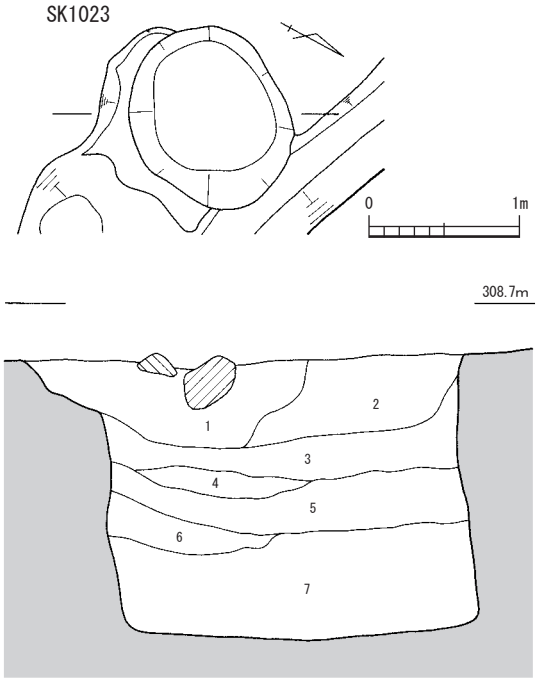
1区遺構平面図・断面図（3）

SK1019



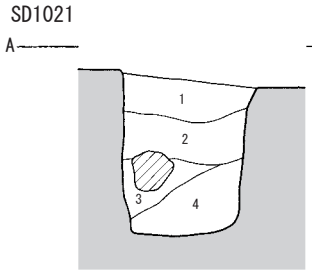
1. 10YR3/1　黒褐　中砂～粗砂質極細砂（細礫わずかに含む）
2. 10YR3/1　黒褐　粗砂～細礫混じり極細砂（細礫・中礫多量に含む）
3. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫混じり中砂～極細砂（焼土・炭化物わずかに含む　やや軟質）
4. 10YR2/2　黒褐　中砂質極細砂（max30cm大礫多量に含む　軟質）

SK1023

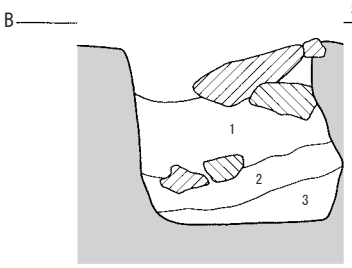


1. 10YR4/2　灰黄褐　大礫混じり中砂～極粗砂
（細礫・中礫わずかに含む　max20cm大礫多量に含む　下方にはなし）
2. 10YR3/1　黒褐　細礫混じり極細砂～中砂（中礫・焼土φ～1cmわずかに含む（1%））
3. 10YR4/2　灰黄褐　細礫混じりシルト～極細砂（粘性あり）
4. 7.5YR4/3　褐　粗砂～中礫（極細礫多量に含む　中礫は少ない）
5. 10YR3/1　黒褐　粗砂～中礫混じり極細砂～細砂（中礫～3%）
6. 10YR4/2　灰黄褐　中砂～細礫
7. 10YR3/2　黒褐　極粗砂～大礫混じりシルト～細砂（中礫～3%　大礫～5%　褐鉄沈着）

SD1021

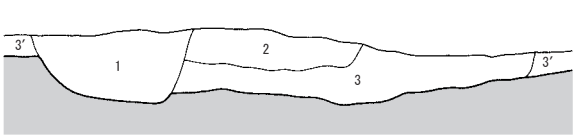


1. 10YR3/1　黒褐
細砂～中砂質　中礫・カラミ層（カラミ主体　中礫含む）
2. 10YR3/2　黒褐
中礫～大礫（中礫多量に含む　大礫含む　カラミ少量含む）
3. 10YR4/2　灰黄褐
中砂～粗砂質極細砂（極粗砂・細礫少量含む）
4. 10YR3/1　黒褐
細礫混じり極細砂（漆喰・白色粘土ブロック含む）



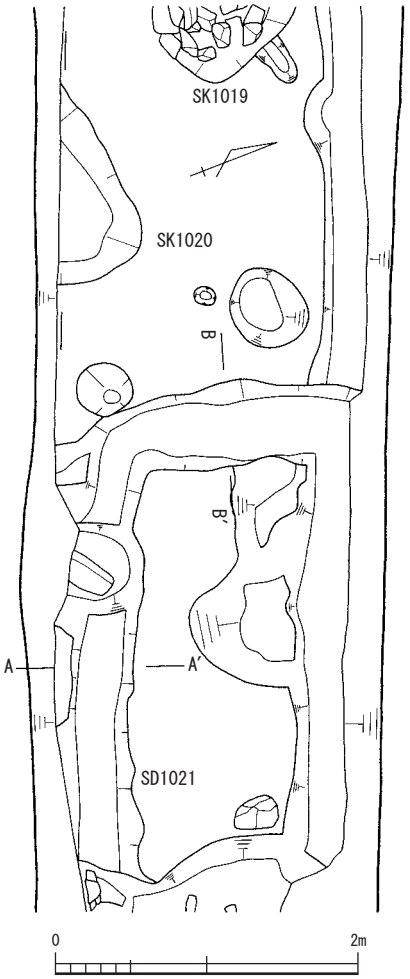
1. 10YR2/2　黒褐
シルト質極細砂（焼土少量含む）
2. 10YR3/1　黒褐
中砂～粗砂質シルト（細礫・中礫・大礫少量含む）
3. 2.5Y3/1　黒褐
極細砂～細砂質シルト（地山をブロック状に含む）

SK1020



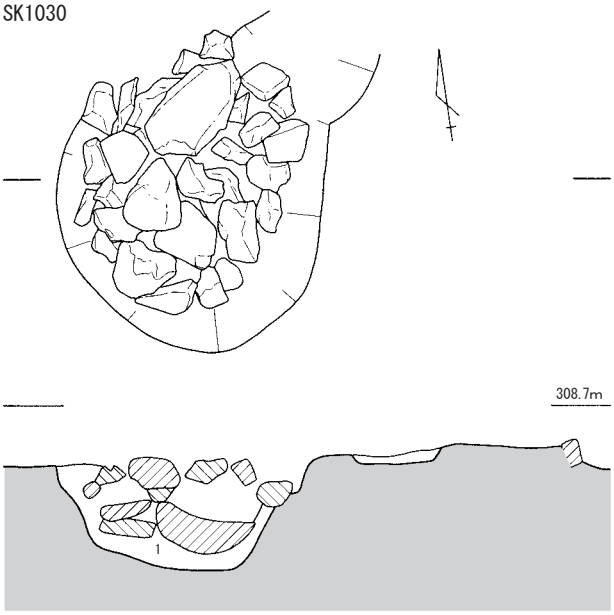
1. 10YR2/2　黒褐　シルト（粗砂わずかに混じる　焼土・炭化物含む）
2. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂（上部に焼土・炭溜まり　焼土炭はわずかにしか含まれず）
3. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂（細礫わずかに混じる　焼土ブロック・炭化物含む）
} SK1020埋土
3′. 10YR2/1　黒　シルト質極細砂（細礫わずかに混じる　焼土・炭化物含む）←第2面ベース

0　1m



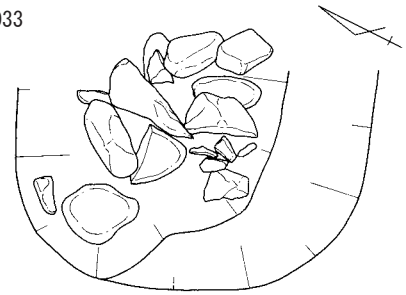
1区遺構平面図・断面図（4）

SK1030

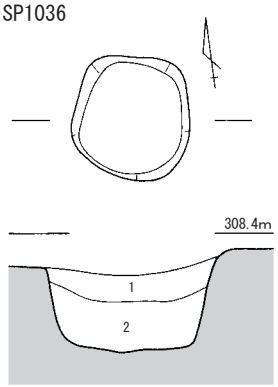


1. 10YR2/2　黒褐　極細砂質シルト（max30cm大礫多量に含む）

SK1033



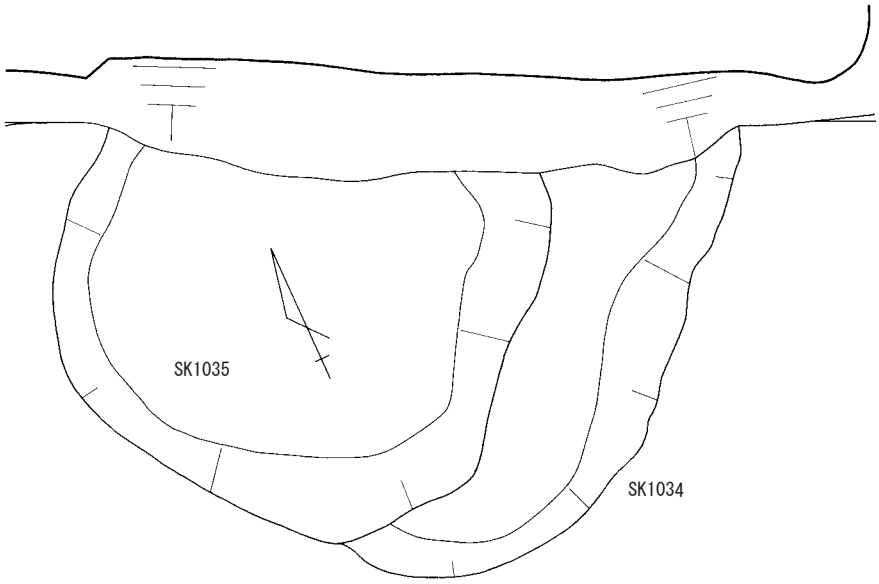
SP1036

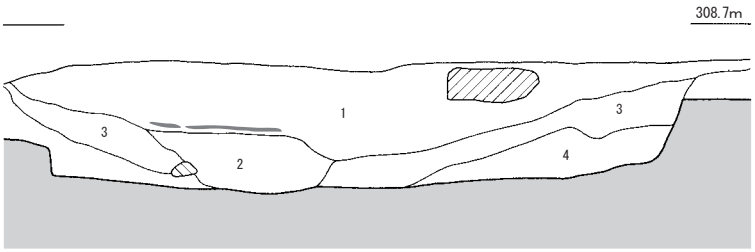


1. 10YR3/1　黒褐
　中砂～粗砂質シルト　細礫・中礫わずかに含む　しまり良い
2. 10YR2.5/1　黒褐
　極細砂質シルト　細礫・中礫わずかに含む　軟質

0　1m

SK1034・1035



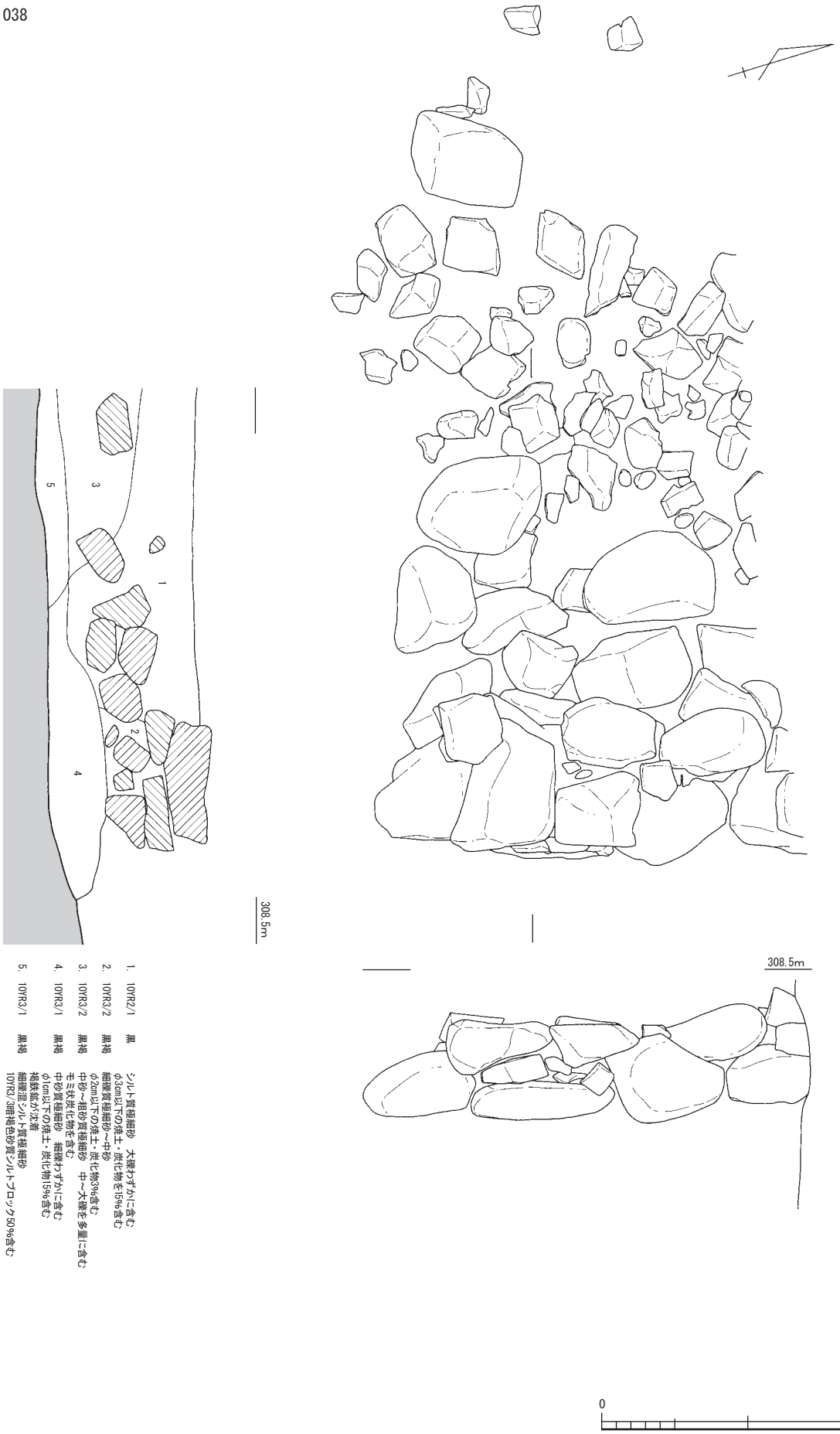


1. 10YR2/1　黒褐
　中砂～粗砂質極細砂
　（上方に中礫・大礫多量に含む　下方は少ない　淘汰悪い　軟質）
2. 10YR3/2　黒褐
　細砂質シルト（大礫・中礫含む　淘汰悪い　軟質　粘性あり）
3. 10YR3/2　黒褐
　中礫～大礫混シルト（焼土・炭化物の粒を含む　やや軟質）
4. 10YR3/1.5　黒褐
　極細砂質シルト
　（細礫含む　下方に大礫含む　やや軟質　焼土粒多量に含む
　炭化物粒わずかに含む）

0　2m

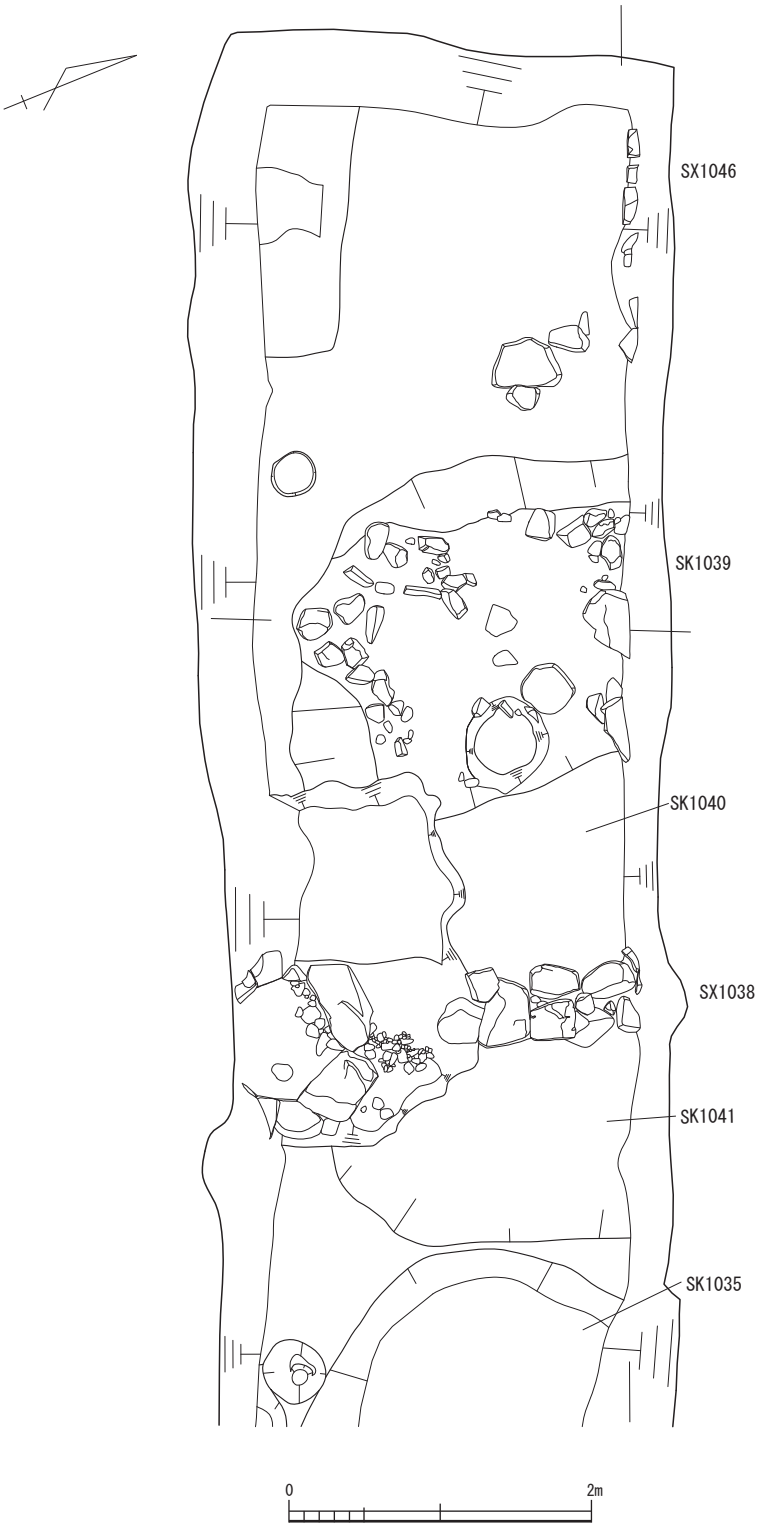
1区遺構平面図・断面図（5）

SX1038

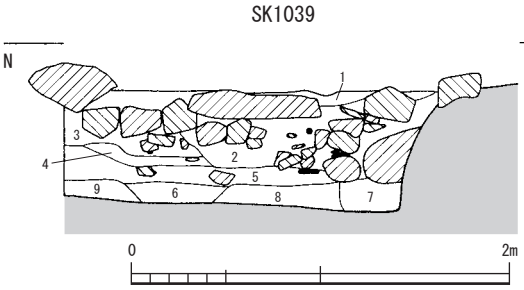


1区遺構平面図・断面図（6）

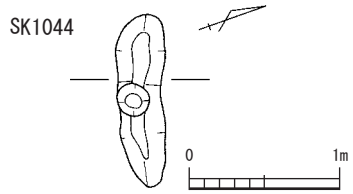
第３面

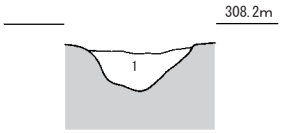


１区遺構平面図・断面図（7）

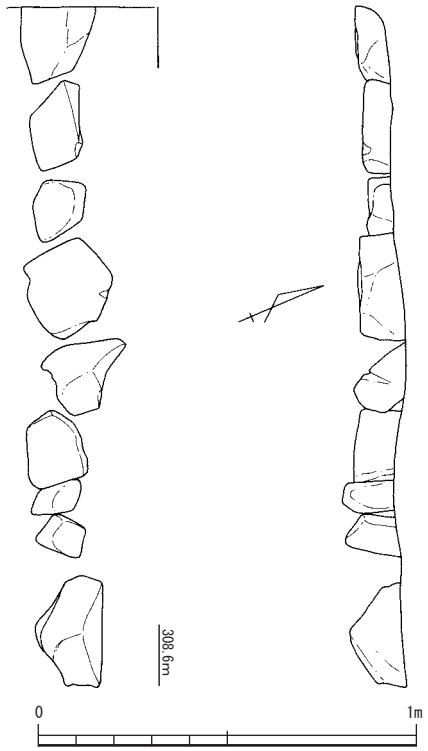


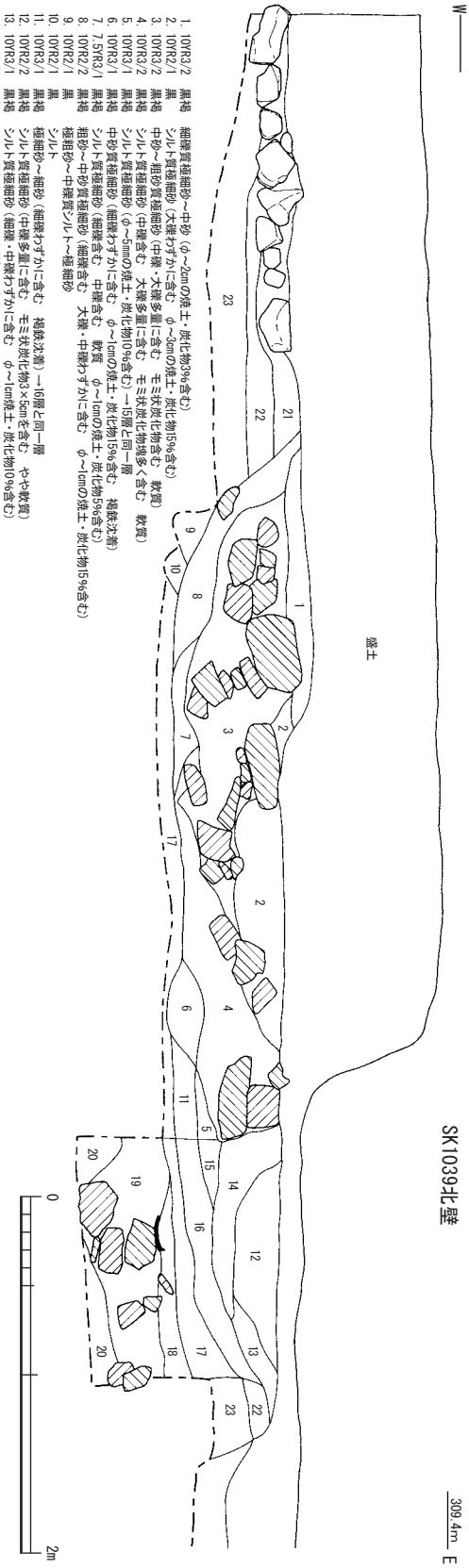
1. 10YR3/2 黒褐 粗砂質極細砂 焼土・炭化物含む 大礫の覆土
2. 10YR3/1 黒褐 極細砂質シルト 細礫含む 大礫多量に含む φ5mmの焼土10% モミ状炭化物含む
3. 10YR3/1 黒褐 極細砂質シルト
4. 10YR3/2 黒褐 中砂～粗砂質極細砂 細礫含む
5. 10YR3/1 黒褐 粗砂質シルト 焼土・炭化物含む～10% 大礫多量に含む
6. 10YR3/1 黒褐 中砂質シルト
7. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂質極細砂 －地山の撹拌
8. 10YR4/2 灰黄褐 極細砂～中砂 －地山の撹拌
9. 10YR2/1 黒 シルト





1. 10YR3/1 黒褐 シルト
10YR3/3暗褐色の地山ブロック含む

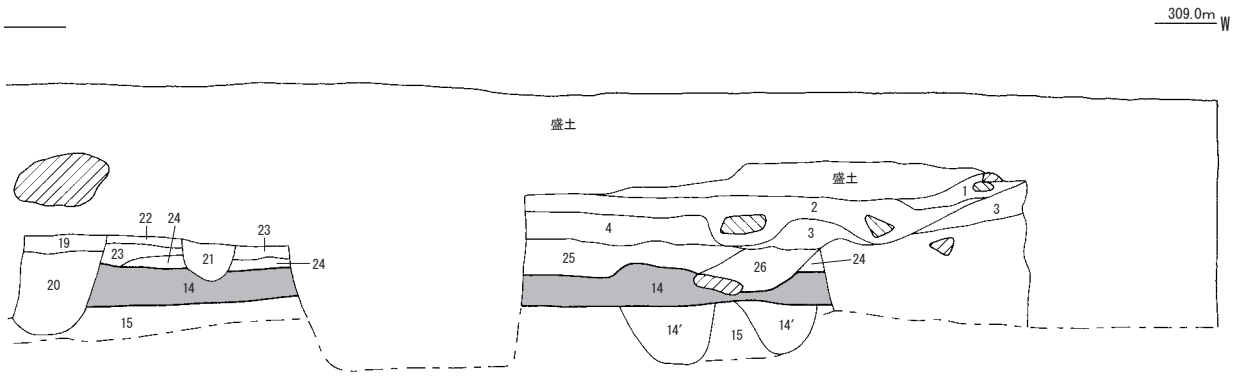


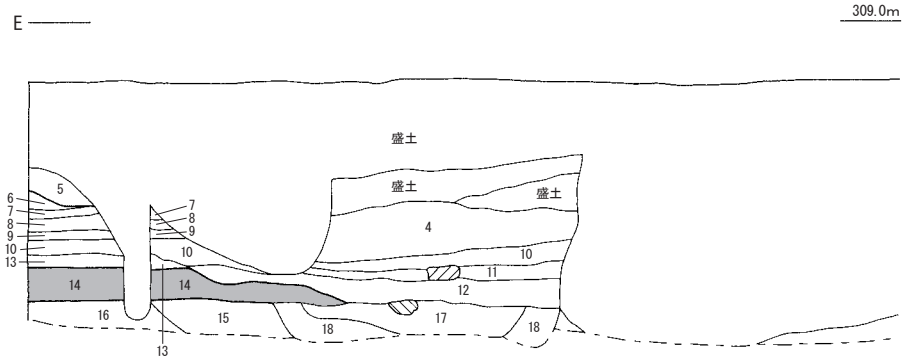


1. 10YR3/2 黒褐 細礫質極細砂～中砂（φ～2cmの焼土・炭化物3%含む）
2. 10YR2/1 黒 シルト質極細砂（大礫わずかに含む φ～3cmの焼土・炭化物15%含む）
3. 10YR3/2 黒褐 中砂～粗砂質極細砂（中礫・大礫多量に含む モミ状炭化物含む 軟質）
4. 10YR3/2 黒褐 シルト質極細砂（中礫含む 大礫多量に含む モミ状炭化物塊多く含む 軟質）
5. 10YR3/1 黒褐 シルト質極細砂（φ～5mmの焼土・炭化物10%含む）－15層と同一層
6. 10YR3/1 黒褐 中砂質極細砂（細礫わずかに含む φ～1cmの焼土・炭化物15%含む 褐鉄沈着）
7. 7.5YR3/1 黒褐 シルト質極細砂（細礫含む 中礫含む 軟質 φ～1cmの焼土・炭化物5%含む）
8. 10YR2/2 黒褐 粗砂～中砂質極細砂（細礫含む 大礫・中礫わずかに含む φ～1cmの焼土・炭化物15%含む）
9. 10YR2/1 黒 極粗砂～中礫質シルト～極細砂
10. 10YR2/1 黒 シルト
11. 10YR3/1 黒褐 極細砂～細砂（細礫わずかに含む 褐鉄沈着）－16層と同一層
12. 10YR2/2 黒褐 シルト質極細砂（中礫多量に含む モミ状炭化物3×5cmを含む やや軟質）
13. 10YR3/1 黒褐 シルト質極細砂（細礫・中礫わずかに含む φ～1cm焼土・炭化物10%含む）
14. 10YR3/1 黒褐 シルト質極細砂（中礫わずかに含む φ～3cmの焼土・炭化物15%含む）
15. 10YR2/2 黒褐 シルト質極細砂（φ～5mmの焼土・炭化物5%含む）
16. 10YR2/2 黒褐 シルト質極細砂（中礫わずかに含む）
17. 10YR3/1 黒褐 細礫混シルト質極細砂（10YR3/3暗褐色（ベース土）ブロック50%含む）
18. 10YR3/1 黒褐 シルト質極細砂（大礫わずかに含む やや軟質）
19. 10YR3/1 黒褐 大礫質細砂～中砂（φ30cm以上の大礫多い 枝状の炭化物含む φ～2cmの焼土・炭化物10%含む）
20. 10YR3/1 黒褐 シルト質極細砂（中礫含む φ～5cmの焼土・炭化物15%含む）
21. 10YR3/2 黒褐 粗砂～細礫質シルト～極細砂（粘性あり）
22. 10YR2.7/1 黒褐 極細砂質シルト（極粗砂わずかに含む）
23. 10YR2/1 黒 シルト

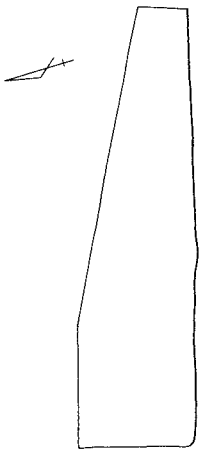
1区遺構平面図・断面図（8）

２区 南壁

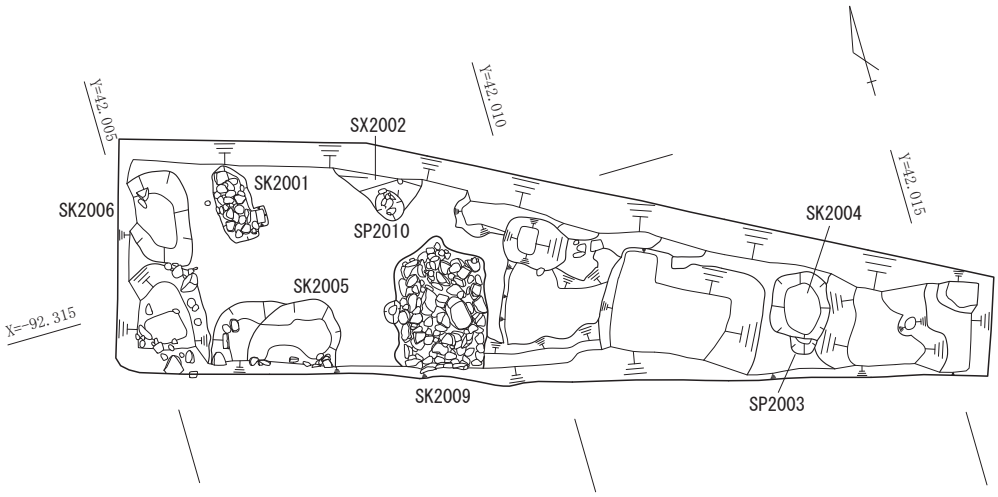




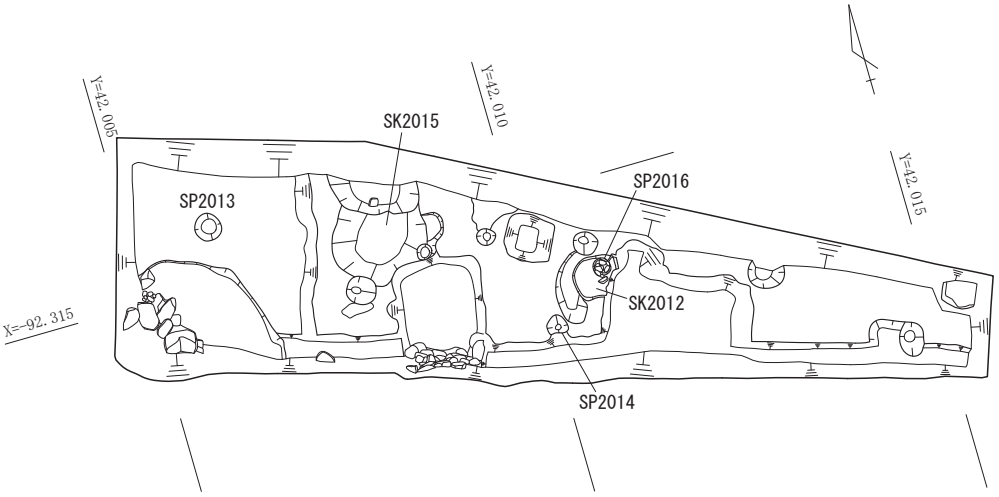
1. 7.5YR4/3　褐　極細砂質シルト（細礫わずかに含む　炭化物わずかに含む）
2. 10YR2/2　黒褐　細砂～粗砂質シルト（細礫含む　中礫・大礫わずかに含む　やや軟質）
3. 7.5YR4/3　褐　シルト質極細砂（極粗砂～中礫わずかに含む）　－SK2005
4. 10YR4/3　にぶい黄褐　粗砂～細礫（中礫わずかに含む　軟質）
5. 10YR2/2　黒褐　細礫質極細砂～細砂（焼土・炭化物含む　φ～3cm　10%）
6. 10YR4/2　灰黄褐　粗砂～細礫質細砂～中砂（φ～3cmの焼土・炭化物40%含む）←第１面
7. 10YR3/1　黒褐　中砂質極細砂
8. 10YR3/2　黒褐　極細砂～細砂（下部に焼土厚1cmで筋状に含む　細粒化していない　細礫わずかに含む）
9. 10YR4/2　灰黄褐　細砂～中砂質シルト～極細砂（下部層界に筋状に炭化物含む　細礫・中礫わずかに含む）
10. 10YR5/4　にぶい黄褐　シルト質極細砂（細礫・中礫わずかに含む　焼土・炭化物～10%含み、軽度の被熱みられる）
11. 10YR3/3　暗褐　粗砂～細礫質極細砂（中礫・大礫わずかに含む　やや軟質　φ～1cmの炭化物3%含む）
12. 10YR3/1　黒褐　細礫～中礫質極細砂
13. 10YR3/1　黒褐　シルト質極細砂
14. 10YR2/1　黒　細礫～中礫質シルト　←第２面
14′.　14層とほぼ同じ
15. 10YR4/3　にぶい黄褐　中礫混シルト質極細砂　←第３面
16. 10YR4/3　にぶい黄褐　細礫～大礫混シルト質極細砂
17. 7.5YR3/1　黒褐　細礫～大礫質細砂～粗砂（φ～1cmの焼土・炭化物3%含む　やや軟質）
18. 10YR3/2　黒褐　粗砂質極細砂（細礫・中礫含む　φ～1cmの焼土・炭化物1%含む）
19. 2.5Y3/2　黒褐　中砂質極細砂（φ～2cmの焼土・炭化物30%含む）
20. 10YR3/1　黒褐　細礫混シルト質極細砂（φ～1cmの焼土・炭化物5%含む）
21. 10YR3/2　黒褐　細礫・中礫混中砂～粗砂質極細砂
22. 10YR3/1　黒褐　粗砂～細礫質極細砂（φ～5mmの焼土・炭化物5%含む　しまり良い）
23. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫質極細砂（φ～1cmの焼土・炭化物15%含む　やや軟質）
24. 10YR4/2　灰黄褐　粗砂～中礫質極細砂
25. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂（細礫わずかに含む　φ～1cmの焼土・炭化物3%含む）
26. 10YR4/3　にぶい黄褐　細礫質シルト（中礫含む）



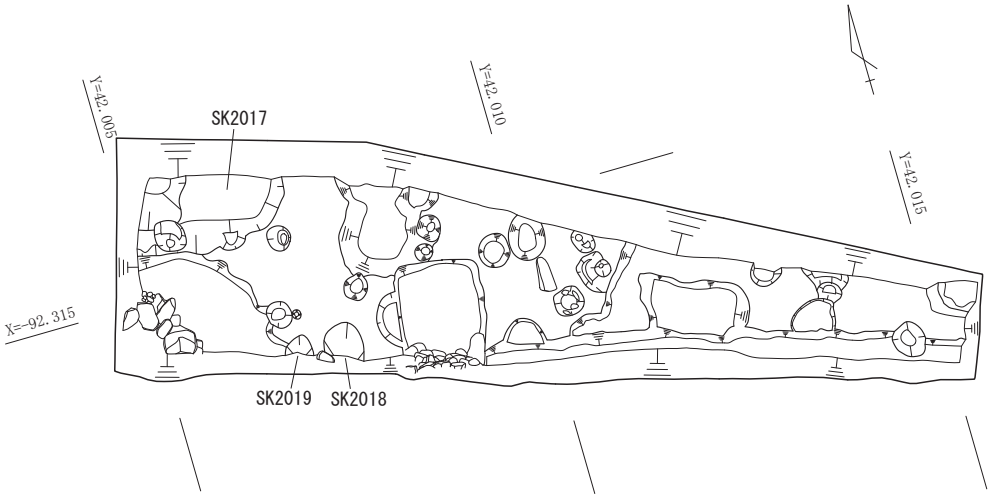
２区南壁地層断面図



第１面



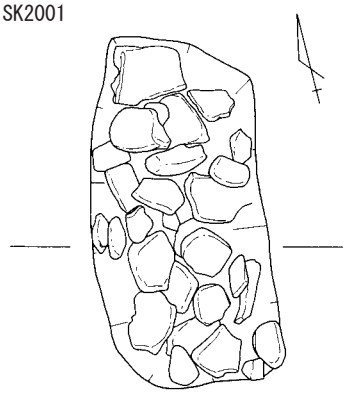
第２面

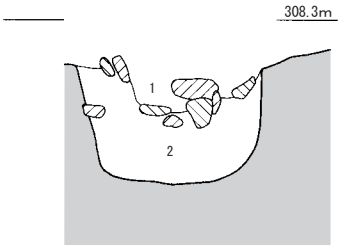


第３面

２区第１面・第２面・第３面平面図

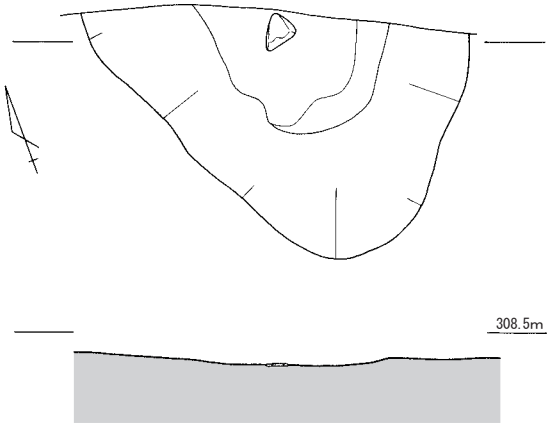
SK2001



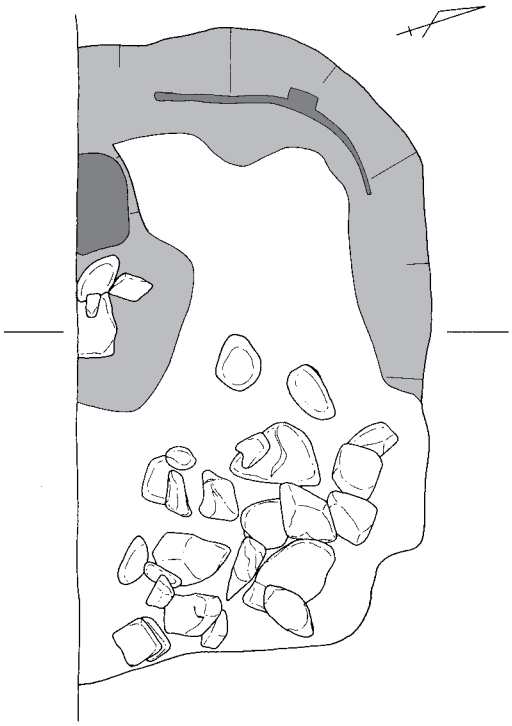


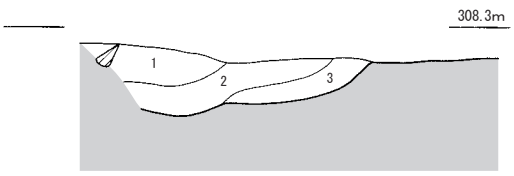
1. 10YR3/1　黒褐　砂礫（細砂～中砂主体　大礫多量に含む）
2. 　　ベース

SX2002



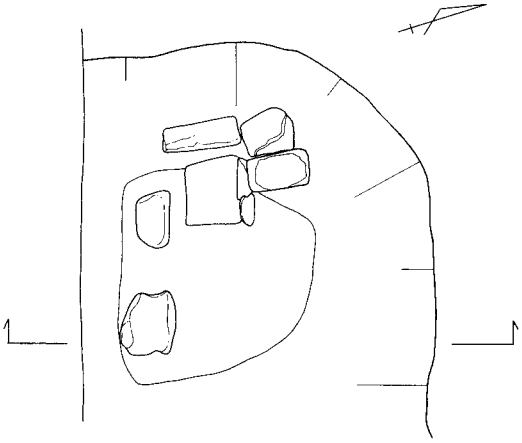
SK2005

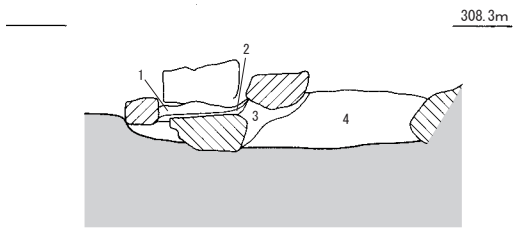




1. 7.5YR3/2　黒褐　細砂質極細砂
　　（細礫・中礫わずかに含む　炭化物少量含む　焼土多い）
2. 10YR3/3　暗褐　細砂～中砂質極細砂（細礫・中礫わずかに含む　しまり悪い）
3. 10YR2/1　黒　極細砂質シルト（細礫わずかに含む　炭層　しまり悪い）

SK2005下層

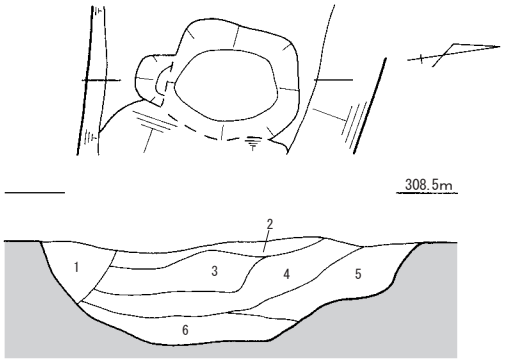




1. 5YR4/4　にぶい赤褐　極細砂質シルト
　　（粗砂わずかに含む　炭化物わずかに含む）←焼土
2. N1.5/0　黒　細粒シルト←炭層
3. 7.5YR3/3　暗褐　砂礫層（粗砂～細礫多量）←4層の被熱変色　掘方
4. 10YR3/2　黒褐　砂礫層（粗砂～中礫max7cm）←ベース

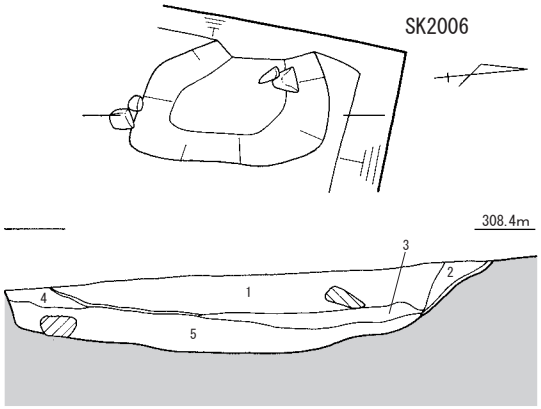
２区遺構平面図・断面図（1）

SP2003・SK2004



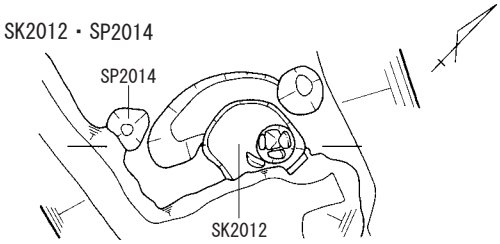
1. 10YR3/1 黒褐 シルト質極細砂
（細礫・中礫わずかに混じる　ベースを巻き上げている）　SP2003
2. 10YR4/1 褐灰 極細砂質シルト（細礫わずかに含む　中礫含む）
3. 10YR5/4 にぶい黄褐 粗シルト（細礫・中礫わずかに含む）
4. 2.5Y4/1 黄灰 極細砂質シルト
（細礫・中礫わずかに含むmax3cm　褐鉄含む　しまり悪い）　SK2004
5. 2.5Y3/1 黒褐 極粗砂混じり極細砂
（細礫含む　情報にベース砂礫巻き上げ）
6. 10YR4/2 灰黄褐 砂礫層（極粗砂主　max4cmの中礫含む　しまり悪い）

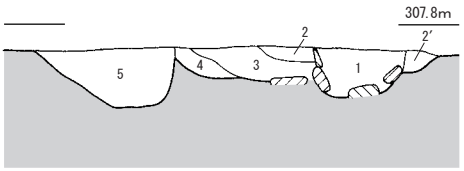
SK2006



1. 10YR3/2 黒褐 細砂～極細砂（細礫・大礫わずかに含む　中礫多量に含む
炭化物わずかに含む　白色粘土ブロック含む　しまり悪い）
2. 10YR4/3 にぶい黄褐 細礫混じりシルト（中礫わずかに含む　粘性あり）
3. 5Y5/1 灰 極細砂混じりシルト
（炭化物含む　しまり悪い　灰がベースになっている）
4. 10YR3/3 暗褐 極細砂～細砂質シルト（細礫・中礫わずかに含む）
5. 7.5YR4/3 褐 砂礫（極粗砂～細礫主体　φ～3cm礫多量に含む　大礫含む）
ベースか

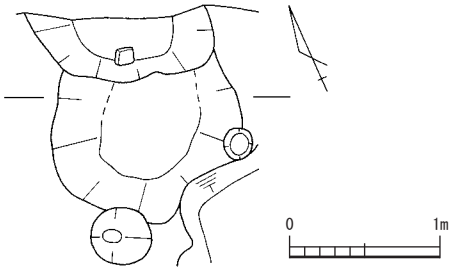
SK2012・SP2014

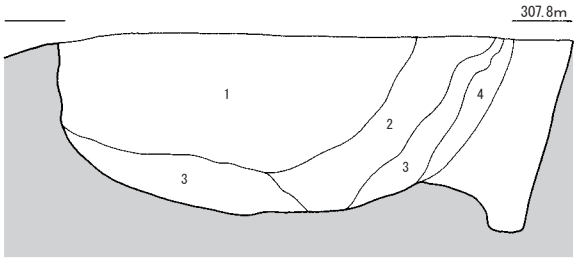




1. 10YR3/1.5 黒褐 シルト質極細砂（粗砂～中礫含む　やや軟質　分級悪い）
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質極細砂（細砂混じる　焼土を斑点状に含む）
2′層は焼きが多い
3. 5YR5/6 明赤褐 極細砂質シルト
（細砂混じる　焼土のみで炭化物・粘土ブロックほとんど含まない）
4. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂質シルト（細砂わずかに混じる　均質な土質）
5. 5YR4/4 にぶい赤褐 細砂質極細砂
（細礫含む　炭化物・焼土ブロック多量に含む　しまり悪い　分級悪い）

SK2015

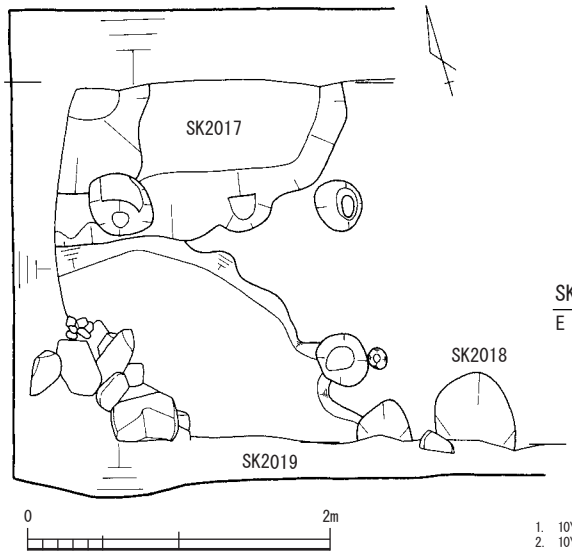




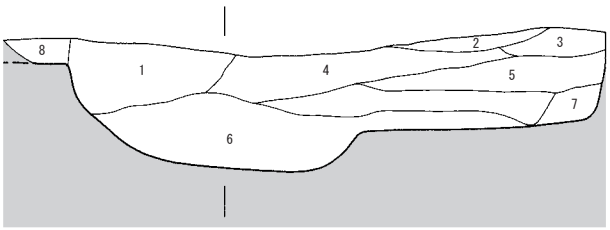
1. 10YR3/3 暗褐 極細砂質シルト
（極粗砂・細礫わずかに含む　中礫下方にわずかに含む　粘性ややあり　軟質）
2. 10YR3/2 黒褐 極細砂質シルト（極粗砂・細礫わずかに含む　やや粘性あり　軟質）
3. 10YR3/2.3 黒褐 シルト質極細砂（極粗砂・細礫わずかに含む　粘性あり　軟質）
4. 10YR3/1 黒褐 シルト質極細砂（粗砂～細礫わずかに含む　焼土多量　炭化物含む）

0　1m

SK2017・2018・2019

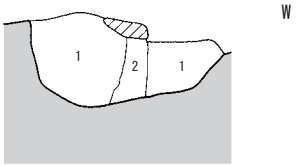


SK2017



1. 10YR3/2 黒褐 中砂～粗砂質極細砂
（細礫・中礫含む　淘汰悪い　焼土・炭化物含む　軟質）
2. 10YR3/1 黒褐 極細砂～細砂
（粗砂～細礫含む　黄色土（恐らく3のブロック含む））
3. 10YR4/6 褐 粗砂～細礫質粘土
（焼土・炭化物粒わずかに含む）
4. 10YR3/1 黒褐 中砂～細礫質極細砂
（中礫わずかに含む　焼土・炭化物粒をわずかに含む　軟質）
5. 10YR3/1 黒褐 中砂～細礫質極細砂
（中礫・大礫max15cm含む　焼土・炭化物粒含む　軟質）
6. 10YR3/1 黒褐 中砂～細礫質極細砂
（中礫・大礫多量に含む　軟質）
7. 10YR2/2 黒褐 細礫質極細砂（焼土・炭化物粒含む）
8. 10YR2/1 黒 中礫混シルト（やや軟質）

SK2018・2019

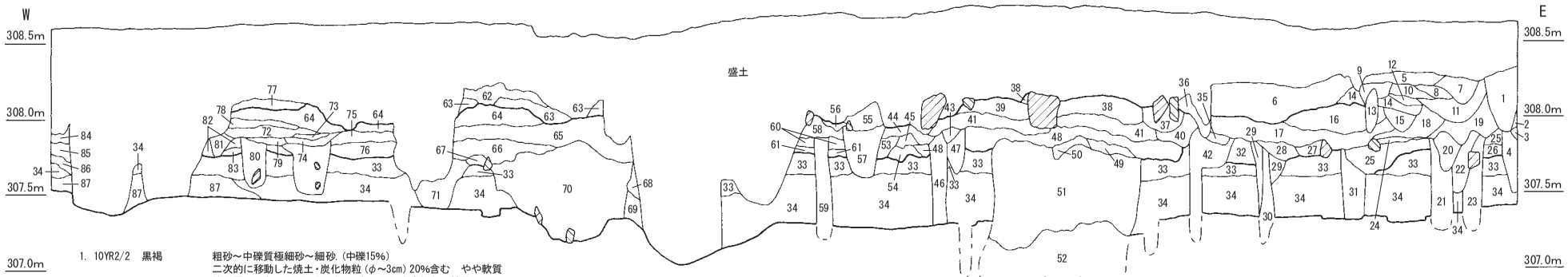


1. 10YR2/1 黒 中礫混シルト 淘汰悪い
2. 10YR4/4 褐 細砂質シルト 中礫わずかに含む

0　2m

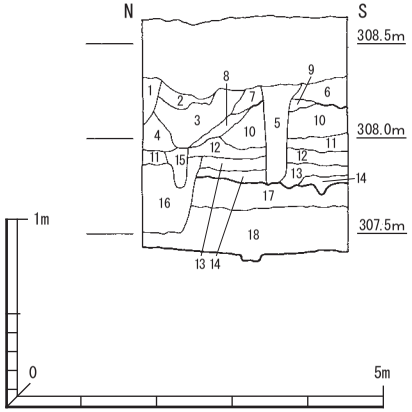
２区遺構平面図・断面図（2）

３・４区　北壁

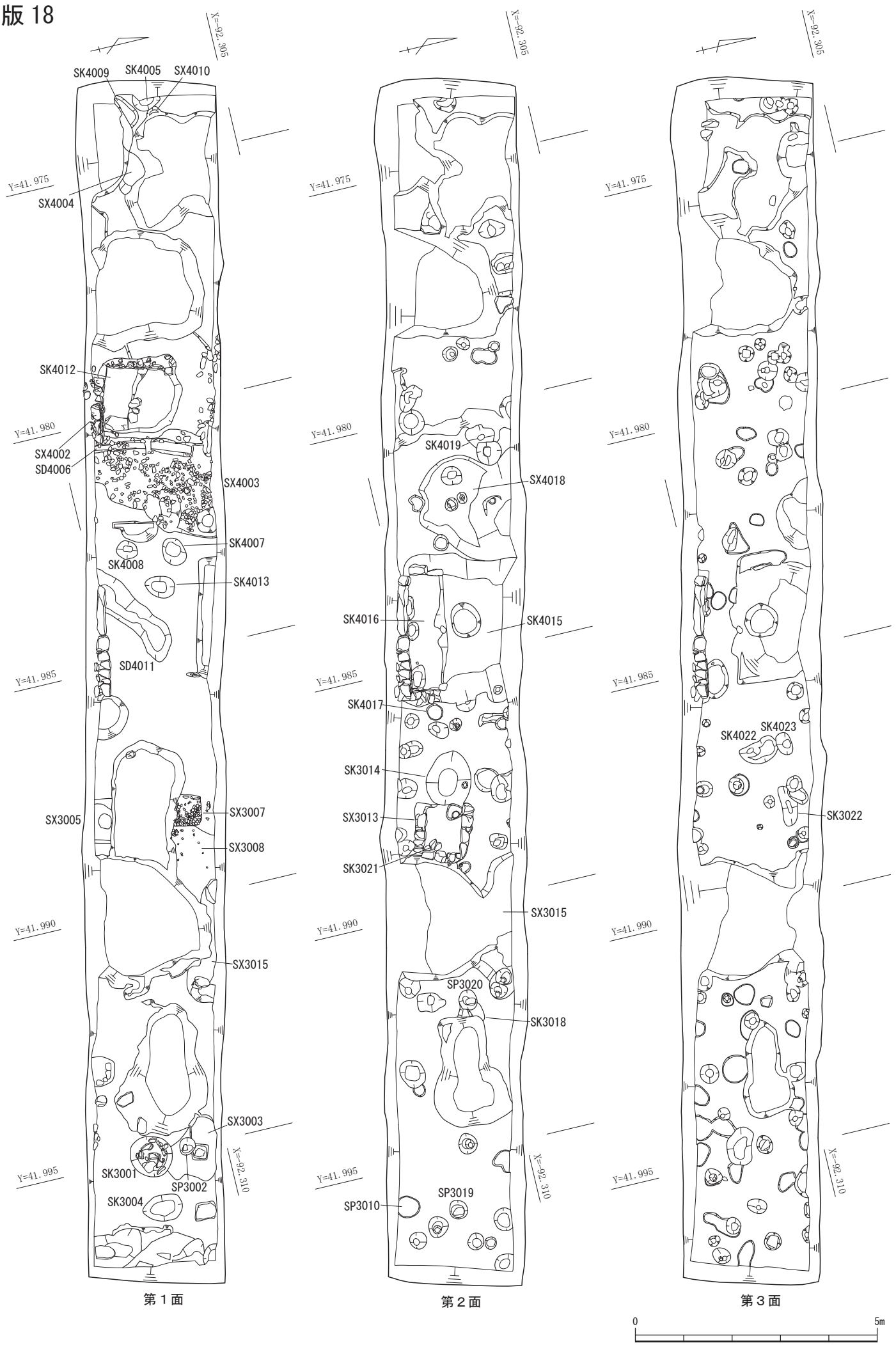


1. 10YR2/2　黒褐　粗砂～中礫質極細砂～細砂.（中礫15%）
二次的に移動した焼土・炭化物粒（φ～3cm）20%含む　やや軟質
2. 焼土層　上部は7.5YR2/1黒色、下部は5YR4/6赤褐色に被熱
下層との層界に厚5mmの炭層広がる
3. 10YR5/6　黄褐　極粗砂混シルト質極細砂　タタキの一部？　しまり良い
層下部の一部に2～3cm厚の粗砂～細礫層
4. 10YR3/1　黒褐　細礫～中礫混中砂～粗砂質極細砂
φ～1cmの焼土・炭化物粒10%含む　やや軟質
5. 二次的に移動した焼土・炭化物層
上部5YR5/6明赤褐色、下部5YR3/2暗赤褐色で、比較的はっきりと分かれている　撹拌補填
6. 二次的に移動した焼土・炭層　5層との連続と思われるが、多少撹拌を受けている
7. 10YR4/3　にぶい黄褐　細礫～大礫混シルト質極細砂（max10cmの大礫10～15%含む）
φ～1cmの焼土・炭化物粒10%含む　しまり良い
8. 10YR3/3　暗褐　細礫～中礫混中砂～粗砂質極細砂
9. 10YR5/4　にぶい黄褐　細礫混極細砂質シルト　5Y8/6黄色細礫混極細砂～中礫ブロック含む
10. 10YR2/2　黒褐　細礫～中礫質細砂～中砂　しまり良い
11. 10YR4/2　灰黄褐　細礫～中礫混シルト質極細砂（中礫2%含む）
φ2cmの焼土・炭化物粒7%含む
12. 10YR4/3　にぶい黄褐　中礫質中砂～細礫　max2cmの中礫　軟質
13. 10YR4/3　にぶい黄褐　細礫質粗砂～極粗砂　木質残る
南壁同レベル同位置に同様に堆積する砂層があるため、撹乱かは不明
14. 10YR2/2　黒褐　細礫～中礫混中砂質極細砂　10YR4/3黄褐色粗砂質極細砂ブロック含む
15. 10YR4/6　褐　粗砂～極粗砂質シルト～細砂
16. 10YR3/2　黒褐　細礫～大礫混シルト質極細砂（大礫は1点のみφ18cm　中礫3～5%含む）
φ～1cmの焼土・炭化物粒1%含む　10YR4/3にぶい黄褐色ブロック含む
17. 10YR3/1　黒褐　細礫～中礫混シルト質極細砂　礫3～5%含む
φ5mmの焼土・炭化物粒5%含む　やや軟質
18. 10YR4/3　にぶい黄褐　細礫～中礫質中砂～極細砂（中礫15%含む）
19. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫混中砂～粗砂質極細砂（中礫3%含む）
φ～1cmの焼土・炭化物粒7%含む　やや軟質
20. 10YR3/2　黒褐　粗砂～中砂質極細砂～細砂　やや軟質
21. 10YR2/3　黒褐　粗砂～細砂質シルト～極細砂　軟質
22. 10YR2/3　黒褐　粗砂～細砂質シルト～極細砂　やや軟質　φ～1cmの焼土粒1%含む
23. 10YR2/3　黒褐　中礫～大礫混粗砂～極粗砂質シルト～極細砂
φ～5mmの焼土・炭化物粒3%含む　やや軟質
24. 2.5Y3/1　黒褐　細礫混シルト質極細砂（細礫は1%未満）
φ～5mmの焼土・炭化物粒3%含む　やや軟質炭化物粒3～5%含む　しまり良い
25. 10YR3/1　黒褐　シルト質極細砂　φ～5mmの焼土・炭化物粒10%含む
26. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫混粗砂質極細砂　φ～5mmの焼土・炭化物粒15%含む　やや軟質
27. 10YR3/1　黒褐　中礫～大礫混細礫質中砂～粗砂　やや軟質
28. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫混シルト質極細砂　φ～5mmの焼土・炭化物粒2%含む
29. 10YR4/2　灰黄褐　細礫混シルト質極細砂　しまり良い　φ～5mmの焼土・炭化物粒3%含む
30. 10YR3/2　黒褐　細礫混シルト質極細砂　ブロック状に崩れる
31. 10YR3/1　黒褐　中礫質シルト　ブロック状に崩れる
32. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫混細砂質極細砂　φ～1cmの焼土・炭化物粒3%含む
33. 10YR3/1　黒褐　細礫～中礫混極細砂～中砂質シルト
φ～1cmの焼土・炭化物粒3%含む　ややしまり良い
34. 10YR2/1　黒　中礫混シルト　33層との境に褐鉄沈着
35. 10YR3/3　暗褐　細礫混シルト質極細砂　φ～5mmの焼土・炭化物粒30%含む
36. 10YR3/1　黒褐　中礫混細礫質極細砂　φ～2cmの焼土・炭化物40%含む
37. 10YR6/6　明黄褐　中礫混シルト質極細砂　φ～1cmの焼土・炭化物粒20%含む
38. 二次的に移動した焼土・炭層　7.5YR6/8橙色　焼土下に炭層
39. 2.5Y3/2　黒褐　細礫～中礫混中砂質極細砂～細砂
40. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫混シルト質極細砂　10YR4/3にぶい黄褐色ブロック含む
41. 10YR3/1　黒褐　細礫質極細砂　中砂・中礫の砂礫層が一部筋状に入る
42. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫混シルト質極細砂　焼土が含まれる　ブロック状のしまり悪い土
43. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫混シルト質極細砂
44. 10YR3/1　黒褐　細礫混シルト質極細砂　φ～5mmの焼土・炭化物粒2%含む
45. 10YR3/2　黒褐　細礫混シルト質極細砂　φ～1cmの焼土・炭化物粒15%含む
46. 10YR3/3　暗褐　中礫混シルト質極細砂　上部に焼土・炭化物粒15%含む　下部は34層との撹拌
47. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂　φ～1cmの焼土・炭化物粒5%含む　やや軟質
48. 10YR2/3　黒褐　細礫混細砂質極細砂　φ～1cmの焼土・炭化物粒25%含む
49. 10YR2/2　黒褐　細礫混シルト質極細砂　φ～2cmの焼土・炭化物10%含む
50. 10YR2/1　黒　シルト質極細砂
51. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫混シルト質極細砂　φ～5mmの焼土・炭化物25%含む
52. 10YR3/4　暗褐　中礫～大礫質極細砂　大礫多量に含む　ルーズな礫層
53. 10YR3/2　黒褐　中礫混シルト質極細砂　やや軟質
54. 10YR2/2　黒褐　粗砂～極粗砂質極細砂～細砂　φ～1cmの焼土・炭化物粒15%含む
55. 二次的に移動した焼土層　しまり良い
2.5YR5/8明赤褐色粗砂～細礫質極細砂～細砂
56. 2.5Y3/2　黒褐　粗砂～細礫質極細砂　二次的に移動した焼土ブロック含む
57. 2.5Y4/2　暗灰黄　細礫～中礫混中砂～粗砂質極細砂　10YR2/1黒色ブロック含む
58. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫質シルト～極細砂　φ～5mmの焼土・炭化物粒3%含む
59. 10YR3/1　黒褐　細礫混シルト質極細砂
10YR4/3にぶい黄褐色ブロック（地山土）含む　ブロック状に崩れる
60. 10YR4/1　褐灰　極細砂質シルト　しまり良い
61. 10YR2/2　黒褐　シルト質極細砂　φ5mm～1cmの焼土・炭化物10%含む
62. 10YR4/4　褐　極粗砂～細礫混極細砂質シルト　しまり良い　粘性あり
63. 二次的に移動した焼土・炭化物層　5YR5/8明赤褐色中砂～粗砂質極細砂
下層との境に2cm厚の炭・炭化物層
64. 10YR4/3　にぶい黄褐　大礫混中砂～極粗砂質細礫～中礫　礫の淘汰悪い　礫敷
65. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫混細砂～中砂質極細砂　φ～2cmの焼土・炭化物粒1%含む
66. 10YR3/1　黒褐　細礫～中礫混シルト質極細砂　φ～5cmのカラミ（塊状）多量に含む
67. 10YR4/3　にぶい黄褐　細砂質極細砂
68. 10YR5/6　黄褐　細礫質シルト～極細砂
69. 10YR2/3　黒褐　中礫混粗砂質シルト～極細砂
70. 10YR3/3　暗褐　細礫～中礫混シルト質極細砂　φ5mm～1cmの焼土・炭化物10%含む
71. 10YR3/1　黒褐　細礫混中砂質極細砂　φ～5mmの焼土・炭化物粒3%含む　軟質
72. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂　φ～1cmの焼土・炭化物粒2%含む　やや軟質
73. 2.5Y3/2　黒褐　シルト質極細砂　しまり良い　整地土
74. 10YR5/4　にぶい黄褐　細礫混中砂質シルト～極細砂　整地土
75. 10YR3/1　黒褐　シルト質極細砂　整地土
76. 焼土・炭化物層　10YR3/3暗褐色極粗砂混シルト質極細砂
φ～3cmの焼土・炭化物各30～40%含む　下層との境界は強く被熱している
77. 10YR6/6　明黄褐　中礫混粗砂質シルト～極細砂　整地土
78. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂
79. 2.5Y3/1　黒褐　細礫混シルト質極細砂
80. 10YR3/3　暗褐　中砂～粗砂質極細砂～細砂　φ～1cmの焼土・炭化物粒25%含む
81. 10YR3/3　暗褐　細礫質中砂～極粗砂　しまり悪い
82. 10YR3/4　暗褐　細礫質細砂～中砂
83. 10YR2/2　黒褐　シルト質極細砂　φ～3cmの焼土・炭化物各30～40%含む
84. 10YR4/3　にぶい黄褐　中砂～粗砂　軟質
85. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂　φ～1cmの焼土3%含む　10YR7/3にぶい黄橙色ブロック含む
86. 10YR7/3　にぶい黄橙　粘土～シルト
87. 10YR3/4　暗褐　極細砂～細砂　地山との漸移層

３区　東壁

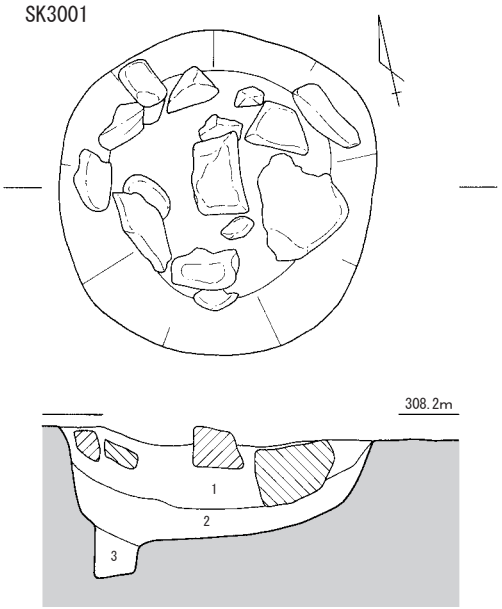


1. 10YR2/2　黒褐　粗砂～中礫質極細砂～細砂（中礫15%含む）
二次的に移動した焼土・炭化物ブロック（φ～3cm）20%含む　やや軟質
2. 10YR1.7/1　黒　細礫～中礫質極細砂　二次的に移動した焼土・炭化物（φ～5cm）20%含む
3. 10YR4/2　灰黄褐　粗砂～細礫混シルト質極細砂（細礫15%含む）
4. 焼土層　3層付近は7.5YR2/1黒色、下部には5YR4/6赤褐色の被熱
なお、3・4の下層との境には5mm厚の炭層堆積
5. 2.5Y3/1　黒褐　中礫混極粗砂～細礫質細砂～中砂（中礫10%含む）
上方にはφ～8cmの焼土・炭化物中心に30%
下方にはφ～1cmまでの焼土・炭化物粒15%含む　やや軟質
6. 5YR4/6　赤褐　二次的に移動した焼土・炭化物層
7. 10YR4/2　灰黄褐　細礫～中礫混シルト質極細砂
8. 10YR4.5/2　灰黄褐　細礫混中砂質シルト　粘性あり　褐鉄沈着
9. 10YR5/3　にぶい黄褐　細礫～中礫混中砂～粗砂質シルト　しまり良い
10. 2.5Y3/1　黒褐　細礫～中礫質極細砂～細砂（細礫10%、中礫10%含む）
φ～1cmの焼土・炭化物粒3%含む　斑点状に褐鉄沈着
層中央に筋状に10YR5/6黄褐色粗砂～細礫質シルトブロック含む
11. 10YR5/6　黄褐　極粗砂混シルト質極細砂　整地層　しまり良い
層下部の一部に2～3mm厚の粗砂～細礫層あり
12. 10YR3/1　黒褐　細礫～中礫混シルト質極細砂（細礫・中礫3～5%含む）
φ～1cmの焼土・炭化物粒10%含む
13. 10YR2/2　黒褐　細礫～中礫混シルト質極細砂（細礫・中礫1%含む）
φ～1cmの焼土・炭化物粒25～30%含む
14. 10YR4/3　にぶい黄褐　細礫混中砂質シルト　下部に二次的に移動した焼土・炭層を部分的に含む
15. 10YR3/1　黒褐　細礫質極細砂～中砂　φ～5mmの焼土・炭化物粒2%含む　軟質
16. 10YR3/1　黒褐　細礫～中礫混中砂～粗砂質極細砂
φ～1cmの焼土・炭化物粒10%含む　やや軟質
17. 10YR3/1　黒褐　細礫質シルト　粘性あり
18. 10YR2/1　黒　シルト　17層との境に褐鉄沈着



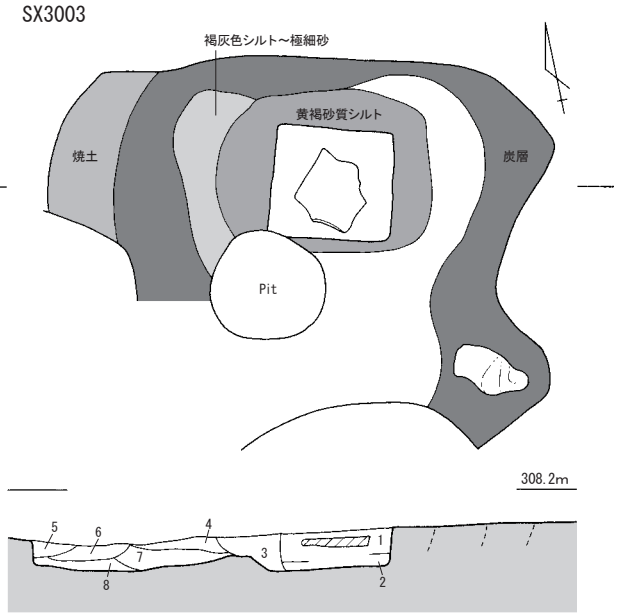
３・４区第１面・第２面・第３面平面図

SK3001



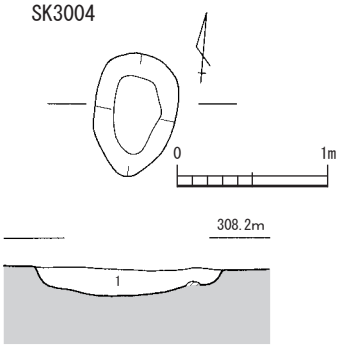
1. 10YR4/3 にぶい黄褐 砂質シルト 明黄褐色粘土のブロックを多く含む
2. 10YR3/1 黒褐 細礫～中礫質シルト しまり良い
φ～1cmの焼土・炭化物含む
3. 10YR3/2 黒褐 中砂～粗砂質シルト（細礫わずかに含む）

SX3003



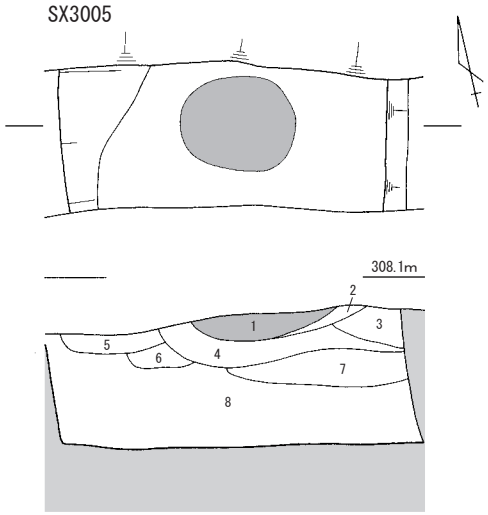
1. 10YR4/2 灰黄褐 中砂～粗砂質シルト（微細な炭化物粒多く含む）灰層
2. 10YR3.7/2 灰黄褐 極細砂～中砂 灰層
3. 10YR4/3 にぶい黄褐 粗砂～細礫質シルト（φ～1cmの焼土・炭化物粒10～15%含む）－炉壁か
4. 7.5YR3/2 黒褐 中砂～粗砂質極細砂
5. 7.5YR3/1 黒褐 中砂質シルト
6. 7.5YR3/2 黒褐 シルト 表面は10YR4/8赤褐色
7. 10YR4/4 褐 中砂～粗砂質極細砂（細礫わずかに含む 4層をブロック状に含む）炉基礎
8. 10YR3/2 黒褐 シルト質極細砂

SK3004



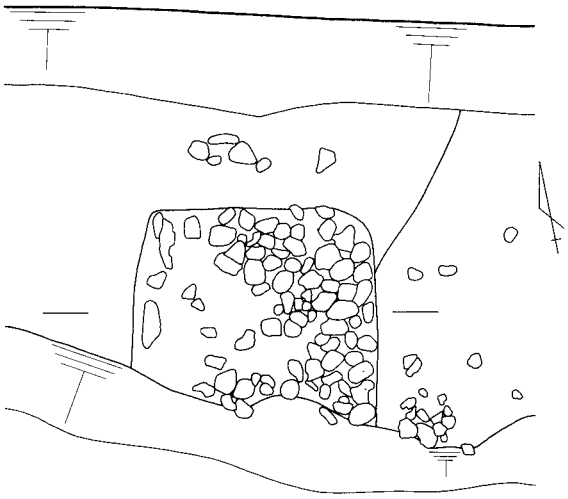
1. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質砂
φ3cm以下の礫を含む 微小な焼土・炭粒を多く含む

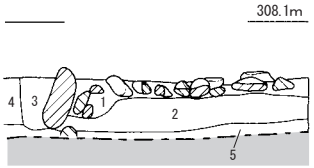
SX3005



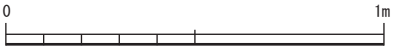
1. 5YR4/4 にぶい赤褐 細礫混シルト（被熱部分の焼土）
2. 10YR3/1 黒褐 粗砂～細礫質極細砂（焼土含まず 炭化物を含み、黒色化）
3. 10YR5/4 にぶい黄褐 細礫混シルト質極細砂（焼土・炭化物粒20%含む）
撹乱付近上面は5YR4/4にぶい赤褐色に赤変 被熱か
4. 10YR2/1 黒 極粗砂混極細砂 灰層・層下部は炭層（厚2cmがある）
被熱して赤変した炉ベース土（5or6層）をわずかに含む
巻き上げ?
5. 10YR5/6 黄褐 細礫～中礫混シルト質極細砂（しまり良い） 炉ベース土
6. 10YR5/4 にぶい黄褐 粗砂～細礫混シルト質極細砂 しまり良い
一部7層に似た土を含む
7. 10YR3/2 黒褐 シルト質極細砂 層上部に10YR6/6明黄褐色土粒状に含む
層下部では炭層・灰層を互層に帯状に広がる
焼土は含まない やや軟質
8. 10YR3/1 黒褐 細礫・中礫混中砂～粗砂質極細砂
層下部では焼土・炭化物ブロックを15%含む
やや軟質 第1ベース土

SX3007

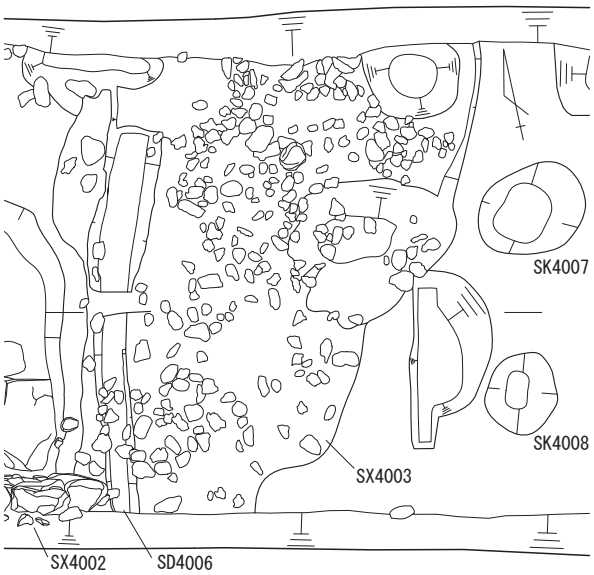




1. 10YR3/1 黒褐 粗砂～細礫質細砂～中砂（中礫φ5～8cm多量に含む） 礫敷
2. 10YR4/1 褐灰 細礫混シルト質極細砂
3. 10YR4/3 にぶい黄褐 粗砂～細礫混シルト質極細砂 しまり良い 立石の裏込めか
4. 10YR3/1 黒褐 細礫混シルト質極細砂 二次的移動した焼土・炭化物粒20%含む － 1面ベース
5. 10YR3/2 黒褐 極細砂質シルト － 2面ベース

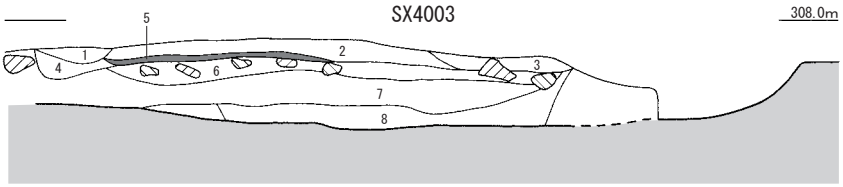


３・４区遺構平面図・断面図（1）



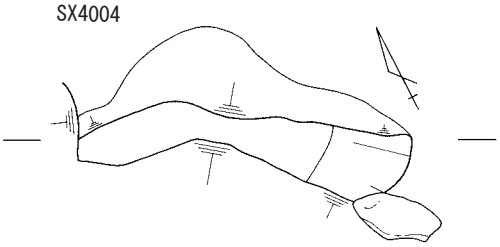
0 2m

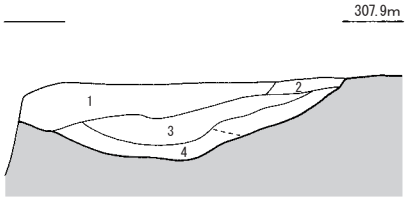
SX4003



1. 10YR3/2 黒褐 砂混じりシルト 微小な焼土・炭粒を含む
2. 5YR5/6 明赤褐 砂質シルト
二次的に移動したブロック状の焼土が密に詰まっている
3. 7.5YR3/4 暗褐 シルト混砂 極細～細砂 微小な焼土・炭粒を多く含む
4. 7.5YR4/3 褐 極細砂～シルト 微小な焼土・炭粒を多く含む
5. 炭層
6. 10YR4/3 にぶい黄褐 極粗砂～中礫 礫敷で上面はしっかり叩く
7. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質極細砂
8. 10YR3/1 黒褐 細礫混シルト質極細砂 微小な焼土・炭化物粒含む

SX4004

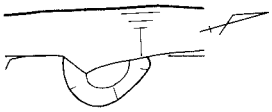


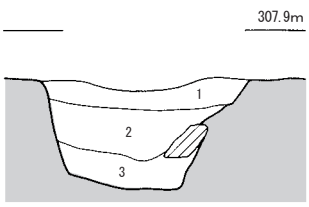


1. 10YR3/3 暗褐 シルト質極細砂 粗砂・中礫わずかに含む 灰・炭含む
二次的に移動した焼土
2. 7.5YR3/3 暗褐 シルト質極細砂 細礫わずかに含む 焼土層
3. 10YR5.5/2 灰黄褐 中砂質シルト 細礫わずかに含む
φ5mm以下の炭粒をわずかに含む 灰層
4. 7.5YR4/4 褐 中砂質シルト 炉の基底部 5YR5/6明赤褐色 破線より上は明色

0 1m

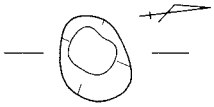
SK4005

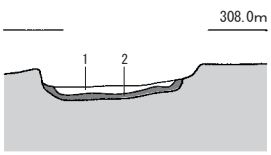




1. 10YR3/2 黒褐 中砂～粗砂質極細砂
（中礫わずかに含む 微小な焼土・炭化物粒わずかに含む）
2. 10YR3/1 黒褐 シルト質極細砂
10YR5/4にぶい黄褐色中砂～粗砂をブロック状に含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂～中砂（粗砂）

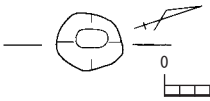
SK4007



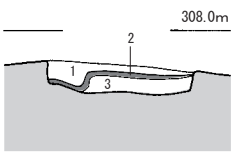


1. 7.5YR5/6 明褐 シルト質砂
φ1cm以下の焼土片を極多量に含む
2. 炭層

SK4008



0 1m

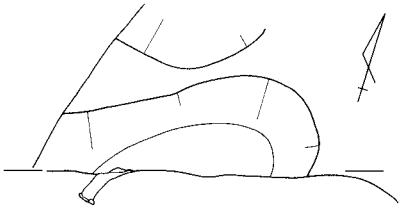


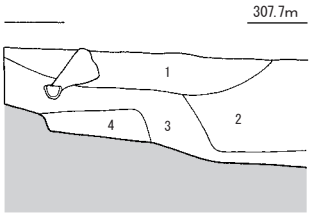
1. 7.5YR5/6 明褐 シルト質砂 φ1cm以下の焼土片を極多量に含む
2. 炭層
3. 7.5YR4/2 灰褐 砂質シルト 灰を多く含むと思われる

0 1m

３・４区遺構平面図・断面図（2）

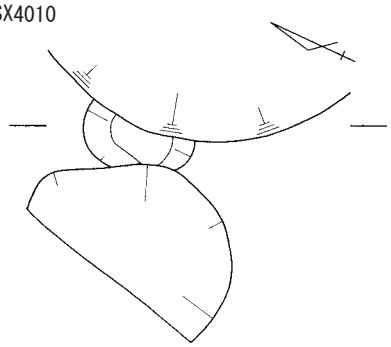
SK4009

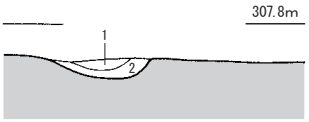




1. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂　中礫わずかに含む
二次的に移動した焼土・炭化物30%含む
2. 10YR3/1　黒褐　シルト質極細砂　中礫わずかに含む
二次的に移動した焼土・炭化物（φ～2cm）15%含む
灰白色粘土ブロック5%含む
3. 10YR4/2　灰黄褐　中砂質シルト～極細砂　やや軟質　焼土・炭化物5%含む
4. 10YR2/1　黒　シルト

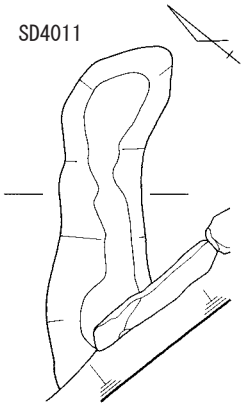
SX4010

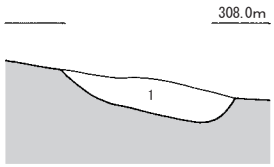




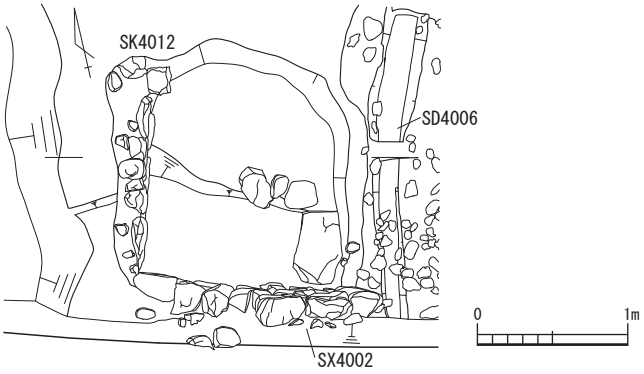
1. 10YR8/1　灰白　粘土～シルト　灰
2. 10YR5/3　にぶい黄褐　細礫質シルト　細礫はごくわずかに混じる程度
灰層付近は被熱して7.5YR3/2黒褐色に変色

SD4011

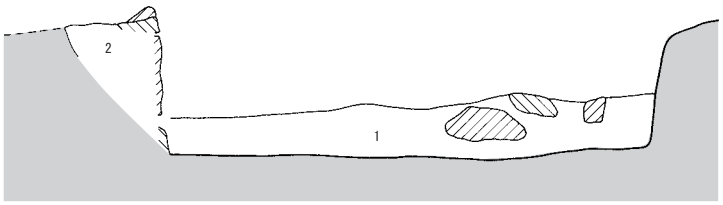




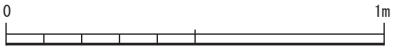
1. 7.5YR5/4　にぶい褐　細礫～大礫質極細砂



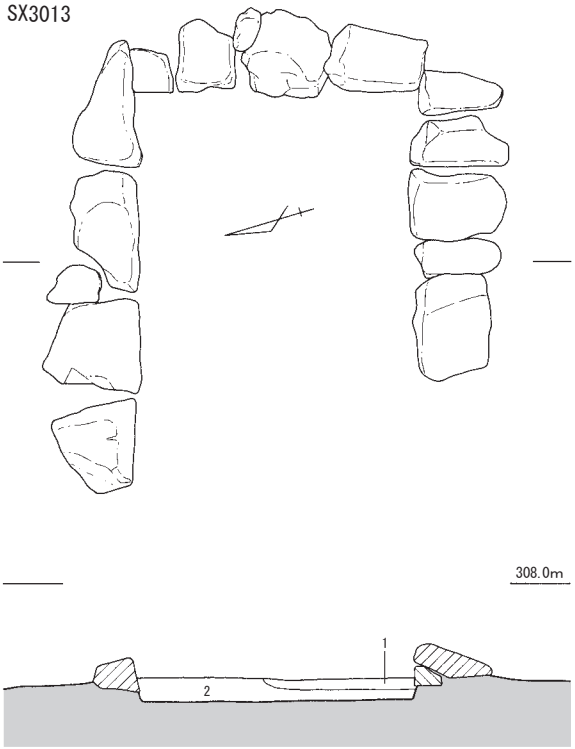
SK4012



1. 10YR4/3　にぶい黄褐　細礫～大礫混極細砂～細砂　炭化物粒1%含む
2. 10YR6/8　明黄褐　粗砂～細礫混シルト質極細砂　中礫わずかに含む　しまり良い

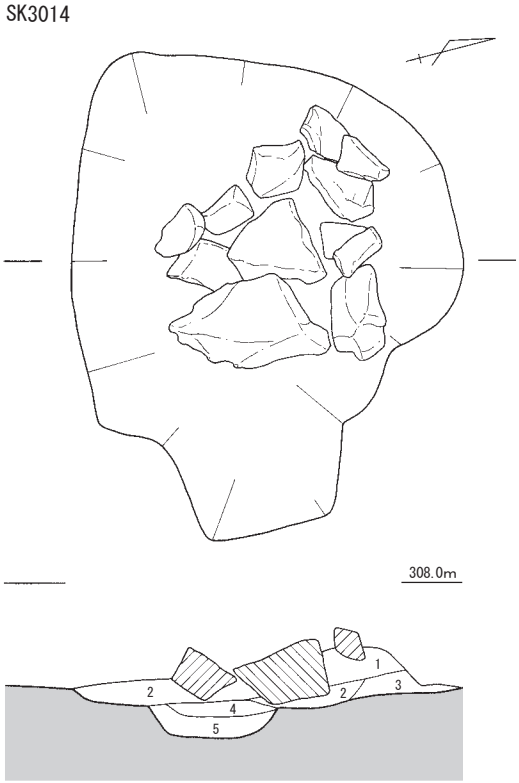


SX3013



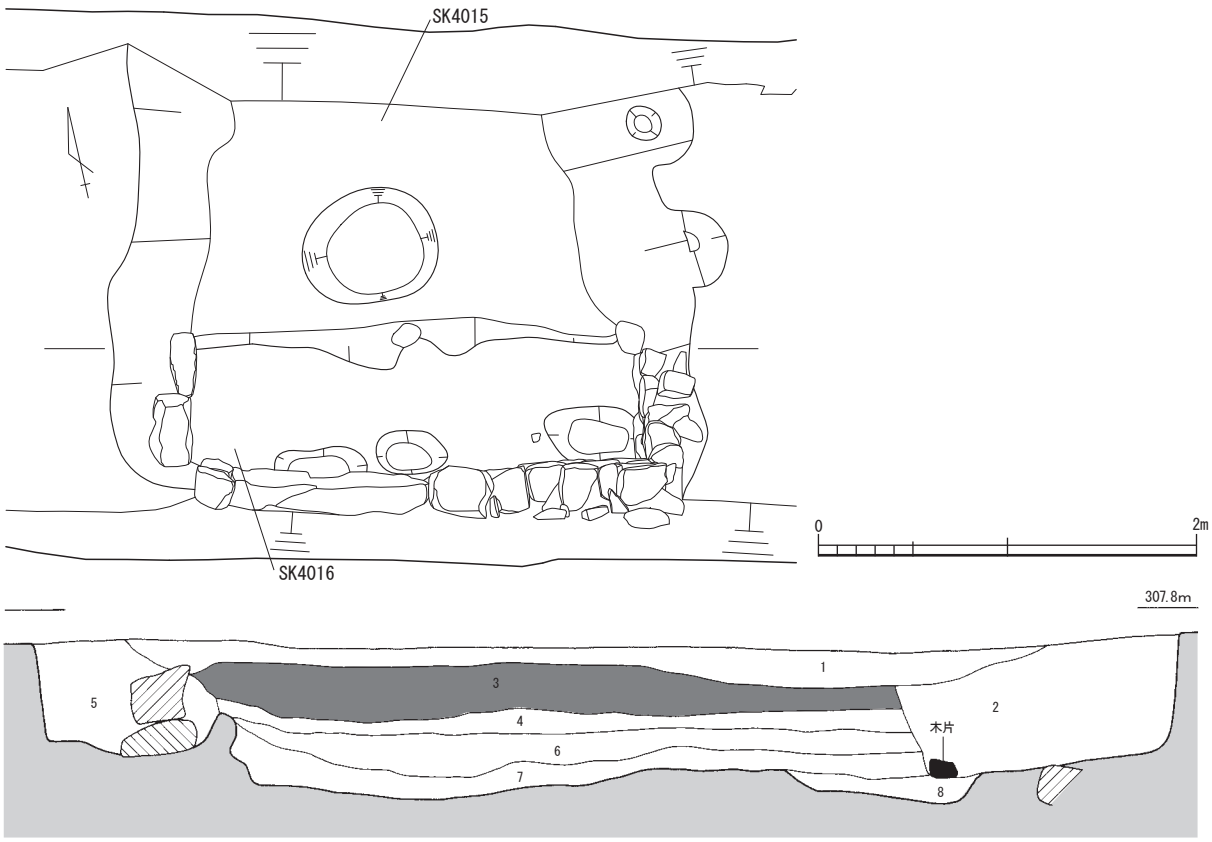
1. 10YR3/1　黒褐　シルト質極細砂　層上部に焼土・炭化物粒わずかに含む
2. 10YR3/1　黒褐　中礫混シルト質極細砂　焼土・炭化物粒（φ～5mm）30%含む

SK3014



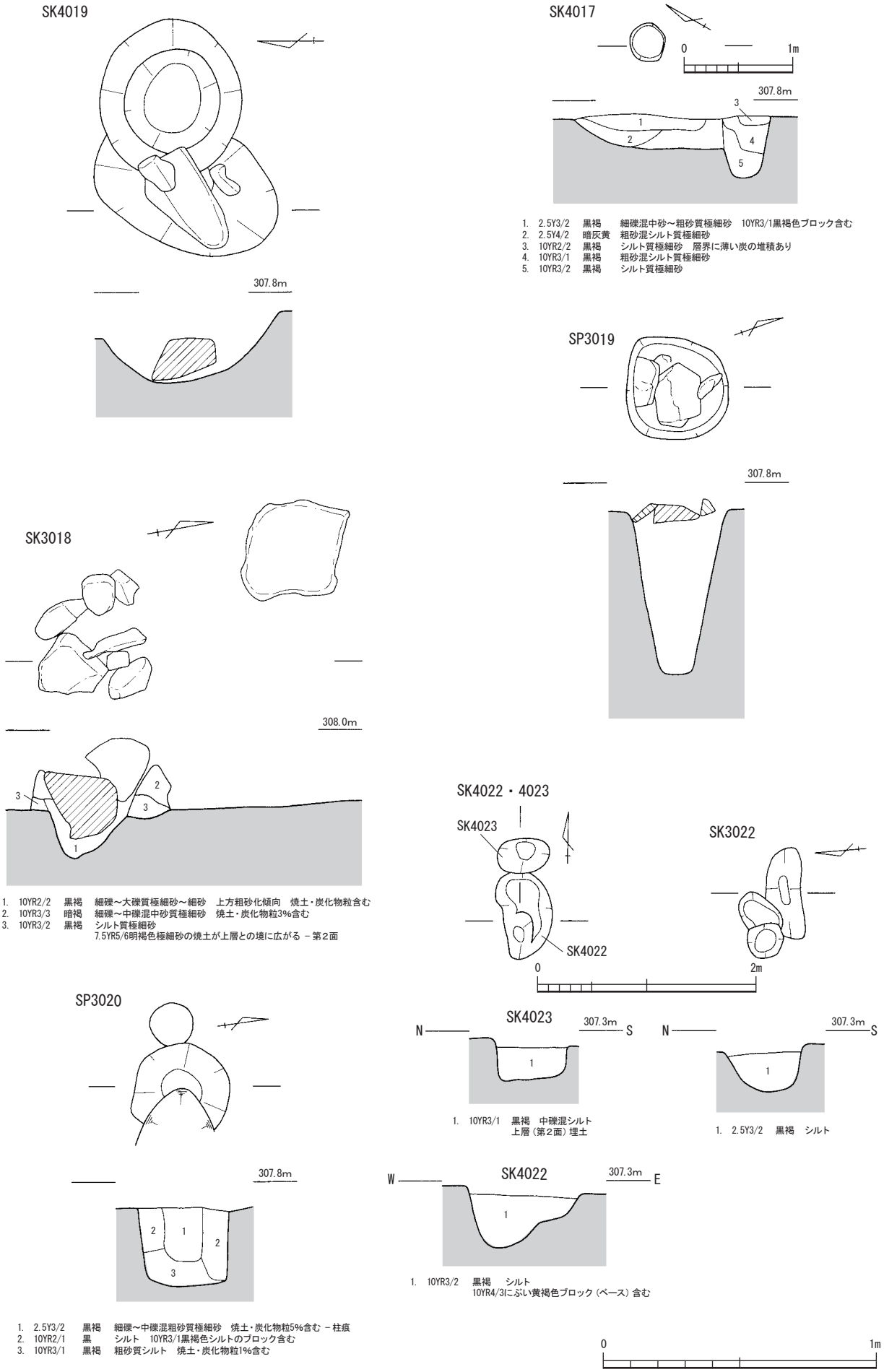
1. 10YR3/1　黒褐　粗砂混シルト質極細砂（大礫max40cmを含む　粘性あり）
2. 7.5YR4/4　褐　粗砂混極細砂　二次的に移動した焼土・炭化物多量に含む
3. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂
4. 10YR4/2　灰黄褐　細礫～中礫質極細砂　上部に筋状の炭層
下部は被熱して赤変
5. 10YR4/2　灰黄褐　中砂～極粗砂質極細砂

SK4016

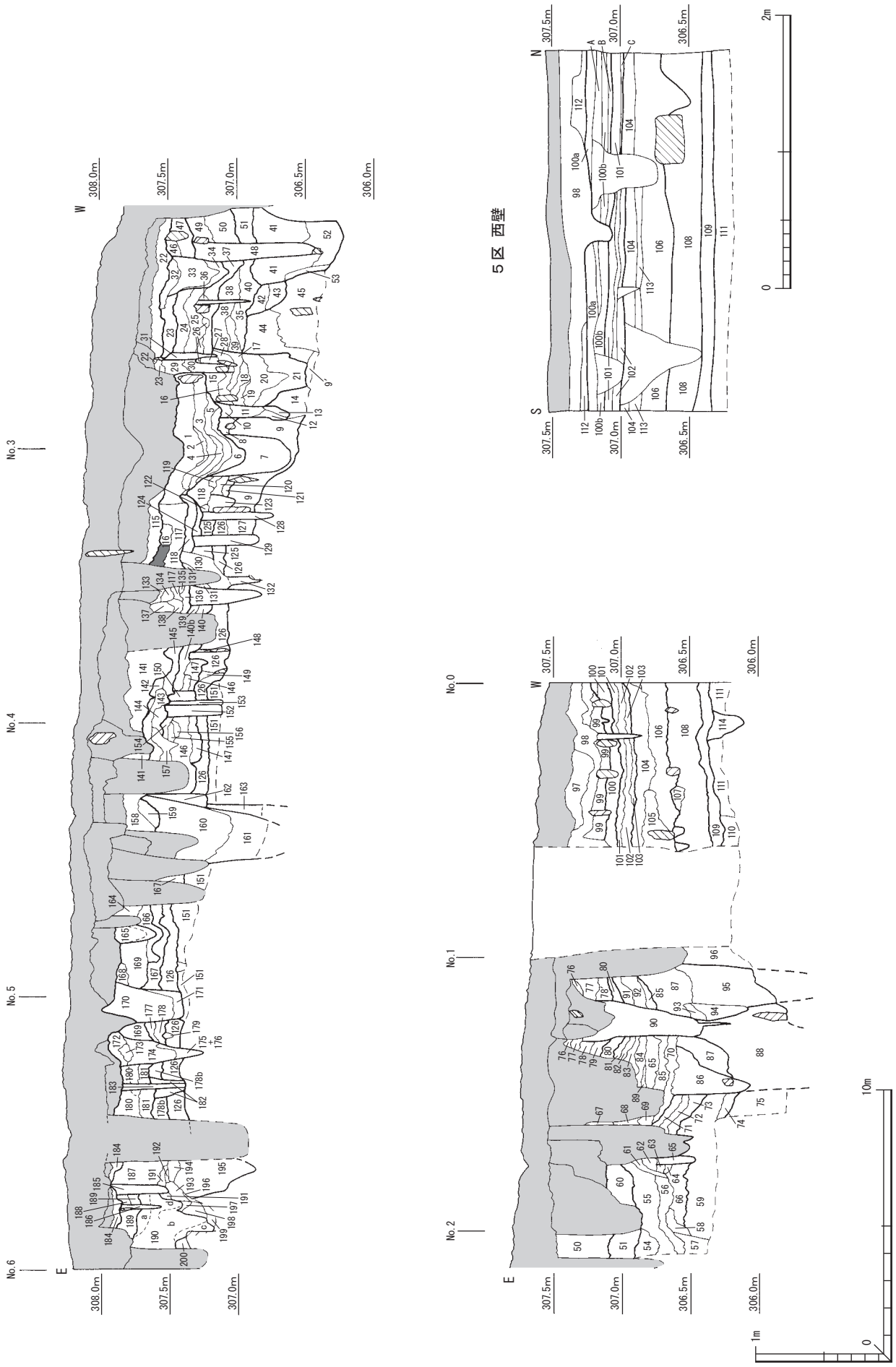


1. 10YR3/2　黒褐　細礫～中礫質極細砂　焼土・炭化物粒10%含む
2. 10YR3/1　黒褐　細礫～大礫質極細砂　大礫多量に含む　焼土・炭化物・木片を多く含む
3. 炭層　灰層・焼土層をラミナ状に含む
4. 10YR3/1　黒褐　細礫～中礫混粗砂質極細砂　焼土・炭化物粒わずかに含む
5. 10YR3/1　黒褐　大礫混中砂質シルト　焼土・炭化物粒10%含む
6. 10YR4/3　にぶい黄褐　細礫～中礫質細砂～中砂　炭化物粒10%含む
7. 7.5YR5/6　明褐　細礫～中礫質粒土　層上部および東は炭層となる
8. 10YR2.7/1　黒褐　細礫混シルト質極細砂　焼土・炭化物粒20%含む

３・４区遺構平面図・断面図（4）



３・４区遺構平面図・断面図（5）

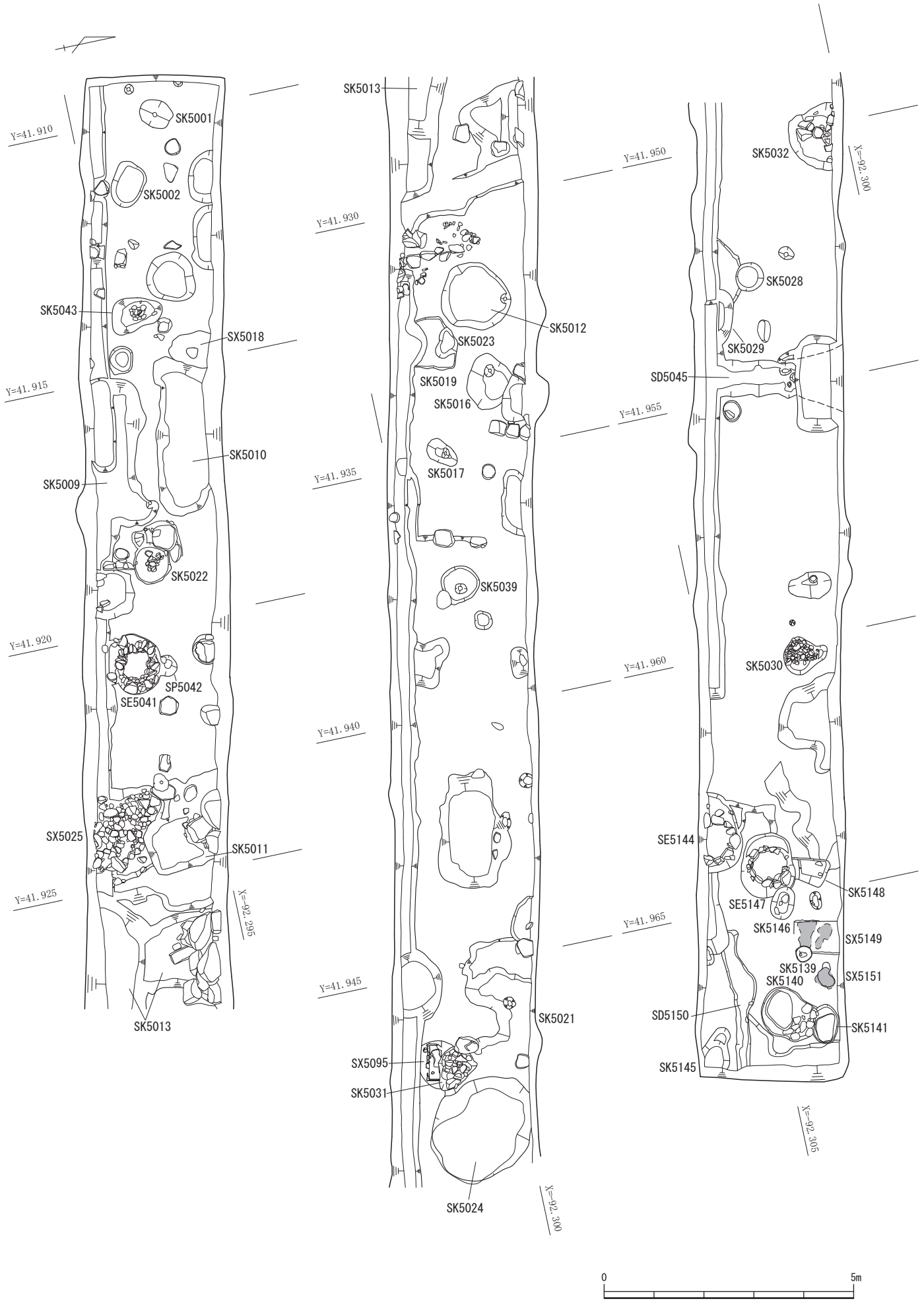


5区南壁・西壁地層断面図

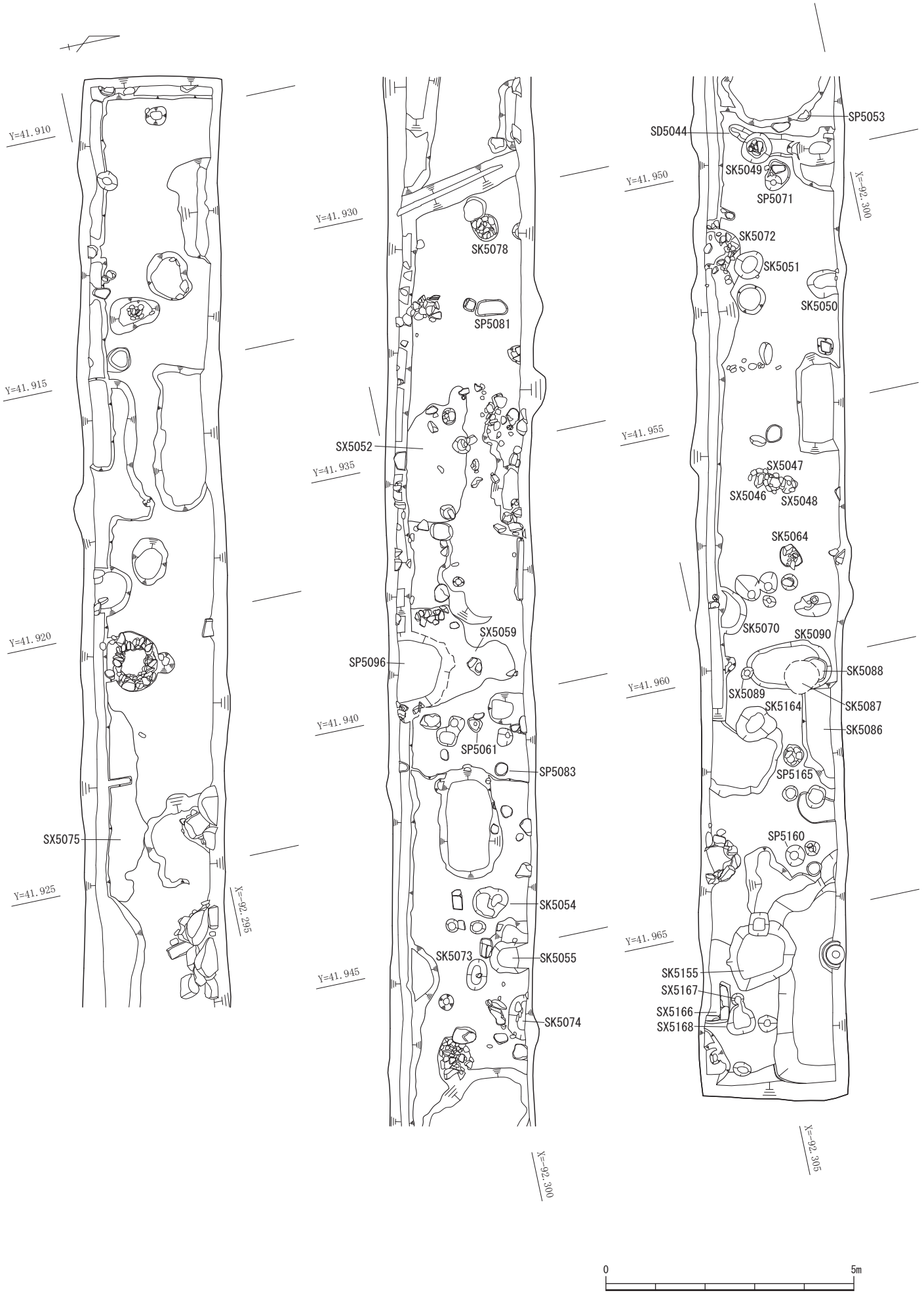
図版 25

5区南壁・西壁地層断面図地層名記載

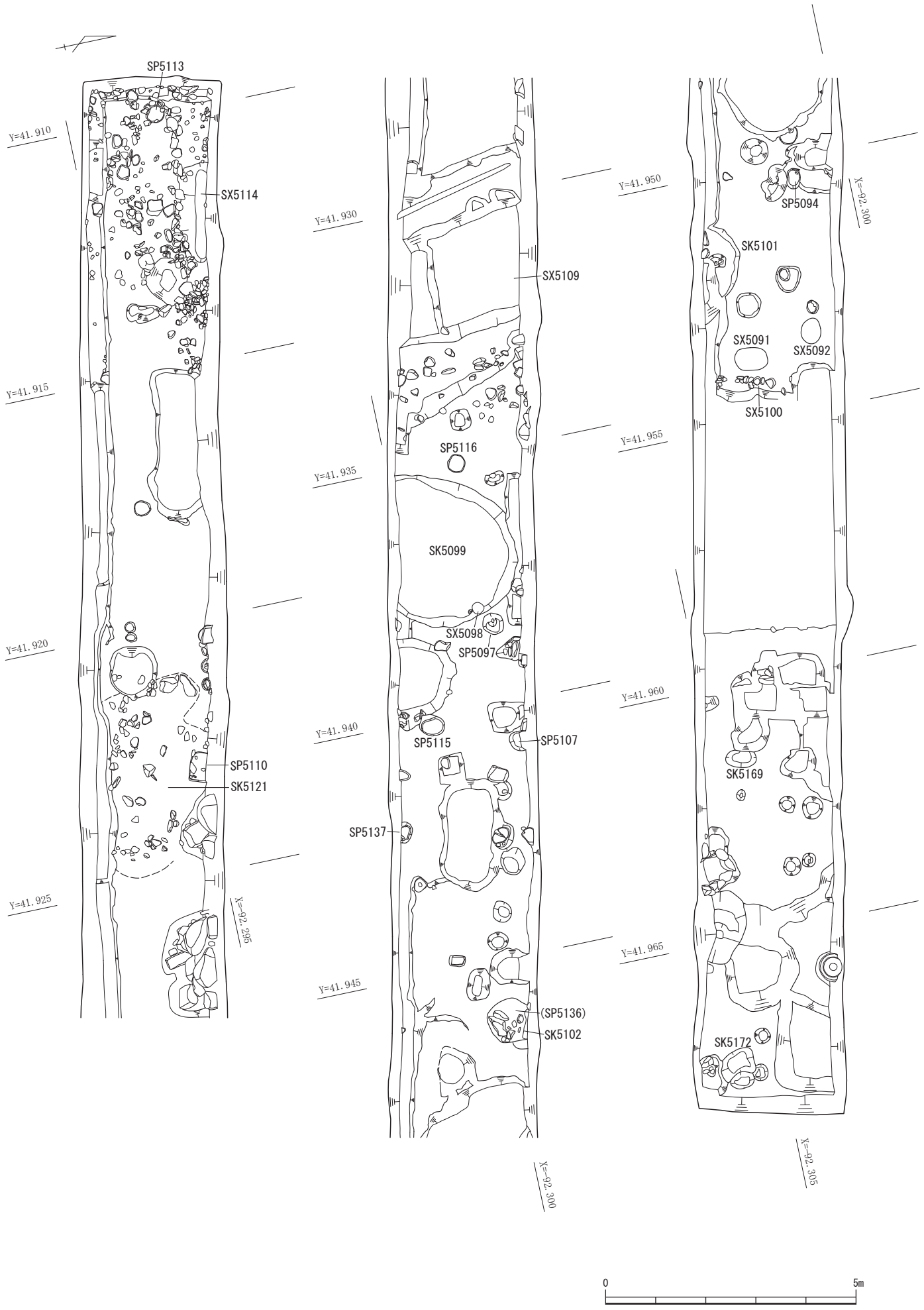
1.		5YR6/8橙色～5YR5/8明赤褐色の密な焼土ブロック層　ブロックはφ1～10cm マトリックスに多量の炭粒φ1～3cmを含む 東側の立ち上がり面は5YR3/2暗赤褐色に被熱変色している　この上面が第1検出面	
2.	10YR5/4　にぶい黄褐	細砂～中砂　シルト質を含まないサラサラの砂	
3.	10YR3/1　黒褐	砂質シルト　φ1～10cmの礫を散漫に含む　指頭大以下の焼土・炭粒を含む 人為的な整地土と思われるが、土壌化が進行している	
4.	10YR4/3　にぶい黄褐	砂質シルト　φ1～数cmの礫を散漫に含む φ1cm以下の黄褐～明黄褐色シルト～粘土ブロックを散漫に含む　人為	
5.	10YR3/3　暗褐	シルト混細砂～中砂　φ1～数cmの礫をわずかに含む 炭化物粒をわずかに含む　人為土と思われる	
6.	10YR4/2　灰黄褐	砂質シルト　φ数cm以下の礫をわずかに含む　10YR5/4にぶい黄褐色粘土～シルトの 指頭大ブロックを含む　人為土と思われる	
7.	10YR2/3　黒褐	シルト質砂　φ1cm以下の礫を多く含む　10YR5/4にぶい黄褐色シルト～粘土のφ2cm以下の ブロックを含む　φ1cm以下の焼土片・炭粒を含む　スラグを少々含む SX5059下部の埋土である	
8.	7.5YR3/2 黒褐	砂質シルト　黄白色粘土片・焼土片・炭粒を含む整地層	
9.	10YR2/1　黒	砂質シルト　拳大以下の礫を部分的に含む　いわゆる「クロボク」	
9'.	7.5YR2/1 黒	砂混じりシルト　粗砂粒を含む　礫敷面直上を被う土	
10.	2.5Y2/1　黒	砂質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをレンズ状にはさむ 人為と思われる	┐
11.	10YR3/3　暗褐	シルト質砂　φ1cm以下の礫を含む　しまりの悪い人為埋土	├ 土坑埋土
12.	10YR4/6　褐	シルト質砂　焼土片・炭粒を少量含む　しまりの悪い人為埋土	├
13.	10YR1.7/1 黒	炭層　φ1cm以下の焼土片を少量含む　ほとんど炭の人為埋土	┘
14.	10YR2/2　黒褐	砂質シルト　拳大以下の礫を多量に含む　人為と思われる	
15.	10YR4/2　灰黄褐	砂質シルト　拳大以下の礫を多量に含む　人為	┐
16.	10YR3/3　暗褐	シルト混極細砂～細砂　φ1cm以下の焼土片・黄褐色シルト粒を含む φ5cm以下の礫を含む　人為土	
17.	10YR3/3　暗褐	シルト質細砂～粗砂　φ3cm以下の礫を少量含む　明黄褐色の細砂～中砂の レンズ層をはさむ　炭化物粒を含む　人為土	├ 土坑埋土
18.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂～細砂　φ1cm以下の礫・炭粒を含む　人為土	
19.	10YR2/2　黒褐	シルト質細砂～粗砂　上面に灰白色のシルト薄層　φ1cm以下の炭粒を多く含む	
20.	7.5YR3/2 黒褐	シルト質極細砂～粗砂　拳大以下の礫を多く含む φ1cm以下の焼土片・炭粒を多く含む　人為埋土	
21.	7.5YR3/2 黒褐	シルト質極細砂～細砂　含まれるものは20層と同じ　人為埋土	┘
22.	10YR3/3　暗褐	シルト混粗砂　拳大以下の礫を含む　φ1cm以下の焼土片・炭粒を含む　人為土	
23.	7.5YR3/2 黒褐	砂質シルト　φ1cm以下の礫を含む　焼土・炭の薄層とサンドイッチ状をなす　人為土	
24.	10YR4/2　灰黄褐	シルト混中砂～粗砂　φ2cm以下の極粗砂・礫を含み、一部では黄白色粘土の薄層をはさむ 人為土	
25.	7.5YR3/3 暗褐	シルト質極細砂～細砂　φ1cm以下の礫を多く含む　φ1cm以下の焼土片・炭を多量に含む　人為土	
26.	5YR5/6　明赤褐	砂質シルトの焼土　強く固化しており、下底に厚さ1cm以下の炭の薄層が見られる	
27.	10YR4/2　灰黄褐	砂質シルト　φ3cm以下の礫～極粗粒砂を含む　φ1cm以下の炭・焼土をわずかに含む　人為土	
28.	10YR4/3　にぶい黄褐	砂質シルト　一部でFeが集積している	
29.	10YR4/3　にぶい黄褐	砂質シルト　φ2cm以下の礫を多く含む　人為土	
30.	7.5YR4/3 褐	シルト質極細砂　φ1cm以下の焼土片・炭を多量に含む　人為土	
31.	10YR4/3　にぶい黄褐	シルト質細砂～粗砂　φ3cm以下の炭粒・φ1cm以下の焼土片を多く含む　人為土	
32.	7.5YR3/2 黒褐	シルト質砂礫　礫はφ3cm以下主体　マトリックスはシルト混細砂～粗砂　人為土	
33.	10YR3/2　黒褐	シルト混極細砂～中砂　φ3cm以下の礫・黄褐色粘土・スラグを含む　人為埋土	
34.	7.5YR5/4 にぶい褐	粘土　人為的に土坑底に貼られたもの	
35.	5YR3/2　暗赤褐	砂質シルト　φ1cm以下の焼土片・炭粒を多量に含む　柱穴埋土	
36.		35層とほぼ同じだが、炭粒が少ない	
37.		27層と同じ層	
38.	10YR2/2　黒褐	シルト混砂礫　礫はφ3cm以下主体　マトリックスはシルト混細砂～極粗砂　人為土と思われる	
39.	10YR3/2　黒褐	シルト混極細砂　微小な炭粒含む　自然層か?	
40.	10YR2/2　黒褐	シルト質砂礫　礫は拳大以下　マトリックスはシルト混極細砂～粗砂　人為土と思われる	
41.	10YR3/1　黒褐	礫混砂質シルト　拳大以下の礫を多く含む　マトリックスは淘汰の悪い砂質シルト　人為土	
42.	10YR3/2　黒褐	砂質シルト　φ3cm以下の礫をわずかに含む　微小な焼土片を散漫に含む　人為土	
43.	5YR4/4　にぶい赤褐	砂質シルト　基底に炭の薄層がある　二次的に移動した焼土と思われる 一部は固化している　人為土	
44.	10YR2/1　黒	砂質シルト　φ2cm以下の礫を多く含む	
45.	10YR2/1　黒	砂質シルト　φ1cm以下の礫を散漫に含む	
46.	10YR4/2　灰黄褐	シルト質粗砂～砂礫　礫はφ2cm以下が主体　人為土	
47.	10YR4/3　にぶい黄褐	砂質シルト　7.5YR2/2黒褐色砂混じりシルトをサンドイッチ状にはさむ φ1cm以下の礫を多く含む　人為土	
48.	2.5Y3/2　黒褐	礫混砂質シルト　礫は拳大以下が主体　カラミも含む　撹乱内埋土	
49.	10YR3/2　黒褐	砂質シルト　下部を中心にφ1cm以下の礫を多く含む　φ1cm以下の炭粒・焼土片を含む　人為土	
50.	10YR4/1　褐灰	シルト混砂礫　礫はφ5cm以下主体だが、ボルダー級の巨大なカラミを含む　人為土	
51.	2.5Y2/1　黒	シルト混細砂～中砂　φ5cm以下の礫を含む　木片を多く含む　人為土	
52.	2.5Y3/1　黒褐	砂質シルト　φ1cm以下の礫～極粗砂を含む	┐
53.	10YR4/2　灰黄褐	シルト混礫層　礫はφ3cm以下主体　焼土片を含む　しまりは悪い	├ 土坑埋土（撹乱?）
54.	10YR3/2　黒褐	砂質シルト　φ1cm以下の礫を含む	
55.	10YR4/2　灰黄褐	シルト質細砂　木片を多く含む　51層に酷似する　人為土	
56.	10YR3/3　暗褐	シルト混砂礫　礫はφ1cm以下主体　マトリックスはシルト質の細砂～粗砂	
57.	2.5Y3/1　黒褐	シルト質細砂　φ5cm以下以下の礫をわずかに含む	
58.	10YR2/3　黒褐	シルト混極細砂～細砂　φ3cm以下の礫をわずかに含む	
59.	10YR2/1　黒	シルト質極細砂～細砂　いわゆるクロボク層　自然層	
60.		51層と同じ層	
61.	10YR2/3　黒褐	シルト質極細砂　木片を多く含む	┐
62.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂～細砂　下底部は2～3cm厚の10YR4/4褐色粘土	├ 自然堆積か?
63.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂～細砂	
64.	2.5Y5/3　黄褐	極細砂～細砂　人為土	
65.	2.5Y3/2　黒褐	極細砂～細砂　柱穴埋土	
66.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂	
67.	10YR3/3　暗褐	シルト質極細砂　φ1cm以下の炭粒を多く含む　人為土	
68.		61層とほぼ同じ層相　同一層と考える	
69.	2.5Y3/2　黒褐	砂質シルト　7.5YR6/3にぶい褐色粘土（焼土片）を多量に含む	
70.	2.5Y3/3　暗オリーブ褐	シルト質極細砂～細砂と10YR5/6黄褐色砂～粘土のブロック状　人為土	
71.	10YR4/2　灰黄褐	シルト質極細砂～細砂　10YR2/1黒色シルト質極細砂を下半部でブロック状に含む	
72.	2.5Y5/2　暗灰黄	細砂～中砂　比較的ピュアな砂　人為土	
73.	10YR3/1　黒褐	砂質シルト～砂混じりシルト	
74.	7.5YR2/1　黒	砂質シルト　φ3cm以下の礫を多量に含む（礫敷層）　下底部でFe集積	
75.	10YR4/6　褐	砂混じりシルト　上部はやや土壌化し、漸移的に10YR2/3黒褐色となる	
76.	10YR4/4　褐	シルト混細砂～粗砂　φ1cm以下の焼土片を含む　人為土	
77.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂～細砂　φ5mm以下の礫を含む　φ1cm以下の炭粒を多く含む　人為土	
78.	7.5YR3/2 黒褐	シルト混極細砂～細砂　φ1cm以下の礫を少し含む　焼土片・炭を極多量に含む　人為土	
78'		層相は78層と同じだが、下底に厚3cm以下の炭層が見られる	
79.	7.5YR4/2 灰褐	シルト質細砂～粗砂　φ1cm以下の礫を含む　人為土	
80.	10YR4/3　にぶい黄褐	砂礫　礫はφ3cm以下が主体　マトリックスは粗砂～極粗砂　人為土	
81.	7.5YR2/1 黒	砂質シルト　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に含む　人為土	
82.	10YR4/3　にぶい黄褐	細砂～粗砂　人為土	
83.	10YR4/2　灰黄褐	シルト質細砂～粗砂　炭の薄層をはさむ（一部）　人為土	
84.	7.5YR2/2 黒褐	シルト質極細砂～細砂　φ1cm以下の焼土片・炭粒を多く含む	
85.	10YR4/3　にぶい黄褐	シルト質極細砂～細砂	
86.	10YR3/3　暗褐	砂質シルト　φ1cm以下の焼土片・炭粒を散漫に含むほか、ボルダー級までの礫を含む　土坑埋土	
87.	7.5YR3/3 暗褐	砂質シルト　φ2cm以下の焼土片・炭粒を多く含む　土坑埋土	
88.	10YR4/2　灰黄褐	砂質シルト　φ3cm以下の焼土ブロック・炭粒を多く含む　局部的にボルダー礫が集中　土坑埋土	
89.	10YR3/3　暗褐	砂質シルト	
90.	10YR3/4　暗褐	砂質シルト　φ2cm以下の礫を含む　φ3cm以下の焼土片・炭粒を含む　人為土	
91.	10YR4/2　灰黄褐	シルト質砂　φ2cm以下の礫を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトの薄層をはさむ 下底部に薄い炭層　91・92層は時間間隙のない一連の整地層の可能性あり	
92.	10YR5/3　にぶい黄褐	シルト混細砂～中砂　10YR3/2黒褐色砂質シルトをブロック状に含むほか、 一部では縞状に含む　φ2cm以下の礫を含む　人為土	
93.	10YR4/4　褐	中砂～粗砂　比較的均質な砂層　人為土?	
94.	10YR3/1　黒褐	粘土～シルト　これ自体が大きなブロックと思われる	
95.	10YR3/2　黒褐	砂質シルト　φ3cm以下を主体に拳大までの礫を多く含む φ2cm以下の黄白色粘土のブロックを含む　微小な焼土片を多く含む　土坑埋土	
96.	10YR3/2　黒褐	砂混じりシルト　φ5mm以下の礫を散漫に含む　いわゆるクロボク層　自然層	
97.	10YR3/1　黒褐	シルト混細砂～粗砂　φ5cm以下の礫を含む　φ1cm以下の焼土片・炭を多く含む　人為土	
98.	10YR2/3　黒褐	シルト質砂　φ5cm以下の礫を含む　φ1cm以下の焼土片・炭を多く含む　人為土	
99.	7.5YR5/6　明褐	シルト～極細砂　φ1～数cm以下の焼土を極多量に含む整地層 下底に厚4cm以下の炭層が見られる点から、78'層と同一層と見られる 但し、焼土の量は圧倒的に多い	
100.	10YR6/6　明黄褐	砂混じりシルト～砂質シルト　10YR3/2黒褐色砂質シルトの薄層をはさむ あるいは上下にこの薄層が見られる（縞状）　92層と同一層と考えられる　人為土	
101.	10YR3/3　暗褐	シルト質極細砂　φ1cm以下の焼土片を局所的に含む　土壌化している　この上面が第1検出面 自然層?人為土?	
102.	7.5YR3/2 黒褐	シルト質砂　一部に焼土の薄層をはさむ　全体に微小な焼土・炭を含む　人為土	
103.	7.5YR4/6 褐	シルト質極細砂　焼土片（ブロック）で形成される層　人為土	
104.	7.5YR4/4 褐	シルト～極細砂　焼土片と炭で形成される整地層　上部3cmほどには10YR3/2黒褐色シルト質砂の 土壌が見られる点で103層と分離される　第2面は本層上面　人為土	
105.	7.5YR3/2 黒褐	砂質シルト　φ3cm以下の焼土片・炭を多く含む　人為土	
106.	7.5YR3/2 黒褐	中砂～極粗砂　拳大以下の礫を含み、特にφ2cm以下の礫を多く含む 微小な焼土片・炭を極多く含む　しまりの悪い人為土	
107.	10YR3/2　黒褐	砂質シルト　φ3cm以下の礫を多く含む	
108.	10YR2/2　黒褐	砂混じりシルト　拳大の礫を散漫に含むほか、1cm以下の礫を含む　クロボク層　自然層	
109.		石敷層　φ数cm～拳大の礫を主体に敷き均された層 10YR3/2黒褐色シルト質砂で充填されている　人為土	
110.		111層上部の土壌化が著しい部分	
111.	10YR3/4　暗褐	シルト質極細砂　φ5cm以下の礫を散漫に含む地山　自然層	
112.	10YR5/4　にぶい黄褐	砂質シルト　φ1cm以下の礫・粗砂を多く含む　人為土	
113.	10YR4/2　灰黄褐	シルト質極細砂　土壌化している	
114.	10YR5/3　にぶい黄褐	シルト　溝の埋土	
115.	10YR4/3　にぶい黄褐	シルト質砂　φ1cm以下の礫を含む　粗砂～極粗砂を多く含む　微小な焼土片・炭を含む　人為土	
116.	5YR4/8　赤褐	シルト～極細砂　図中のトーン部はほぼ炭のみ　二次的に敷き均された焼土層　人為土	
117.	10YR3/3　暗褐	砂質シルト　一部に2.5Y5/3黄褐色砂質シルトの薄層・ブロックを含む　人為土	
118.	10YR3/2　黒褐	砂質シルト　10YR7/2にぶい黄橙色シルトの薄層をはさむ　φ1cm以下の礫を含む 4層と同一層　人為土	
119.	7.5YR3/3 暗褐	シルト混極細砂～細砂　微小な焼土片を含む	
120.	7.5YR3/2 黒褐	シルト混極細砂～細砂　10YR5/4にぶい黄褐色細砂～中砂のブロックを含む φ5mm以下の焼土片・炭を含む　人為土	
121.	10YR3/2　黒褐	シルト混極細砂～細砂　φ5mm以下の礫を含む	
122.	5YR4/8　赤褐	シルト～極細砂　強く硬化した焼土	
123.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂～細砂　φ5mm以下の焼土片を多く含む　φ2cm以下の礫を含む　遺構埋土?	
124.	10YR3/3　暗褐	シルト質極細砂～細砂　φ1cm以下の礫を含む　φ5mm以下の炭を含む　人為土	
125.	10YR4/4　褐	細砂～中砂　均質な砂層　人為土	
126.	10YR3/2　黒褐	砂混じりシルト　φ数cm以下の礫を散漫に含む　9層上部に相当する	
127.	10YR1.7/1 黒	シルト質極細砂　φ5cm以下の礫を散漫に含む　9層下部に相当する	
128.	10YR4/2　灰黄褐	砂質シルト　粗砂～極粗砂を多く含む　φ3cm以下の礫を含む　柱穴埋土	
129.	10YR4/3　にぶい黄褐	砂質シルト　φ1cm以下の礫・粗砂～極粗砂を多く含む　柱穴埋土	
130.	10YR3/2　黒褐	シルト混細砂～粗砂　φ数cm以下の礫を含む　φ5mm以下の焼土片・炭を多く含む　人為土	
131.	2.5Y3/2　黒褐	シルト混細砂～粗砂　φ1cm以下の焼土片・炭を含む　人為土	
132.	7.5YR3/3 暗褐	シルト混極細砂～細砂　微小な焼土片・炭を含む　柱穴埋土	
133.	7.5YR3/2 黒褐	シルト混極細砂～細砂　φ1cm以下の焼土片・炭を多く含む　人為土	
134.	10YR3/2　黒褐	シルト混極細砂～細砂　φ1cm以下の礫を散漫に含む	
135.	10YR3/2　黒褐	砂質シルト　灰を多く含む	
136.	10YR2/2　黒褐	シルト混極細砂～細砂　φ1cm以下の焼土片・炭を多く含む　人為土	
137.	10YR3/1　黒褐	シルト質極細砂～細砂　10YR5/6黄褐色砂質シルトをレンズ状にはさむ φ1cm以下の礫・炭を多く含む　人為土	
138.	10YR4/3　にぶい黄褐	極細砂～細砂　φ1cm以下の礫を含む　φ1cm以下の黄褐色砂質シルトのブロックを含む　人為土	
139.	7.5YR3/2 黒褐	シルト混極細砂～中砂　微小な焼土片・炭を多く含む　人為土	
140.	5YR4/8　赤褐	シルト～極細砂　硬化した焼土　下底部3cmほどは炭層　人為土 140b層では西半はほぼ炭層、東半は10YR5/6黄褐色砂質シルトのブロックで埋め尽くされる	
141.	2.5Y6/4　にぶい黄	シルト質砂礫　拳大以下の礫を多量に含む　焼土片・炭を含む　人為土	
142.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂～細砂　φ1cm以下の焼土片・炭を含む	
143.	10YR3/2　黒褐	シルト混極細砂～細砂　縞状の堆積構造を見せる　おそらく灰を多く含む　人為土	
144.	10YR2/2　黒褐	シルト混極細砂～細砂　特に上面付近にφ1cm以下の礫を多く含む 黄褐色シルトのブロックを含む　一部に縞状の構造が見られる　人為土	
145.	10YR3/3　暗褐	砂質シルト　黄褐色シルトのブロックを多く含む　φ1cm以下の礫・炭を含む　人為土	
146.	7.5YR3/2 黒褐	シルト質極細砂～細砂　φ1cm以下の焼土片・炭を多量に含む　人為土 層相は146層とほぼ同じ　黄褐色シルトのレンズをはさむ	
148.	2.5Y4/2　暗灰黄	シルト混極細砂～細砂　柱穴埋土	
149.	2.5Y4/2　暗灰黄	砂質シルト　拳大以下の礫を含む　φ1cm以下の焼土片・炭を含む	
150.	10YR3/3　暗褐	φ1cm以下の黄褐色シルトブロックを多く含む　同サイズの焼土片・炭を含む　遺構埋土?	
151.	2.5Y4/3　オリーブ褐	極細砂～中砂　地山	
152.		153層とほぼ同じ層相　黄褐色シルトのブロックを含む　一部で炭がラミナ状に入る　遺構埋土	
153.	7.5YR3/2 黒褐	シルト混細砂～粗砂　微小な焼土片・炭・礫を多量に含む柱穴　柱穴埋土	
154.	10YR4/4　褐	砂質シルト　粗砂を含む　整地層　比較的均質	
155.	7.5YR3/2 黒褐	極細砂　下底約1cmは10YR4/3にぶい黄褐色細砂～中砂　φ1cm以下の礫を含む	
156.	10YR7/2　にぶい黄橙	シルトのブロックで構成される整地土　マトリックスは10YR4/3にぶい黄褐色シルト質砂	
157.	10YR4/2　灰黄褐	シルト混細礫　礫はφ2cm以下が主体　マトリックスはシルト混砂（淘汰悪い）　人為土	
158.	10YR4/3　にぶい黄褐	シルト質極細砂～粗砂　φ1cm以下の炭粒を含む 極粗砂～φ1cm以下の礫を多く含む　黄褐色シルトブロックを含む	
159.	10YR3/2　黒褐	砂質シルト　φ2cm以下の炭を多く含む　φ5mm以下の焼土片を多く含む	
160.	10YR3/3　暗褐	極細砂～細砂　φ2cm以下の炭を極めて多量（80%）に含む 同サイズの焼土片を多く含む	┐
161.	10YR4/2　灰黄褐	シルト混極細砂～細砂　φ10cm以下の礫を含む φ1cm以下の焼土片・炭粒を含む	├ 土坑埋土
162.	10YR4/2　灰黄褐	シルト質極細砂～細砂　φ3cm以下の礫を含む	┘
163.		φ1cm以下の焼土片・炭を多く含む　162層に似るがやや暗色 10YR5/4にぶい黄褐色細砂のブロック（φ10cm）を含む	├ 土坑埋土
164.	10YR4/3　にぶい黄褐	シルト質砂　黄褐色シルトのブロックを含む	
165.	10YR4/4　褐	シルト質砂　φ3cm以下の礫を散漫に含む φ1cm以下の炭粒・焼土片・黄褐色シルトのブロックを含む 上部は人為埋土だが下半は自然層か　やや暗色で破線部に黄褐色シルトが層状に堆積	
166.	10YR3/3　暗褐	シルト混極細砂～細砂　φ1cm以下の炭を局所的に含む　比較的均質な砂	
167.	10YR2/2　黒褐	シルト質極細砂　φ1cm以下の焼土片・炭を多く含む　明赤褐色の焼土層を局所的にはさむ	
168.	10YR4/2　灰黄褐	シルト質砂　φ3cm以下の礫を含む　φ5cm以下の焼土ブロックを含む	
169.	10YR3/4　暗褐	シルト質砂礫　礫はφ5cm以下　マトリックスは淘汰の悪い砂質シルト	
170.	10YR3/3　暗褐	シルト質砂　拳大以下の礫を含む　φ3cm以下の黄褐色シルトのブロックを含む	
171.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂～細砂　φ1cm以下の焼土片・炭粒を含む	
172.	10YR4/3　にぶい黄褐	極細砂～細砂　φ3cm以下の礫をわずかに含む	
173.	10YR4/4　褐	砂質シルト	
174.	10YR4/4　褐	シルト質砂礫　拳大以下の礫主体　マトリックスは淘汰の悪いシルト質砂　人為埋土	
175.	7.5YR3/1 黒褐	シルト質極細砂～細砂　φ1cm以下の焼土片・炭を含む	
176.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂　多量の炭を含む	
177.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂～細砂　φ1cm以下の焼土片・黄褐色シルトのブロックを含む	
178.	10YR4/3　にぶい黄褐	シルト質極細砂～細砂　上半には多量の焼土片を含み、下半を主体に多量の炭を含む 178b層では相対的に焼土・炭が減少し、上半・下半の別も見られなくなる	
179.	7.5YR3/1 黒褐	シルト質極細砂　φ1cm以下の炭を含む	
180.	10YR4/3　にぶい黄褐	極細砂～細砂　下半は（点線下）極めて多量の炭を含む φ1cm以下の礫・焼土片・炭を多く含む　極粗砂粒が目立つ	
181.	10YR3/3　暗褐	シルト混極細砂　φ5mm以下の焼土片・炭を含む	
182.	10YR3/2　黒褐	シルト混極細砂～粗砂　φ3cm以下の礫を含む　φ1cm以下の焼土片・炭粒を多く含む	
183.	10YR3/1　黒褐	シルト混極細砂～粗砂　φ1cm以下の焼土片・炭を含む　柱穴埋土	
184.	10YR3/2　黒褐	極細砂～細砂　極粗砂を多く含む　人為土	
185.	7.5YR3/2 黒褐	シルト混極細砂～粗砂　柱痕とその周囲に拳大以下の礫を多量に詰め込んでいる　柱穴埋土	
186.	10YR3/3　暗褐	砂質シルト　柱穴埋土	
187.	10YR3/2　黒褐	シルト混極細砂～細砂　φ5cm以下の礫を含む　φ1cm以下の黄褐色シルトブロック多く含む	
188.	10YR3/2　黒褐	シルト混極細砂～細砂　極粗砂を多く含む	
189.	7.5YR3/2 黒褐	シルト混極細砂～細砂　φ1cm以下の炭を多く含む 10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトと5YR4/4にぶい赤褐色砂質シルト（焼土）のブロック状埋土	
190.		拳大以下の礫をわずかに含む　φ1cm以下の礫を含む aはやや暗色で炭粒がやや多い bはブロック土が占める cは焼土片が多い	├ が、全体としては一括の人為埋土と考える
191.	10YR7/4　にぶい黄橙	砂質シルトのブロックを敷いた整地層	
192.	10YR4/3　にぶい黄褐	シルト質極細砂～細砂　上面に炭の薄層をはさむ　φ1cm以下の黄橙色シルトブロックを含む	
193.	10YR5/3　にぶい黄褐	シルト質極細砂～細砂　明赤褐色の焼土ブロックを多く含む　極粗砂粒が目立つ	
194.	10YR3/2　黒褐	シルト質極細砂　φ3cm以下のにぶい黄褐色シルトのブロックを含む	
195.	7.5YR2/2 黒褐	極細砂　φ5cm以下の礫を含む　φ1cm以下の焼土片・黄褐色シルトのブロックを多く含む	
196.	7.5YR2/2 黒褐	極細砂～細砂　均質である	
197.	7.5YR2/1　黒	シルト混細砂～粗砂　φ1cm以下の炭粒を局所的に多く含む	
198.	7.5YR1.7/1　黒	シルト混極細砂～細砂 下部東側の部分は赤褐色の焼土、上部西側の部分では粉状の緑青色の物質が目立つ	
199.	7.5YR3/4　暗褐	細砂～中砂　被熱している	
200.	7.5YR3/2 黒褐	シルト混極細砂～細砂　灰を多く含む	
A.	7.5YR5/4　にぶい褐	シルト～極細砂　焼土ブロックと炭による人為土	
B.	10YR4/2　灰黄褐	砂質シルト	
C.	10YR4/3　にぶい黄褐	シルト質砂	


SK5001
SK5002
SK5043
SX5018
SK5010
SK5009
SK5022
SP5042
SE5041
SX5025
SK5011
SK5013
Y=41.910
Y=41.915
Y=41.920
Y=41.925
X=-92.295
SK5013
SK5012
SK5023
SK5019
SK5016
SK5017
SK5039
SK5021
SX5095
SK5031
SK5024
Y=41.930
Y=41.935
Y=41.940
Y=41.945
Y=41.950
Y=41.955
Y=41.960
Y=41.965
X=-92.300
SK5032
SK5028
SK5029
SD5045
SK5030
SE5144
SK5148
SE5147
SK5146
SX5149
SK5139
SK5140
SX5151
SD5150
SK5141
SK5145
X=-92.300
X=-92.305
0
5m

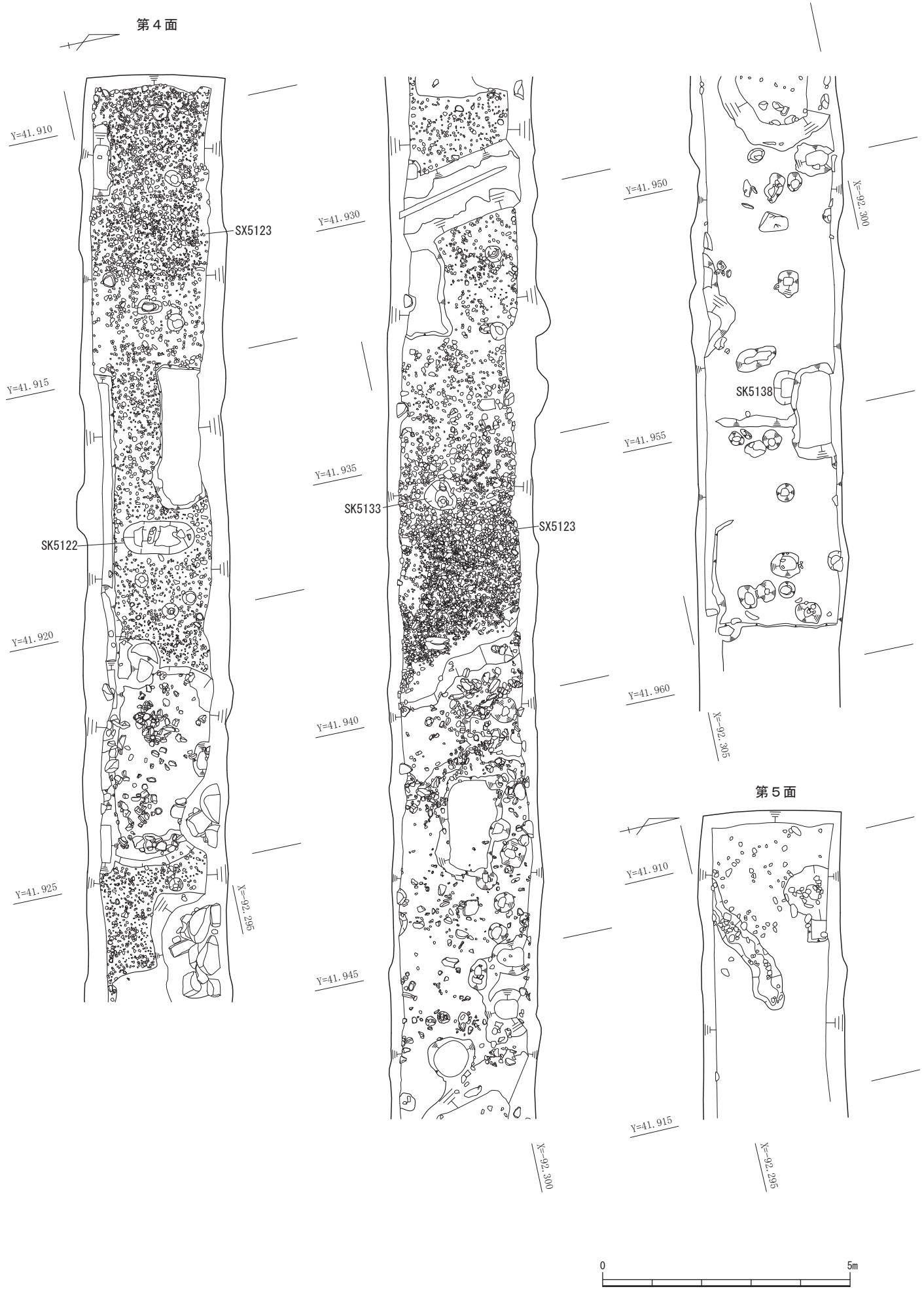
5区第1面平面図


Y=41.910
Y=41.915
Y=41.920
Y=41.925
X=-92.295
SX5075
Y=41.930
Y=41.935
Y=41.940
Y=41.945
X=-92.300
SK5078
SP5081
SX5052
SX5059
SP5096
SP5061
SP5083
SK5054
SK5073
SK5055
SK5074
Y=41.950
Y=41.955
Y=41.960
Y=41.965
X=-92.305
SP5053
SD5044
SK5049
SP5071
SK5072
SK5051
SK5050
SX5047
SX5046
SX5048
SK5064
SK5070
SK5090
SK5088
SX5089
SK5164
SK5087
SK5086
SP5165
SP5160
SK5155
SX5167
SX5166
SX5168
0
5m

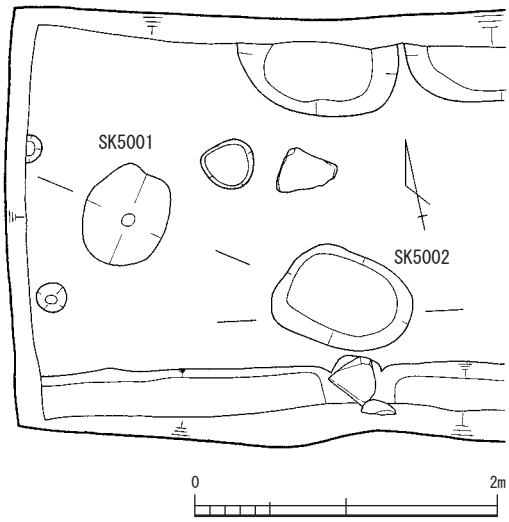
5区第2面平面図

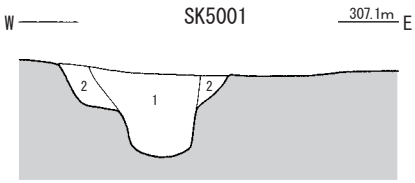

SP5113
SX5114
Y=41.910
Y=41.915
Y=41.920
Y=41.925
SP5110
SK5121
X=-92.295
Y=41.930
Y=41.935
Y=41.940
Y=41.945
SX5109
SP5116
SK5099
SX5098
SP5097
SP5115
SP5107
SP5137
(SP5136)
SK5102
X=-92.300
Y=41.950
Y=41.955
Y=41.960
Y=41.965
SP5094
SK5101
SX5091
SX5092
SX5100
SK5169
SK5172
X=-92.300
X=-92.305
0
5m

5区第3面平面図

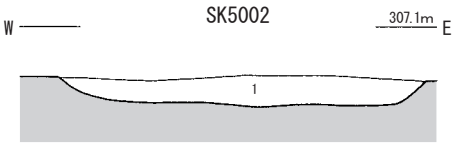


５区第４面・第５面平面図

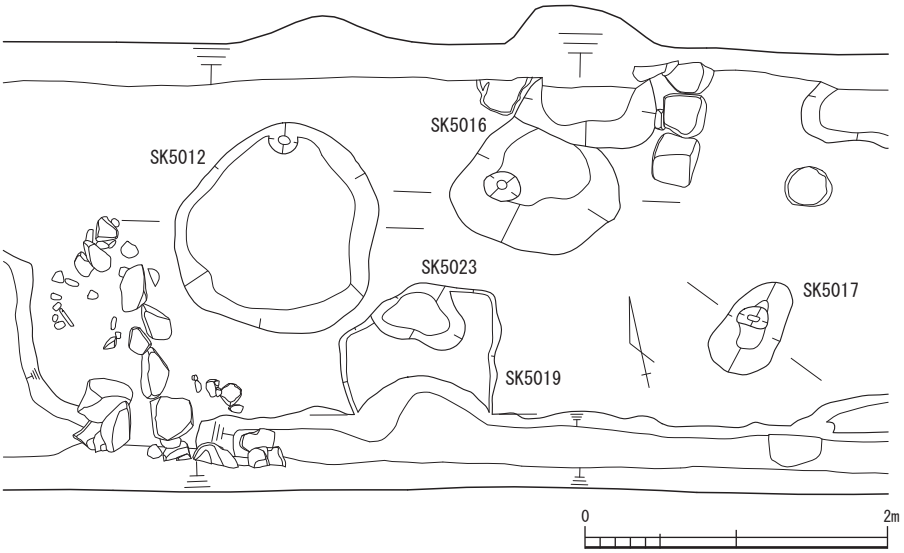


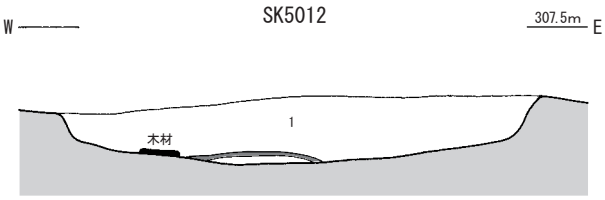


1. 10YR2/3　黒褐　極細砂～細砂　しまりの悪い土壌
2. 7.5YR3/2　黒褐　シルト質砂　φ5mm以下の焼土片を多く含む
掘方内埋土

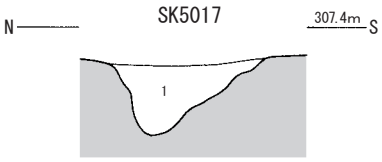


1. 10YR3/2　黒褐　シルト質砂　10YR5/4にぶい黄褐色シルトの
指頭大以下のブロックを含む　炭化物片を多く含む

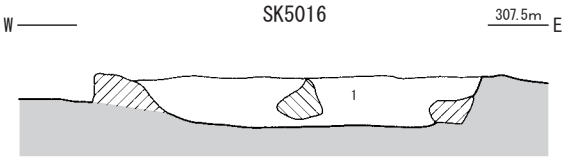




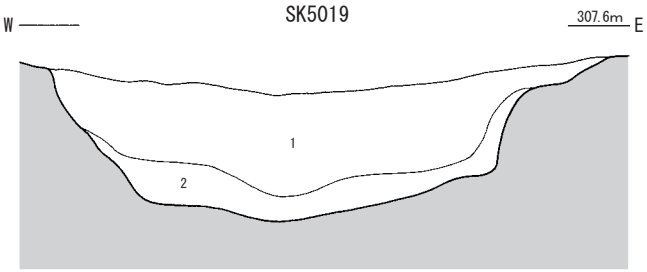
1. 10YR3/2　黒褐　シルト質砂　φ5mm以下の礫を多く含む　下底に炭層をはさむ



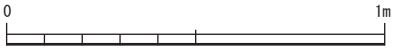
1. 10YR4/2　灰黄褐　細砂～粗砂
φ1cm程度の礫を多く含む　しまり弱い



1. 10YR3/2　黒褐　シルト質砂　スラグ塊を多く含む

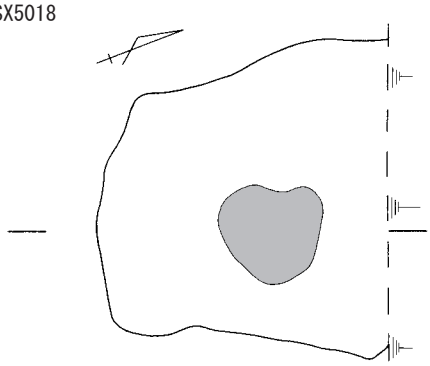


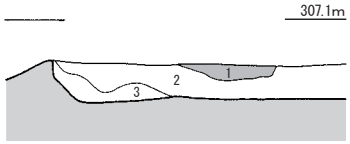
1. 10YR3/2　黒褐　シルト混極細砂～粗砂　φ3cm以下の礫・黄褐色粘土ブロック・スラグを含む
2. 7.5YR5/4　にぶい褐　粘土　人為的に土坑底に貼られたもの



５区遺構平面図・断面図（1）

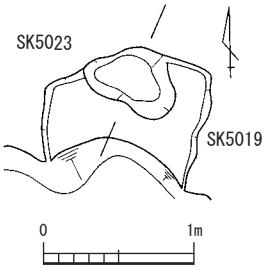
SX5018

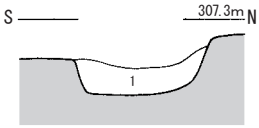




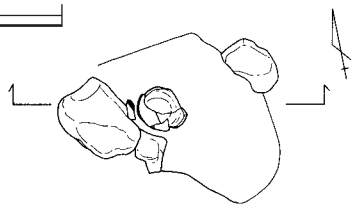
1. 5YR6/8　橙　シルト～極細砂の焼土
2. 10YR5/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂（貼土）
焼土片・炭片を含む
3. 10YR6/6　明黄褐　粘土（貼土）

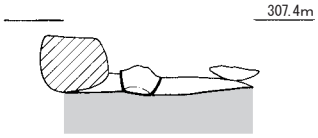
SK5023

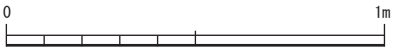




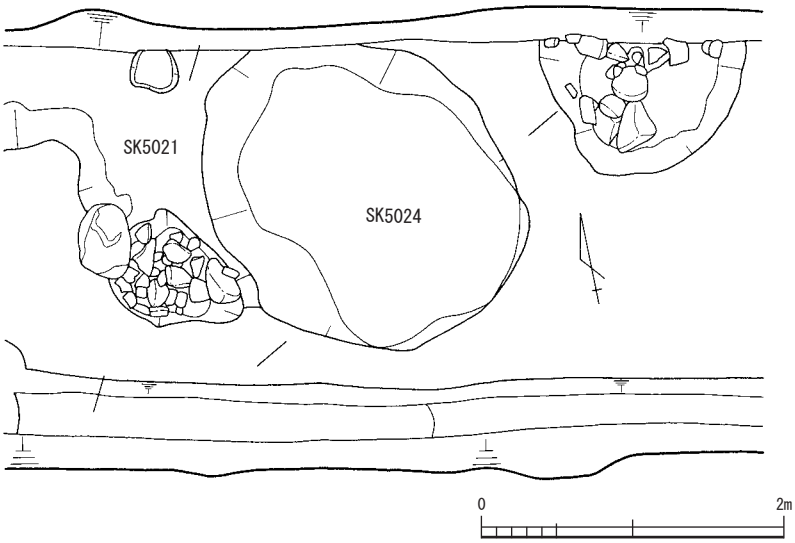
1. 10YR4/2　灰黄褐　シルト質砂
拳大の礫・スラグを含む

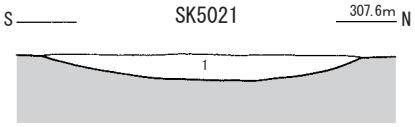




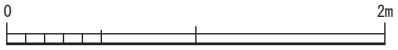


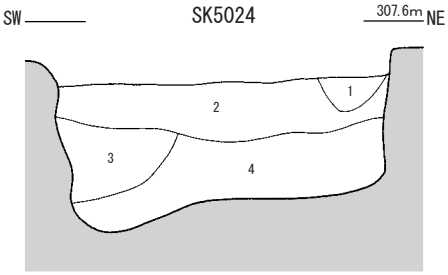
SK5021・5024





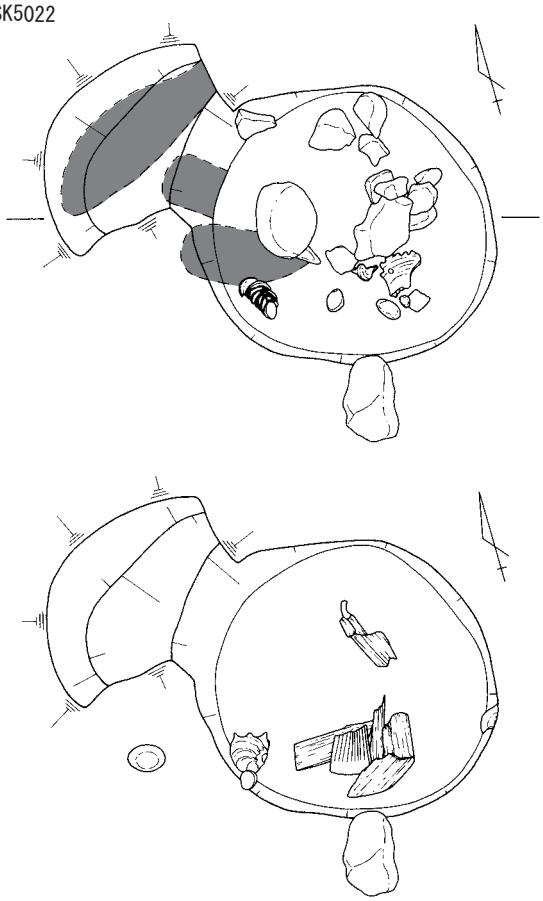
1. 10YR1.7/1　黒　極細砂～細砂　ほぼ炭層　焼土片を多く含む　しまり悪い



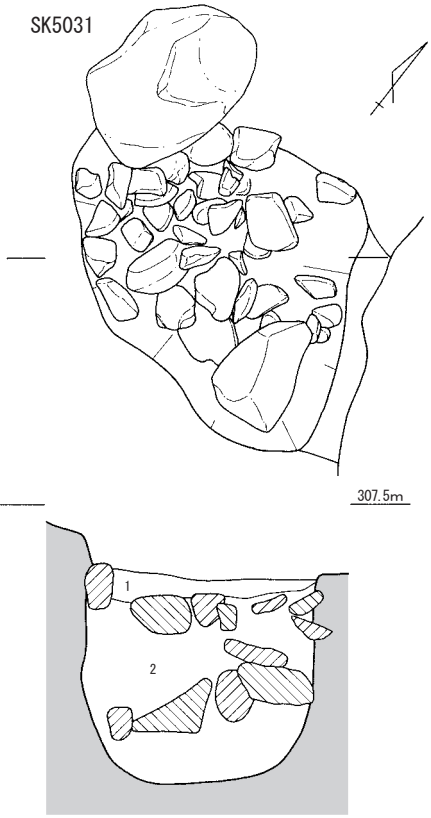


1. 10YR3/3　暗褐　シルト質砂　10YR5/4にぶい黄褐色シルト質砂のブロックを含む
土坑壁からの崩落土
2. 7.5YR2/2　黒褐　細砂～粗砂　炭・焼土片を多量に含む　しまり弱い　人為埋土
3. 7.5YR2/1　黒　シルト質細砂　炭を多量に含む　人為埋土　しまり弱い
4. φ15cm以下の角礫・円礫を含む　人為埋土　マトリックスは2層と同じ

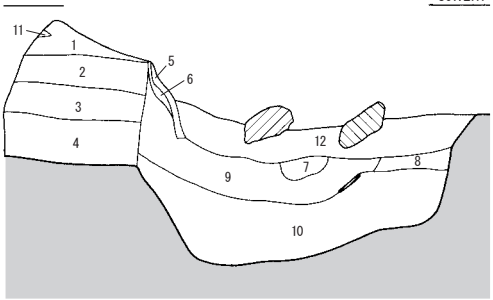
SK5022



SK5031

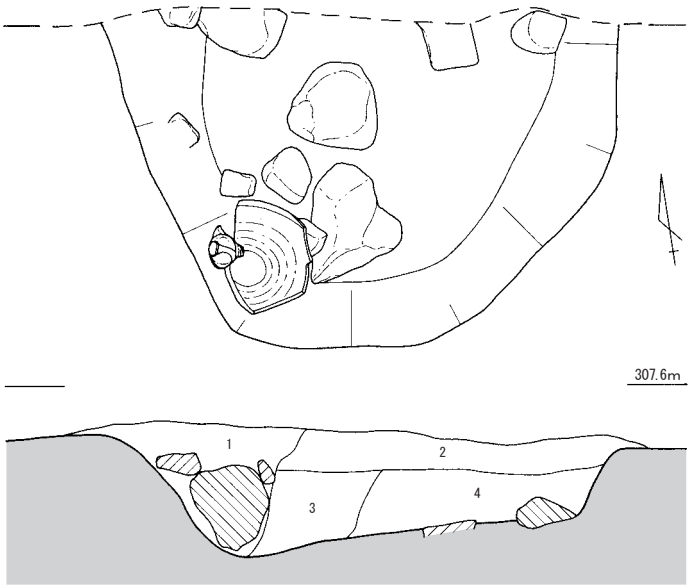


1. 2.5Y3/2　黒褐　極細砂～細砂　炭化物・焼土片を多量に含む
2. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂　しまり悪い　人為埋土



1. 10YR1.7/1　黒　炭層　φ2cm以下の礫を少量含む
2. 2.5Y6/4　にぶい黄　シルト混細砂　極粗砂～細礫を多量に含む　整地層
3. 10YR3/3　暗褐　シルト混極細砂～細砂（古土壌）　一部に炭化物を含む
SE5041周辺で銭がまとまって出土した層位
4. 10YR2/3　黒褐　シルト質極細砂　炭化物・φ1cm以下の焼土片を多量に含む　整地層
5. 5YR5/4　にぶい赤褐　シルト質極細砂～細砂　焼土を多く含む
6. ほぼ1層と同じ
7. 10YR4/4　褐　砂質シルト（ブロックか）
8. 7層とほぼ同じ
9. 10YR3/2　黒褐　シルト混極細砂～細砂
10. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂～細砂
11. 5YR5/6　明赤褐　極細砂～細砂
12. 7.5YR5/4　にぶい褐　極細砂～細砂　焼けしまっている

SK5032

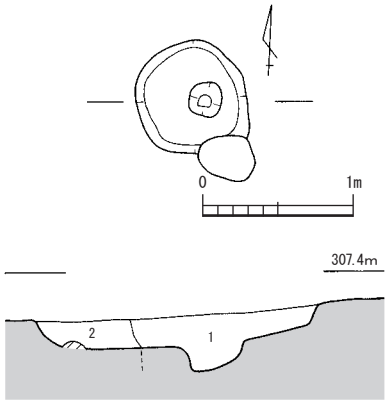


1. 黒灰　細砂～粗砂　ペブル級以下の礫を多く含む（SD5044埋土）
2. 黒褐　極細砂～細砂　炭化物片・焼土片を多量に含む
3. 暗褐　細砂～粗砂　微小な焼土片を多く含む
4. 暗赤褐　極細砂～細砂　焼土片・炭化物片を多く含む

0　1m

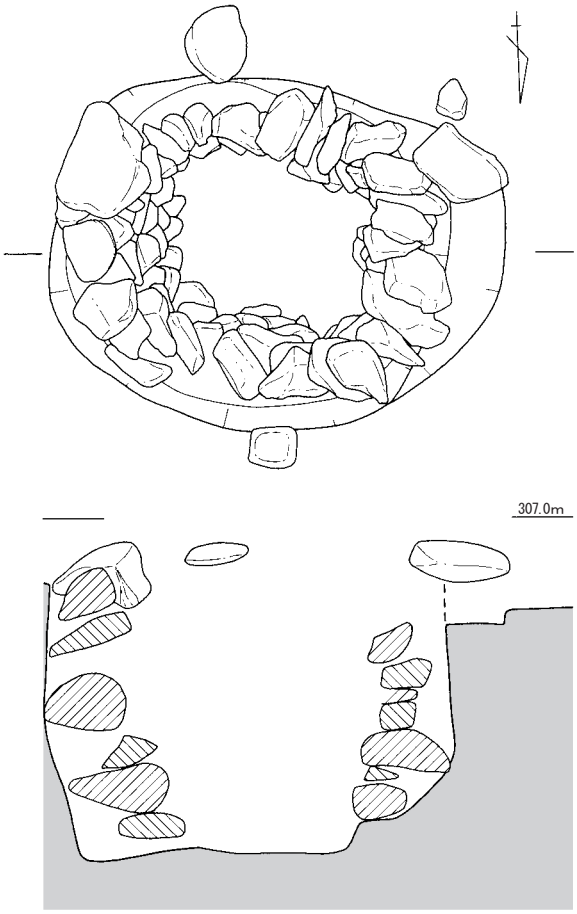
５区遺構平面図・断面図（3）

SK5039

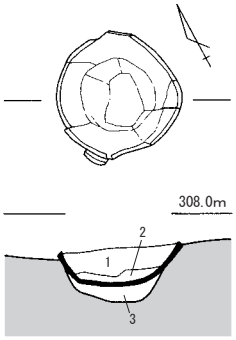


1. 10YR4/2　灰黄褐　極細砂～細砂　焼土片を多量に含む　人為埋土
2. 10YR4/3　にぶい黄褐　極細砂～細砂　よくしまっている

SE5041

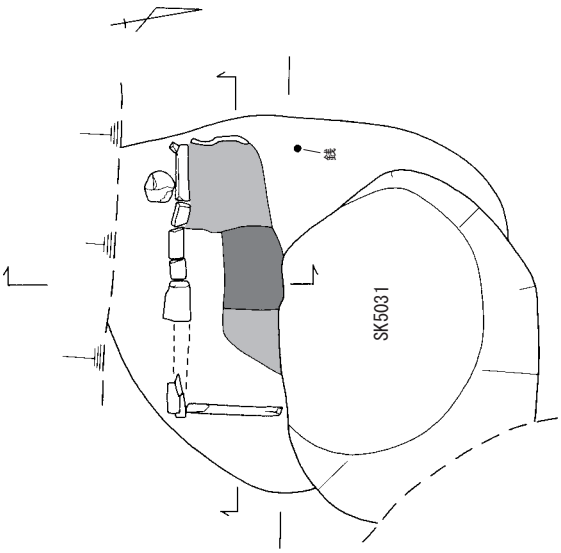


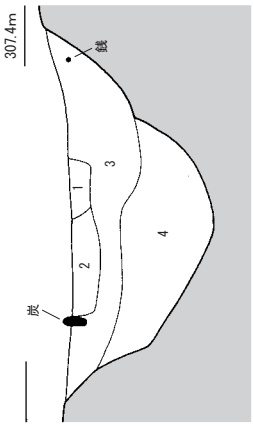
SK5139



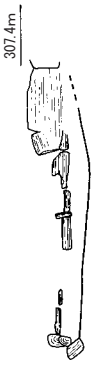
1. 2.5Y4/3　オリーブ褐　シルト質細砂～粗砂
2. 7.5YR1.7/1　黒　シルト
3. 2.5Y3/2　黒褐　シルト質極細砂～細砂
φ1cm以下の礫を含む

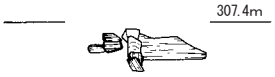
SX5095

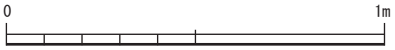




1. 2.5YR4/6　赤褐　砂質シルト（?）　極めて強度に焼成され、硬化した部分　レンガのような感じ
2. 7.5YR3/4　暗褐　シルト質細砂～粗砂　弱い焼けの土
3. 7.5YR2/3　極暗褐　細砂～中砂　一部に5YR4/4にぶい赤褐色砂のブロックを含む
4. 10YR3/3　暗褐　砂質シルト

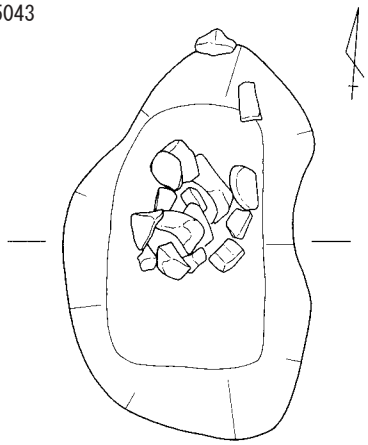


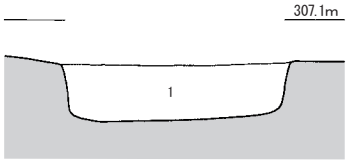




５区遺構平面図・断面図（4）

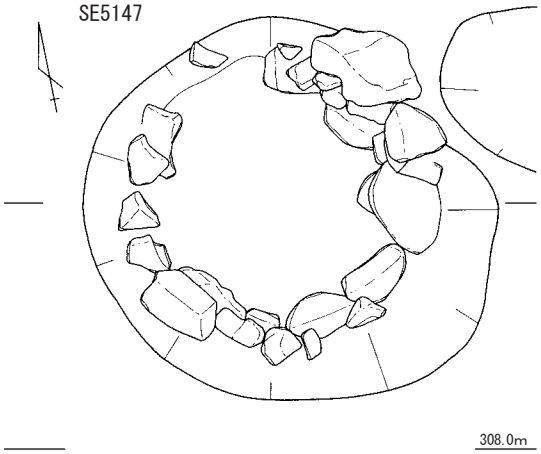
SK5043

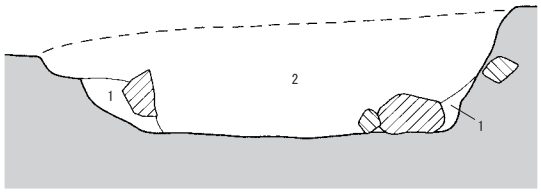




1. 7.5YR3/2　黒褐　シルト質極細砂～細砂
φ1cm以下の焼土片・炭を多く含む

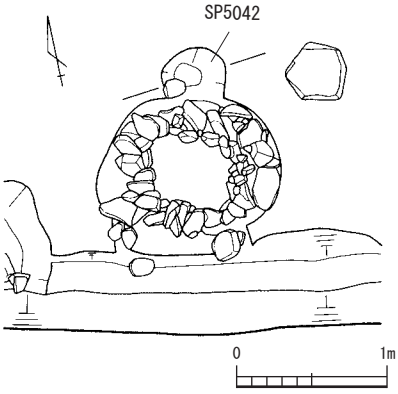
SE5147

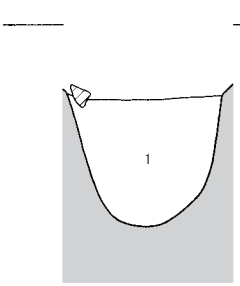




1. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂　φ1cm以下の礫を含む
黄褐色シルトの1mm以下のブロックを多く含む
2. 10YR3/3　暗褐　シルト混粗砂　巨礫を多く埋め込んでいる

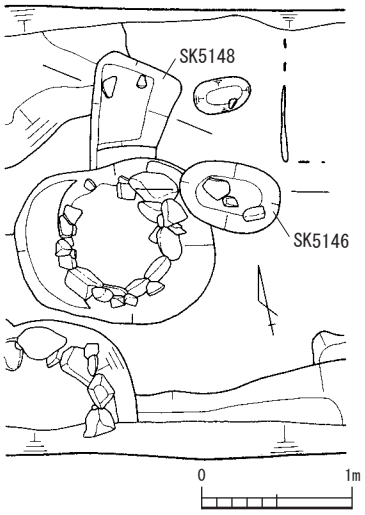
SP5042



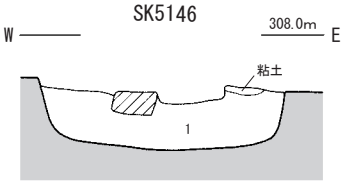


1. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂
φ2cm以下の焼土片を多量に含む

SK5146・5148

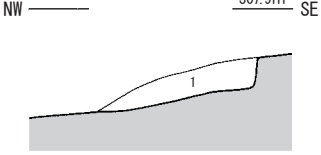


SK5146

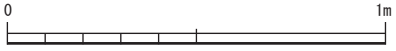


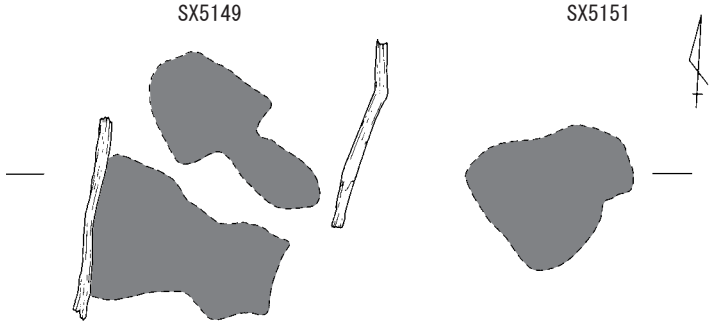
1. 10YR5/2　灰黄褐　砂質シルト　黄白色粘土のブロック含む　炭粒子を含む　人為埋土

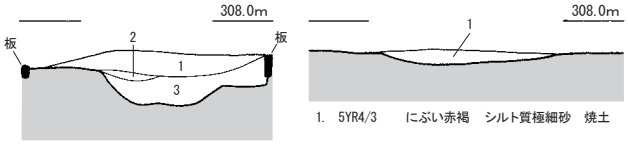
SK5148



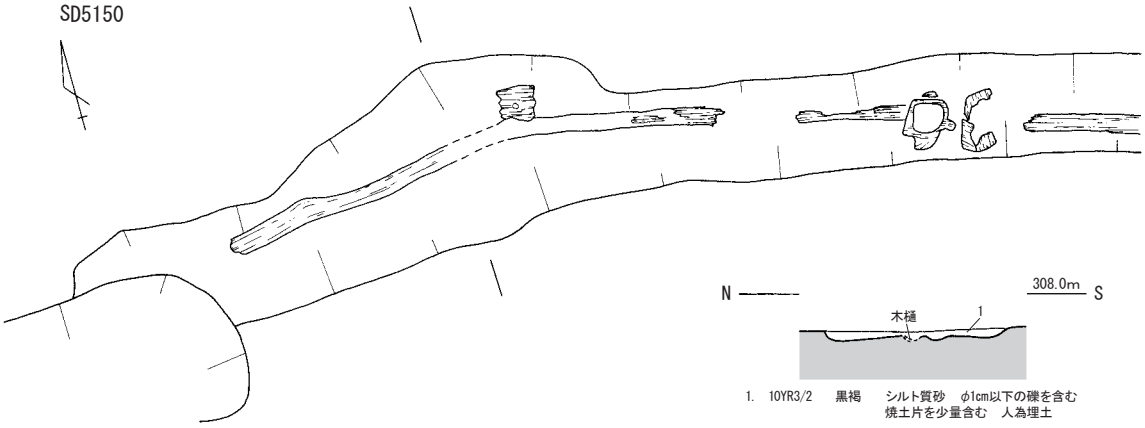
1. 10YR3/3　暗褐　シルト質砂　φ3cm以下の礫を多く含む



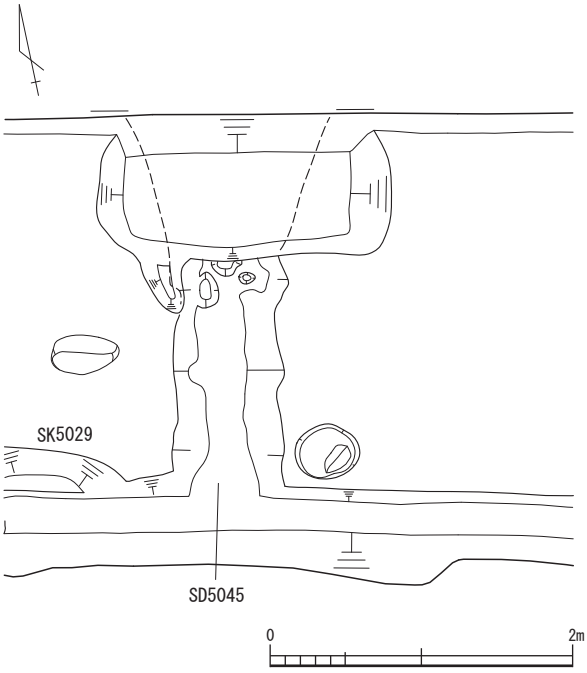


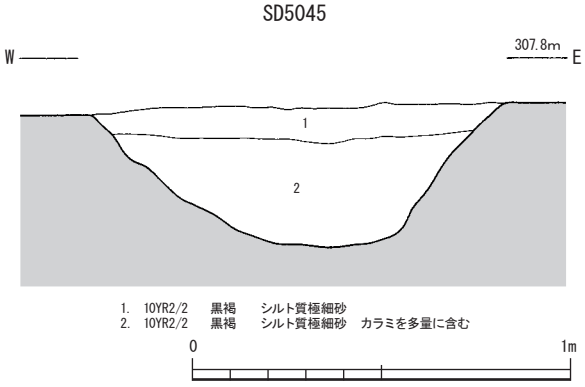


1. 2.5Y7/4 浅黄 シルト
φ3～10cmの礫を含む
礫と粘土を混ぜて固めたように見える
2. 10YR3/2 黒褐 シルト
3. 10YR6/4 にぶい黄橙 シルト



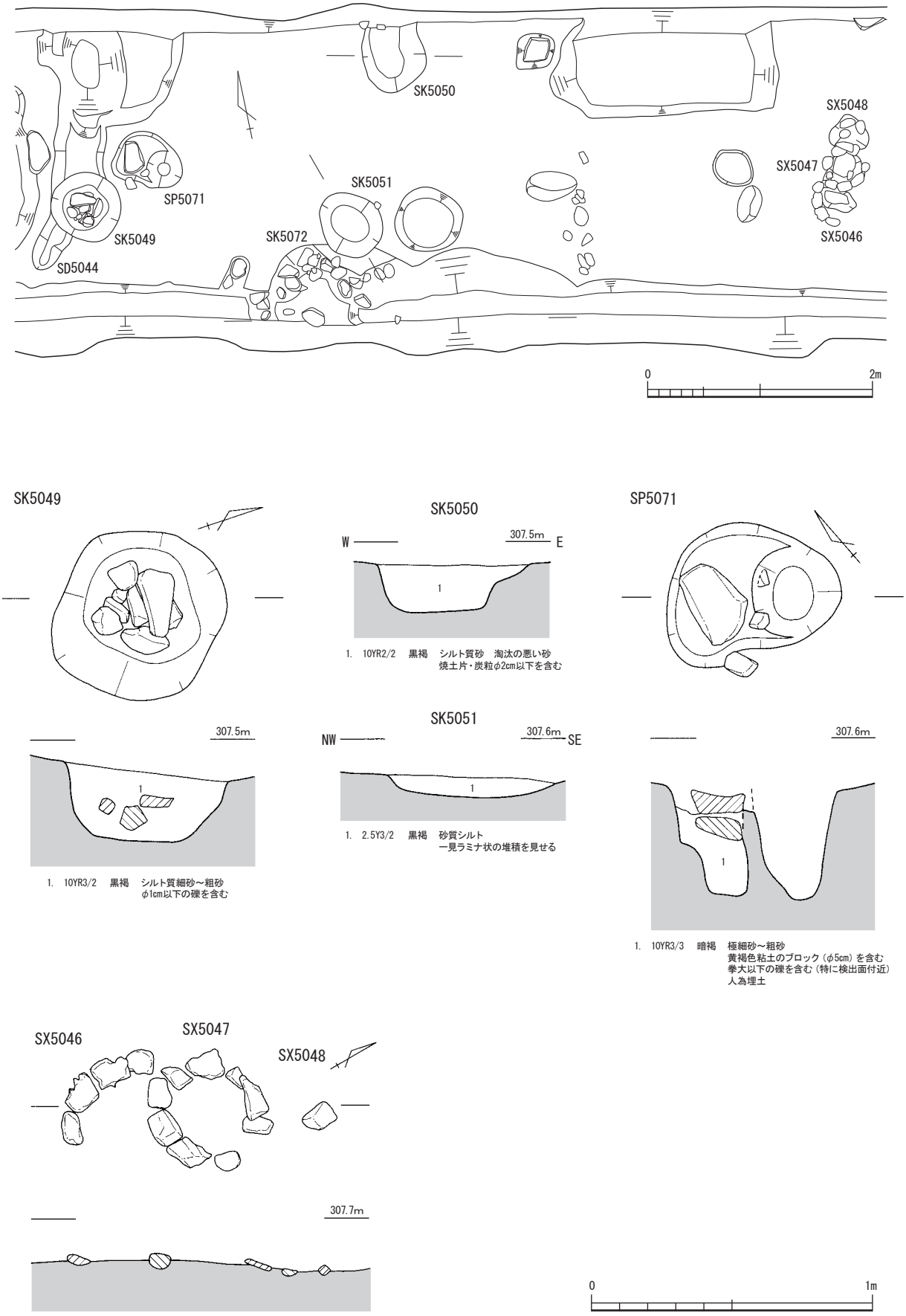
1. 10YR3/2 黒褐 シルト質砂 φ1cm以下の礫を含む
焼土片を少量含む 人為埋土



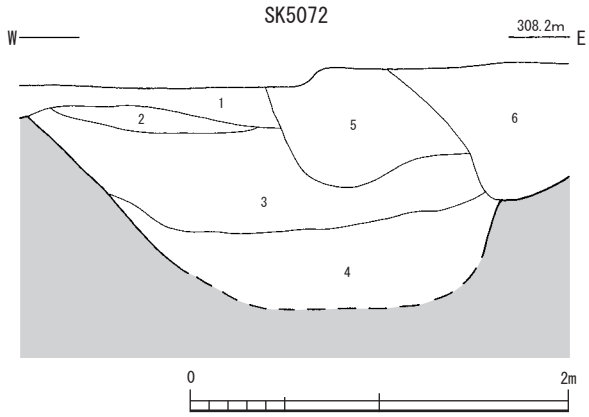


1. 10YR2/2 黒褐 シルト質極細砂
2. 10YR2/2 黒褐 シルト質極細砂 カラミを多量に含む

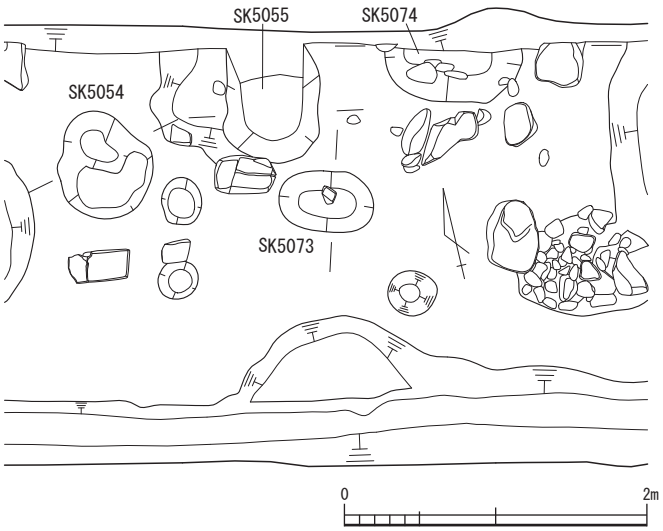
５区遺構平面図・断面図（6）

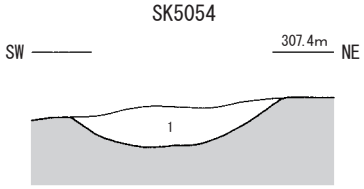


５区遺構平面図・断面図（7）

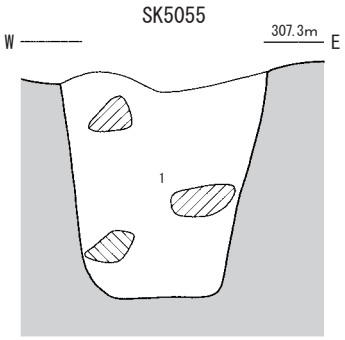


1. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質極細砂～粗砂 φ1cm以下の炭粒を含む
極粗砂～φ1cm以下の礫を多く含む 黄褐色シルトブロックを含む
2. 10YR3/2 黒褐 砂質シルト φ2cm以下の炭を多く含む φ5mm以下の焼土片を多く含む
3. 10YR3/3 暗褐 極細砂～細砂 φ2cm以下の炭を極めて多量（80%）に含む
同サイズの焼土片を多く含む
4. 10YR4/2 灰黄褐 シルト混極細砂～細砂 φ10cm以下の礫を含む
φ1cm以下の焼土片・炭粒を含む
5. 撹乱坑
6. 撹乱坑

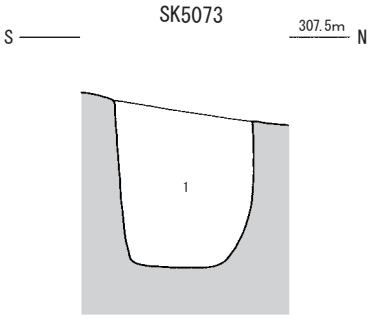




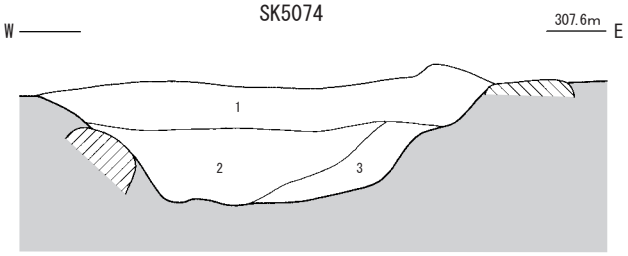
1. 7.5YR4/3 褐 シルト質極細砂～細砂
焼土片・炭化物を多量に含む 人為埋土



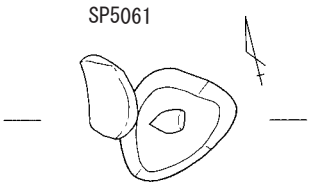
1. 10YR3/2 黒褐 シルト質砂 淘汰の悪い砂
拳大の礫を多量に含む 人為埋土
φ3cm以下の炭を含む

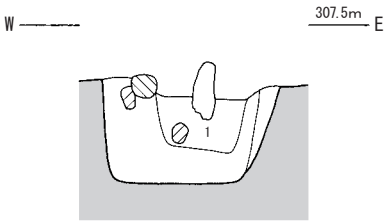


1. 10YR3/3 暗褐 シルト質砂 淘汰の悪い砂
φ1cm以下の焼土片・炭を含む 人為埋土



1. 暗褐 シルト混極細砂～細砂 焼土片を多く含む
2. 暗褐 細砂～粗砂 拳大以下の礫を多く含む
3. 暗褐 シルト混極細砂 焼土片・炭化物片を少量含む

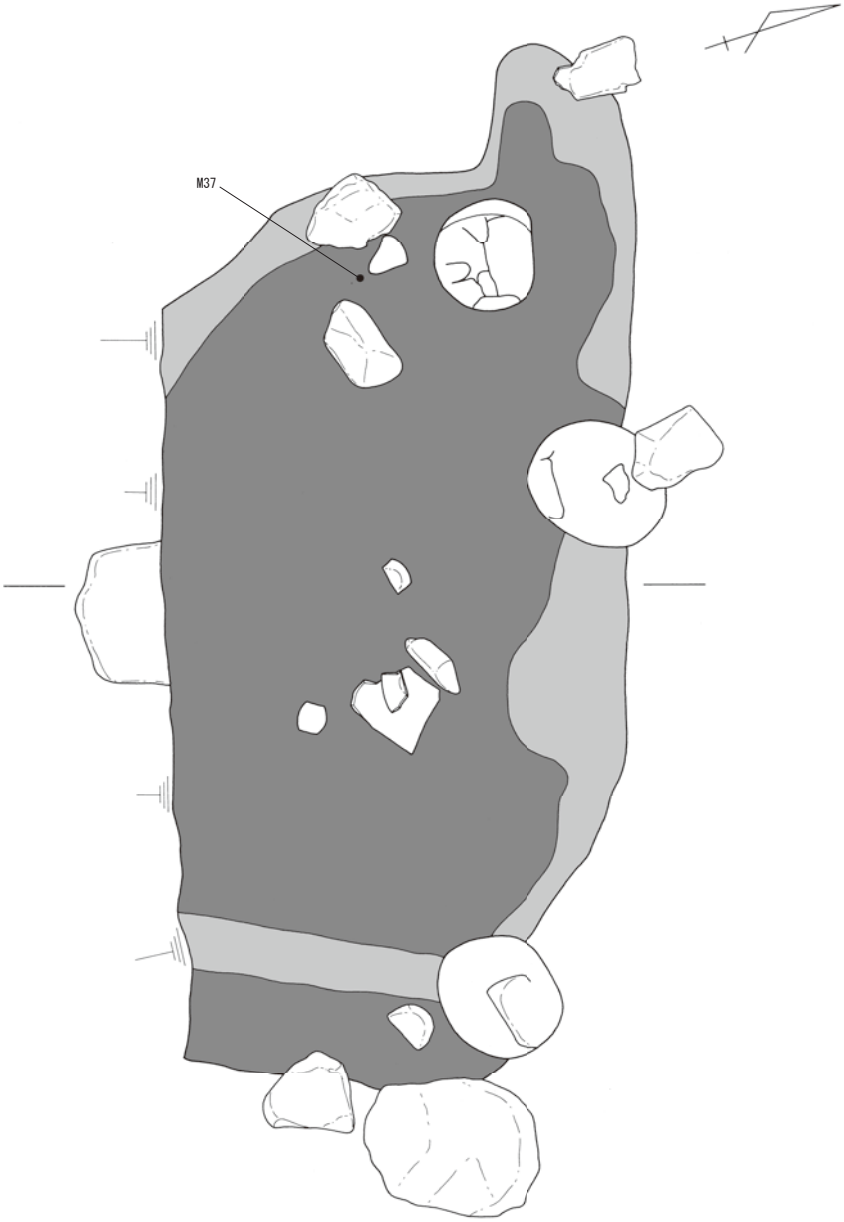


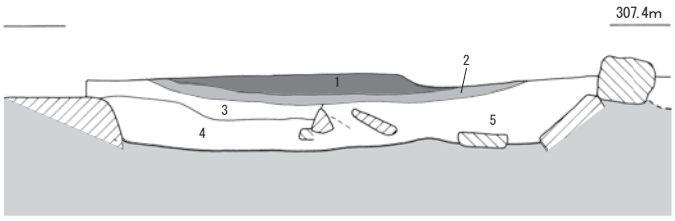


1. 7.5YR3/2 黒褐 シルト質細砂 炭を多く含む
10YR6/6明黄褐色粘土のブロック含む

５区遺構平面図・断面図（8）

SX5052



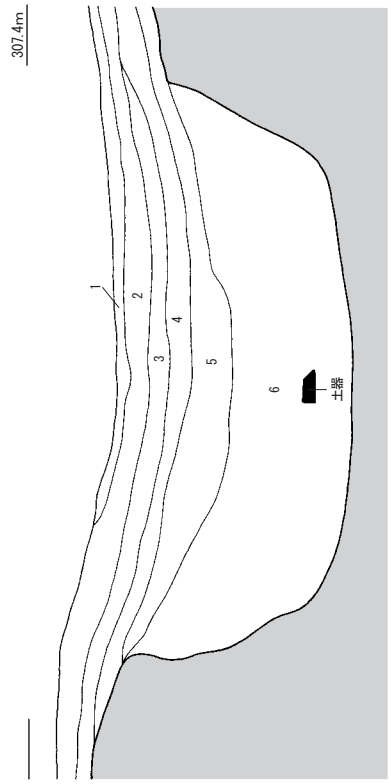


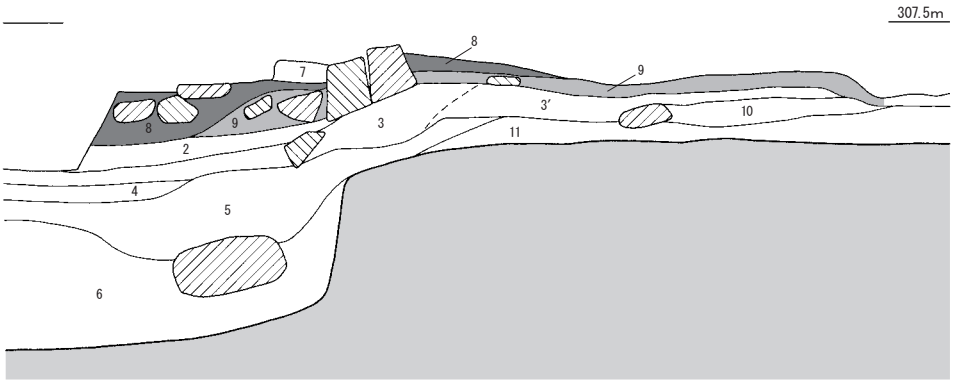
1.	5YR5/8	明赤褐	シルト～極細砂　強い焼け
2.	7.5YR3/2	黒褐	シルト～極細砂　弱い焼け
3.	5Y4/1	灰	細砂～粗砂　北半では弱い焼け
4.	10YR3/2	黒褐	細砂～粗砂
5.	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト質細砂～粗砂

0　1m

５区遺構平面図・断面図（9）

SX5059

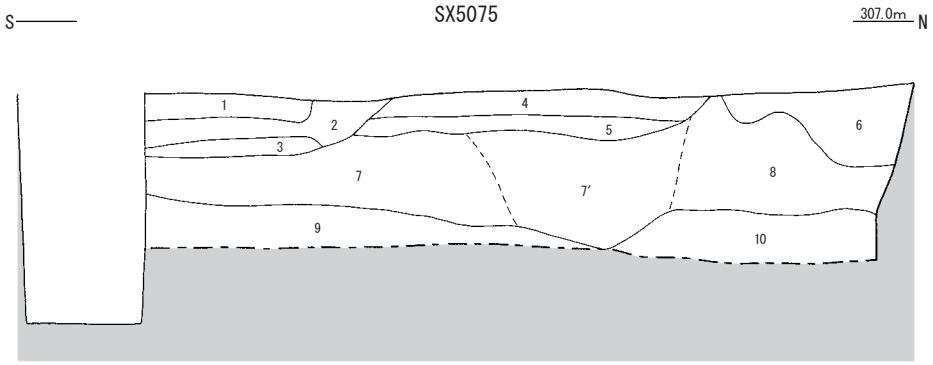




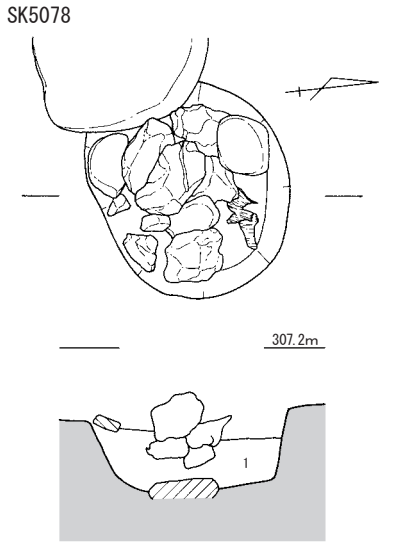
1. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂～中砂 シルト質を含まないサラサラの砂
2. 10YR3/1 黒褐 砂質シルト φ1～10cmの礫を散漫に含む
指頭大以下の焼土・炭粒を含む
人為的な整地土と思われるが、土壌化が進行している
3. 10YR4/3 にぶい黄褐 砂質シルト φ1～数cmの礫を散漫に含む
φ1cm以下の黄褐～明黄褐色シルト～粘土ブロックを散漫に含む 人為
3' 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 10YR4/3にぶい黄褐色シルト質極細砂を多量に含む
4. 10YR3/3 暗褐 シルト混細砂～中砂 φ1～数cmの礫をわずかに含む
炭化物粒をわずかに含む 人為土と思われる
5. 10YR4/2 灰黄褐 砂質シルト φ数cm以下の礫をわずかに含む
10YR5/4にぶい黄褐色粘土～シルトの指頭大ブロックを含む
人為土と思われる
6. 10YR2/3 黒褐 シルト質砂 φ1cm以下の礫を多く含む
10YR5/4にぶい黄褐色シルト～粘土のφ2cm以下のブロックを含む
φ1cm以下の焼土片・炭粒を含む スラグを少々含む
SX5059下部の埋土である
7. 10YR3/2 黒褐 シルト質極細砂～細砂 8層の一部かもしれない
8. 5YR6/8橙色～5YR5/8明赤褐色の密な焼土ブロック層 ブロックはφ1～10cm
マトリックスに多量の炭粒φ1～3cmを含む
東側の立ち上がり面は5YR3/2暗赤褐色に被熱変色している
この上面が第1検出面
9. 10YR3/2 黒褐 極細砂～細砂 焼土ブロックを少量含む
10. 7.5YR4/2 灰褐 シルト質極細砂～細砂 10YR6/4明黄褐色シルト質極細砂のブロックを含む
11. 10YR3/3 暗褐 砂質シルト 10YR6/4明黄褐色シルト質極細砂のブロックを含む

0 2m

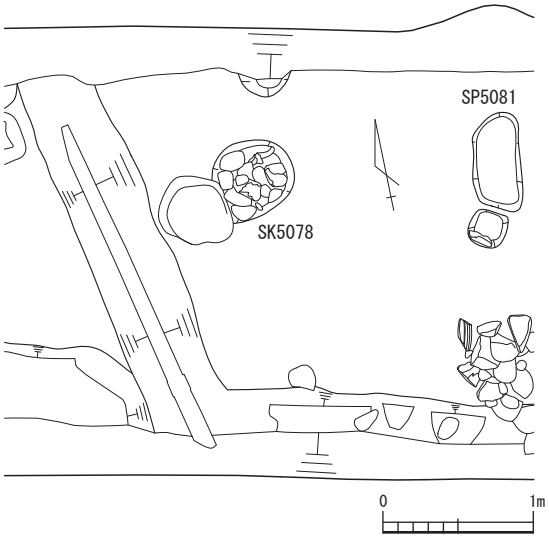
5区遺構平面図・断面図（10）

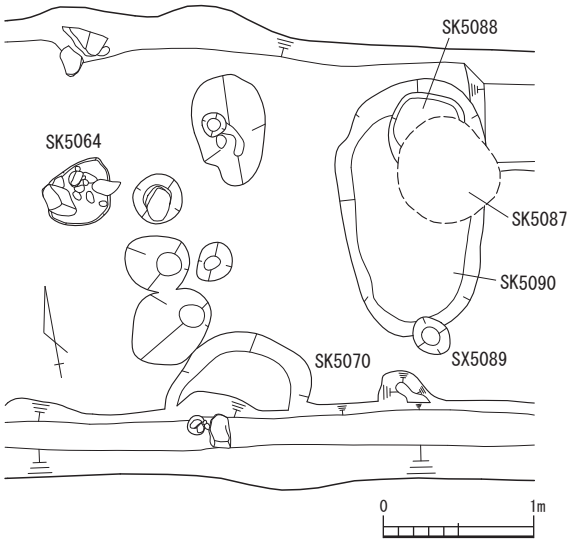


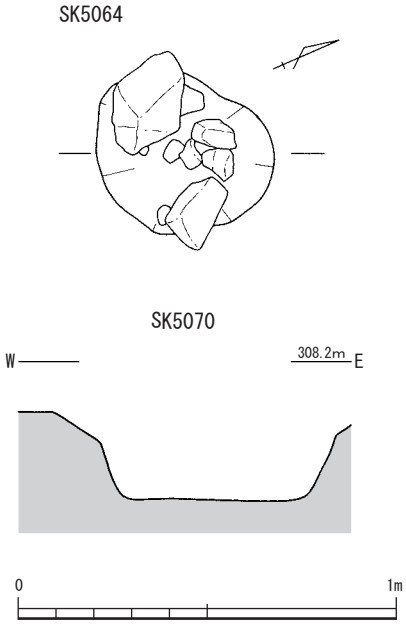
1. 10YR4/6 褐 砂混じりシルト 全体がブロック状を呈する 焼土の敷き均し
2. 10YR3/2 黒褐 シルト質極細砂～細砂 φ3cm以下の礫を含む
3. 10YR6/4 明黄褐 砂混じりシルト 整地層
4. 10YR4/2 灰黄褐 シルト混細砂～粗砂 φ5cm以下の礫を少量含む 整地層
5. 2.5T4/2 暗灰黄 シルト混極細砂～細砂 整地層
6. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質砂
7. 10YR3/2 黒褐 砂質シルト 7′層部分に拳大の礫を多く含む 炭・焼土の細粒を含む 整地層
8. 10YR3/2 黒褐 シルト質細砂～粗砂 整地層
9. 10YR3/2 黒褐 シルト質細砂 炭・焼土の細粒を含む 整地層 一部上面に炭の薄層
10. 10YR3/3 暗褐 シルト混細砂～粗砂



1. 10YR3/2 黒褐 シルト質細砂 河原石のスラグを埋設している

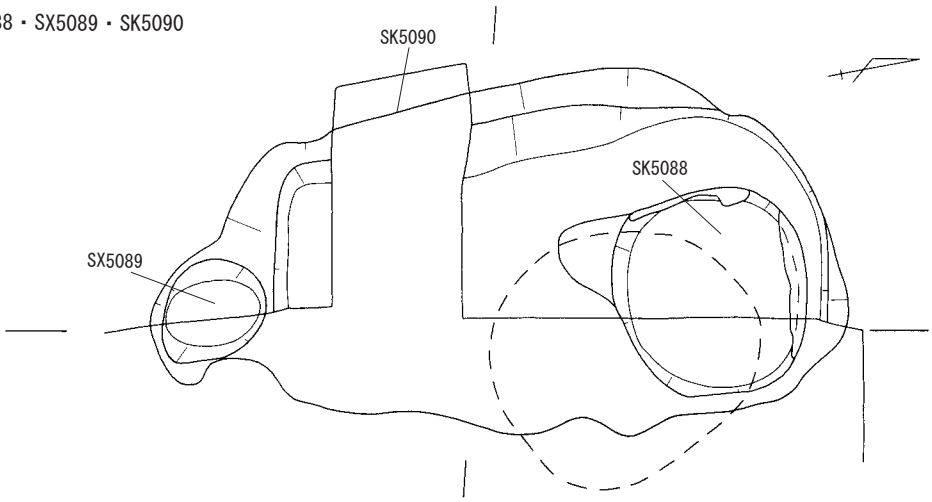


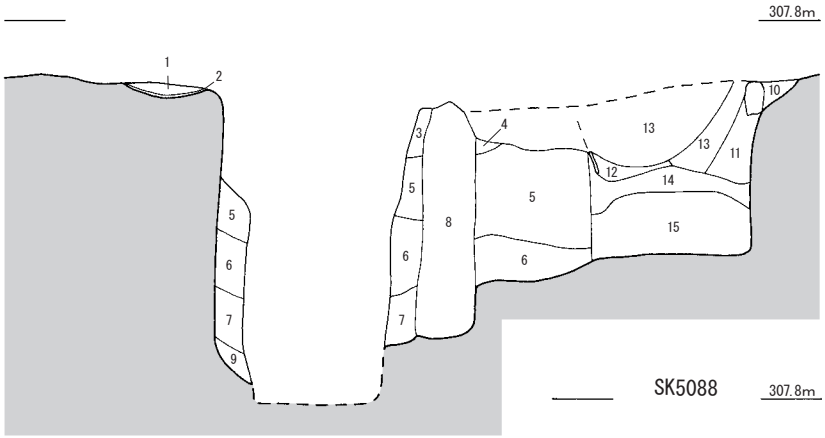




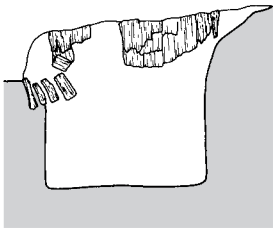
5区遺構平面図・断面図（11）

SK5088・SX5089・SK5090



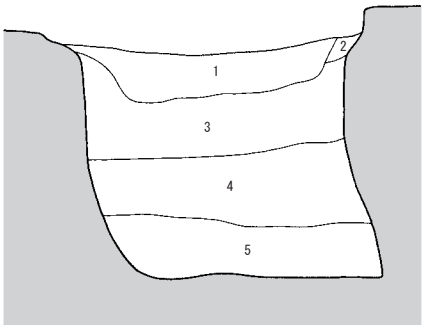


SK5088

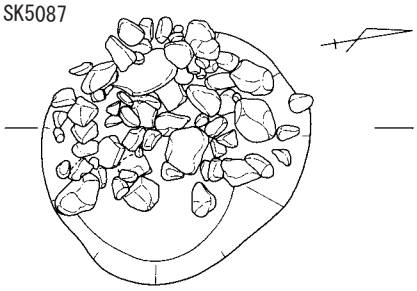


1. 7.5YR5/6　明褐　シルト～極細砂の焼土　この場で焼けたもの
2.　炭層
3. 10YR3/2　黒褐　中礫～大礫混細砂～中砂　10YR3/1黒褐色ブロック25%含む　やや軟質
4. 10YR3/1　黒褐　細礫混シルト質極細砂
5. 10YR3/4　暗褐　中砂～粗砂　10YR3/1黒褐色ブロック5%含む　やや軟質
6. 10YR3/4　暗褐　細礫～中礫混極粗砂質中砂～粗砂　10YR3/1黒褐色ブロック30%含む　軟質
7. 10YR3/4　暗褐　中砂～極粗砂　10YR3/1黒褐色ブロック5%含む　軟質
8. 10YR3/3　暗褐　細砂～粗砂　焼土・炭化物粒（φ～2cm）わずかに含む　やや軟質
9. 10YR3/1　黒褐　極細砂～粗砂　軟質
10. 10YR3/3　暗褐　シルト混極細砂～細砂
11.　上部はほとんど炭　下部は10YR2/2黒褐色極細砂～粗砂　多量の炭を含む
12. 7.5YR3/2　黒褐　極細砂～細砂
13. 7.5YR2/3　極暗褐　シルト質極細砂　5YR4/8赤褐色焼土片・炭を多量に含む
14. 10YR4/3　にぶい黄褐　極細砂～細砂
15. 10YR3/2　黒褐　極細砂　炭粒を多量に含む

W　SK5090　307.8m　E



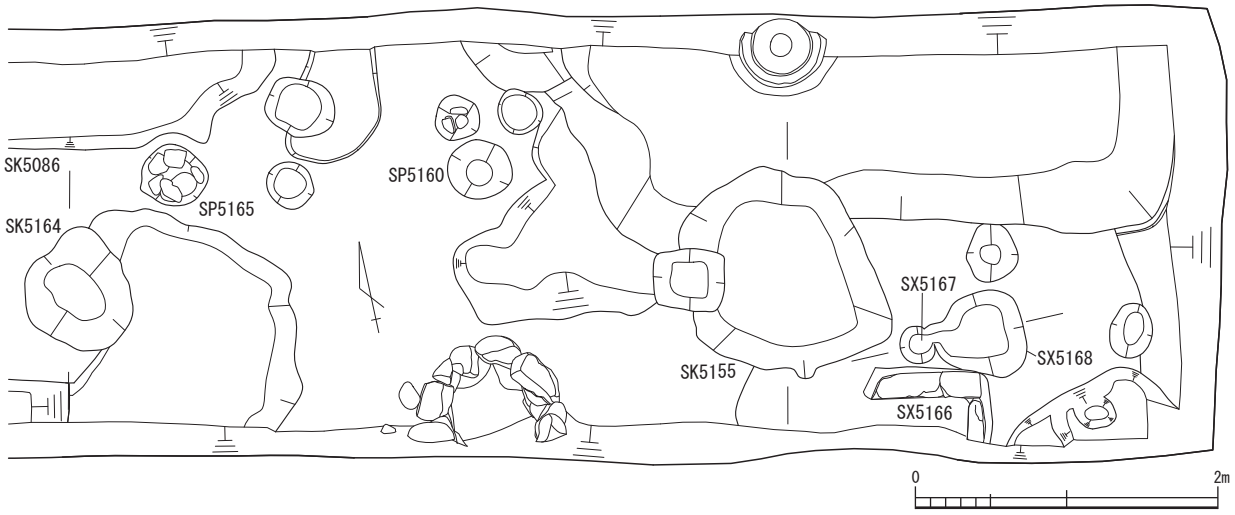
SK5087

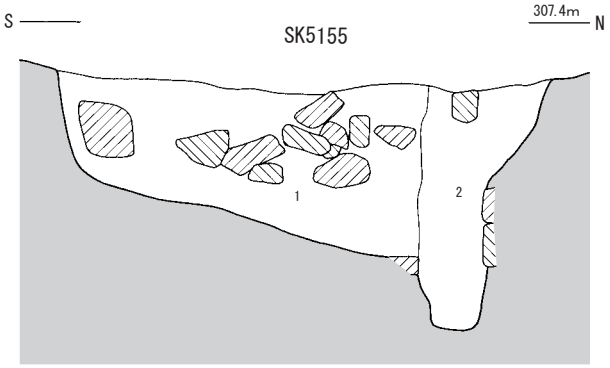


307.7m

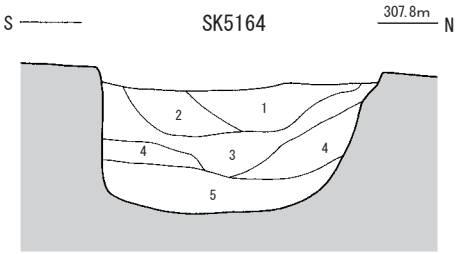
1. 10YR3/2　黒褐　中礫～大礫混細砂～中砂　10YR3/1黒褐色ブロック25%含む　やや軟質
2. 10YR3/1　黒褐　細礫混シルト質極細砂
3. 10YR3/4　暗褐　中砂～粗砂　10YR3/1黒褐色ブロック5%含む　やや軟質
4. 10YR3/4　暗褐　細礫～中礫混極粗砂質中砂～粗砂　10YR3/1黒褐色ブロック30%含む　軟質
5. 10YR3/4　暗褐　中砂～極細砂　10YR3/1黒褐色ブロック5%含む　軟質

0　1m

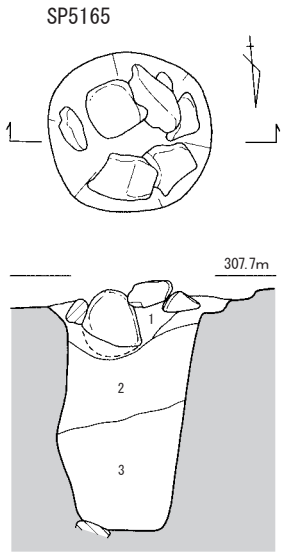




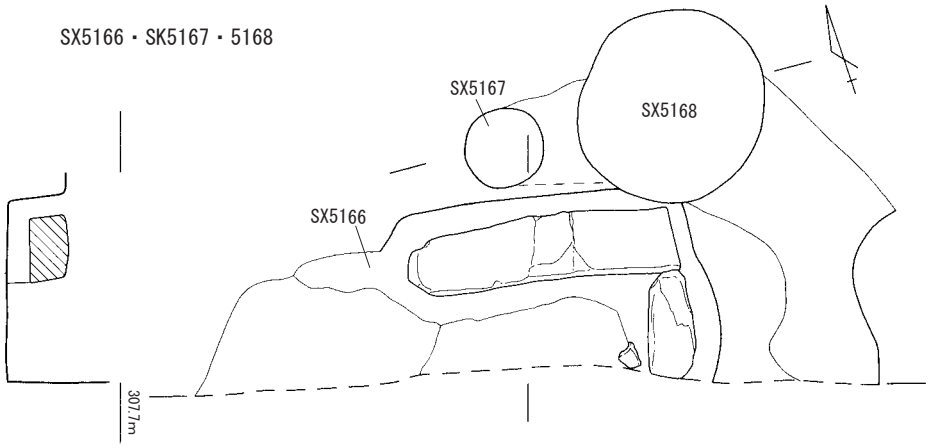
1. 10YR4/2　灰黄褐　シルト質細砂～粗砂　φ15cm以下の礫が多数投入されている
2. 10YR4/1　褐灰　シルト質細砂～粗砂　φ3cm以下の礫を含む　炭粒を含む　木柱の痕

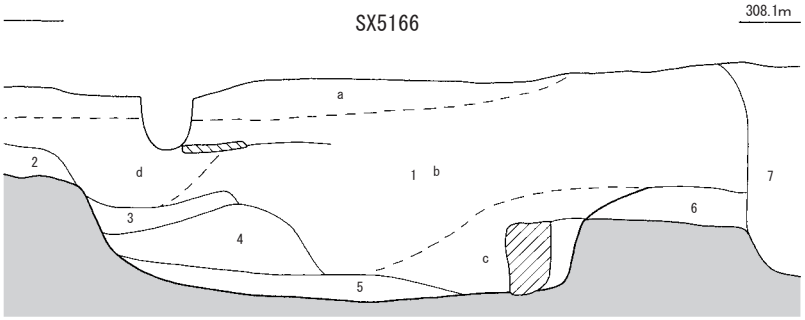


1. 5Y2/1　黒　粗砂混じりシルト質極細砂（炭化物粒わずかに含む）
2. 10YR3/1　黒褐　細礫混シルト質極細砂
10YR5/6黄褐色ブロックをわずかに含む
3. N1.5/0　黒　シルト―炭層？
4. 10YR4/3　にぶい黄褐　粗砂～中礫混じりシルト質極細砂　やや軟質
層下部に薄く炭層溜まる
5. 5Y3/1　オリーブ黒　粗砂～細礫質極細砂　中礫サイズのクサリ礫含む

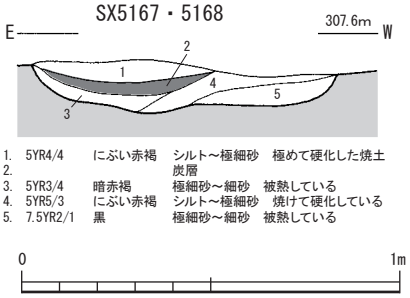


1. 10YR3/1　黒褐　大礫混粗砂～細礫質極細砂　やや軟質
2. 10YR4/3　にぶい黄褐　中砂～粗砂　軟質
10YR3/1黒褐色極細砂～細砂ブロックを多量に含む（50%以上）
3. 10YR4/3　にぶい黄褐　中砂～極粗砂
10YR3/1黒褐色ブロックわずかに含む（10～20%）　軟質





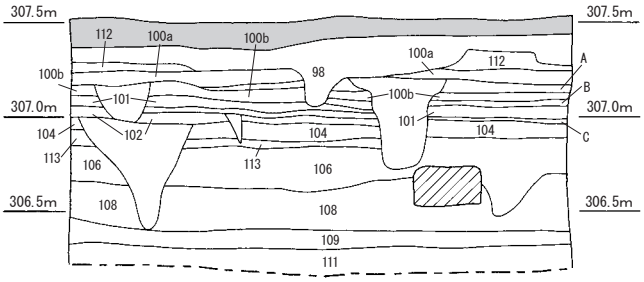
1. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトと5YR4/4にぶい赤褐色砂質シルト（焼土）のブロック状埋土
拳大以下の礫をわずかに含む　φ1cm以下の礫を含む
aはやや暗色で炭粒がやや多い
bはブロック土が占める
cは焼土片が多い
が、全体としては一括の人為埋土と考える
2. 10YR7/4　にぶい黄橙　砂質シルトのブロックを敷いた整地層
3. 7.5YR2/1　黒　シルト混細砂～粗砂　φ1cm以下の炭粒を局所的に多く含む
4. 7.5YR1.7/1　黒　シルト混極細砂～細砂
下部東側の部分は赤褐色の焼土、上部西側の部分では粉状の緑青色の物質が目立つ
5. 7.5YR3/4　暗褐　細砂～中砂　被熱している
6. 7.5YR3/2　黒褐　シルト質極細砂～細砂　灰を多く含む
7. 7.5YR3/2　黒褐　シルト質細砂～粗砂　φ2cm以下の礫を多く含む　極粗砂粒が目立つ　撹乱坑埋土

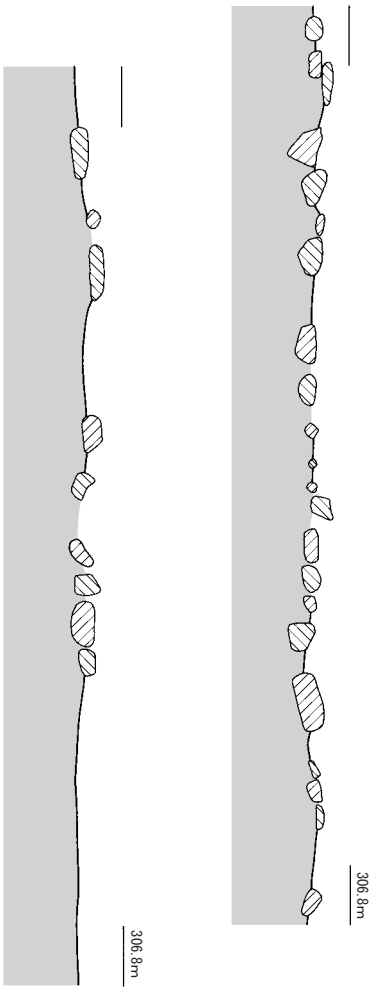


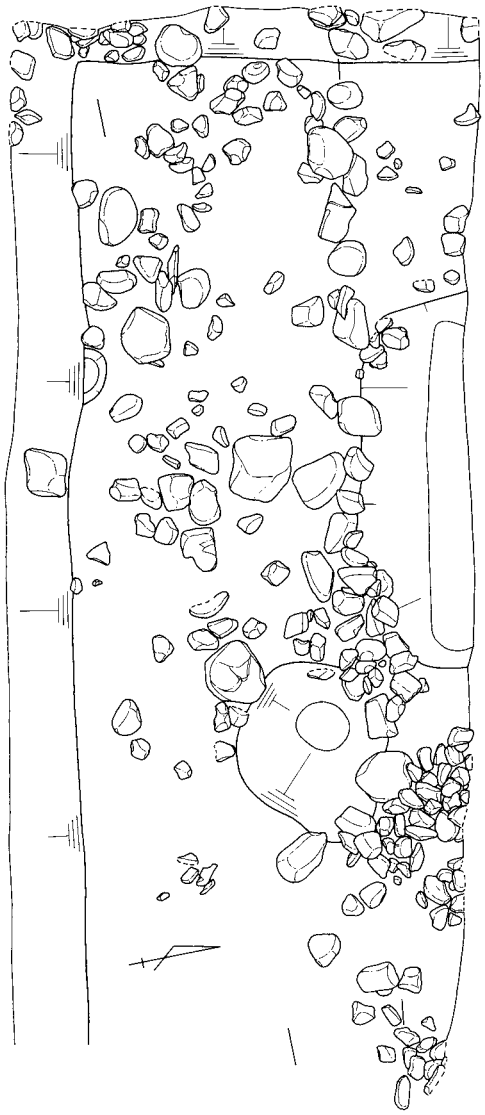
1. 5YR4/4　にぶい赤褐　シルト～極細砂　極めて硬化した焼土
2.　炭層
3. 5YR3/4　暗赤褐　極細砂～細砂　被熱している
4. 5YR5/3　にぶい赤褐　シルト～極細砂　焼けて硬化している
5. 7.5YR2/1　黒　極細砂～細砂　被熱している

SX5114

98.	10YR2/3	黒褐	シルト質砂　φ5cm以下の礫を含む φ1cm以下の焼土片・炭を多く含む　人為土
100.	10YR6/6	明黄褐	砂混じりシルト～砂質シルト 10YR3/2黒褐色砂質シルトの薄層をはさむ あるいは上下にこの薄層が見られる（縞状）　人為土
101.	10YR3/3	暗褐	シルト質極細砂　φ1cm以下の焼土片を局所的に含む 土壌化している　この上面が第1検出面 自然層？人為土？
102.	7.5YR3/2	黒褐	シルト質砂　一部に焼土の薄層をはさむ 全体に微小な焼土・炭を含む　人為土
104.	7.5YR4/4	褐	シルト～極細砂　焼土片と炭で形成される整地層 上部3cmほどには10YR3/2黒褐色シルト質砂の 土壌が見られる点で103層と分離される　第2面は本層上面　人為土
106.	7.5YR3/2	黒褐	中砂～極粗砂　拳大以下の礫を含み、特にφ2cm以下の礫を多く含む 微小な焼土片・炭を極多く含む　しまりの悪い人為土
108.	10YR2/2	黒褐	砂混じりシルト　拳大の礫を散漫に含むほか、1cm以下の礫を含む クロボク層　自然層
109.			石敷層　φ数cm～拳大の礫を主体に敷き均された層 10YR3/2黒褐色シルト質砂で充填されている　人為土
111.	10YR3/4	暗褐	シルト質極細砂　φ5cm以下の礫を散漫に含む地山　自然層
112.	10YR5/4	にぶい黄褐	砂質シルト　φ1cm以下の礫・粗砂を多く含む　人為土
113.	10YR4/2	灰黄褐	シルト質極細砂　土壌化している
A.	7.5YR5/4	にぶい褐	シルト～極細砂　焼土ブロックと炭による人為土
B.	10YR4/2	灰黄褐	砂質シルト
C.	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト質砂

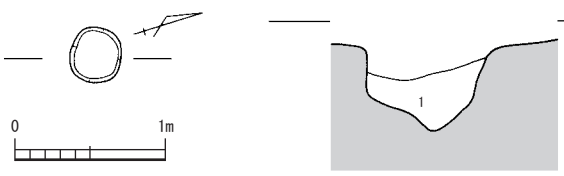






0　2m

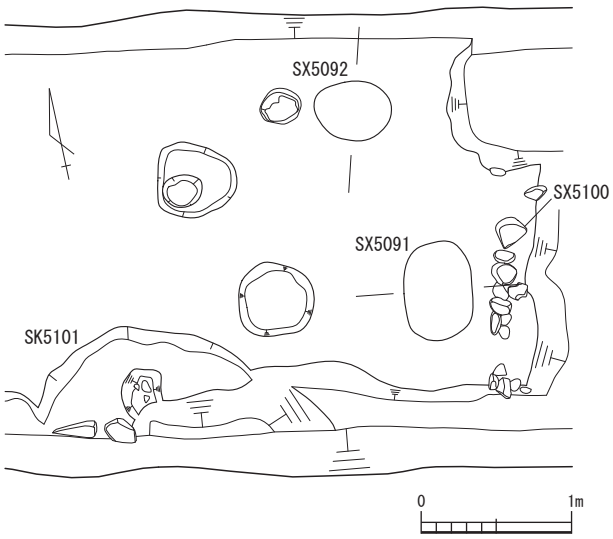
SP5116

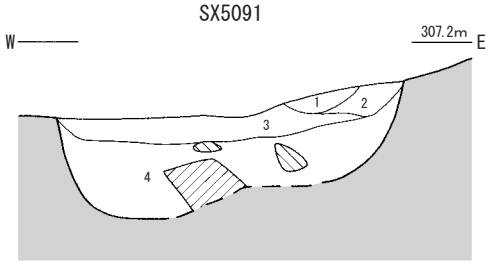


0　1m

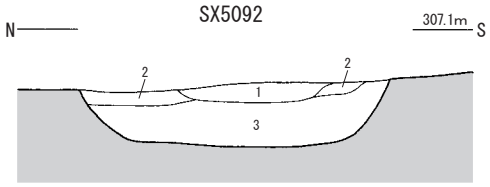
0　50 cm

1. 10YR3/2　黒褐　中砂～粗砂質極細砂　細礫・中礫含む
軟質　粘性あり→柱痕あり



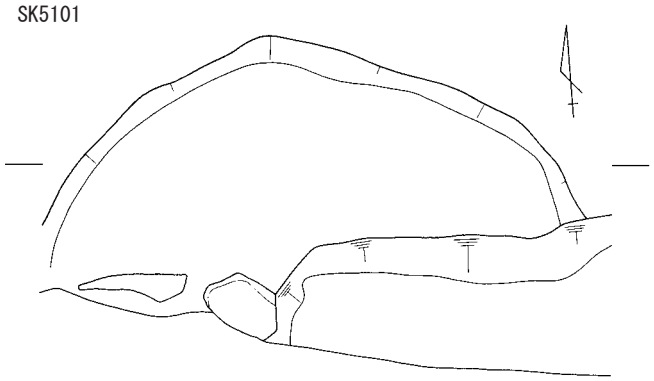


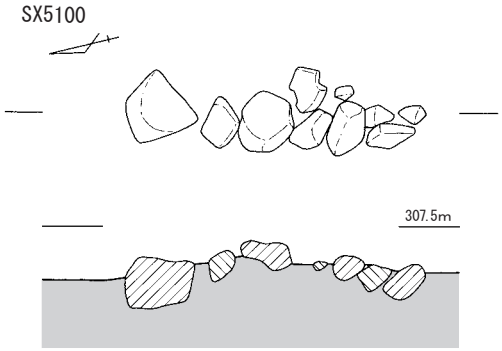
1. 5YR5/6 明赤褐 細礫混中砂～細砂 硬く焼けしまる 被熱面
2. 7.5YR1.7/1 黒 細礫混極細砂 － 炭化物層
3. 7.5YR2/1 黒 粗砂～細礫混極細砂～細砂 － 焼土
4. 10YR3/3 暗褐 粗砂～細礫（中礫・大礫含む） － ベース

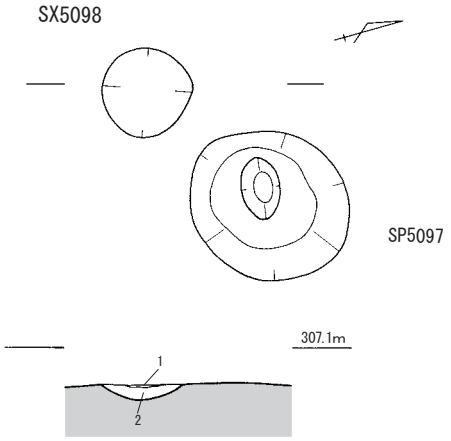


1. 10YR1.7/1 黒 細礫混極細砂～粗砂 － 中央部に5YR5/6明赤褐色の焼土あり
2. 7.5YR3/1 黒褐 細礫混極細砂～細砂
→1・2層は焼土被熱部からの距離による色調変化によるもの
3. 10YR3/3 暗褐 粗砂～細礫 － ベース

0 50m







1. 10YR5/2 灰黄褐 灰層
2. 5YR4/4 にぶい赤褐 極細砂 焼土

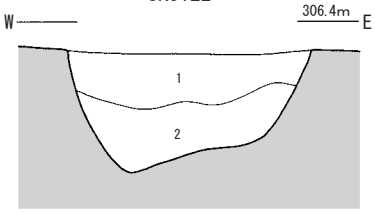
0 1m

第４面

５区遺構平面図・断面図（16）

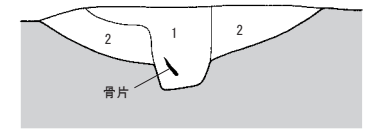
第４面

SK5122



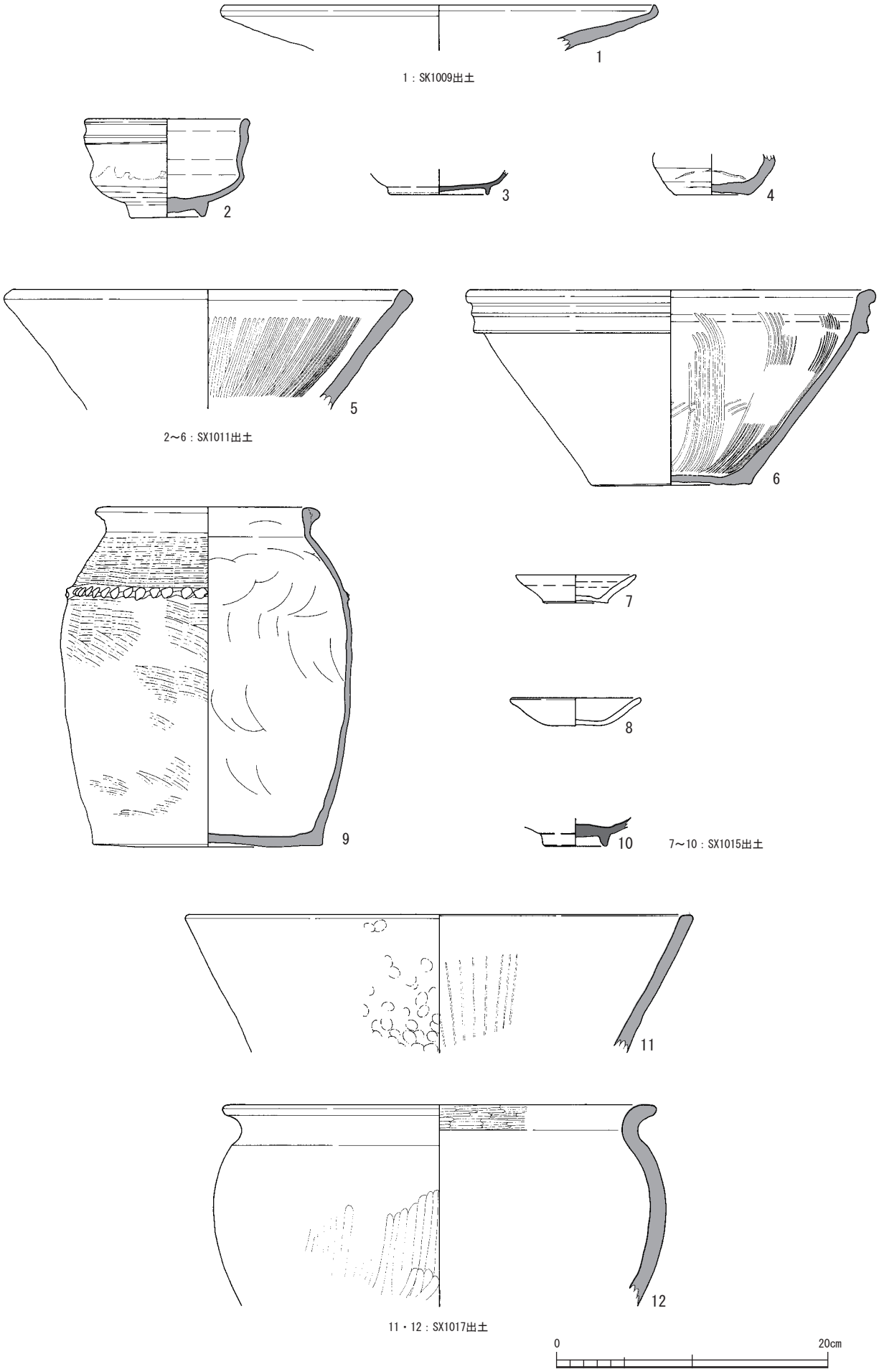
1. 7.5YR3/1　黒褐　シルト質極細砂　わずかに焼土粒を含む
2. 10YR1.7/1　黒　砂質シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルト質極細砂（地山）～細砂のブロック（指頭大）を含む

SK5133

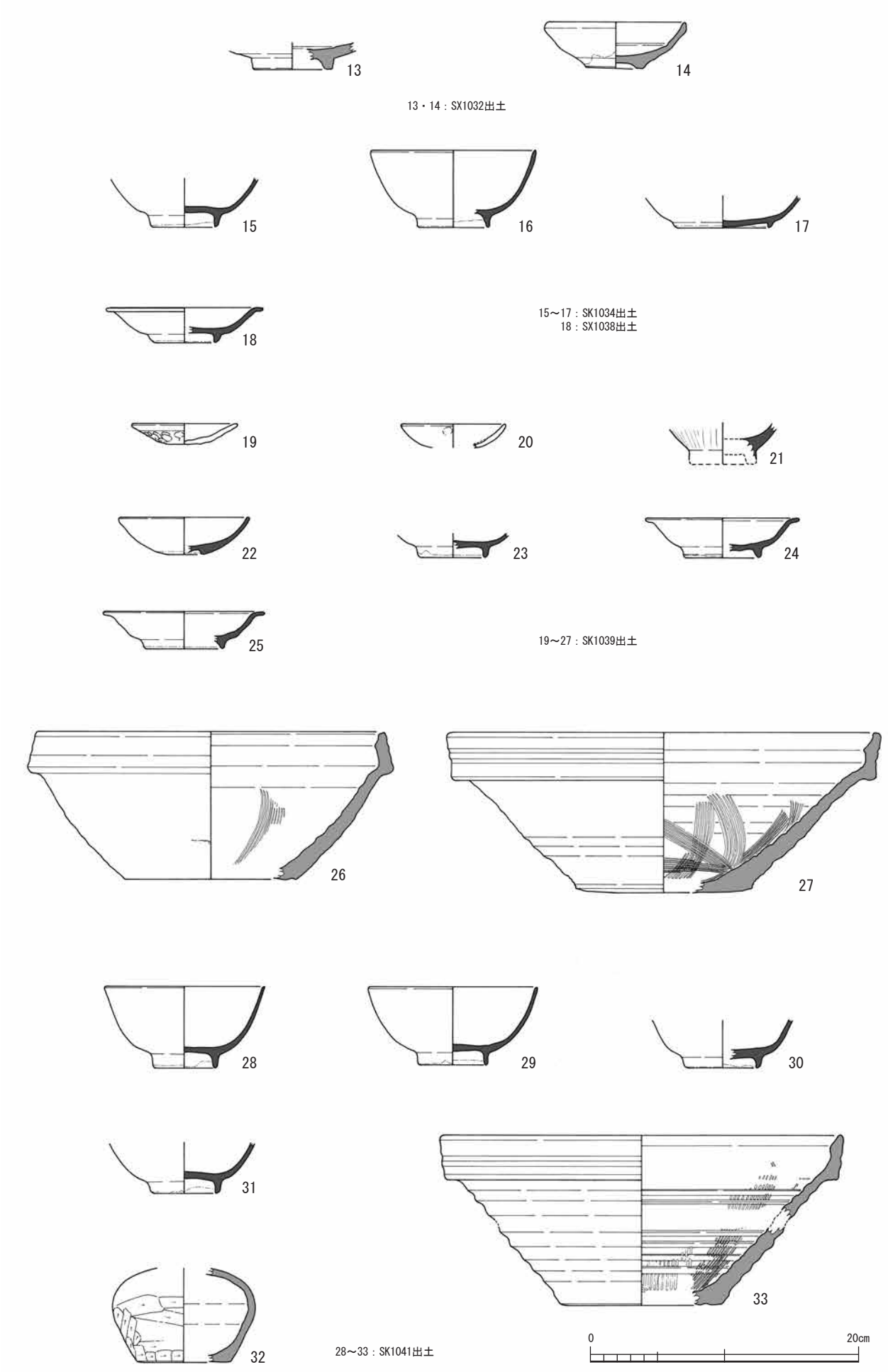


1. 10YR3/4　暗褐　シルト質極細砂　焼土粒・炭を含む　磁器碗の出土層
2. 10YR2/1　黒　シルト質極細砂　φ3cmほどの礫をわずかに含む

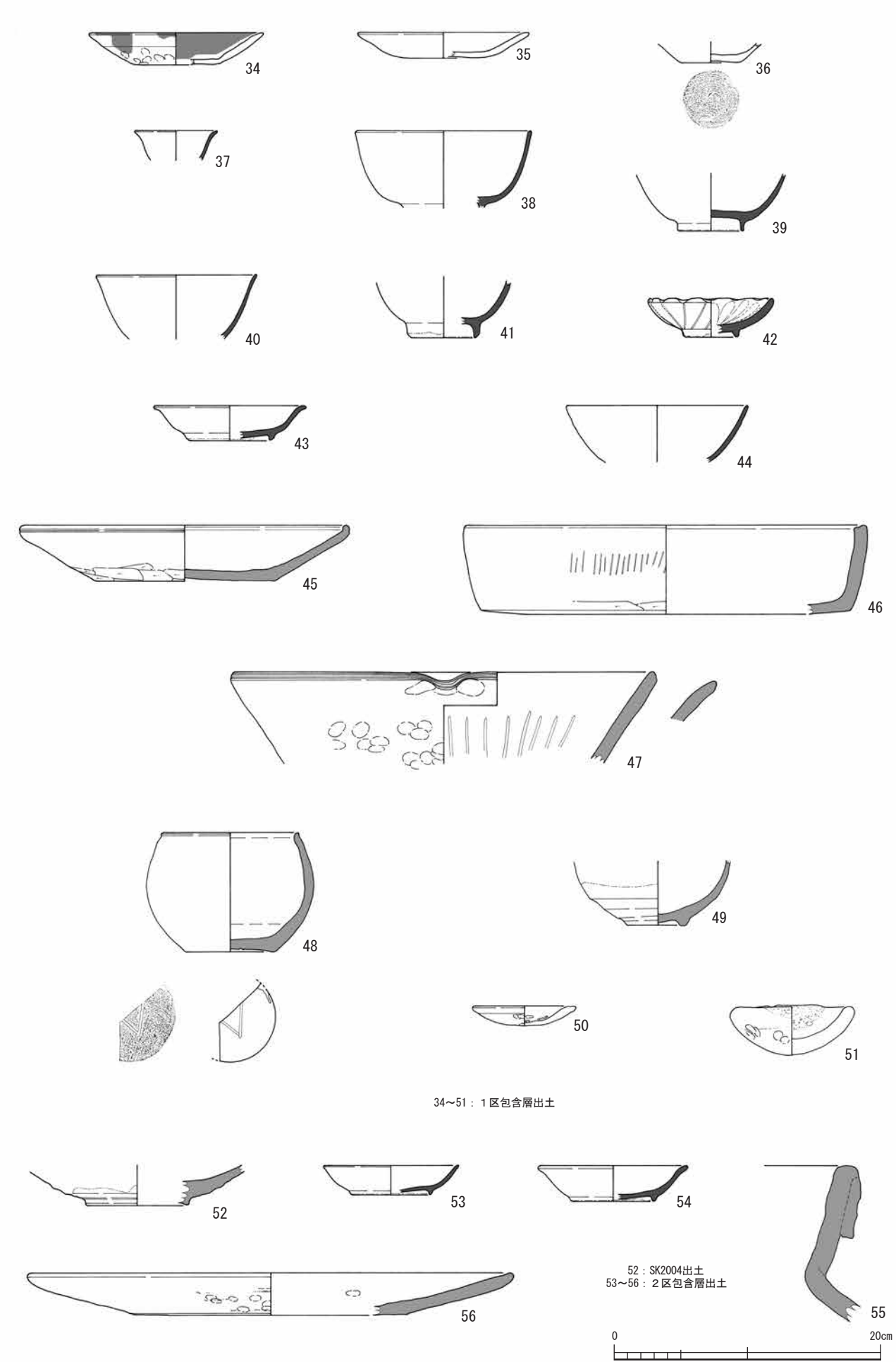
第５面


1
1：SK1009出土
2
3
4
5
2～6：SX1011出土
6
9
7
8
10
7～10：SX1015出土
11
12
11・12：SX1017出土
0
20cm

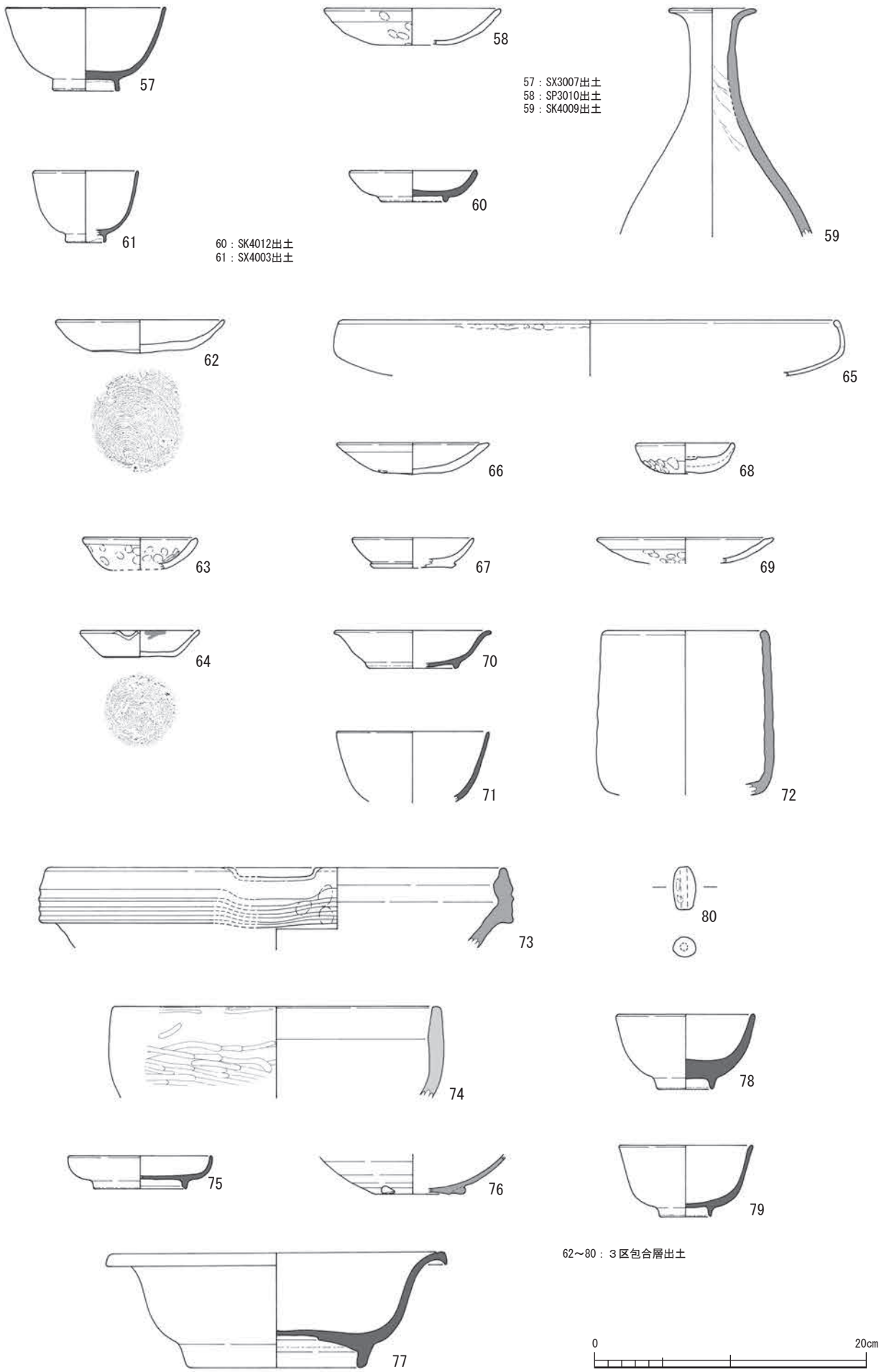
1区出土土器・陶磁器（1）


13
14
13・14：SX1032出土
15
16
17
18
15～17：SK1034出土
18：SX1038出土
19
20
21
22
23
24
25
19～27：SK1039出土
26
27
28
29
30
31
32
33
28～33：SK1041出土
0
20cm

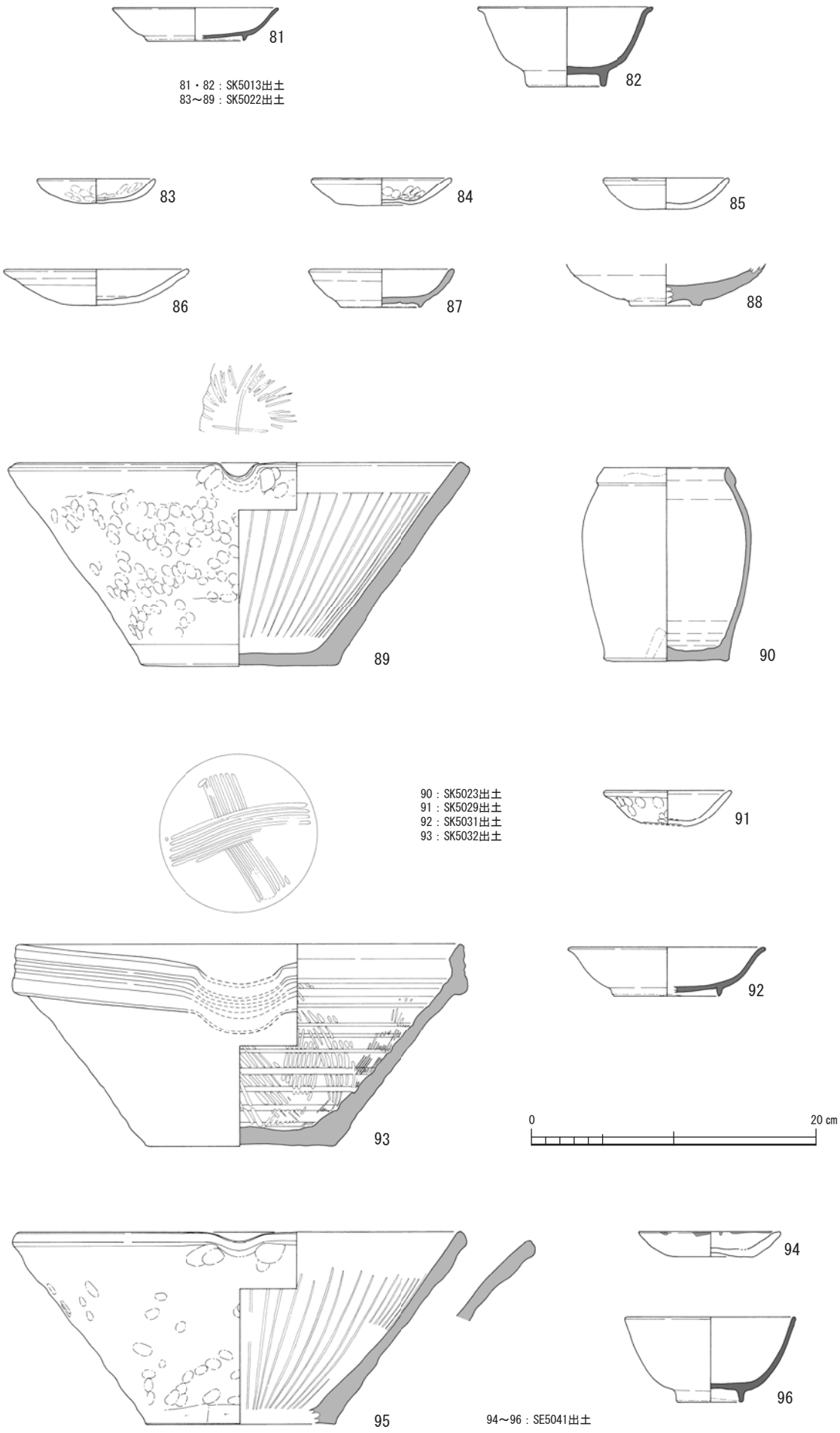
1区出土土器・陶磁器（2）



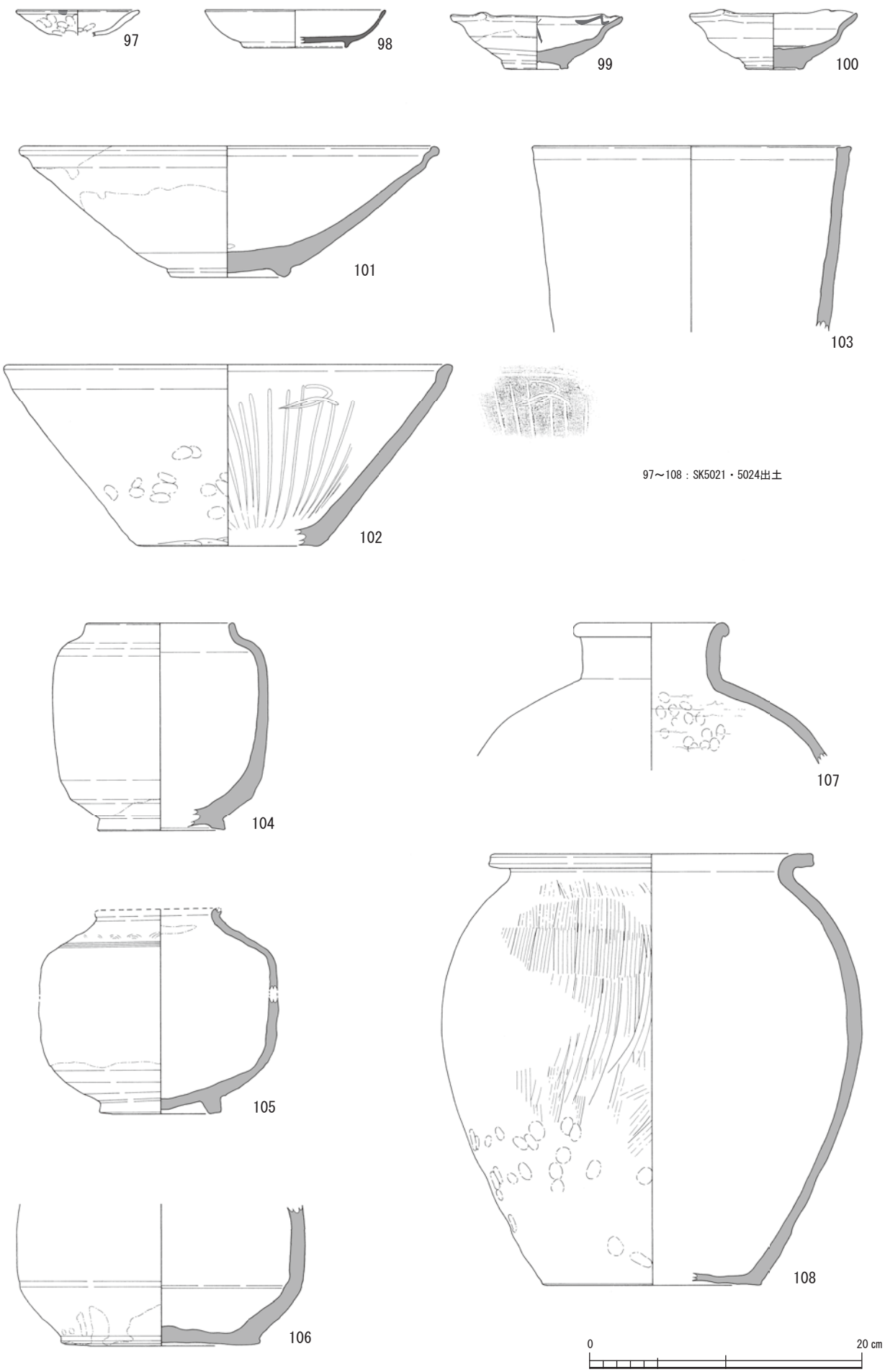
１区出土土器・陶磁器（3）２区出土陶磁器


57
58
57：SX3007出土
58：SP3010出土
59：SK4009出土
59
61
60
60：SK4012出土
61：SX4003出土
62
65
66
68
63
67
69
64
70
71
72
73
80
74
78
75
76
79
62～80：３区包合層出土
77
0
20cm

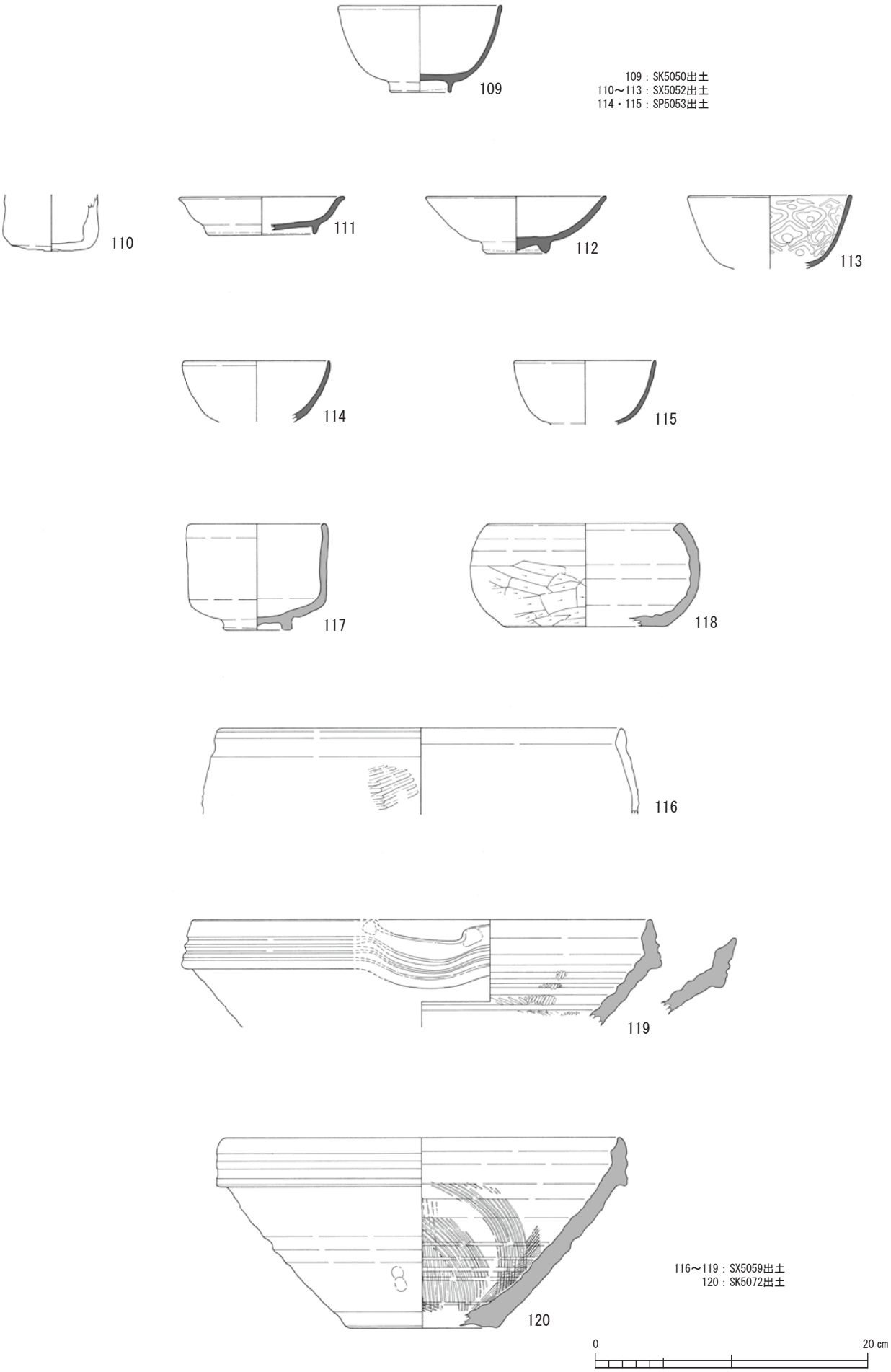
３・４区出土土器・陶磁器


81
82
81・82：SK5013出土
83～89：SK5022出土
83
84
85
86
87
88
89
90
90：SK5023出土
91：SK5029出土
92：SK5031出土
93：SK5032出土
91
92
93
0
20 cm
94
95
96
94～96：SE5041出土

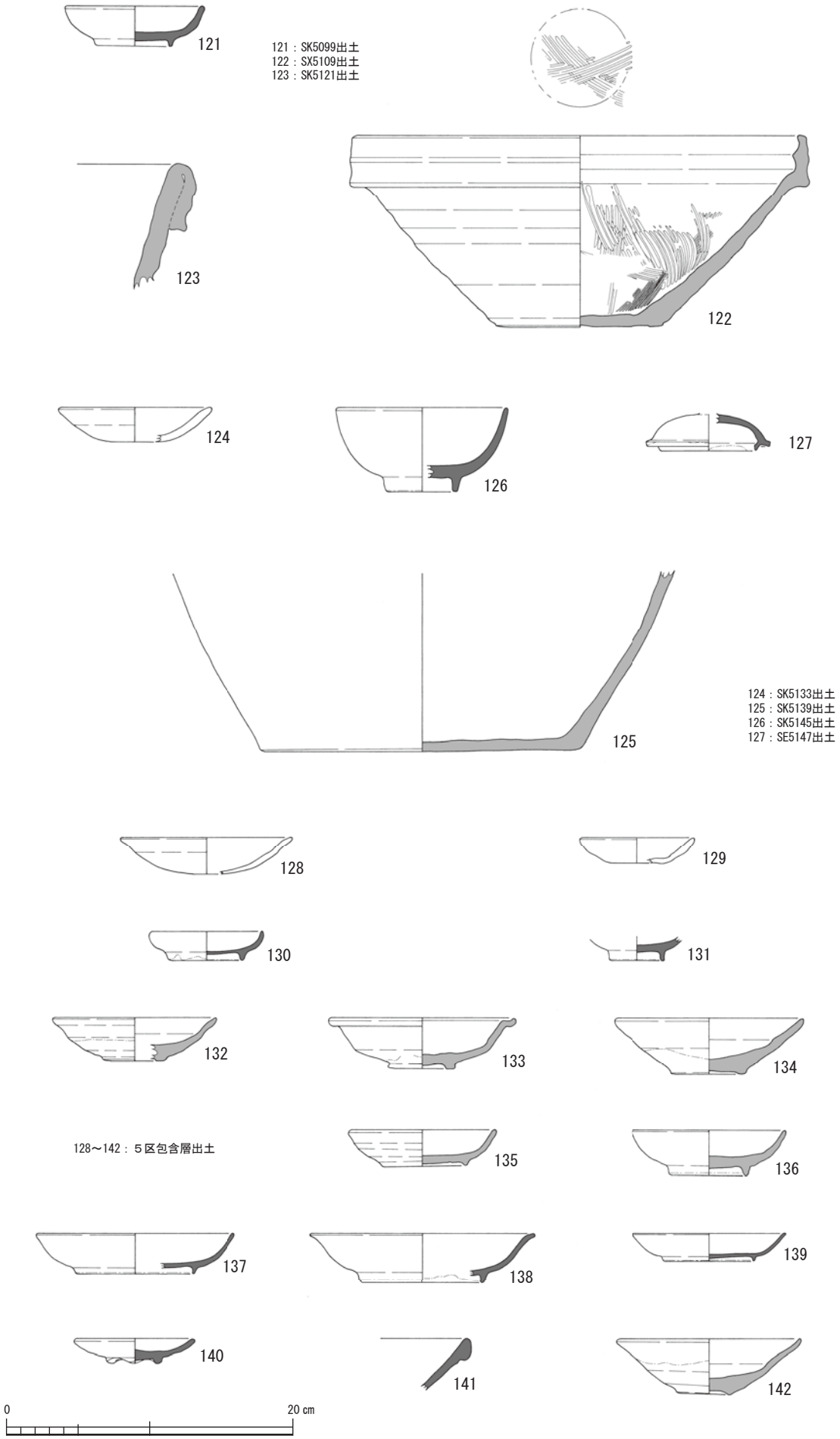
５区出土土器・陶磁器（1）


97
98
99
100
101
103
102
97～108：SK5021・5024出土
104
107
105
108
106
0
20 cm

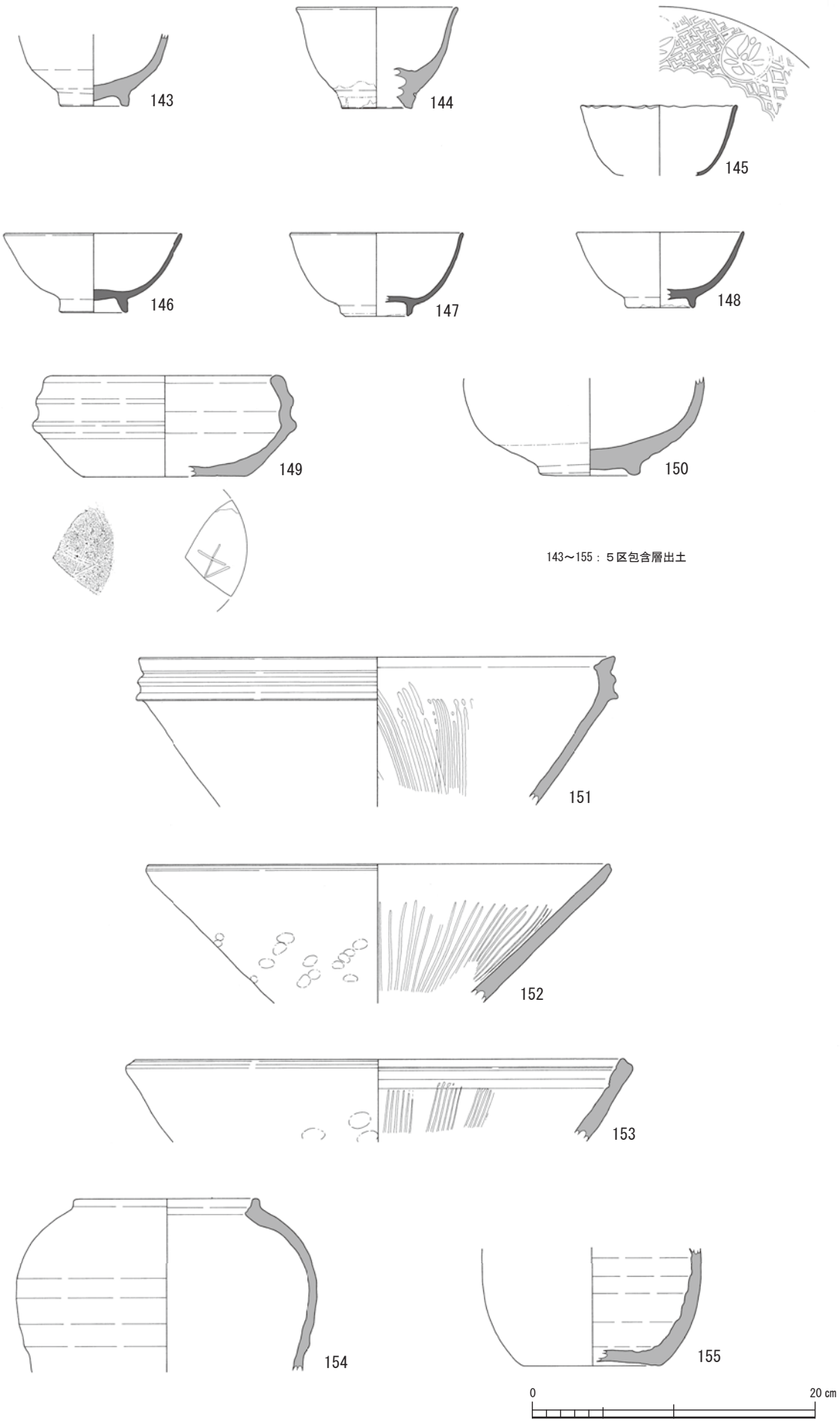
５区出土土器・陶磁器（2）


109
109：SK5050出土
110～113：SX5052出土
114・115：SP5053出土
110
111
112
113
114
115
117
118
116
119
120
116～119：SX5059出土
120：SK5072出土
0
20 cm

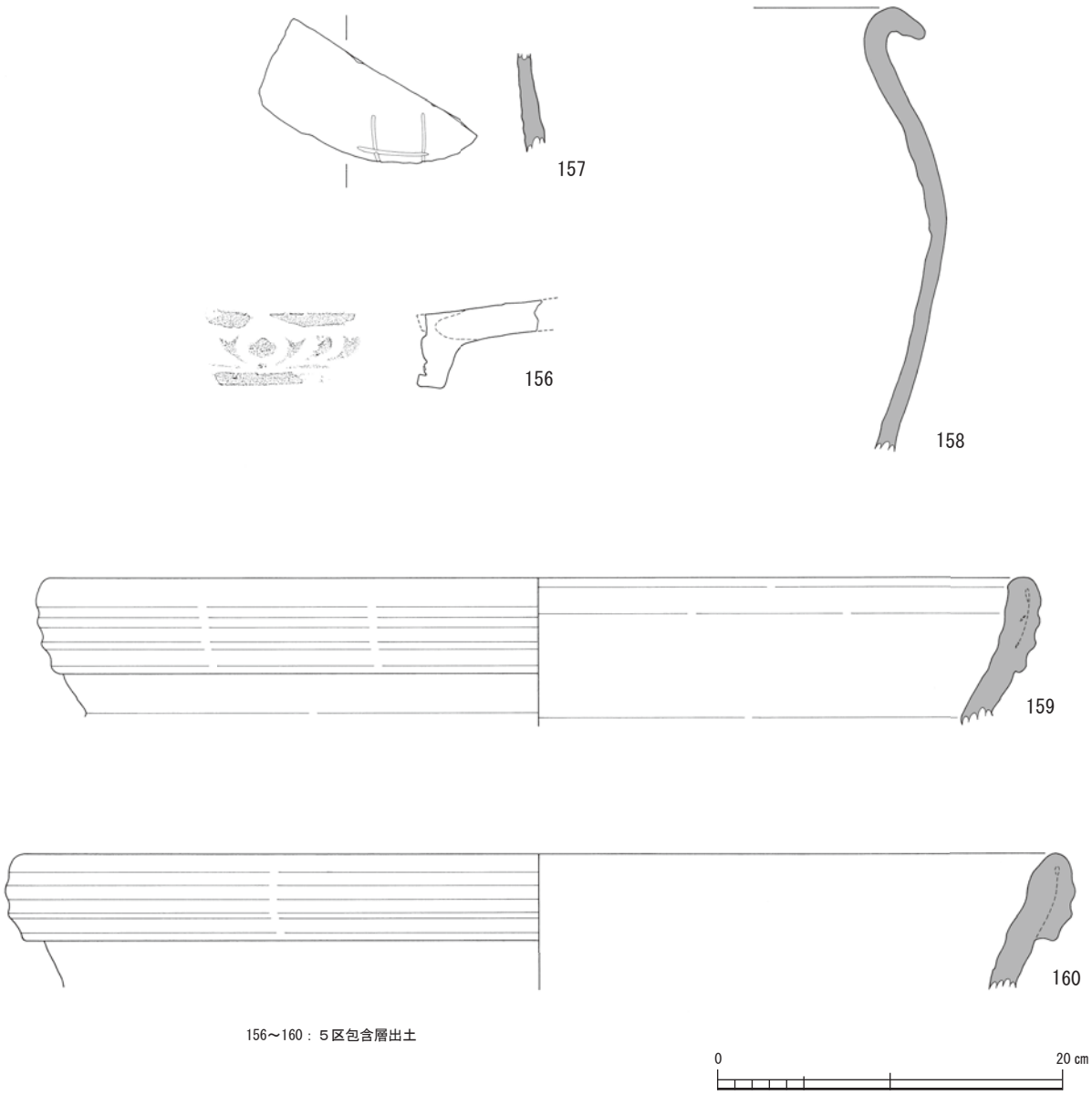
５区出土土器・陶磁器（3）


121
121：SK5099出土
122：SX5109出土
123：SK5121出土
123
122
124
126
127
125
124：SK5133出土
125：SK5139出土
126：SK5145出土
127：SE5147出土
128
129
130
131
132
133
134
128～142：５区包含層出土
135
136
137
138
139
140
141
142
0
20 cm

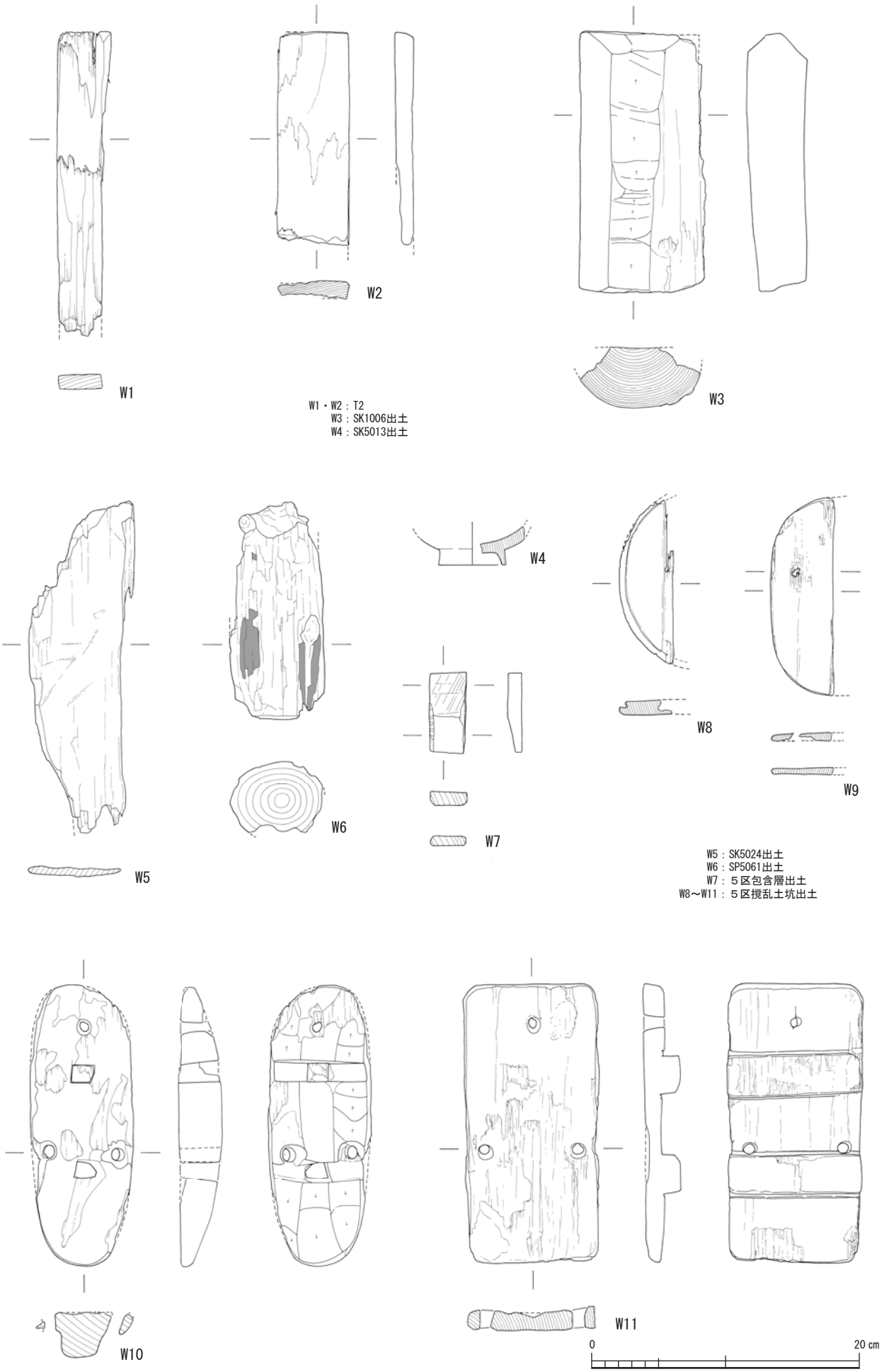
５区出土土器・陶磁器（4）


143
144
145
146
147
148
149
150
143～155：５区包含層出土
151
152
153
154
155
0
20 cm

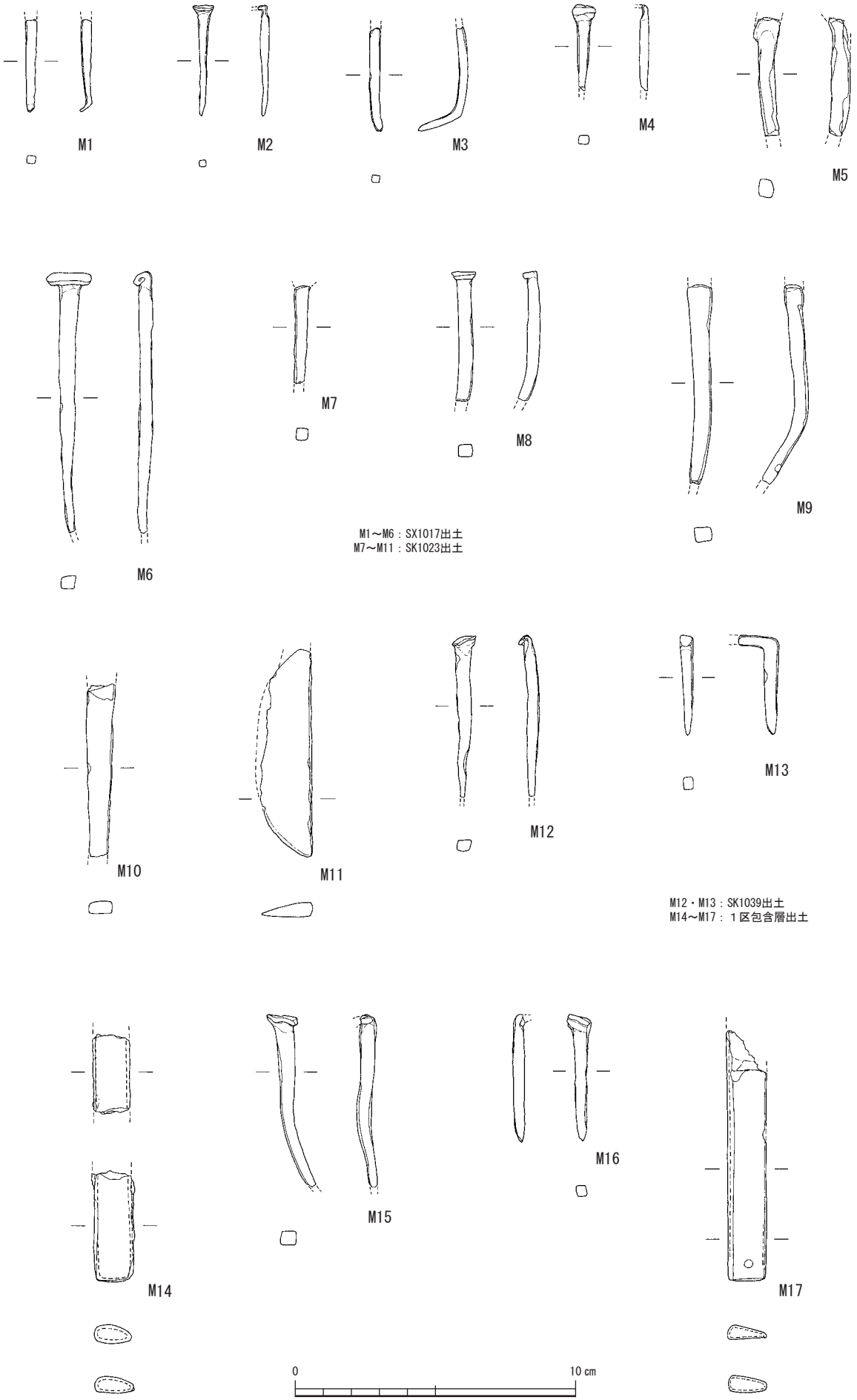
５区出土土器・陶磁器（5）



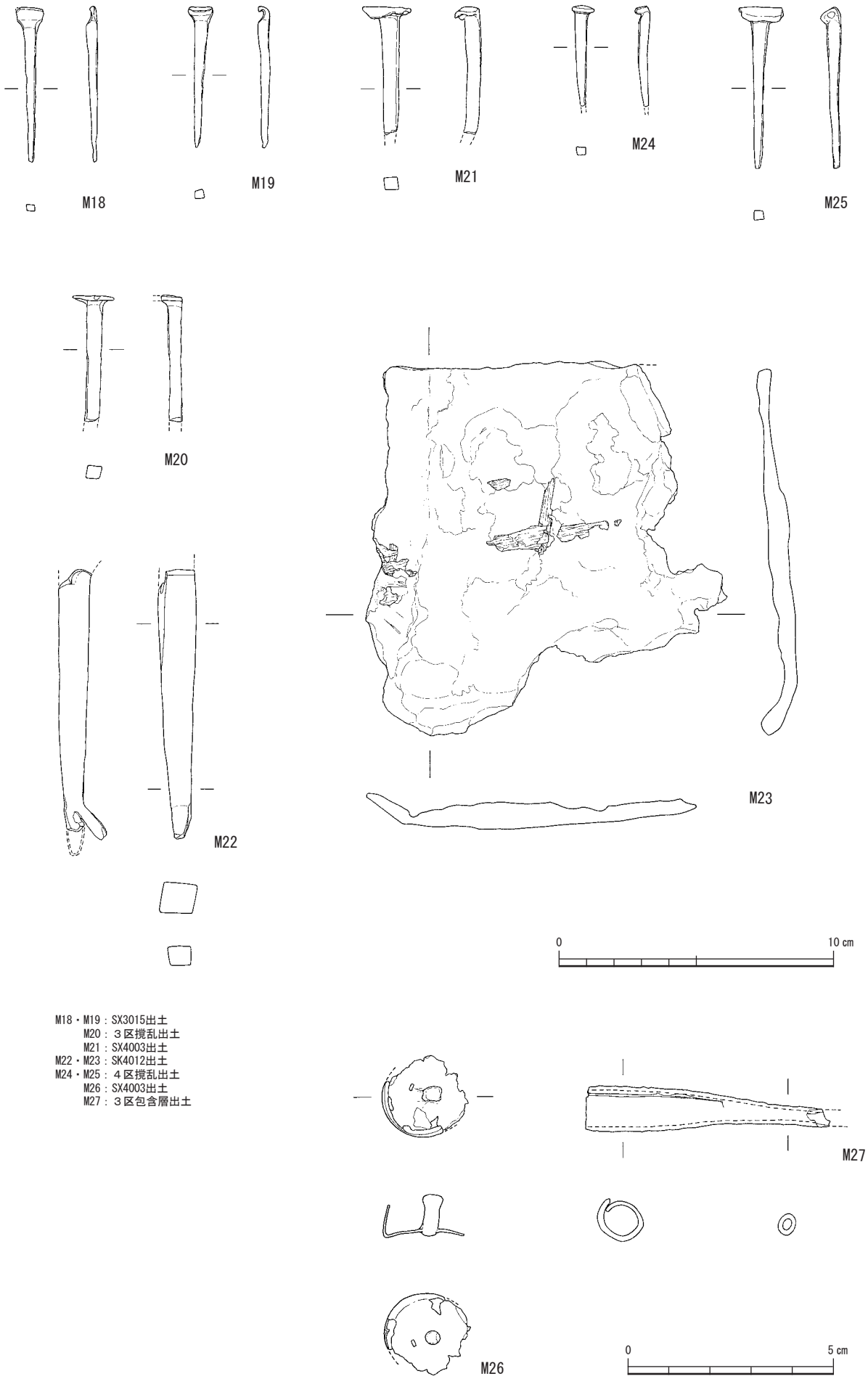
５区出土土器・陶磁器（6）


W1
W2
W3
W1・W2：T2
W3：SK1006出土
W4：SK5013出土
W4
W5
W6
W7
W8
W9
W5：SK5024出土
W6：SP5061出土
W7：５区包含層出土
W8～W11：５区撹乱土坑出土
W10
W11
0
20 cm

各地区出土の木製品

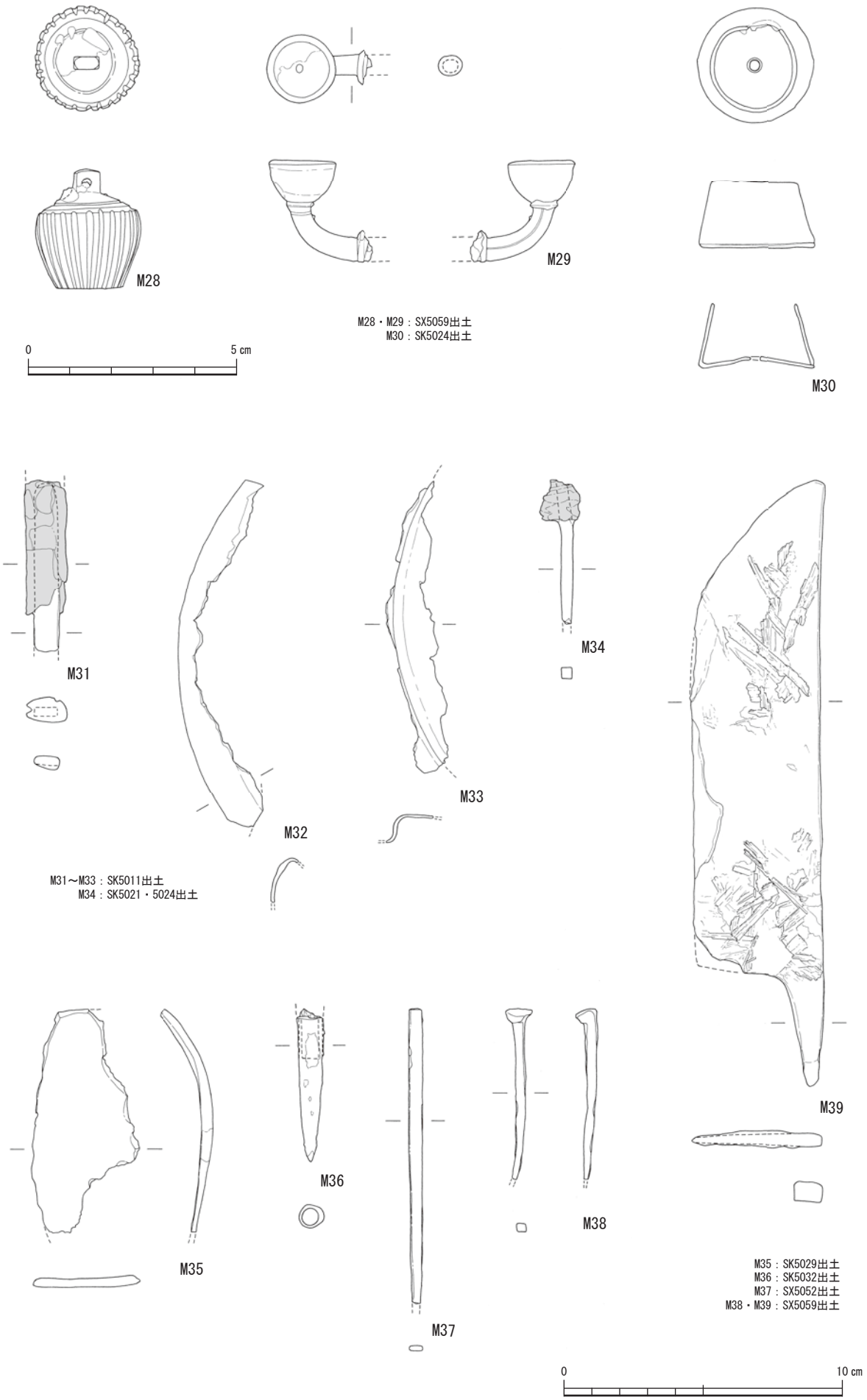


各地区出土の金属製品（1）

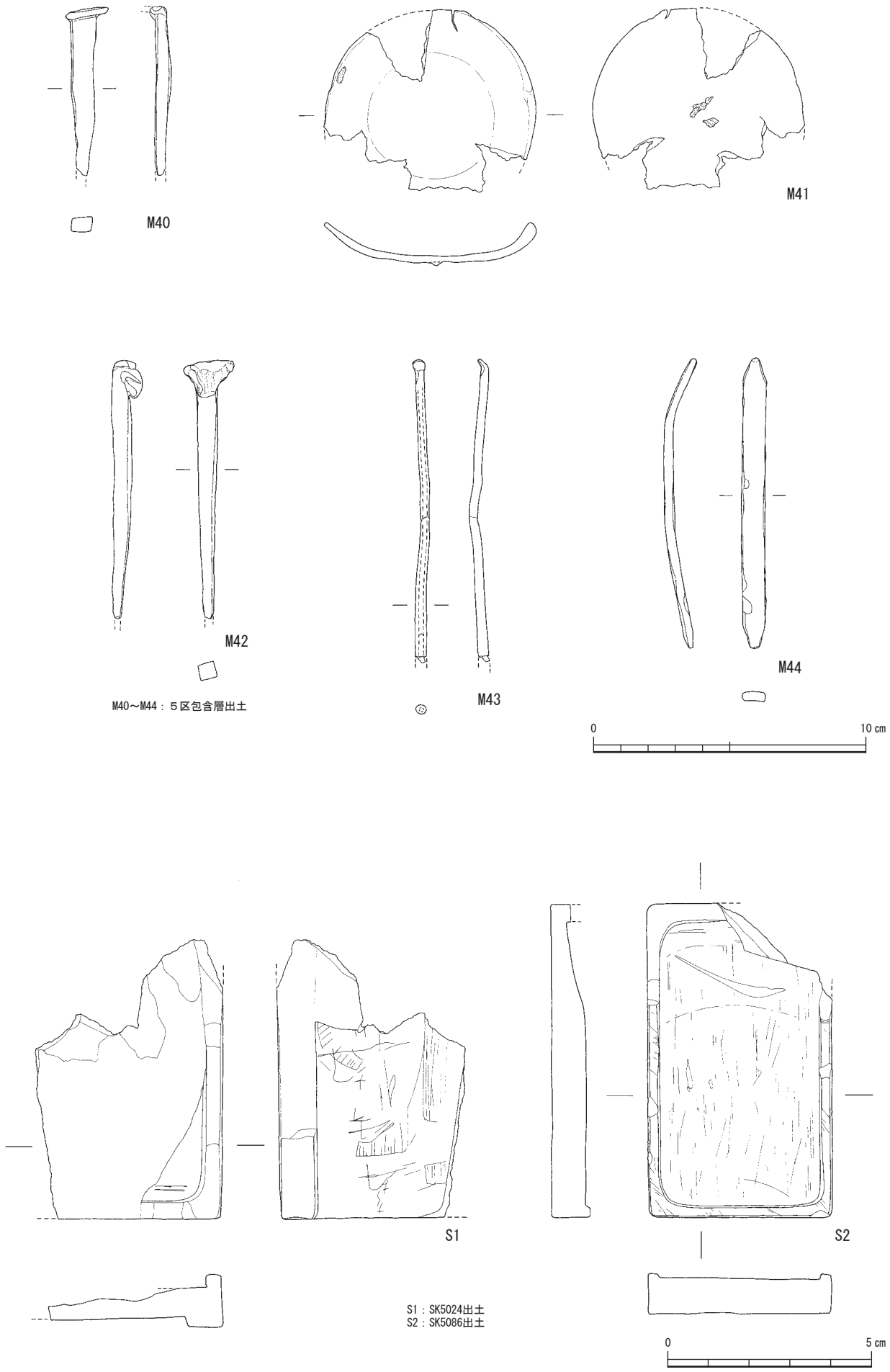


M18・M19：SX3015出土
M20：３区撹乱出土
M21：SX4003出土
M22・M23：SK4012出土
M24・M25：４区撹乱出土
M26：SX4003出土
M27：３区包含層出土

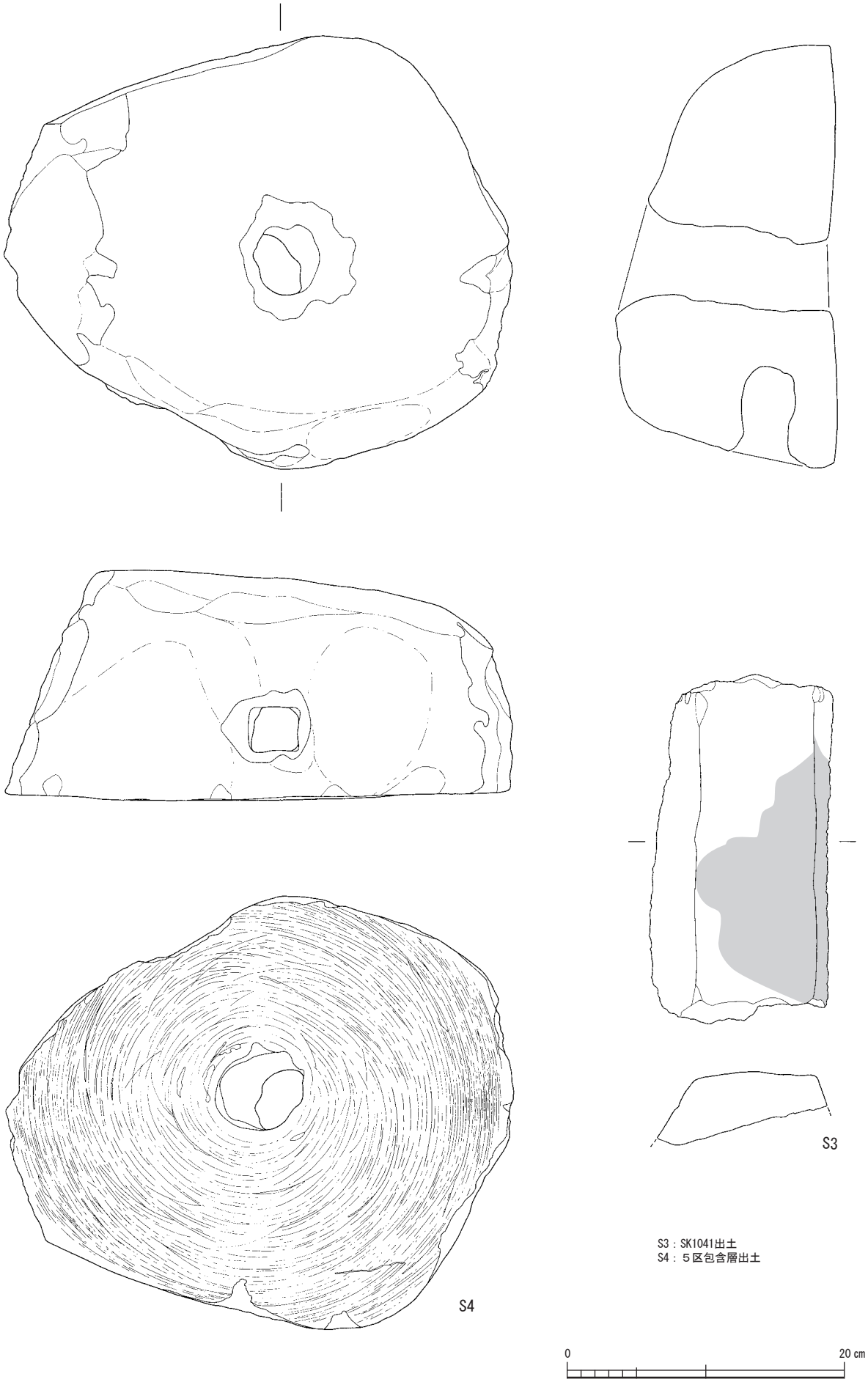
各地区出土の金属製品（2）



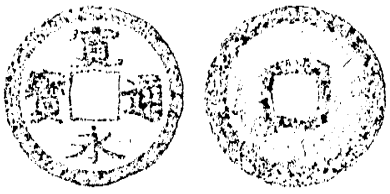
各地区出土の金属製品（3）



各地区出土の金属製品（4）各地区出土の石製品（1）

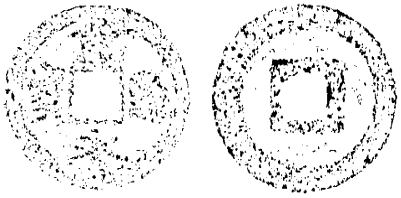


各地区出土の石製品（2）



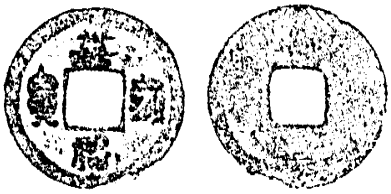
M45

T6



M46

東区



M47

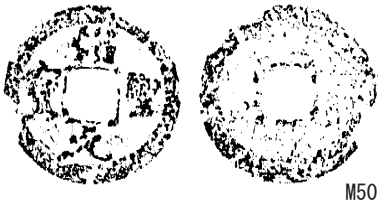
１区　SP1008

M48

１区　SP1008

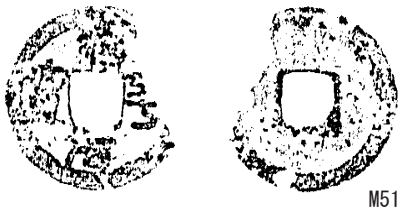
M49

１区　SX1011



M50

１区　SX1038

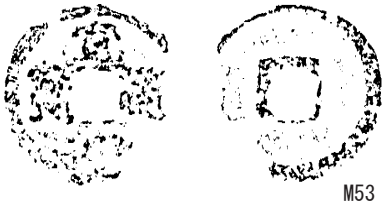


M51

１区　SK1039

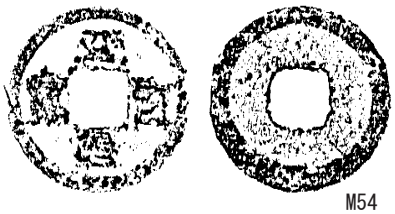
M52

１区　SK1034



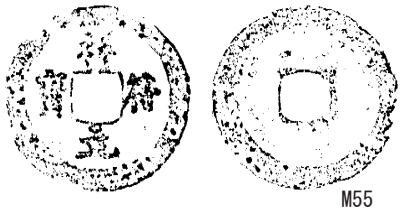
M53

１区　第２面



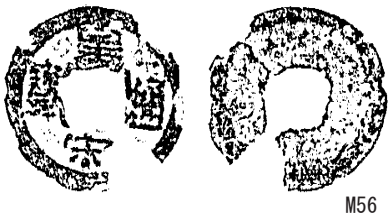
M54

１区　第２面直上



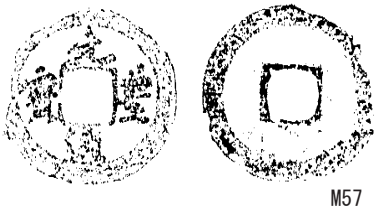
M55

１区　第２面直上



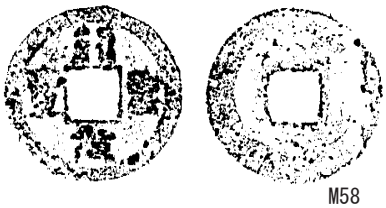
M56

１区　第２面直上



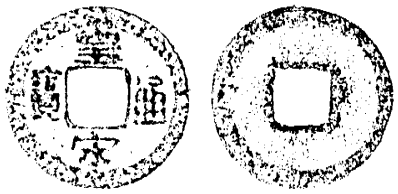
M57

１区　西端第２面直上



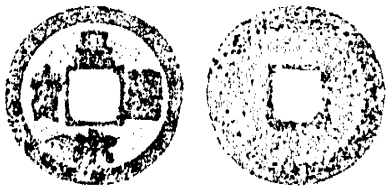
M58

１区　西端第２面直上



M59

１区　第３面



M60

１区　第３面

T6・東区および１区出土銅銭（1）　S＝1:1

M61

１区　第３面焼土・クロボク境界

M62

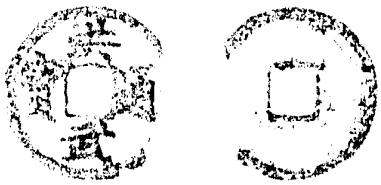
１区　第３面焼土・クロボク境界

M63

１区　第３面焼土・クロボク境界

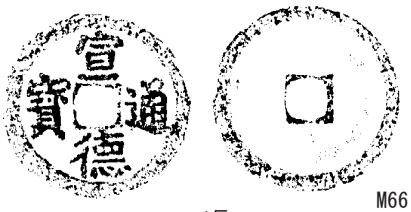
M64

１区



M65

１区

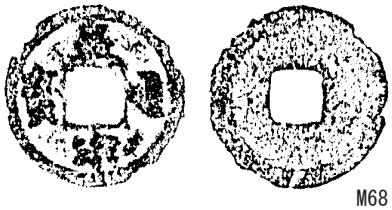


M66

１区

M67

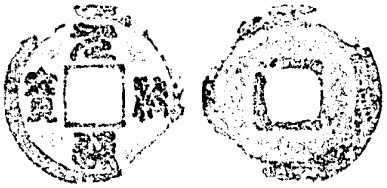
１区



M68

１区

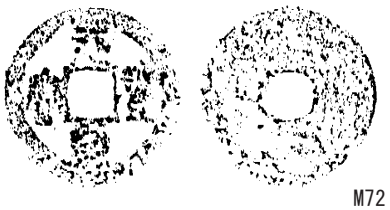
２区　M69



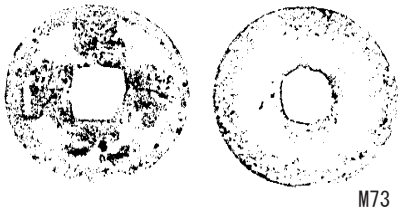
２区　撹乱　M70

２区　M71

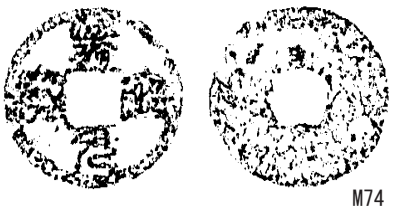
１区出土銅銭（2）２区出土銅銭　S＝1：1


M72

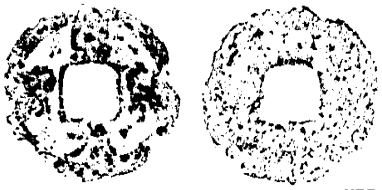
３区　SX3015


M73

３区　第１・２面間整地層


M74

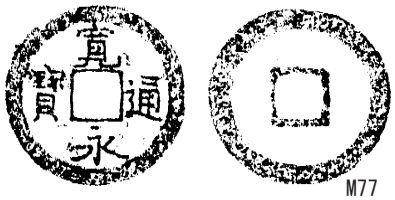
３区　第１・２面間整地層


M75

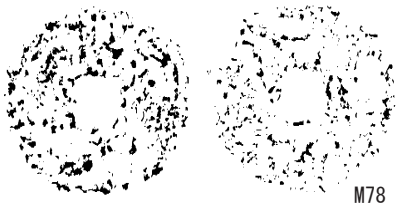
３区　第１・２面間整地層

M76

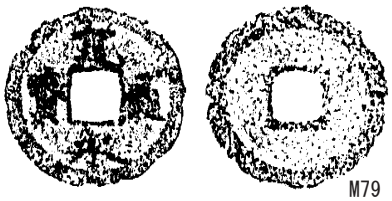
３区　第１・２面間整地層


M77

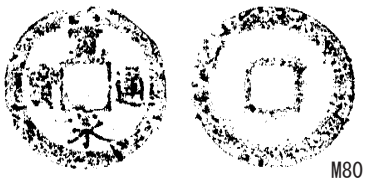
４区　SX4002付近


M78

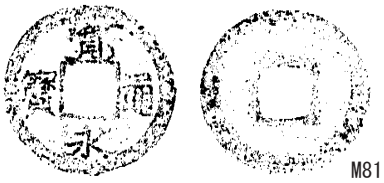
４区　SD4006


M79

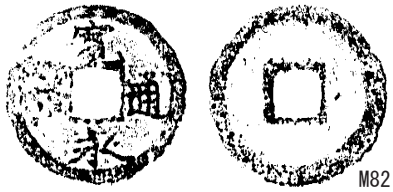
４区　SK4012上層


M80

４区　第１面直上


M81

４区　第１面直上


M82

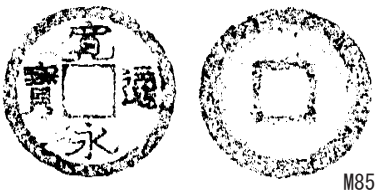
４区　第１面直上

M83

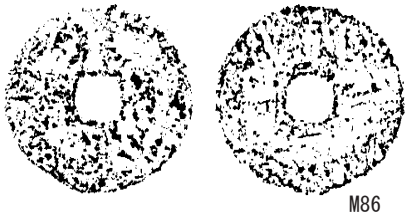
４区　第１面直上

M84

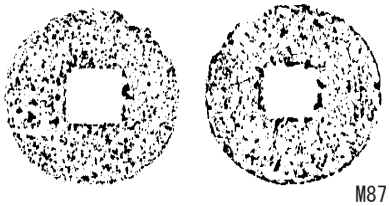
４区　第１面直上


M85

４区　撹乱部

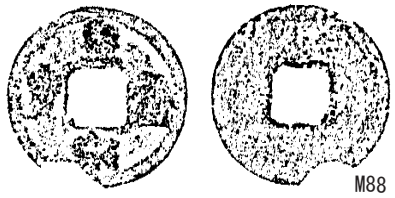

M86

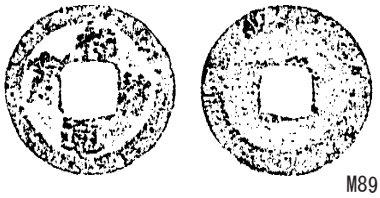
４区

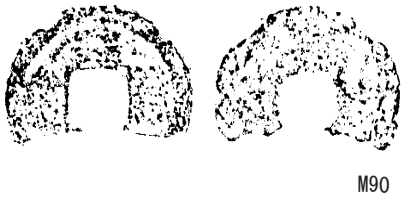

M87

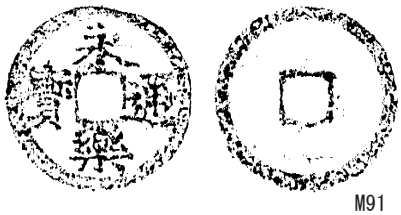
４区　第１・２面間整地層

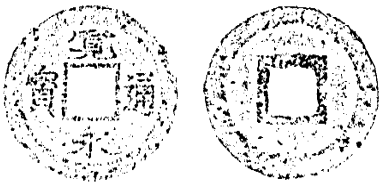
３・４区出土銅銭　S＝1：1

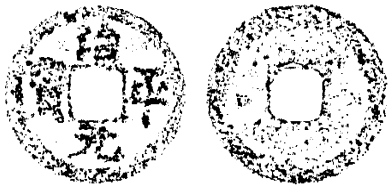

M88
５区　SK5009

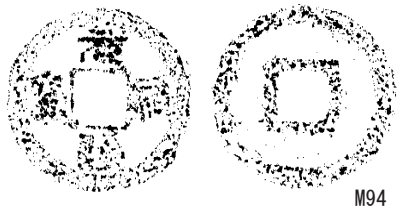

M89
５区　SK5009


M90
５区　SK5010

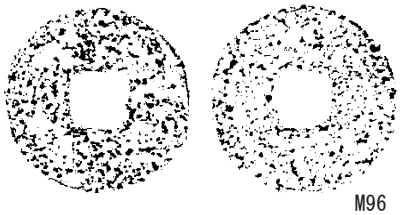

M91
５区　SK5010

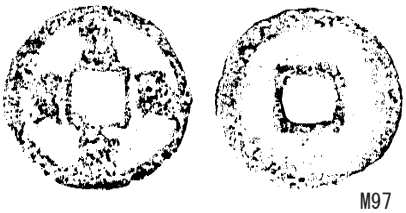

M92
５区　SK5011


M93
５区　SK5024東半

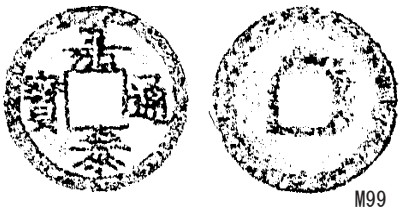

M94
５区　SX5059

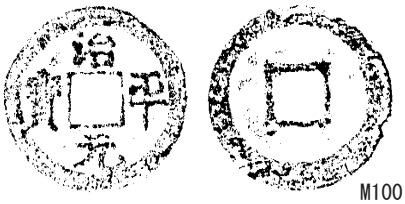
M95
５区　SK5072

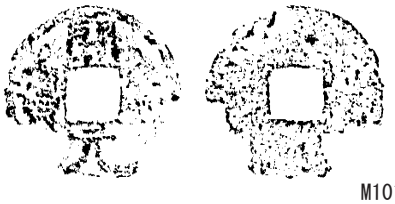

M96
５区　SX5095

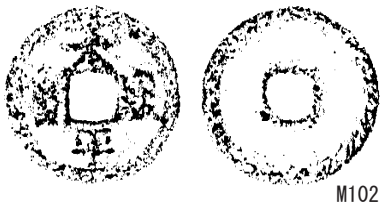

M97
５区　SX5095

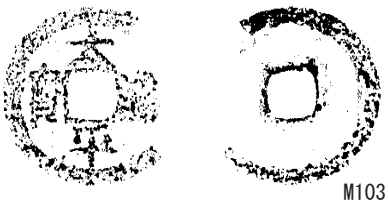
M98
５区　SX5095

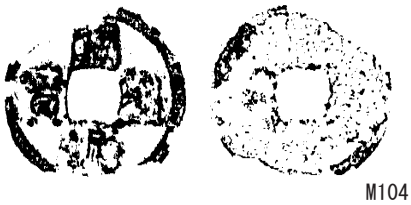

M99
５区　第１面


M100
５区　第１面

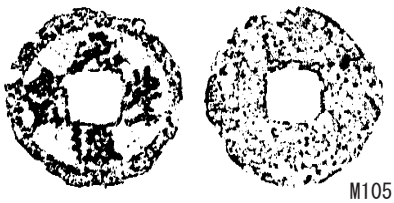

M101
５区　第１面直上

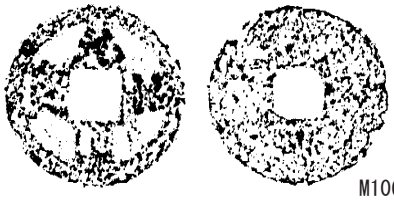

M102
５区　第１面直上


M103
５区　第２面直上

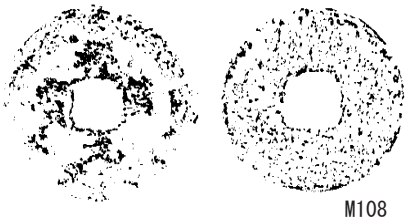

M104
５区　第２・３面間整地層

５区出土銅銭（1）　S＝1：1

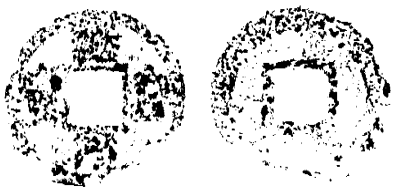

M105
５区　第２・３面間整地層


M106
５区　第２・３面間整地層

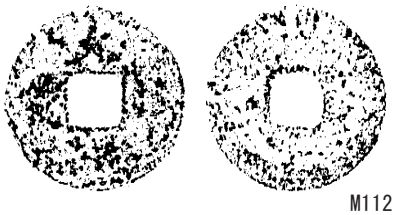
M107
５区　第２・３面間整地層

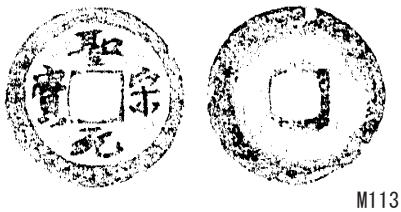

M108
５区　第２・３面間整地層

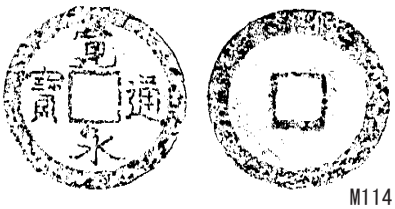
M109
５区　第２・３面間整地層

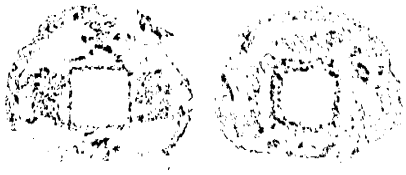

M110
５区　第２・３面間整地層

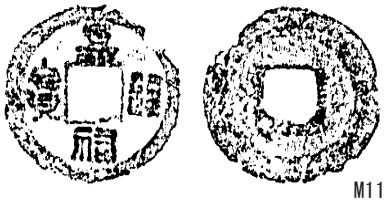
M111
５区　第２面直上

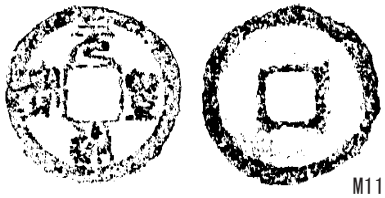

M112
５区　第２面直上


M113
５区　SK5072

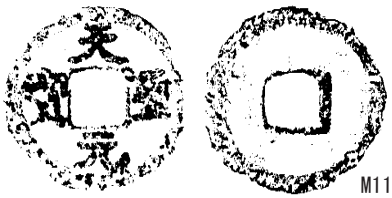

M114
５区　包含層

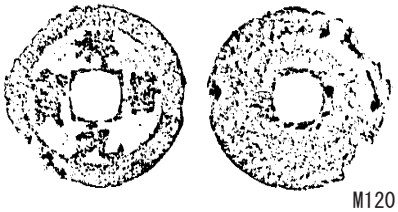

M115
５区　包含層

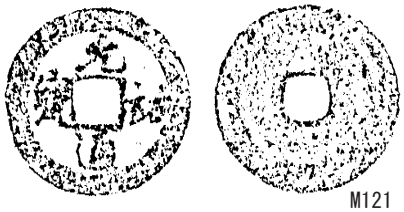

M116
５区　包含層


M117
５区　包含層

M118
５区　包含層


M119
５区　包含層


M120
５区　包含層

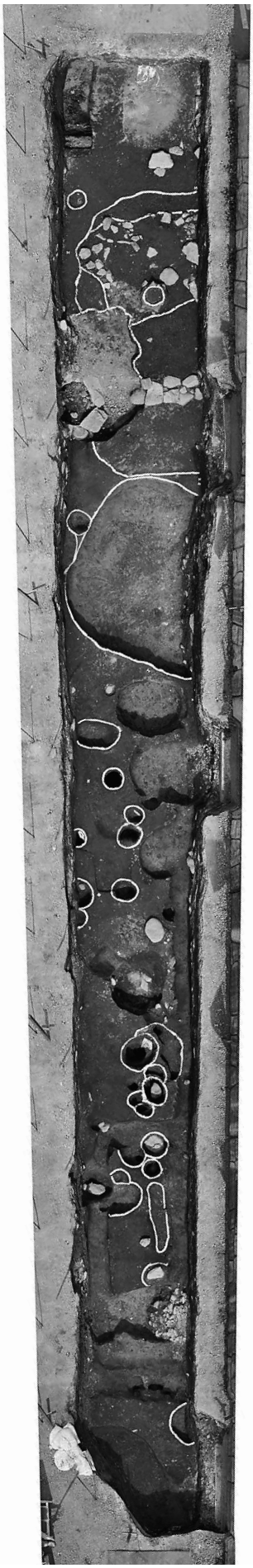

M121
５区　撹乱部

M122
５区　撹乱部

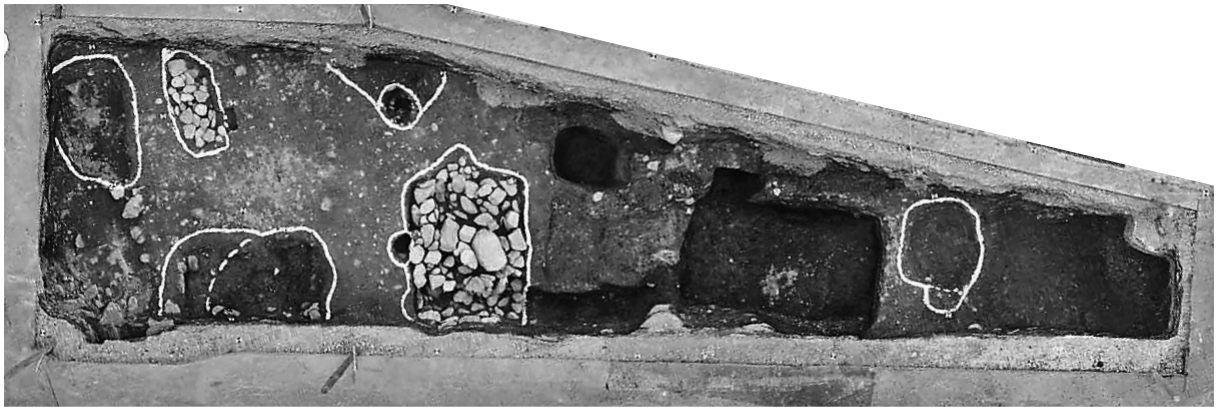
５区出土銅銭（2）　S＝1：1

写真図版

1 区第 1 面

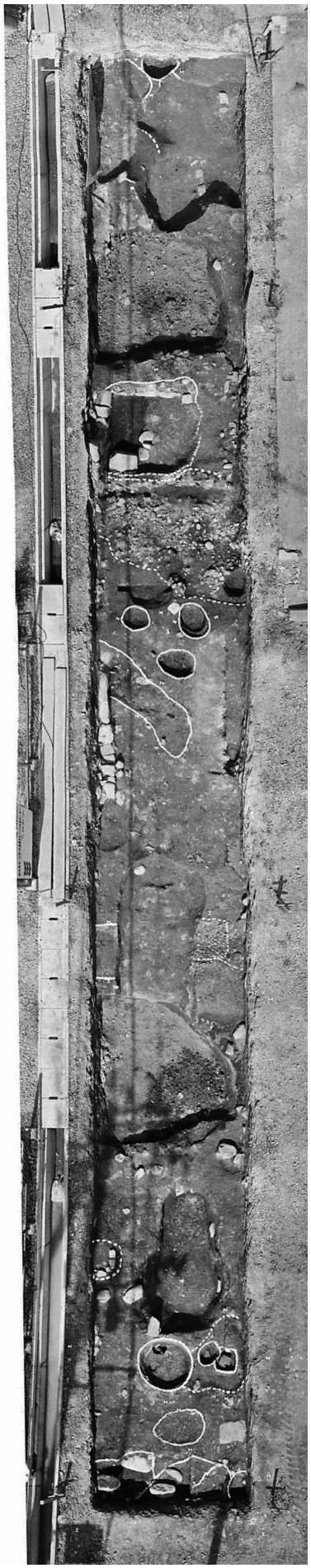


1 区第 3 面

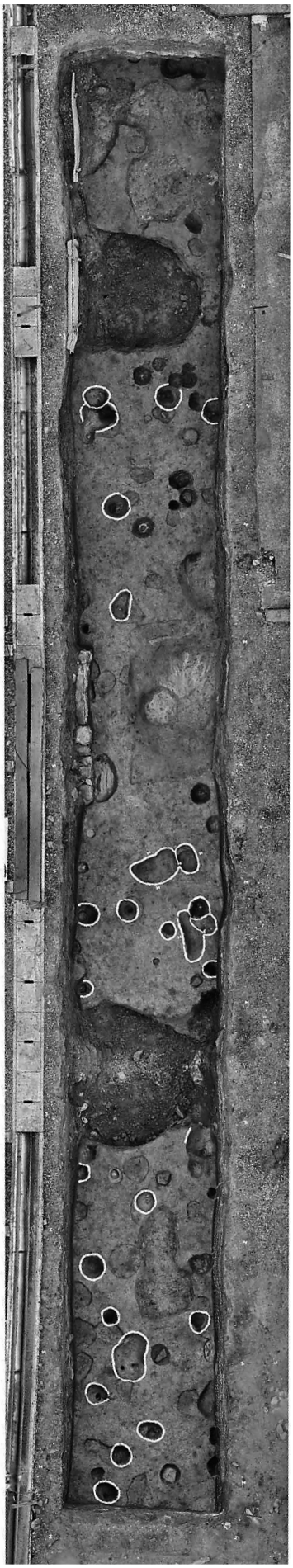


２区第１面

２区第３面

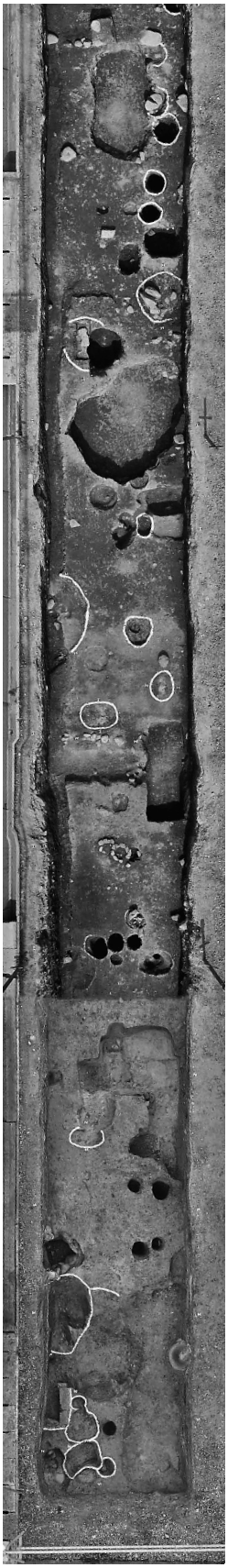


３・４区第１面



３・４区第３面

５区第１面

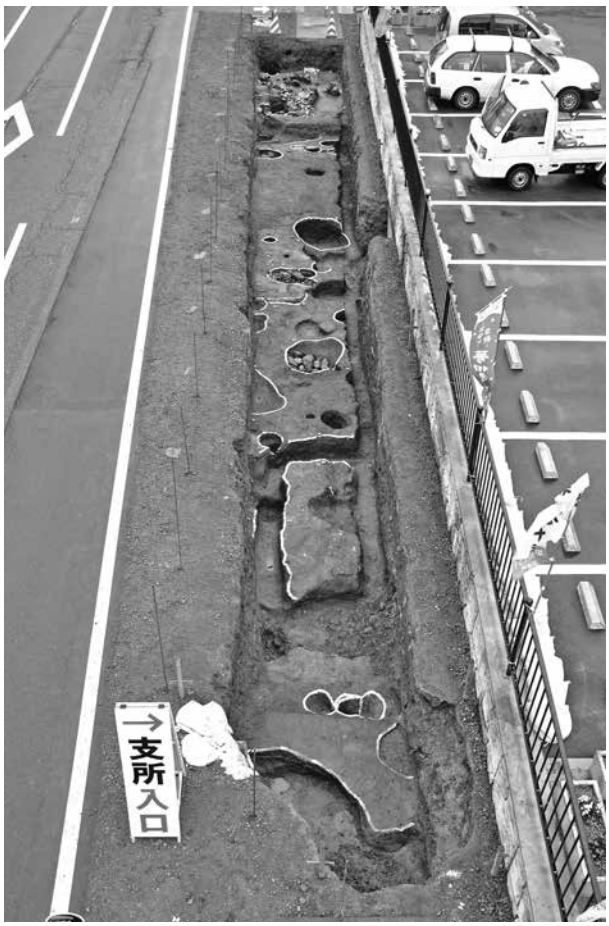


５区第３面

写真図版 6
１区

第１面全景（東から）

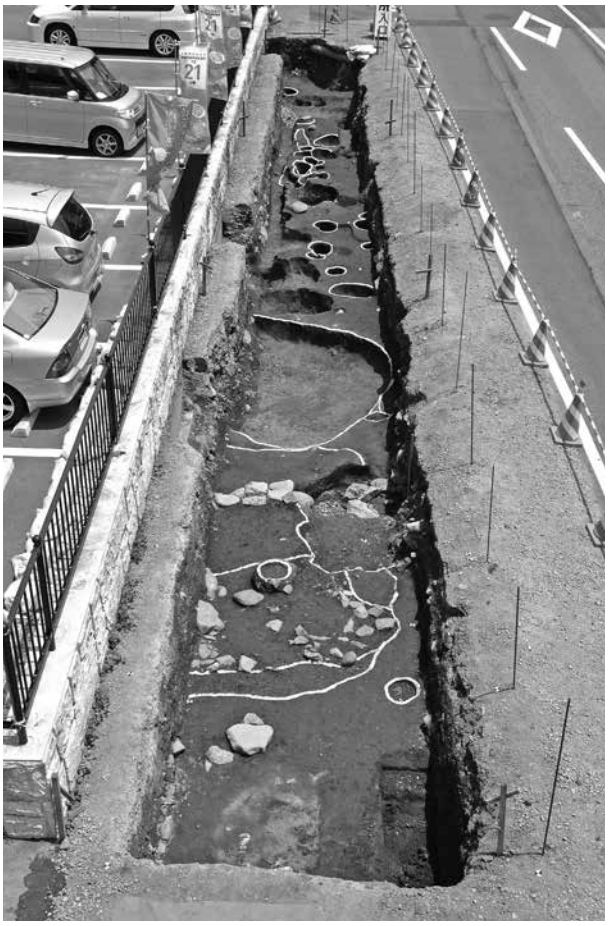
第１面全景（西から）



第２面全景（東から）

第２面全景（西から）

第３面全景（東から）



第３面全景（西から）

第４面全景（東から）

第４面全景（西から）

写真図版 8
１区

SP1001・SK1002 検出状況（南から）

SP1001 完掘状況（南から）

SK1003(右)・SP1004 検出状況（南から）

SK1003(右)断面・SP1004 完掘状況（南から）

SX1005 検出状況（西から）

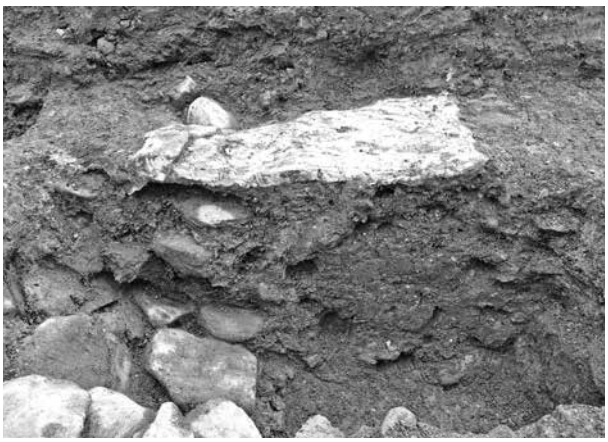
SK1007 断面（南から）

SK1006 検出状況（南から）

SK1006 断面（南から）

調査区西部第 1 面検出状況（北から）

SX1011 検出状況（北から）



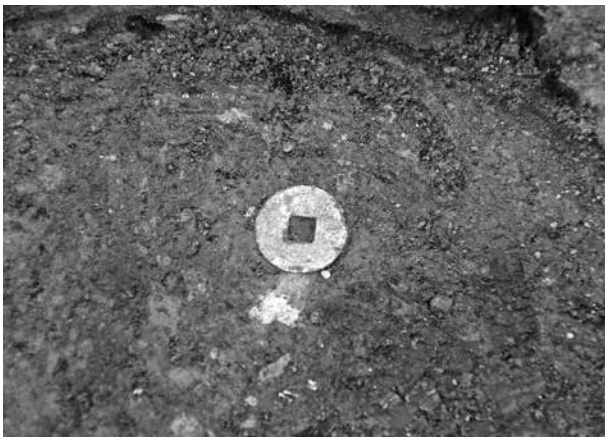
SX1011 断面（北から）

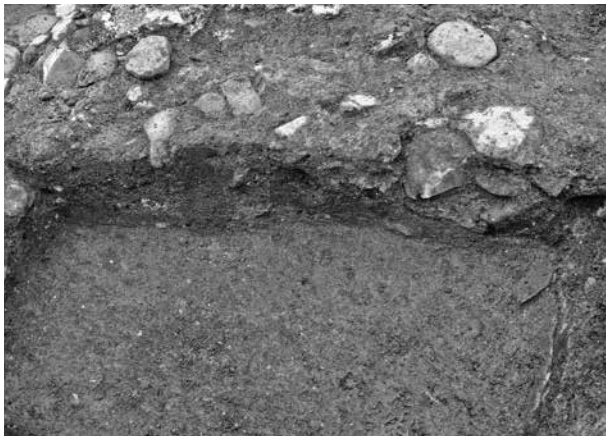
SP1013 完掘状況（北から）

SK1009 断面（南から）

写真図版 10
１区

SP1008 銅銭出土状況（東から）


SP1008 銅銭出土状況アップ（東から）


SX1015 断面（北から）

SK1020 断面（北から）

SK1019 検出状況（東から）

SK1019 断面（南から）

礎石 2・礎石 3・SP1024・SP1025・SK1026・SP1027・
SK1028 検出状況（東から）

礎石 2・礎石 3（東から）

SX1017 第１面礫検出状況（北から）

SX1017 第１面礫検出状況（西から）

SX1017 製錬関係遺物出土状況（北から）

SX1017 炭層除去後（北から）

SX1017 炭層除去後（部分：西から）

SX1017 第１面断割断面（西から）

SX1017 第２面石組（西から）

SX1017 第３面石組（西から）

SX1017 第３面石組（北から）

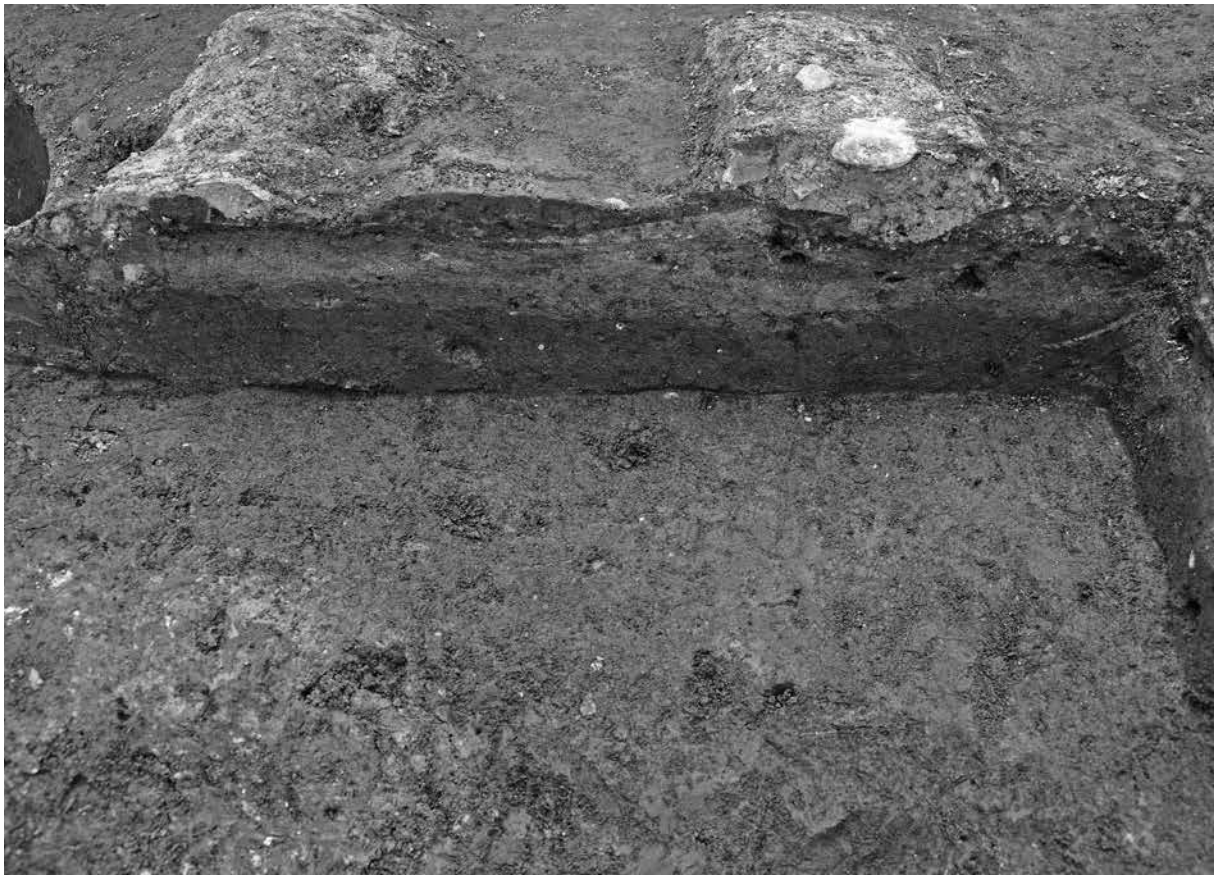
SX1017 完掘状況（北西から）

SX1017 完掘状況（西から）

SX1018 検出状況（西から）

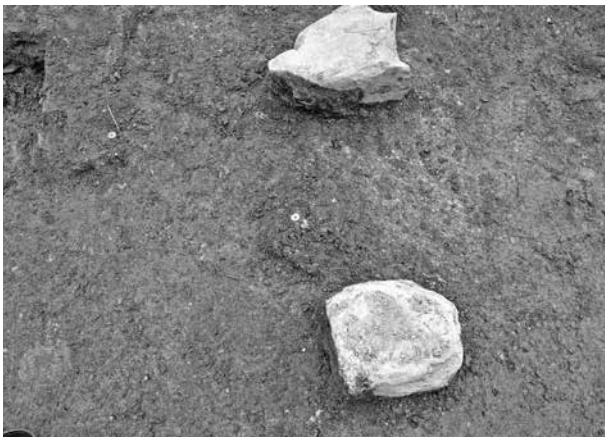
SX1018 検出状況（北から）

SX1018 断面（北から）



SX1018 南北断割断面（西から）

第２面焼土・炭層中銭出土状況（北から）



第２面焼土・炭層中銭出土状況（部分：北から）

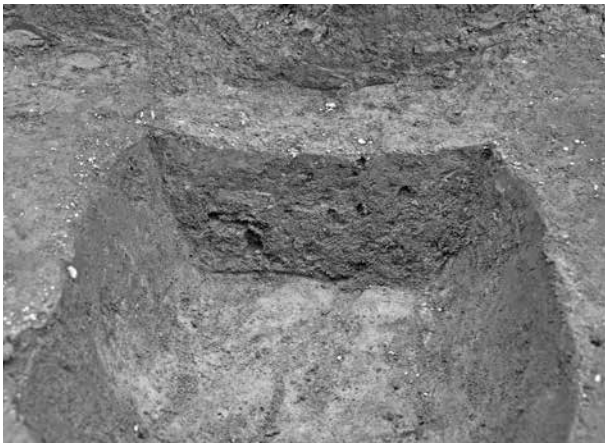
第２面焼土・炭層中銭出土状況１（北から）

第２面焼土・炭層中銭出土状況２（北から）

SD1021 断面（東から）

SK1023 断面（北から）

SK1029 断面（北から）



SP1036 断面（北から）

SK1030 礫検出状況（西から）

SK1030 断面（西から）

SK1028 礫検出状況（北から）

SK1033 断面（北から）

礫・カラミによるタタキ上面（北から）

調査区西端第２面検出状況（北から）

調査区中央部第３面遺構検出状況（北から）

調査区東部第３面検出状況（東から）

第３面クロボク・焼土層境界銭出土状況１（北から）

第３面クロボク・焼土層境界銭出土状況２（北から）

SX1046 検出状況（南から）

SK1039 断面（北から）

SX1038 全景（東から）

SX1038 石垣側面（東から）

SX1038 裏込検出状況（南から）

SX1038 裏込断面（南から）

SK1039 礫検出状況（南から）

SK1039 礫検出状況および南北アゼ断面（西から）

第４面検出状況（東から）

第４面検出状況（西から）

SK1041 検出状況（北から）

SP1047・SP1048 検出状況（北から）

SK1041 南北断面（西から）

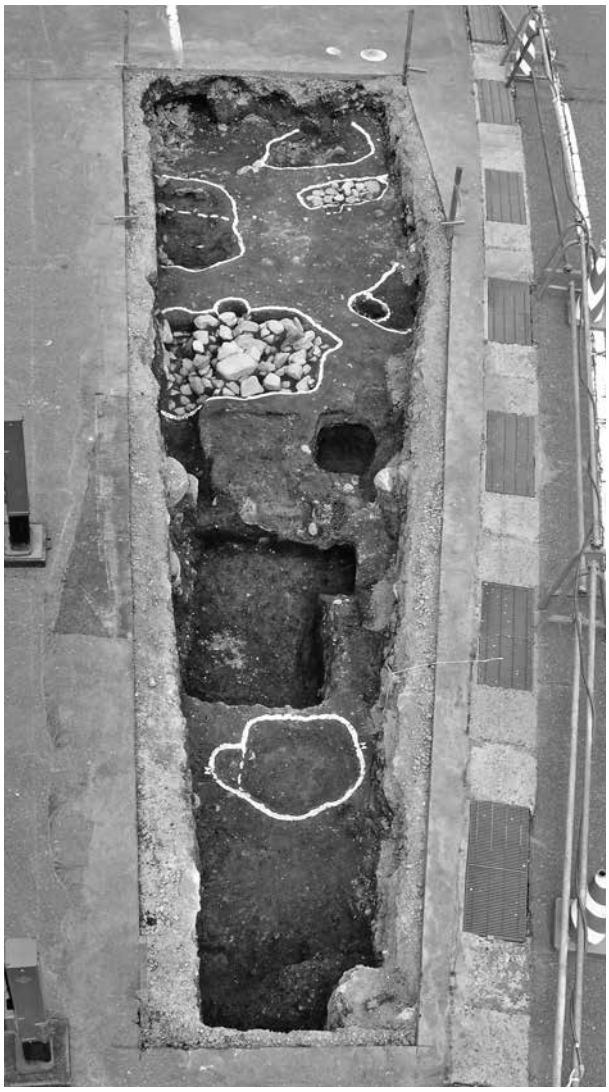
SK1044 断面（西から）

南壁断面（北東から）

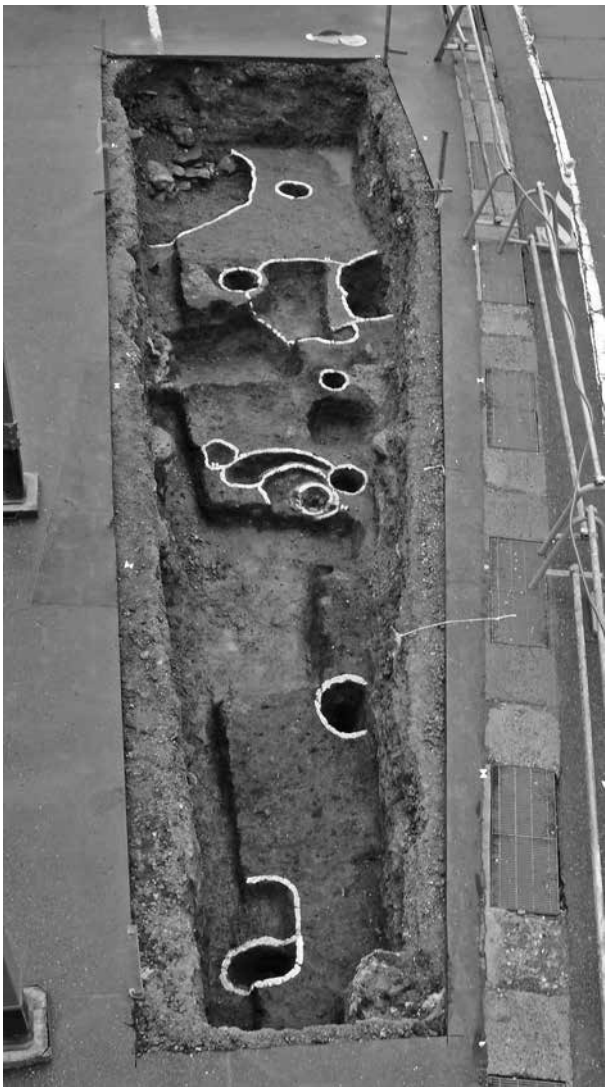
南壁断面（北西から）

西部南壁断面（北西から）

西部北壁断面（南東から）

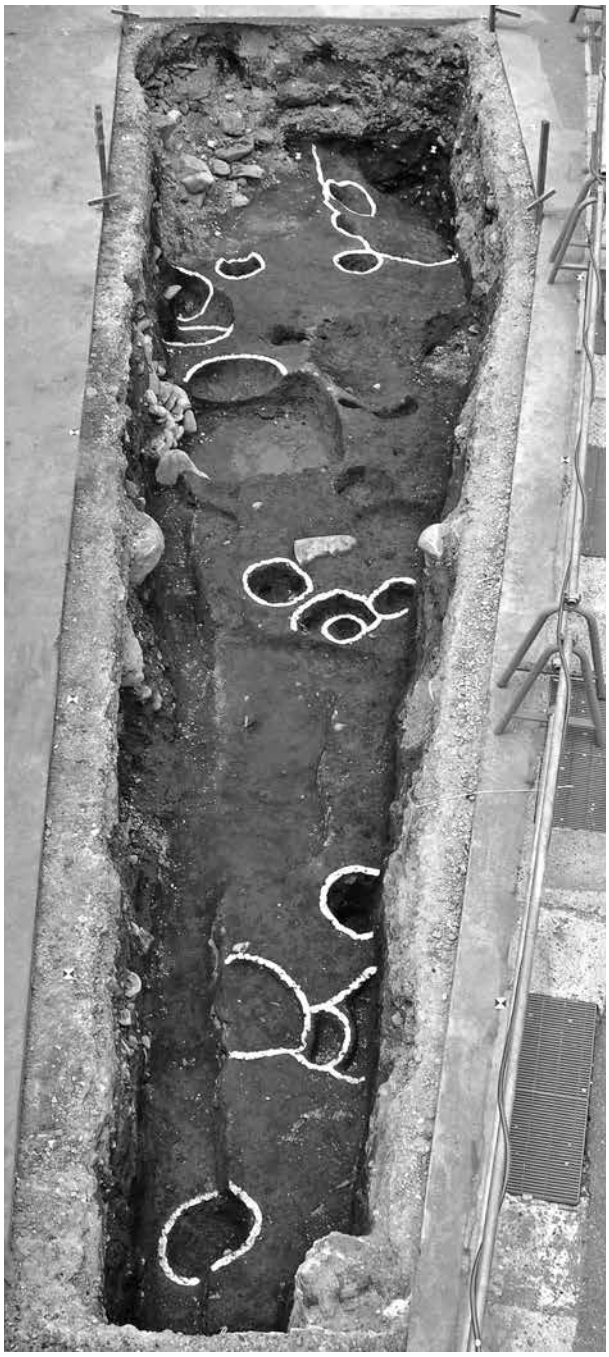


第１面全景（東から）



第２面全景（東から）

南壁断面（北西から）

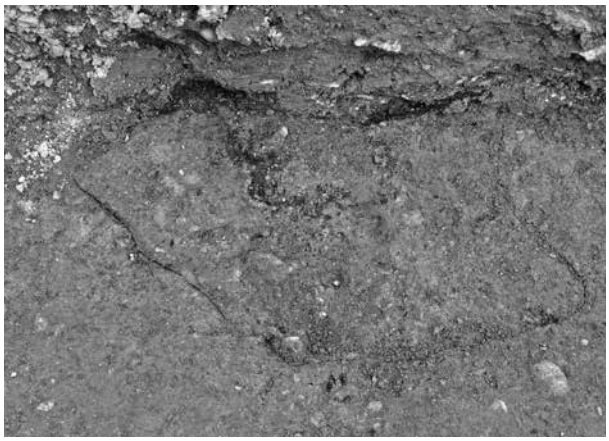


第３面全景（東から）

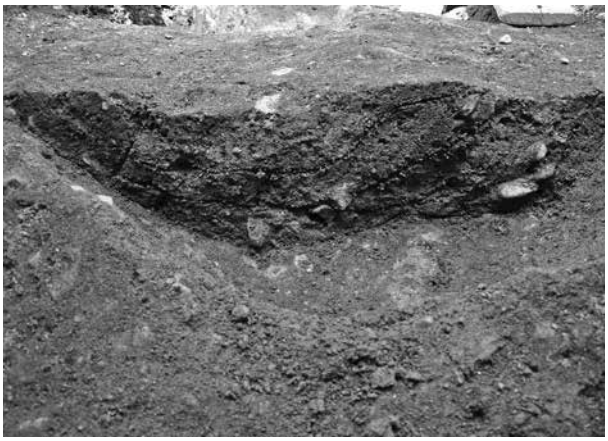
第３面遺構検出状況（西から）

SK2001 検出状況（東から）

SK2001 断面（南から）

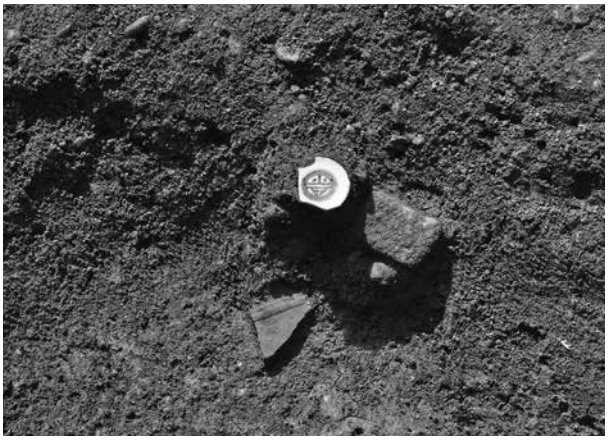


SX2002 検出状況（南から）



SP2003・SK2004 断面（東から）

SK2004 遺物出土状況（東から）



SK2004 遺物出土状況アップ（東から）

SK2005 検出状況（北から）

SK2005 礫検出状況（北から）

SK2005 断面（東から）

SK2005 下部石組・焼土面検出状況（東から）

SK2005 下部石組・焼土断面（東から）

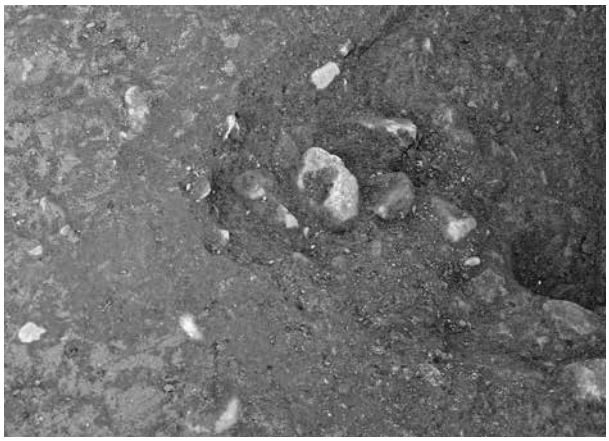
SK2005 下層石組検出状況（北から）

SK2005 下層石組完掘状況（東から）

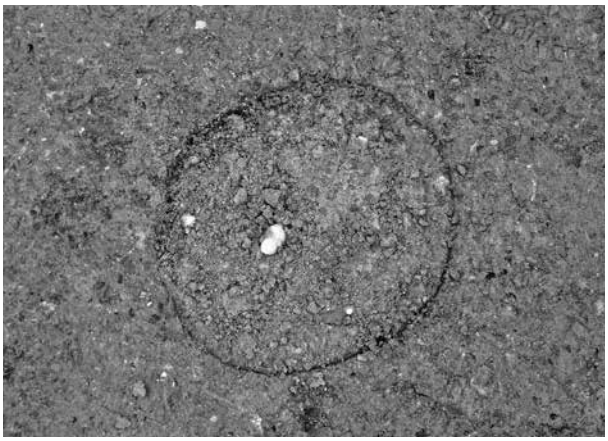
SK2005 下層石組完掘状況（南から）

SK2006 断面（東から）

SK2009 検出状況（北から）



SP2010 検出状況（東から）



SP2013 検出状況（東から）

SK2012 検出状況（東から）

SK2012 断面（東から）

SK2015 断面（南から）

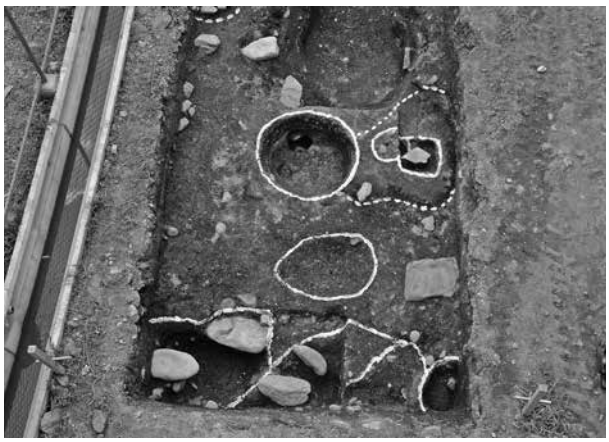
SP2016 完掘状況（東から）

SK2017 断面（南から）

SK2018・SK2019 断面（北から）

第１面全景（東から）

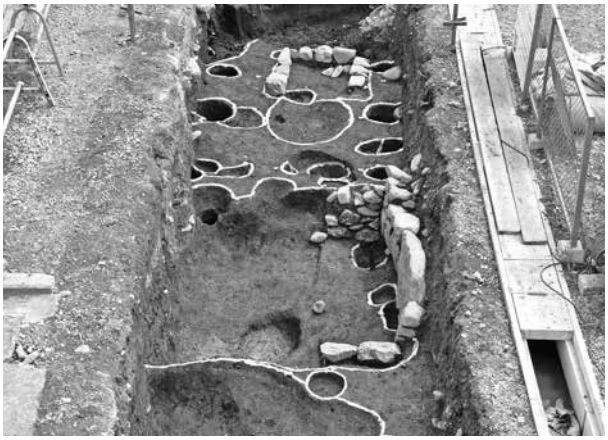
第１面全景（西から）



第１面東端（東から）

第１面（部分：西から）

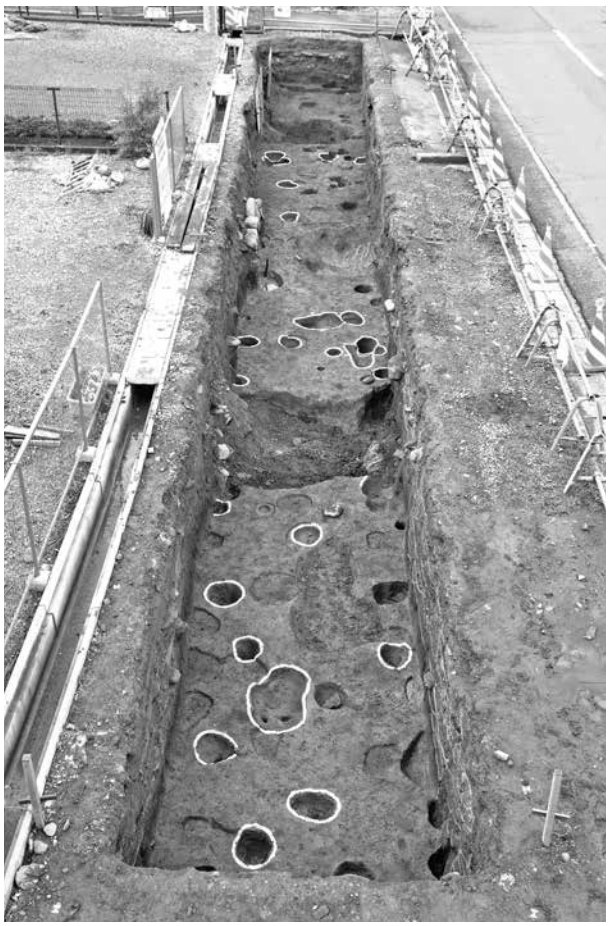
第１面（部分：東から）



第２面（部分：西から）

第２面全景（東から）

第２面全景（西から）



第３面全景（東から）

第３面全景（西から）

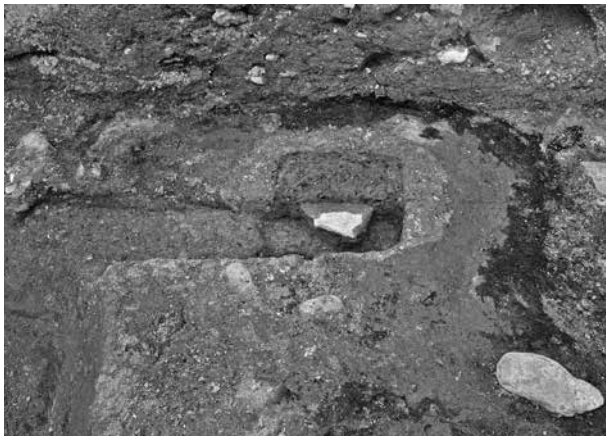
東部第１面遺構検出状況（南から）

中央部～東部第１面遺構検出状況（南から）

SK3001・SP3002・SX3003 検出状況（東から）

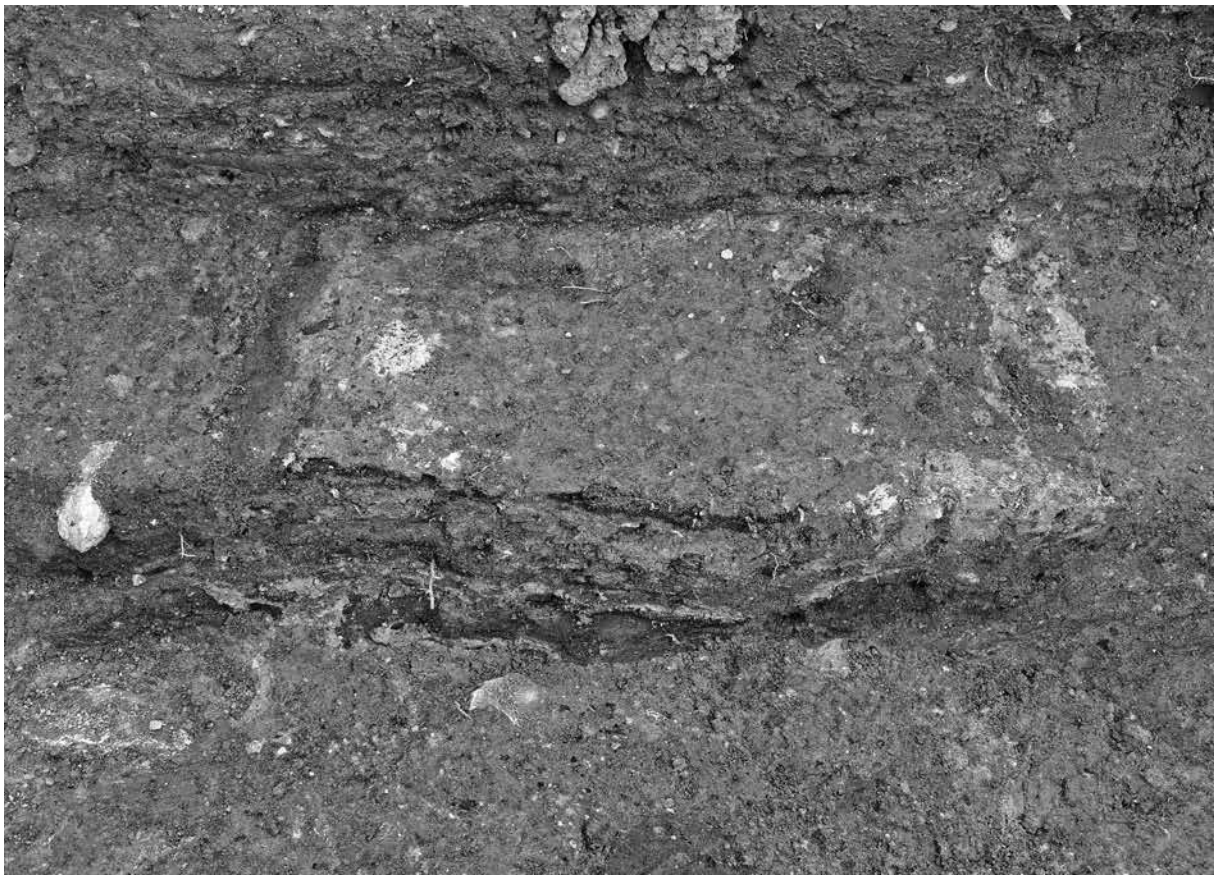
SK3001 礫検出状況（南から）

SK3001 断面（南から）



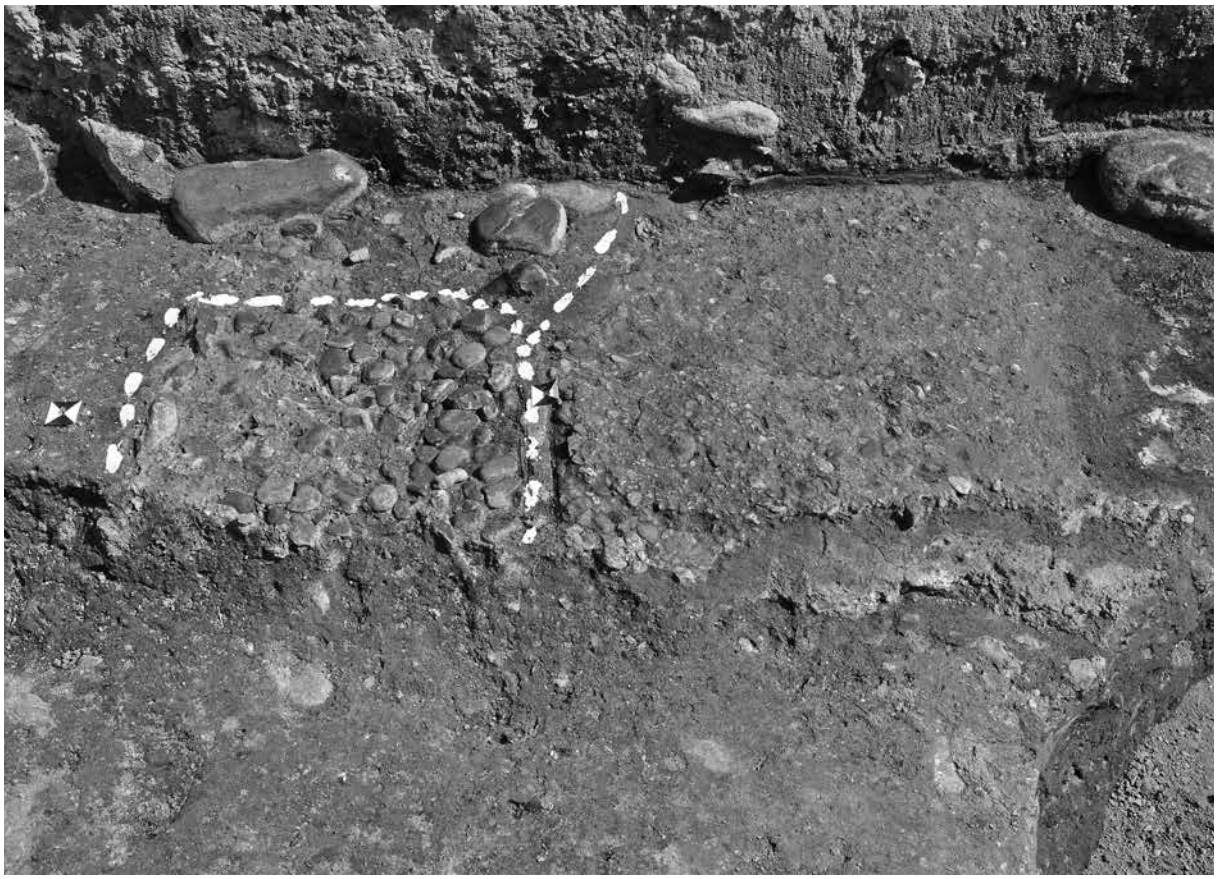
SX3003 調査状況（南から）

SX3003 断面（南から）



SX3005 検出状況（北から）

SX3005 断面（北から）

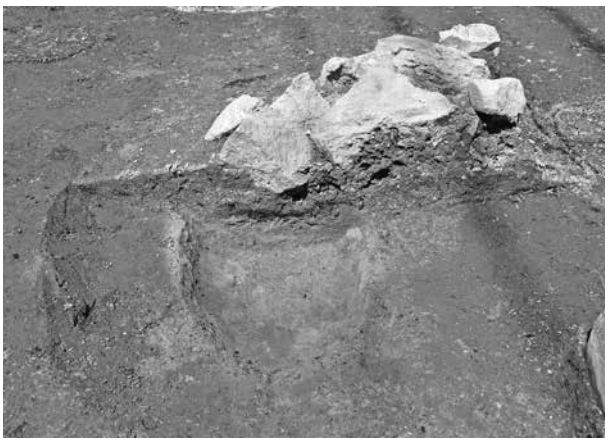


SX3007・SX3008 礫敷検出状況（南から）

SX3007 断面（南から）

SX3013(右)・SK3014 検出状況（南から）

SX3013 断面（西から）

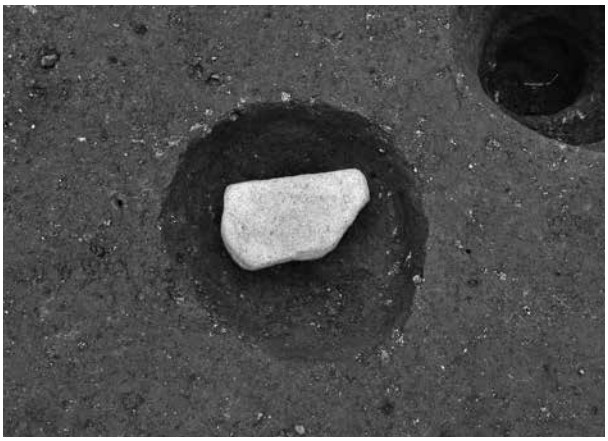


SK3014 断面（東から）

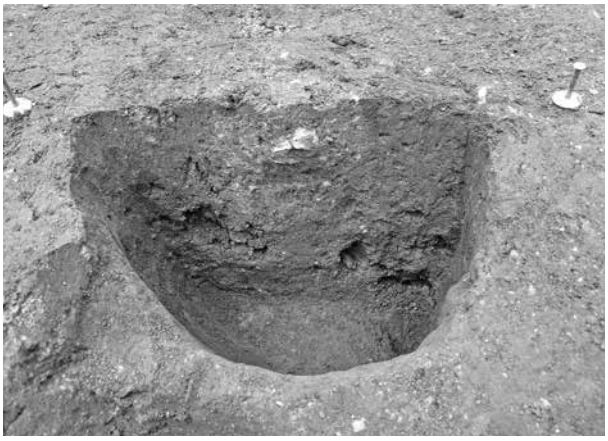
SK3004 断面（南から）

SK3018 断面（東から）

SP3019 礫検出状況（西から）


SP3019 礫除去後（西から）

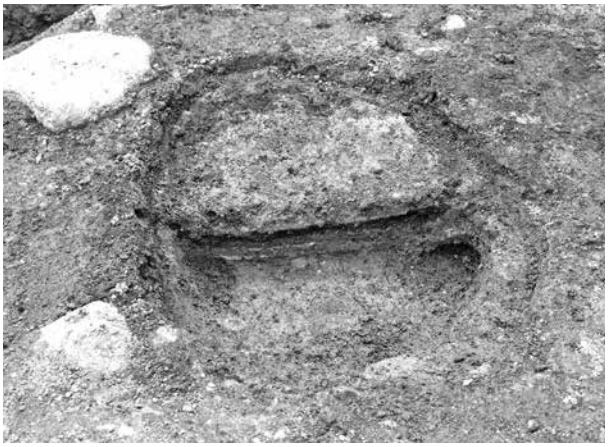
SP3020 検出状況（東から）

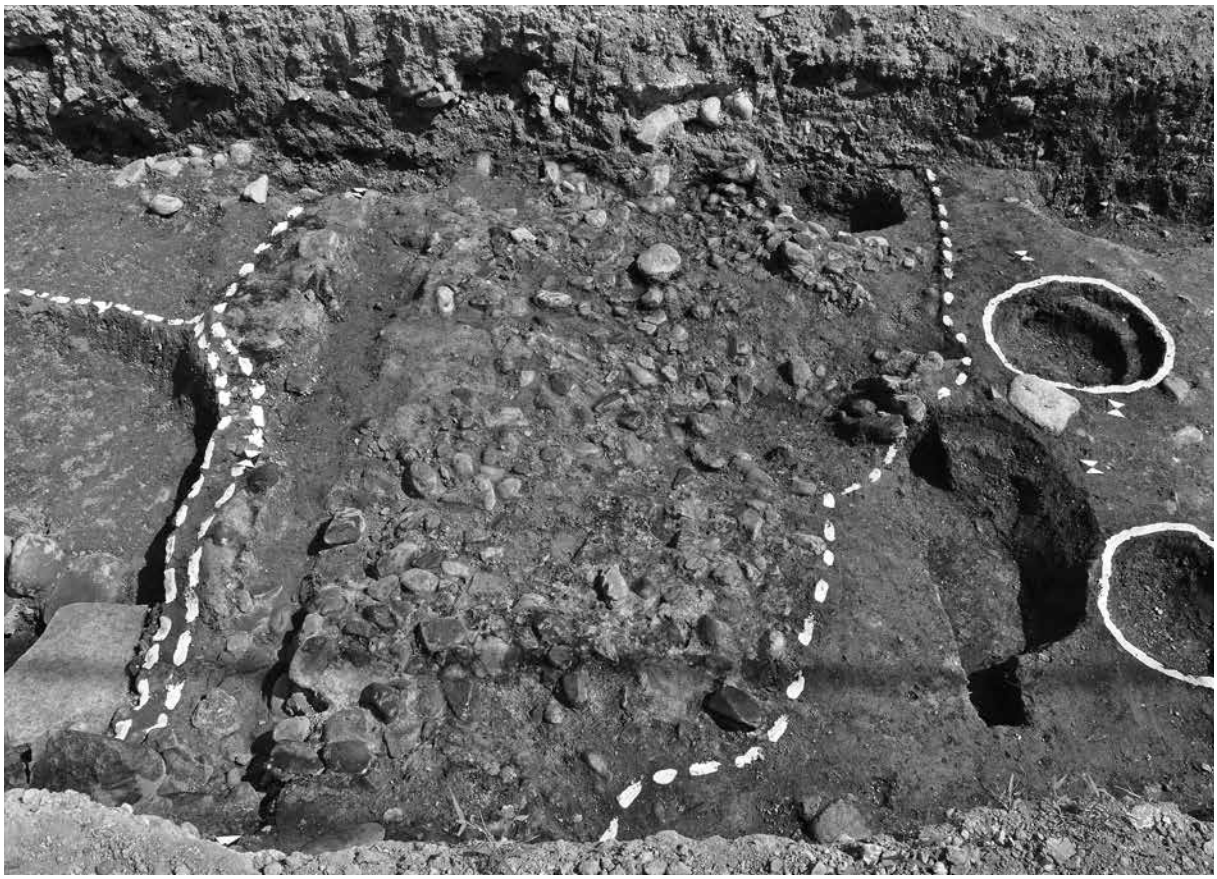

SP3020 断面（東から）

SK3021 検出状況（南から）

SK3022 断面（西から）

SK4005 断面（東から）

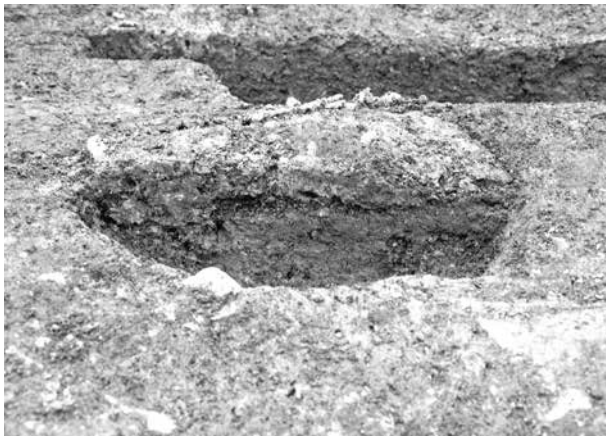

SK4007 断面（東から）



SX4003 礫敷検出状況（南から）

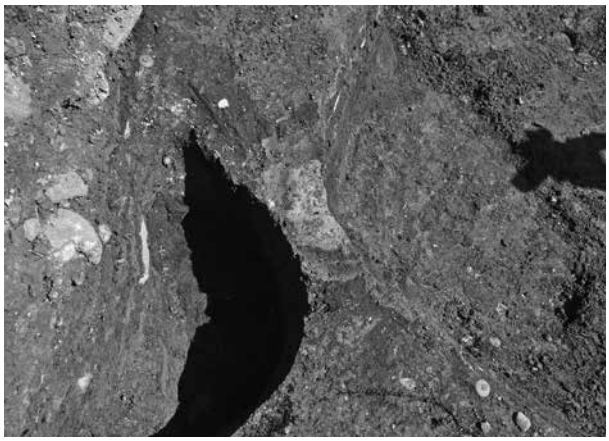
SX4003 断面（南から）

SX4003・SD4006 断面（南から）



SK4008 断面（東から）

SK4009 断面（南から）


SX4010 検出状況（南から）

SX4010 断面（東から）

SK4012 断面（南から）

SK4013 断面（北から）

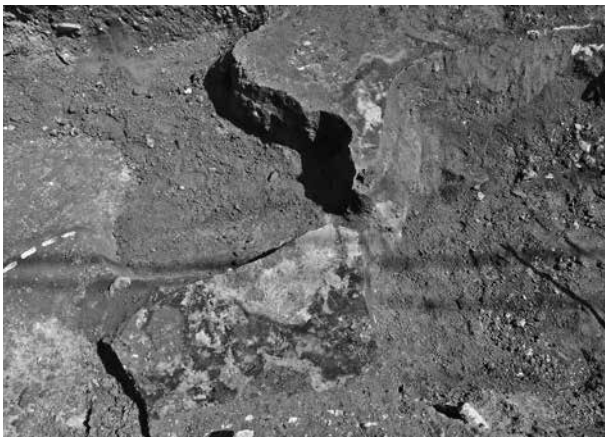
SK4015 完掘状況（南から）

SK4016 断面（北から）

SK4016 石組（北から）

SK4016 石組（部分：北西から）

SX4004 検出状況（北から）


SX4004 検出状況（南から）

SK4017 断面（東から）

SX4018 下底柱穴検出状況（南から）

SK4019 礫検出状況（南から）

SK4022 断面（南から）

SK4023 断面（西から）

東壁断面（西から）

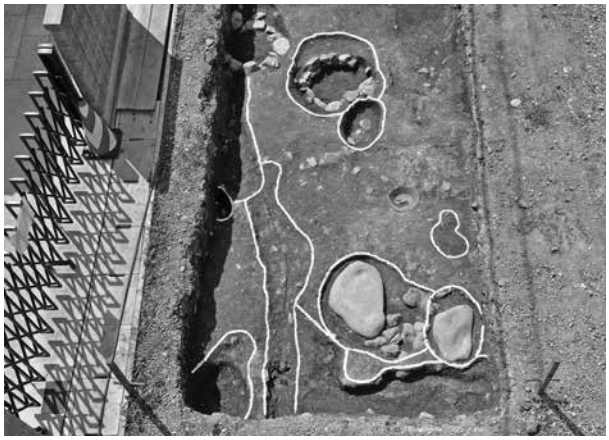
北壁断面（南東から）

３区北壁断面（南西から）

４区北壁断面（南西から）

第１面全景（東から）

第１面全景（西から）



調査区東端第１面（東から）

第１面全景中央より西（東から）

第２面全景（西から）

第２面全景（東から）

第２面東端検出状況

第２面全景（中央から東方向）

第３面全景（東から）

第３面全景（西から）

第３面東端検出状況（北東から）

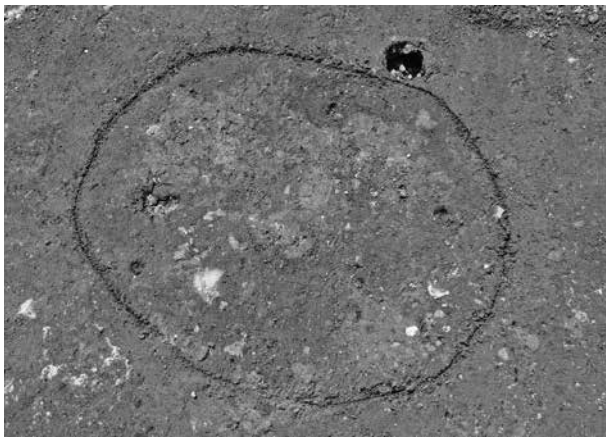
SX5114 礫検出状況（南から）

第４面全景（東から）

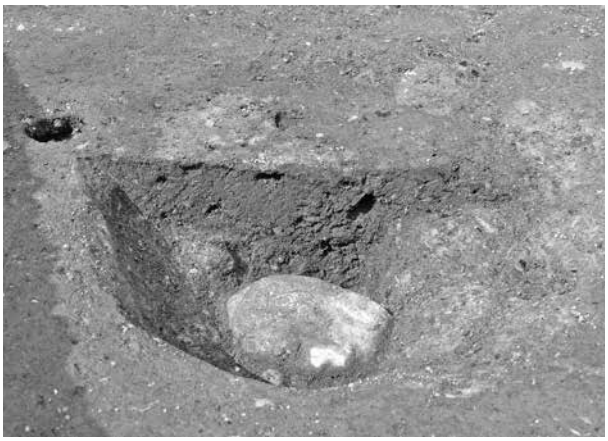
第４面全景（西から）

SK5133 礫検出状況（北から）

SX5123 礫検出状況（西から）



SK5001 検出状況（東から）



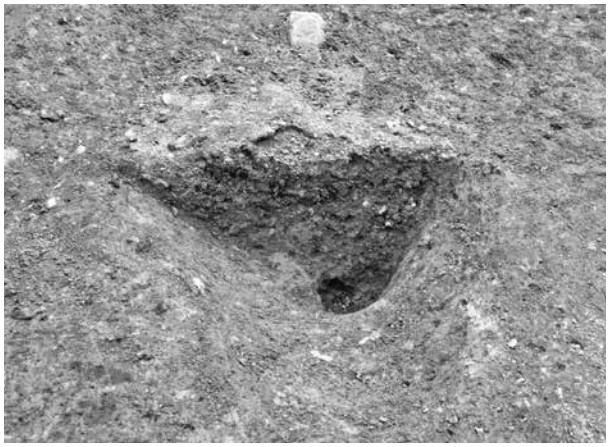
SK5001 断面（東から）

SK5002 検出状況（北から）

SK5002 断面（北から）

SK5012 断面（南から）

SK5016 断面（南から）



SK5017 断面（北東から）

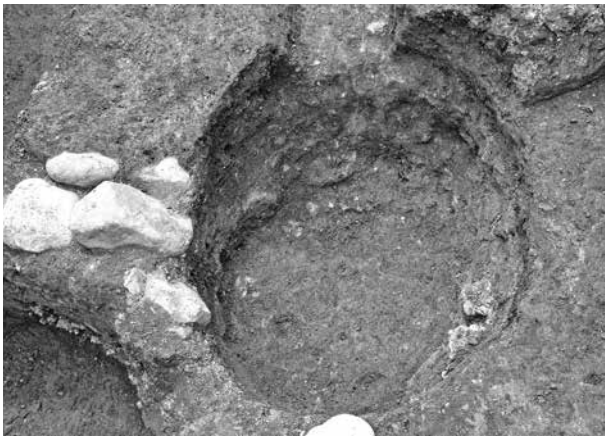
SK5021 断面（東から）

SK5022 断割断面（南から）

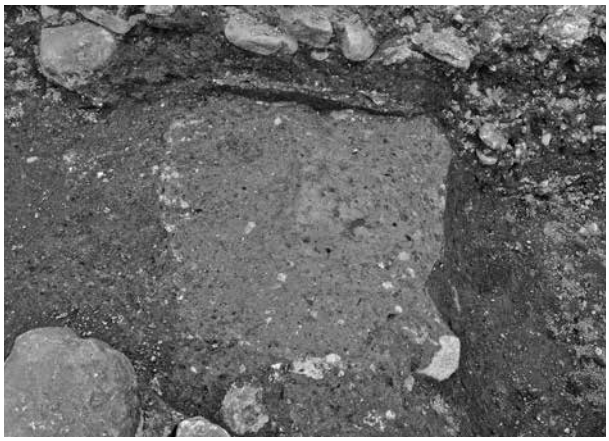
SK5022（北から）

SK5022（東から）

SK5022 遺物出土状況（東から）



SK5022 完掘状況（東から）


SX5018 検出状況（南から）

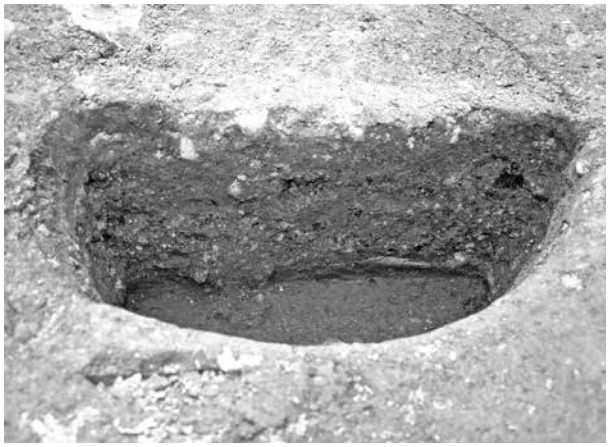
SX5018 断面（東から）

SK5019・SK5023 検出状況（東から）

SK5023 断面（東から）

SK5024 断面（東南から）

SX5025 検出状況（北から）

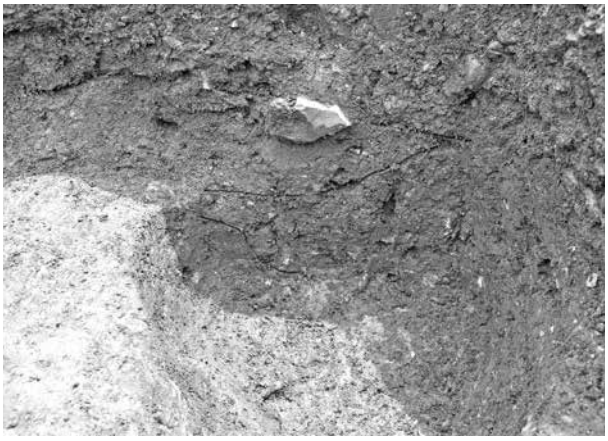

SK5028 断面（東から）

SK5030 検出状況（東から）

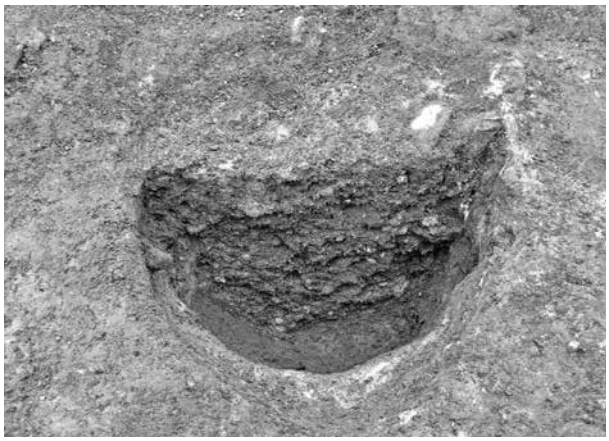
SK5031 断面（東から）

SK5031 完掘状況（東から）

SK5032 遺物出土状況（南から）



SK5145 断面（西から）

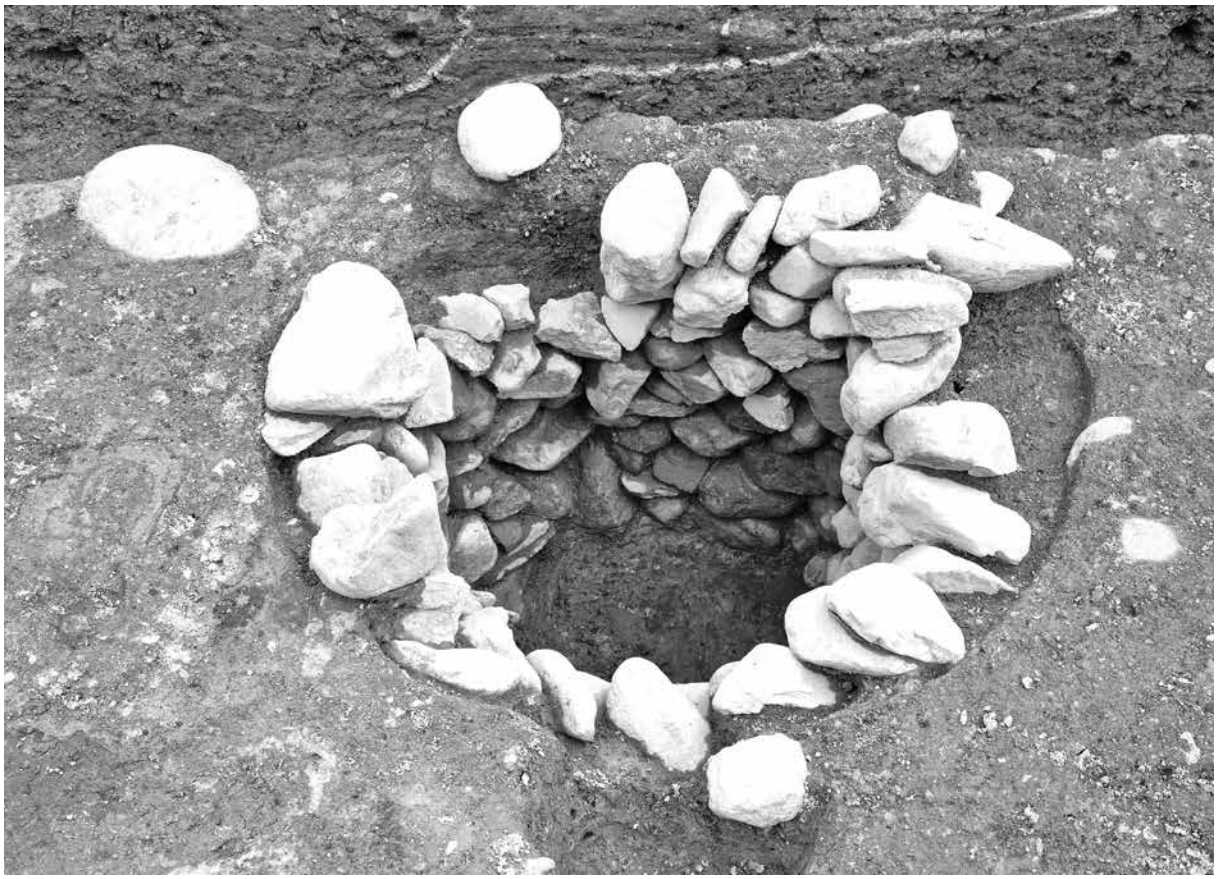


SP5042 断面（北から）

SP5042 完掘状況（北から）

SK5043 礫検出状況（東から）

SK5043 断面（南東から）



SE5041 石組完掘状況（北から）

SE5041 検出状況（東から）

SE5041 断面（北から）

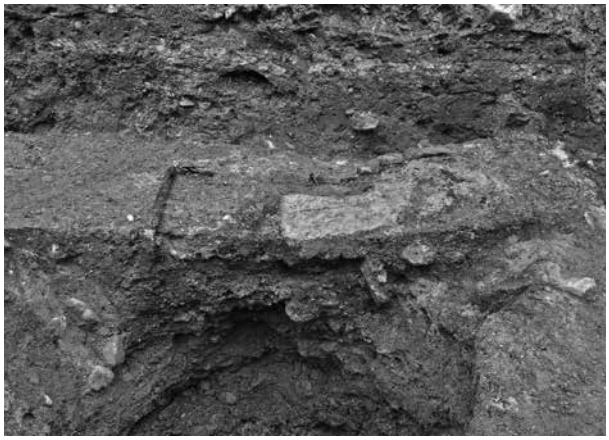
SE5041 断割状況（北から）

SE5041 完掘状況（北から）

SX5095 検出状況（北から）

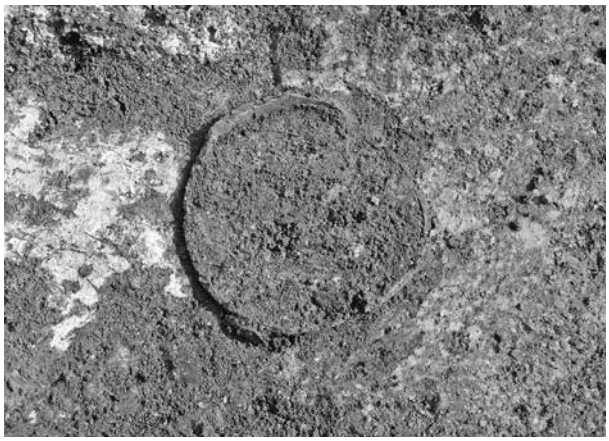
SX5095 木枠検出状況（北から）

SX5095 木枠検出状況（部分：北から）



SX5095 断面（北から）

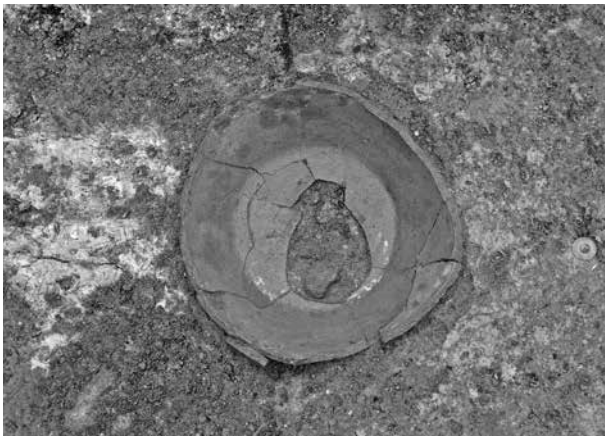
SX5095 上部構造除去後（北から）



SK5139 検出状況（南から）

SK5139 断面（南から）

SK5139 断割断面（南から）



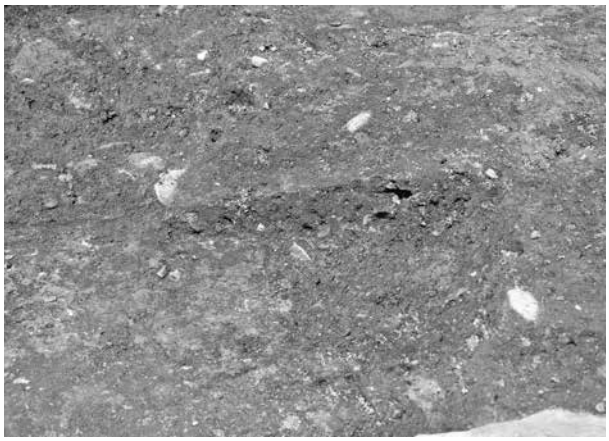
SK5139 完掘状況（南から）

SK5140・SK5141 検出状況（南から）

SK5140 断面（南から）

SK5141 断割断面（南から）

SE5147 断割断面（南から）

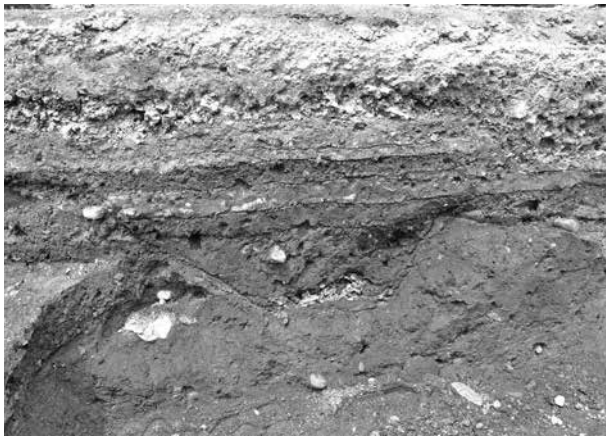


SK5148 断面（南から）

SX5149・SX5151 検出状況（北から）

SX5149 断割断面（南から）

SX5151 断割断面（南から）



SD5045 断面（南から）

SD5044 断面（南から）

SX5046 ～ 5048 検出状況（東から）

SX5046 ～ 5048 完掘状況（東から）

SK5049 礫検出状況（東から）

SK5050 断面（南から）

SK5051 断面１（西から）

SK5051 断面２（西から）

SK5054 断面（南東から）

SK5055 断面（南から）

SP5061 断面（南から）

SP5071 断面（北東から）

SX5052 検出状況（北から）

SX5052 断面１（東から）

SX5052 断面２（東から）

SX5052 上部被覆層除去後　西半（北から）

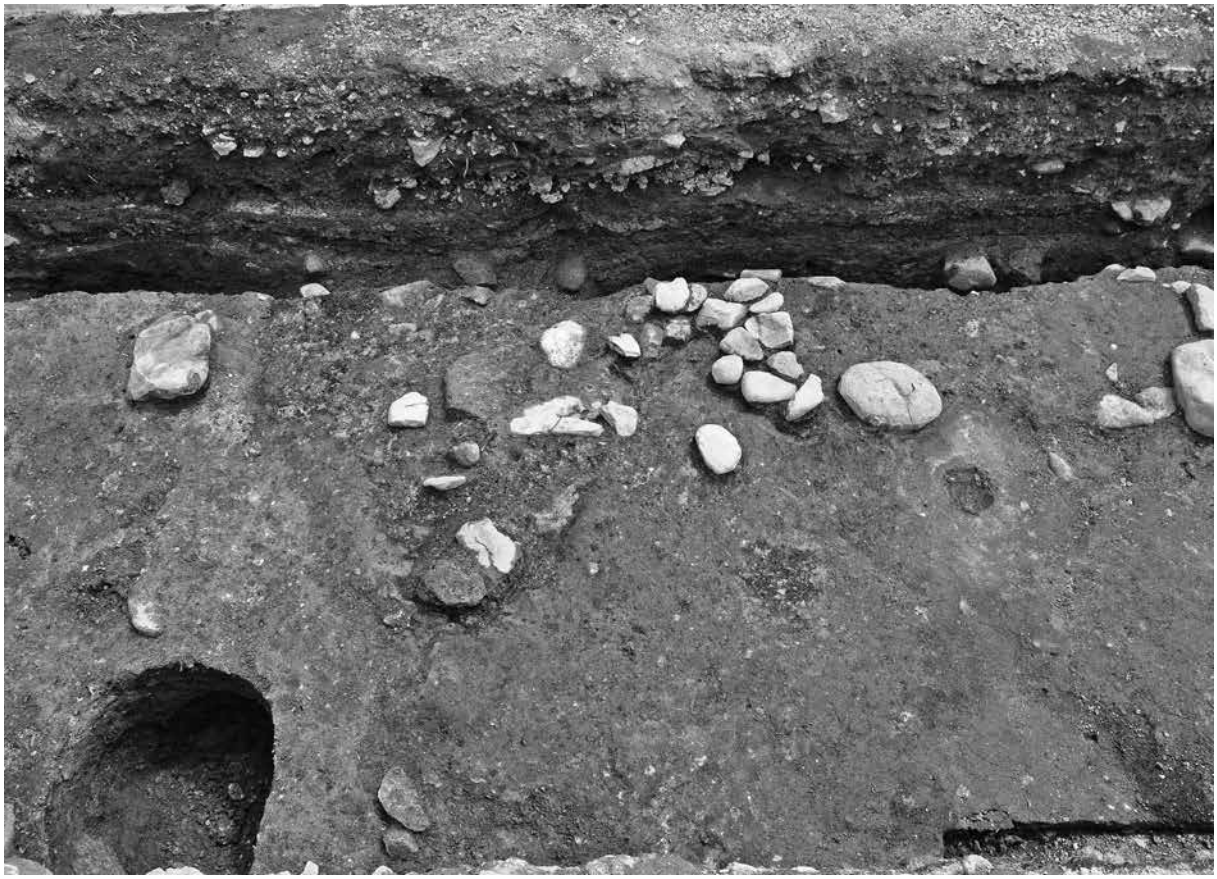
SX5052 上部被覆層除去後　東半（北から）

SX5052 焼土除去後（北から）

SX5052 東半焼土除去後の状況（北から）

SX5052 遺物出土状況（北から）

SX5052 焼土下の遺物出土状況（東から）



SX5059 検出状況（北から）

SX5059 断面（東から）

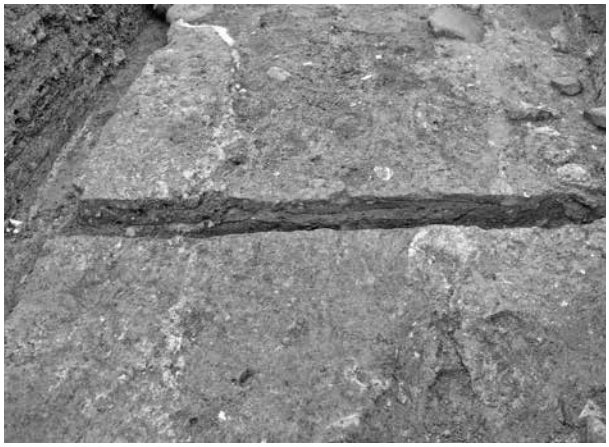
SX5059 完掘状況（北から）

SX5059 付近南壁断面（北から）

SK5072 完掘状況（北から）

SK5073 断面（東から）

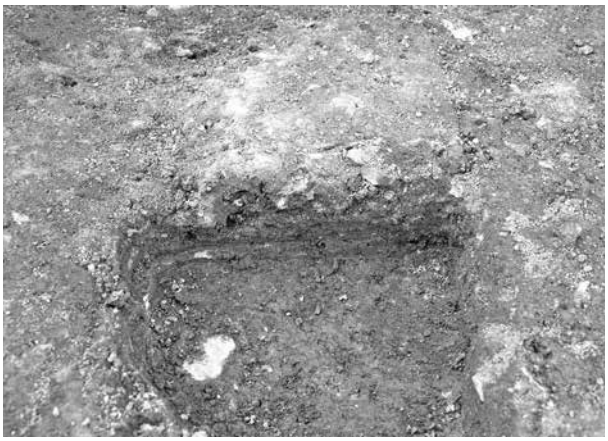
SX5075 検出状況（北から）



SX5075 断面１（東から）

SX5075 断面２（東から）

SK5074 断面（南から）


SP5081 断面（南から）

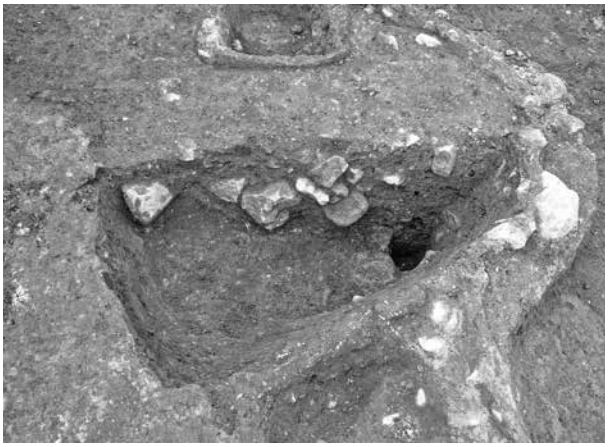
SK5078 礫検出状況（南から）

SK5078 断面（東から）

SP5083 礎板石検出状況（東から）

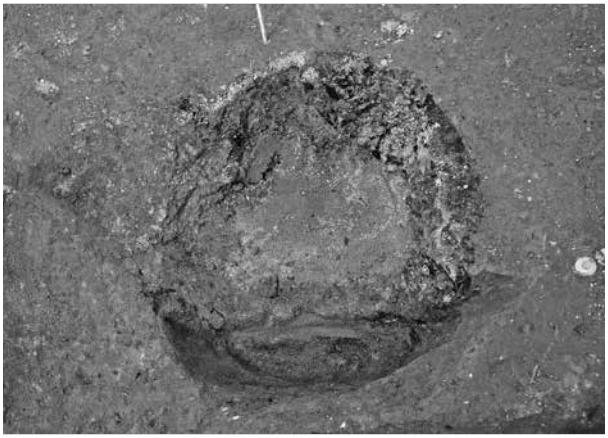
SP5083 断面（東から）

SP5096（北から）


SK5155 断面（東から）

SK5087・SK5088・SX5089・SK5090 検出状況（東から）

SK5087 検出状況（東から）

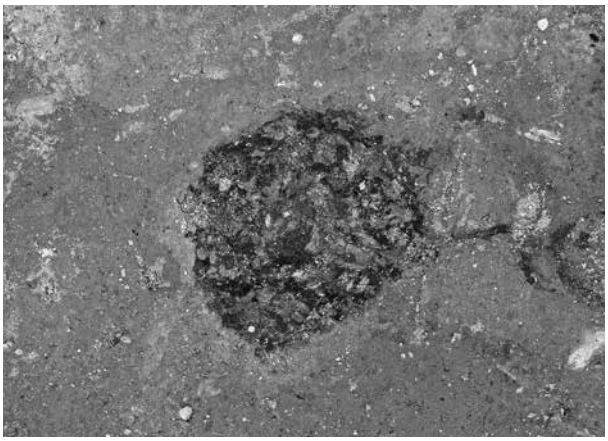


SK5087 焼土除去後（東から）

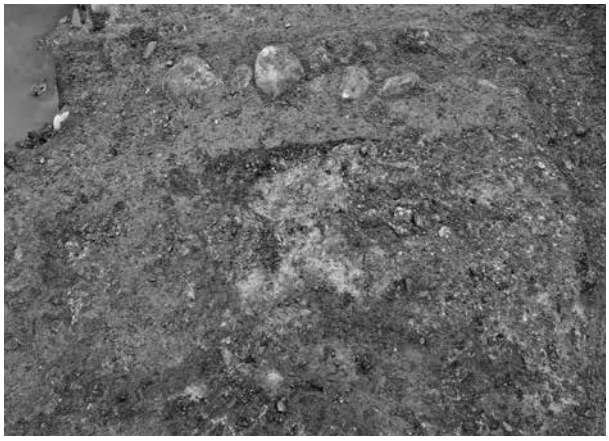
SK5087 側面の炭化材（東から）

SX5089 検出状況（西から）

SX5089 断面（東から）

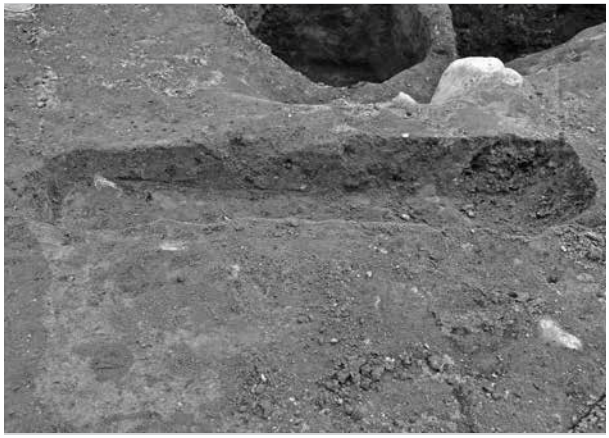


SX5089 焼土除去後（東から）



SK5088 検出状況（西から）

SK5088 断面（東から）



SK5090 横断面（南から）

SK5090 断割断面（東から）

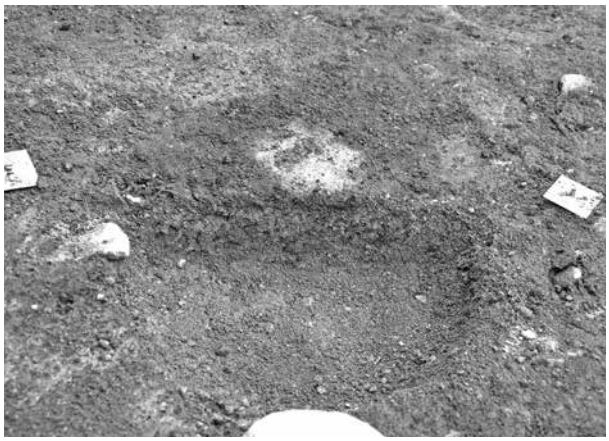
SK5090 完掘状況（東から）

SX5167・SX5168 断面（北から）

SX5167・SX5168 完掘状況（北から）

SP5165 断面（北から）

SP5094 遺物出土状況（南から）



SX5092 断面（西から）

SX5091 断面（南から）

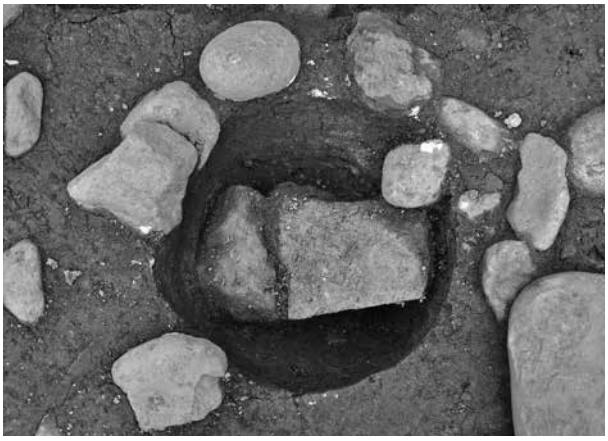
SX5098 検出状況（西から）

SX5098 断面（東から）

SK5102・SP5136 断面（西から）

SP5107 礫検出状況（南から）

SP5110 完掘状況（南から）



SP5113 根石（東から）

SX5114 検出状況（南から）

SP5115 礫検出状況（南から）

SP5116 断面（南から）

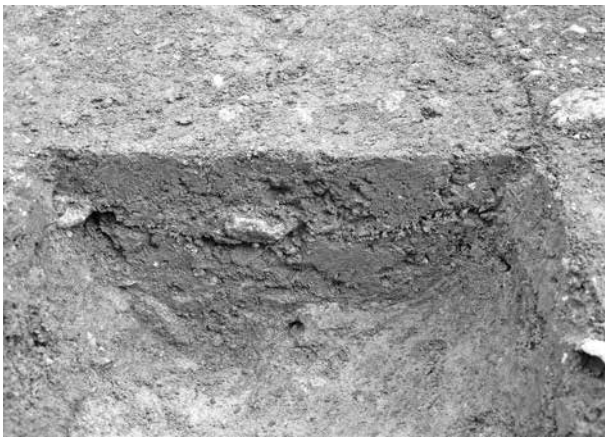
SK5169 断面（北から）

SK5172 断面（東から）

SP5137 断面（北から）

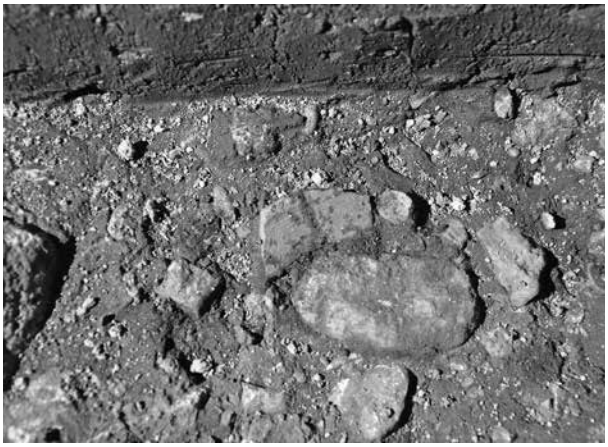
SP5137 根石（北から）

SK5122 検出状況（東から）

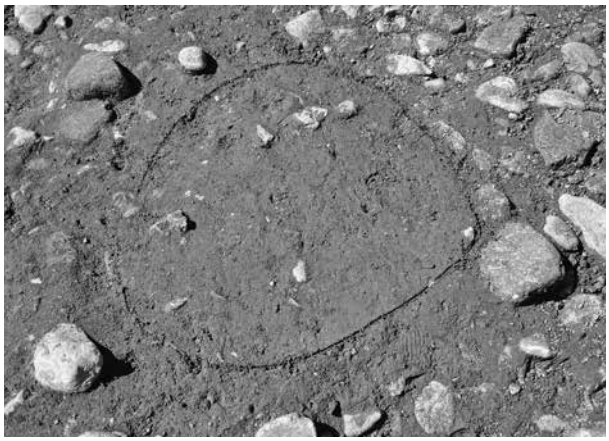


SK5122 断面（南から）

SK5122 完掘状況（東から）

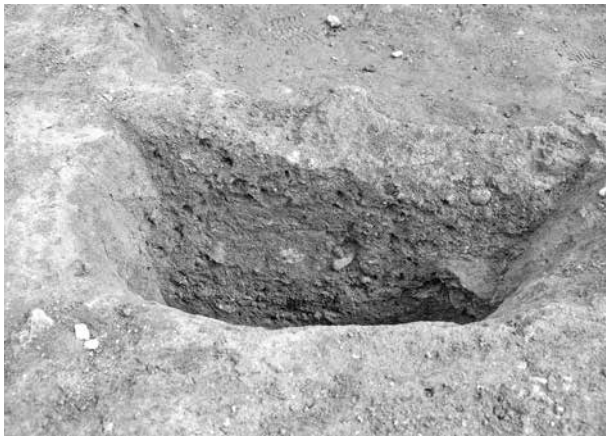


SX5123 礫面遺物出土状況（南から）



SK5133 検出状況（北から）

SK5133 断面（東から）



SK5138 断面（南から）

第５面の土坑（南から）

第５面全景（東から）

第５面検出状況（西から）

南壁断面No.５～６間（1）

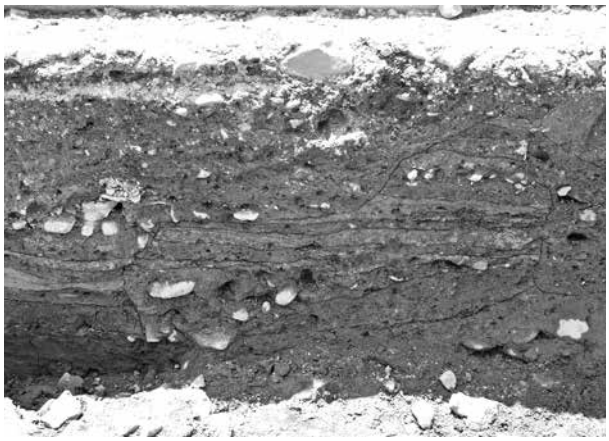
南壁断面No.５～６間（2）

南壁断面No.４～５間（1）

南壁断面No.４～５間（2）

南壁断面No.４～５間（3）

南壁断面No.４～５間（4）



南壁断面No.１＋５付近からNo.０（1）

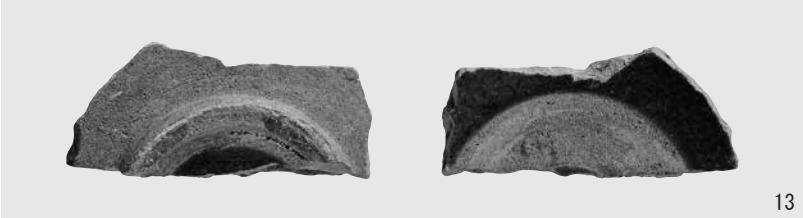
南壁断面No.１＋５付近からNo.０（2）

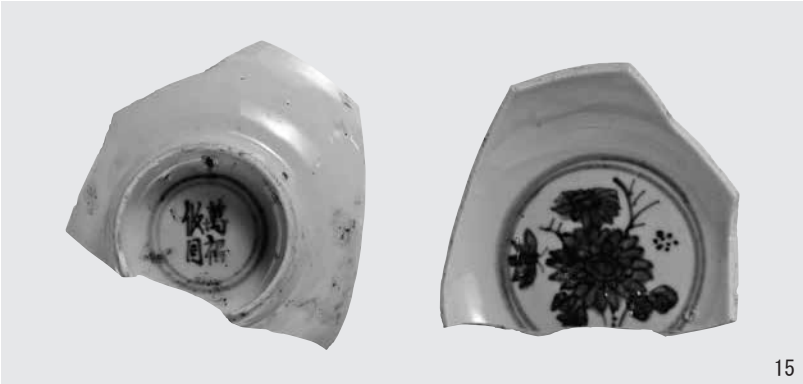
調査区西壁断面

1区出土土器・陶磁器（1）

11

12

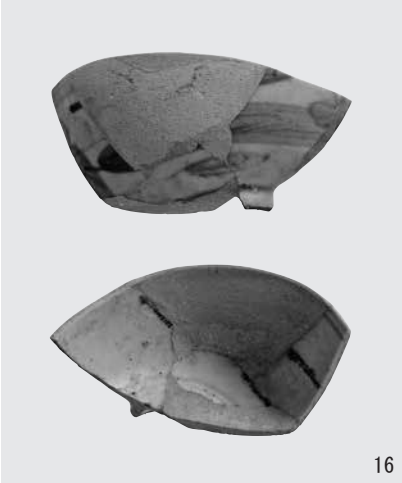

13



15

18

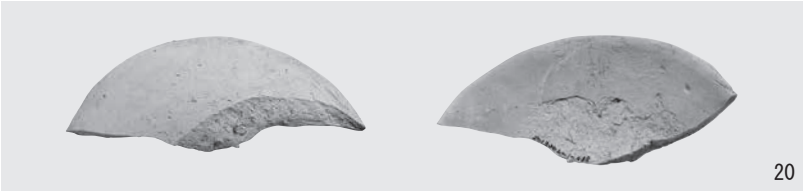
14

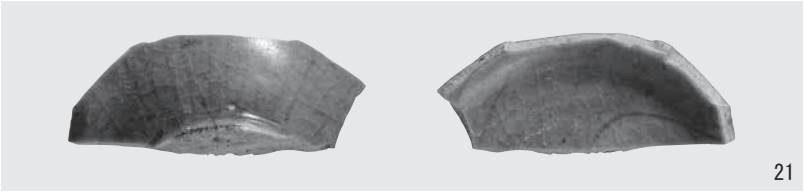

16

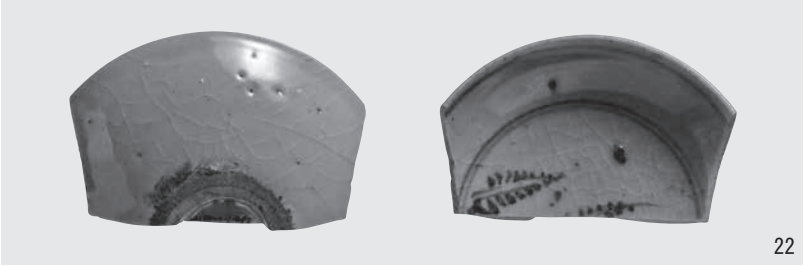
17

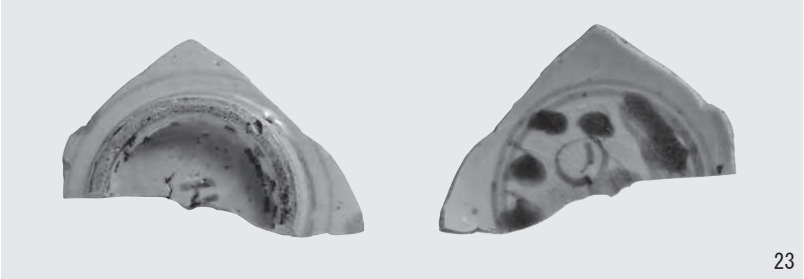
19

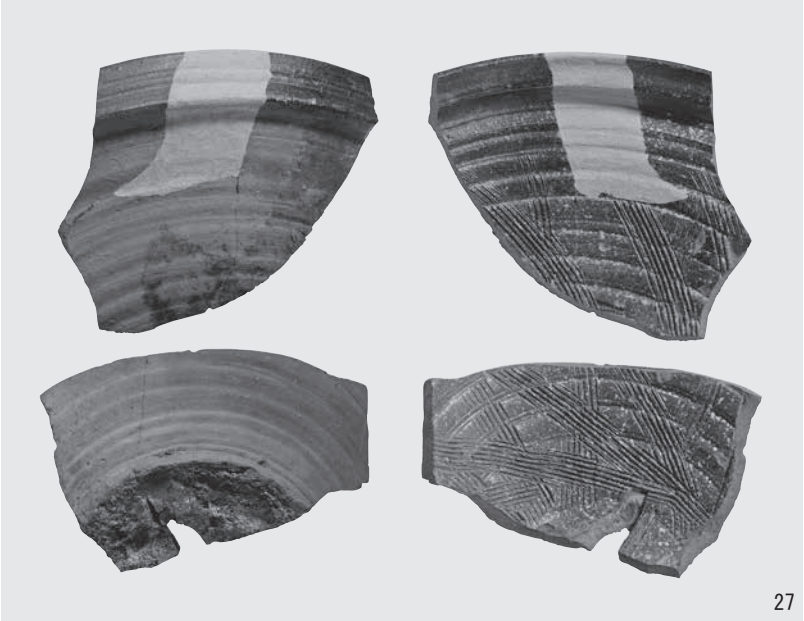
1区出土土器・陶磁器（2）

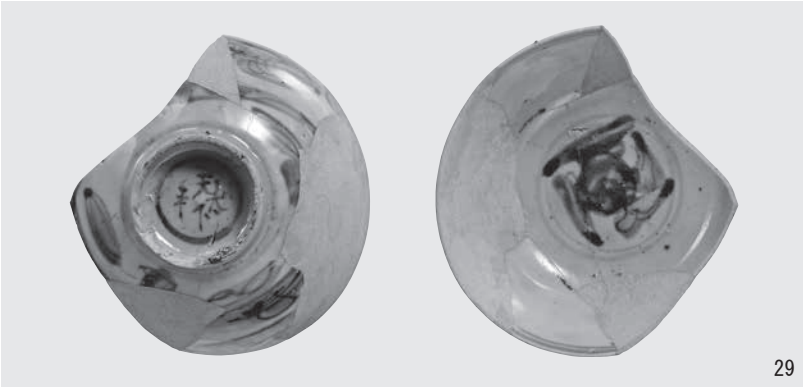

20


21

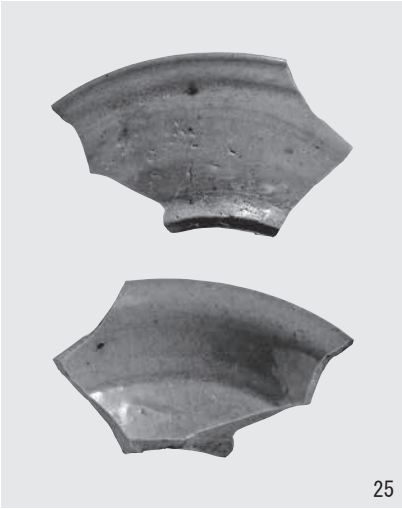

22


23


27


29

24

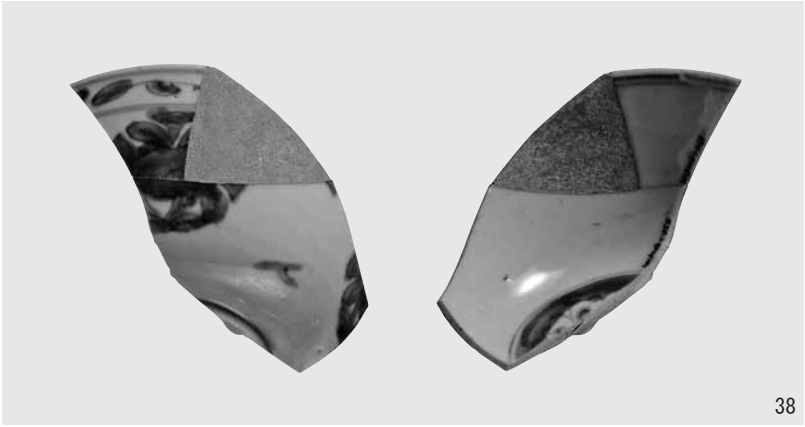

25

26

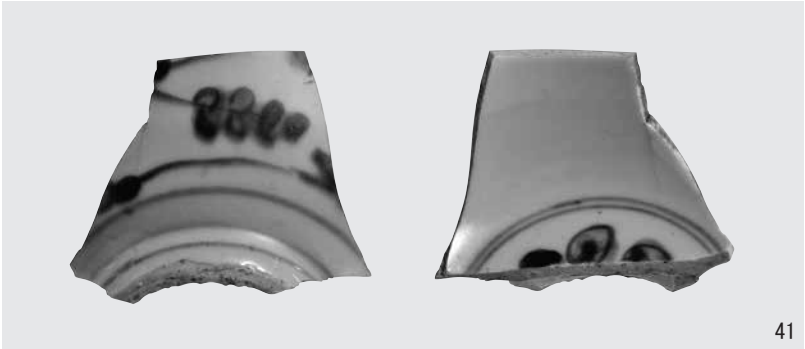
28

1区出土土器・陶磁器（3）

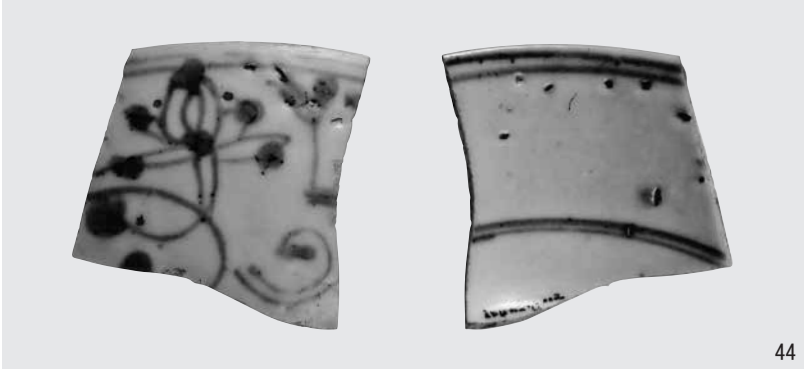
1区出土土器・陶磁器（4）

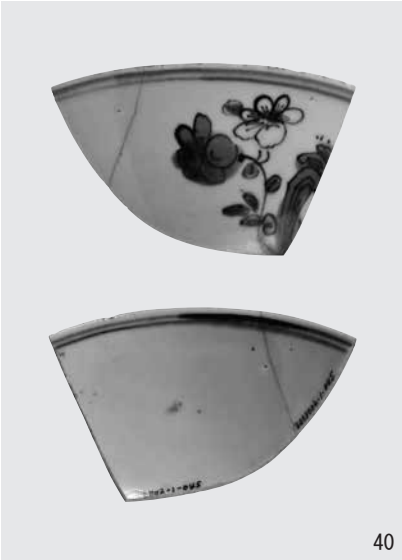

38

39


41

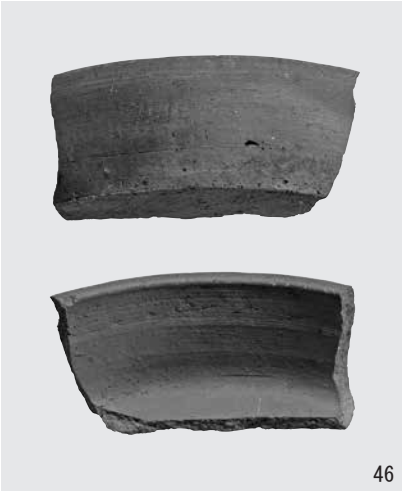
42


44

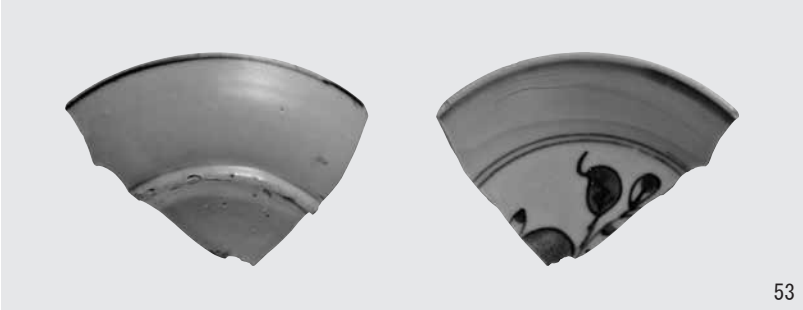

40

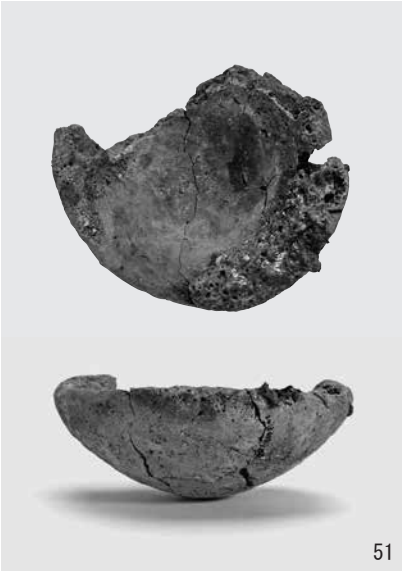
43

45


46

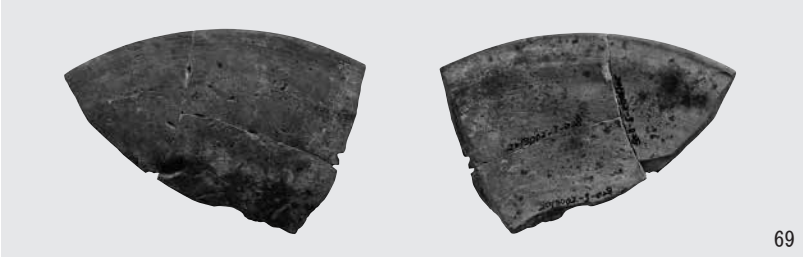
1区出土土器・陶磁器（5）





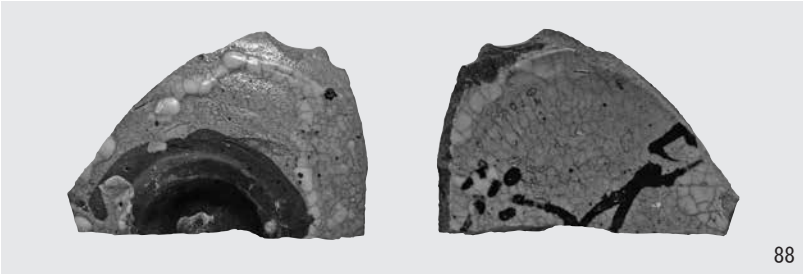
１区出土土器・陶磁器（6）　２区出土土器・陶磁器（1）

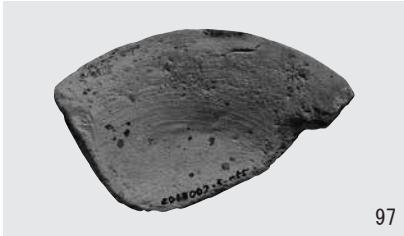
２区出土土器・陶磁器（2）　３・４区出土土器・陶磁器（1）



３・４区出土土器・陶磁器（2）

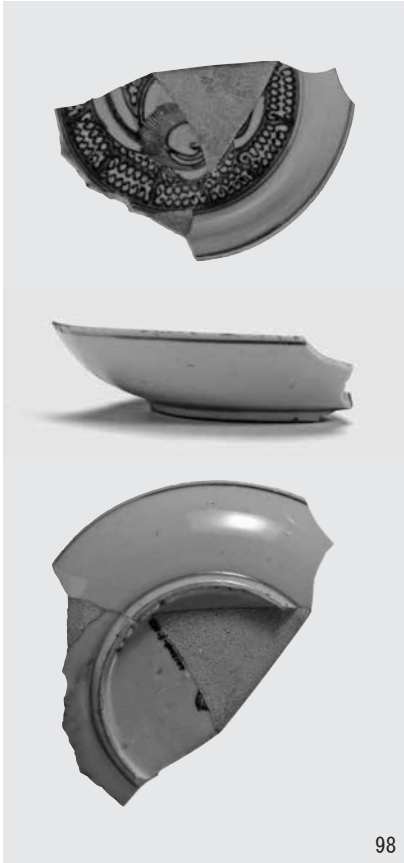
３・４区出土土器・陶磁器（3）　５区出土土器・陶磁器（1）


88


97

89

94


98

95

90

96

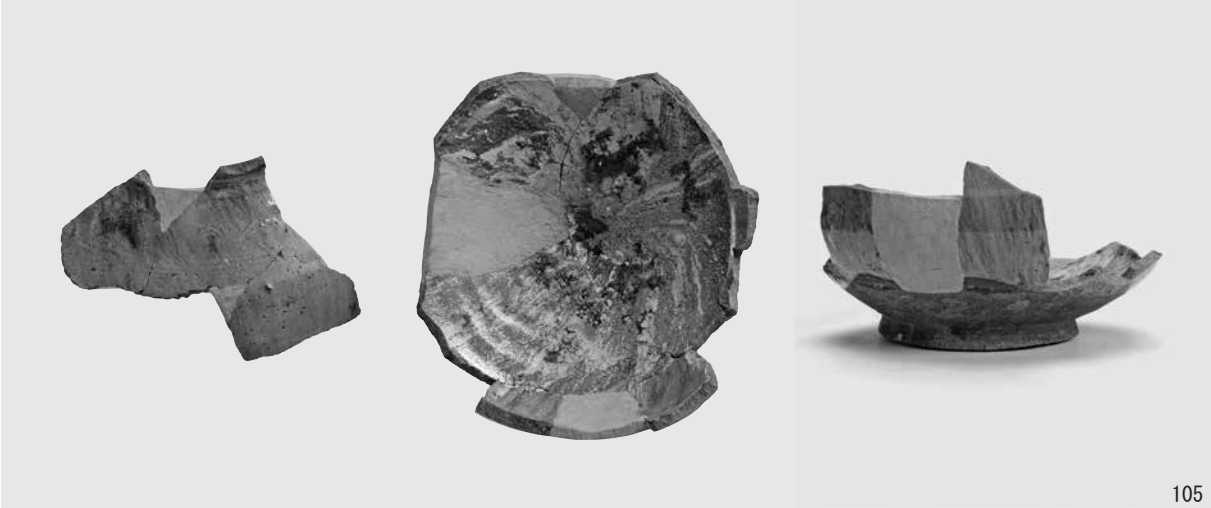
99

91

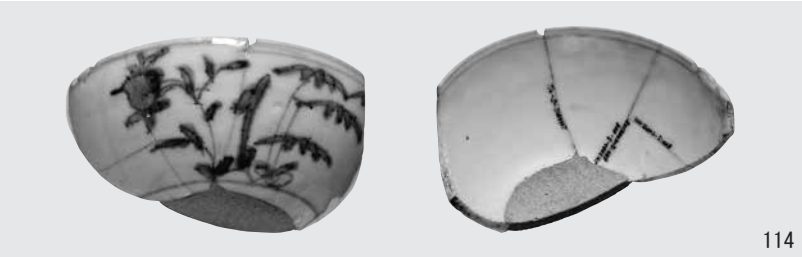
92

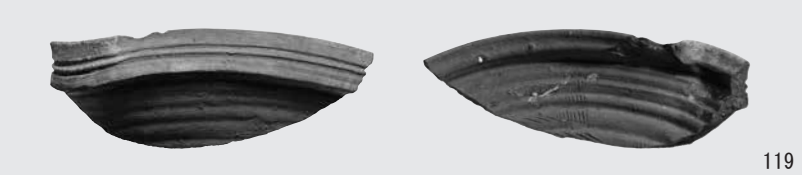
93

５区出土土器・陶磁器（2）



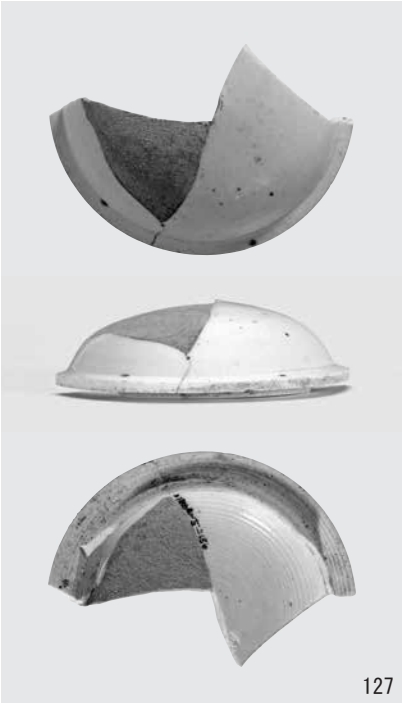
５区出土土器・陶磁器（3）

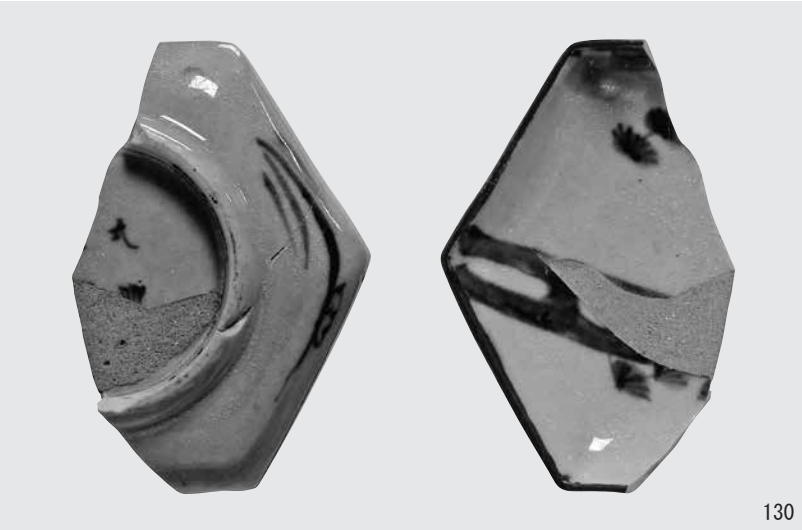




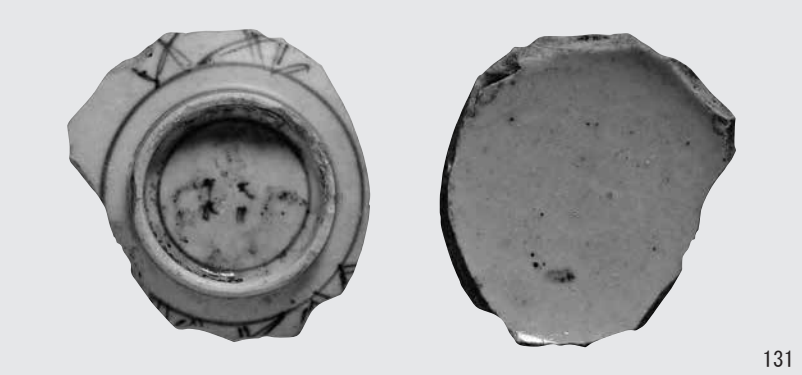
５区出土土器・陶磁器（4）

５区出土土器・陶磁器（5）

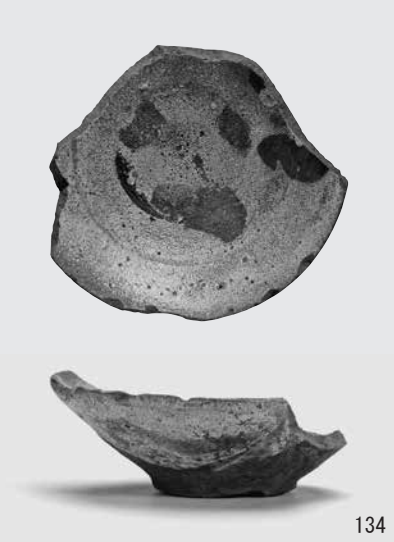

127


130

129


131

132


134

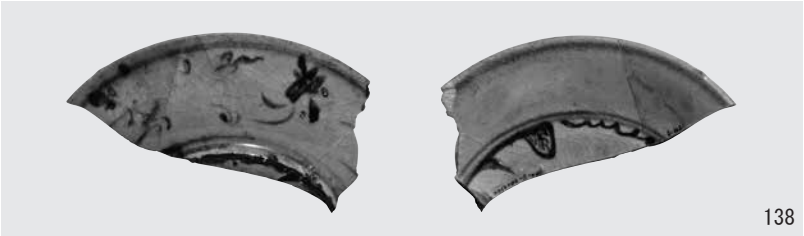
136

133

135

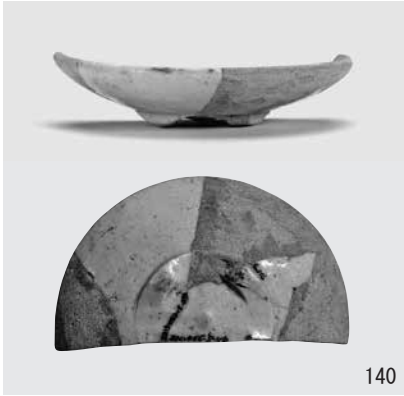
137

５区出土土器・陶磁器（6）


138

139

141

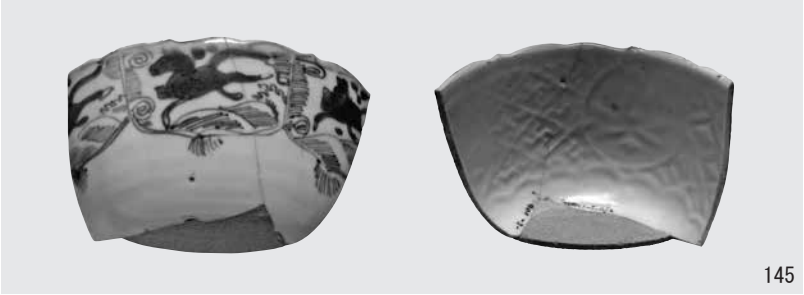

140

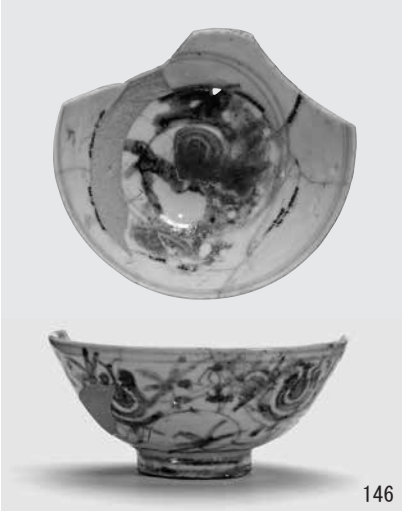
142

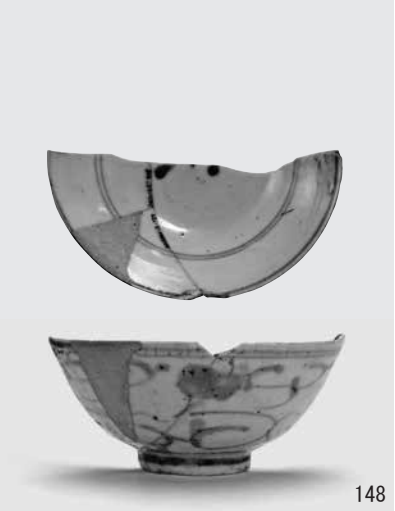
143

144

147


145


146


148

５区出土土器・陶磁器（7）

149

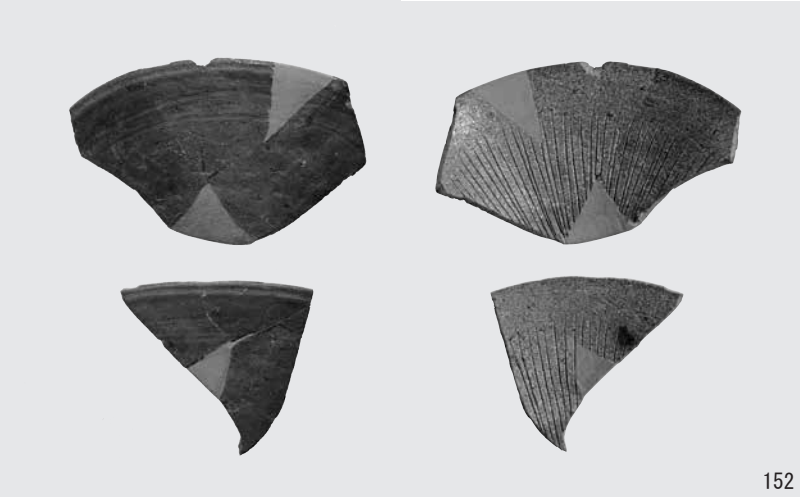
150

154

155

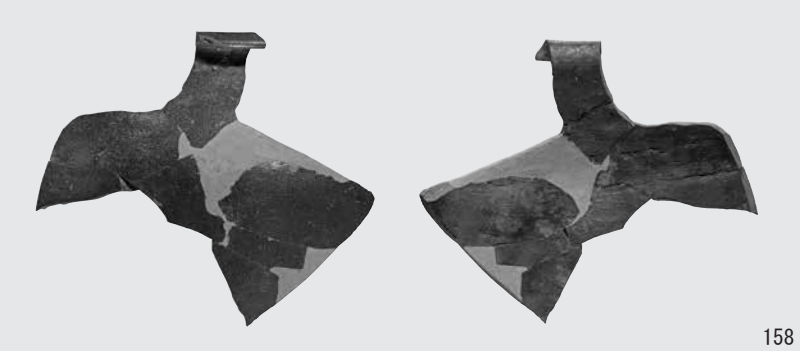
156

151

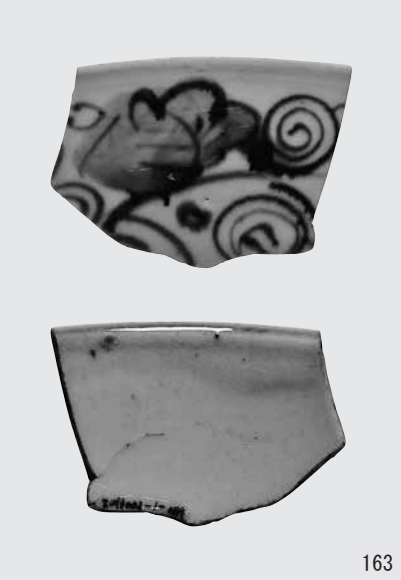

152

153

157

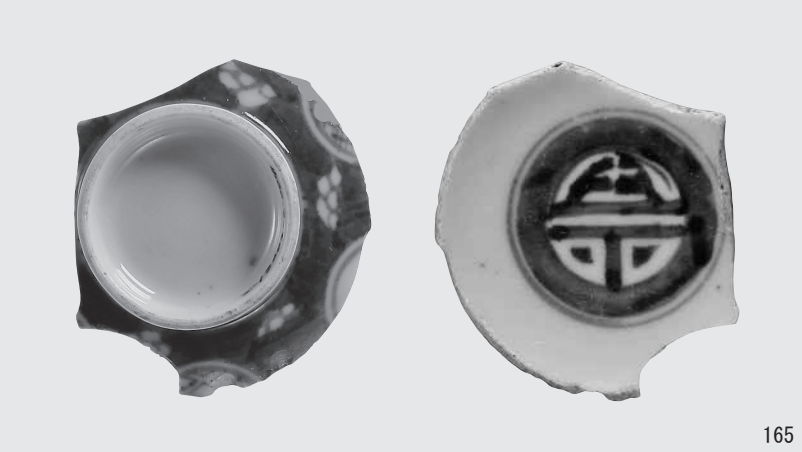

158

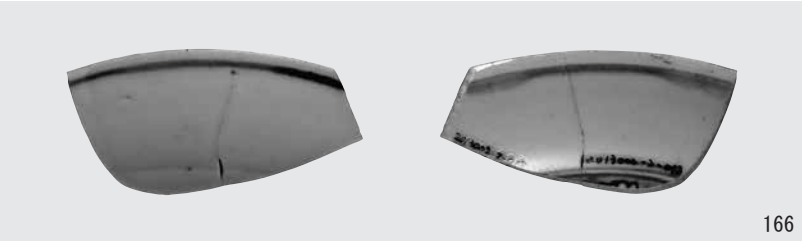
５区出土土器・陶磁器（8）



５区出土土器・陶磁器（9）　各地区出土土器・陶磁器（1）

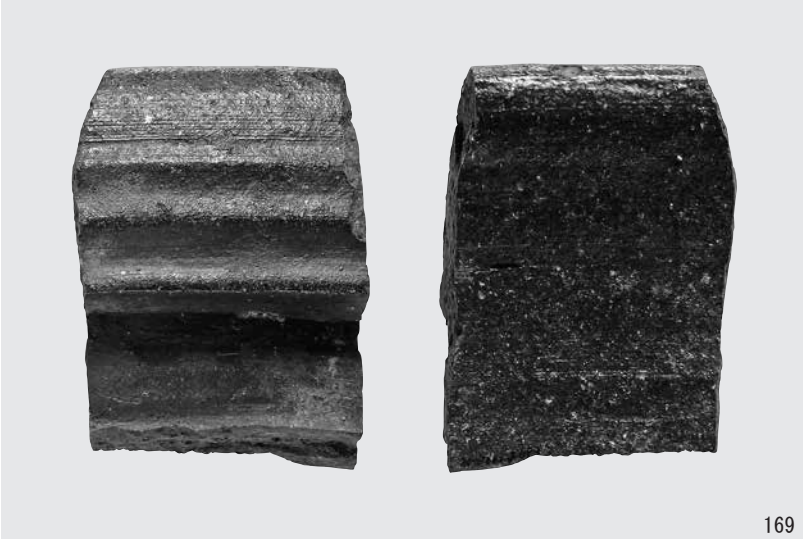
164


165


166

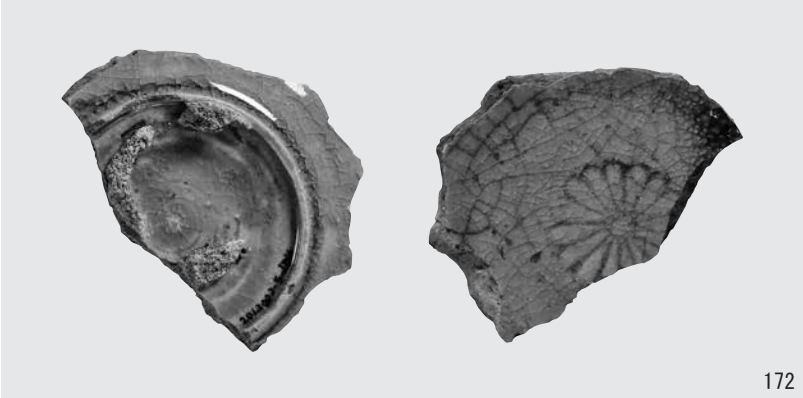
168

167

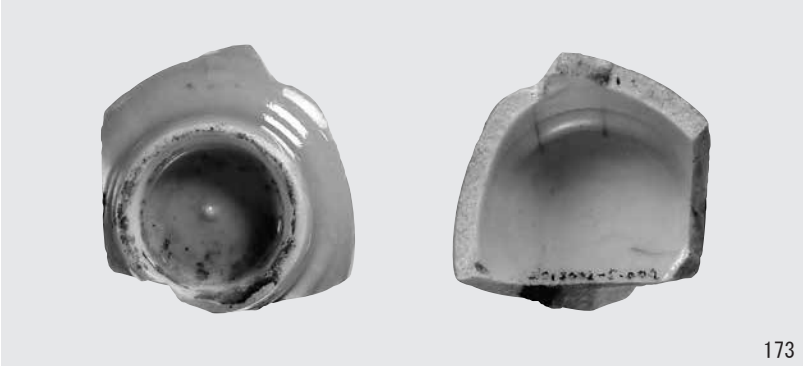

169

各地区出土土器・陶磁器（2）

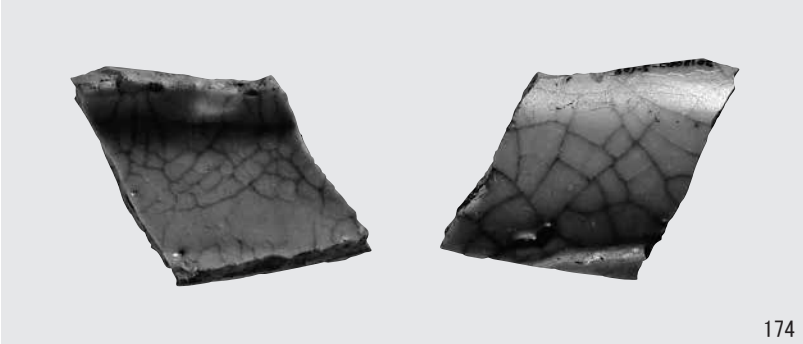
170


172

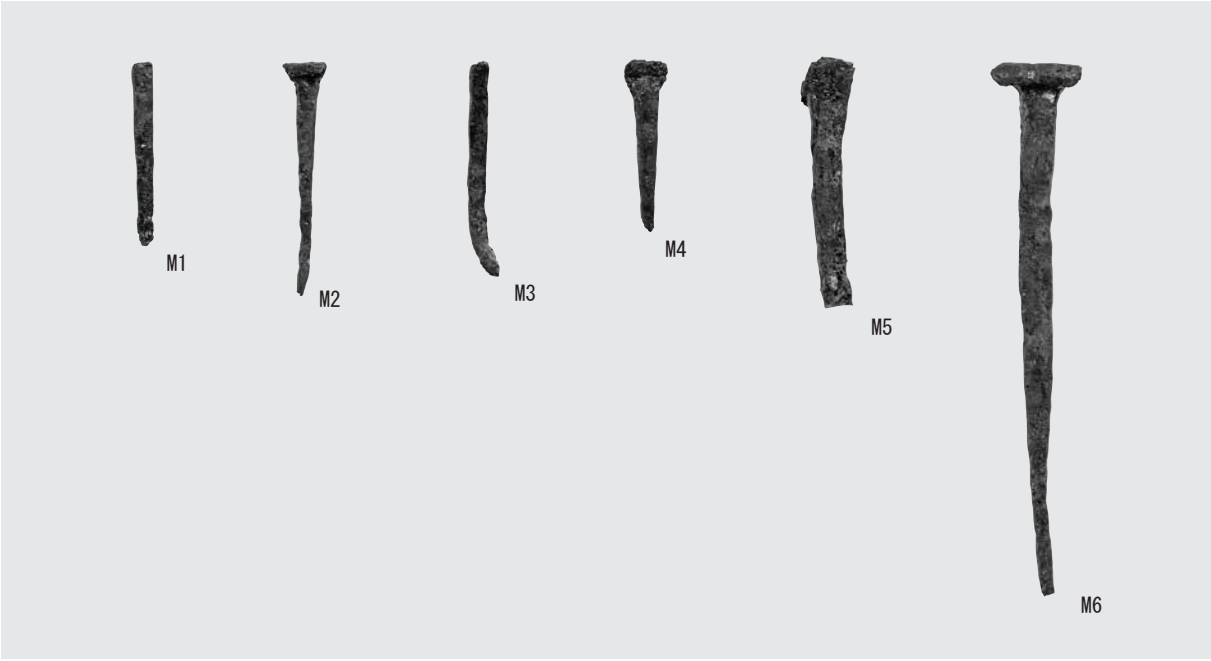
171

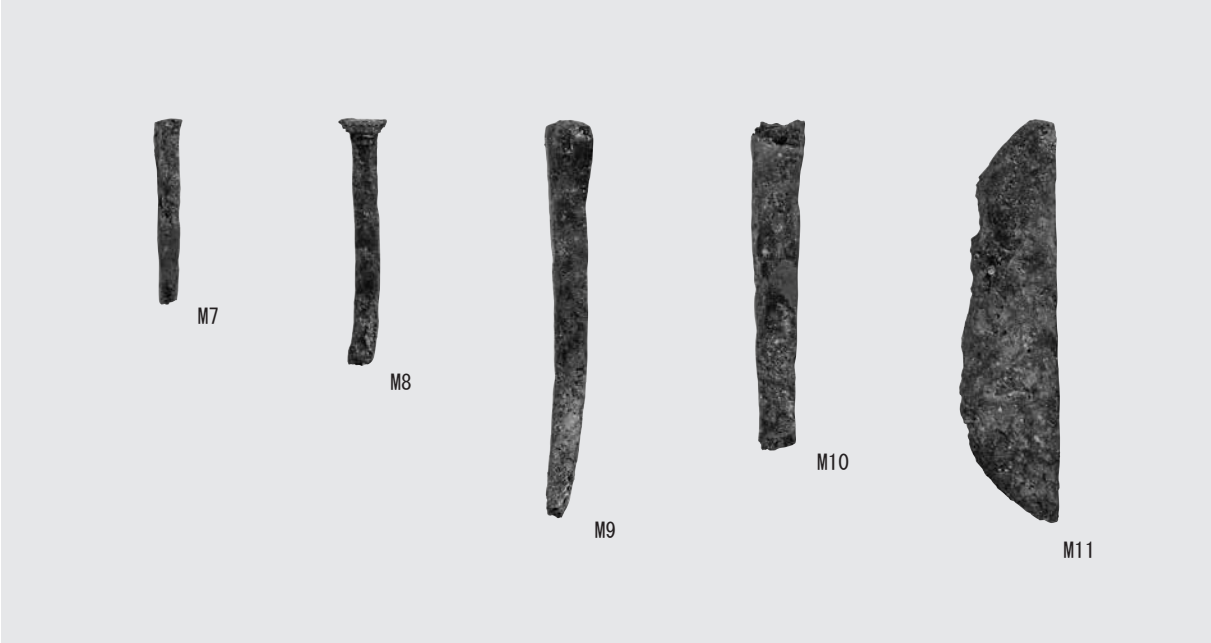

173

175

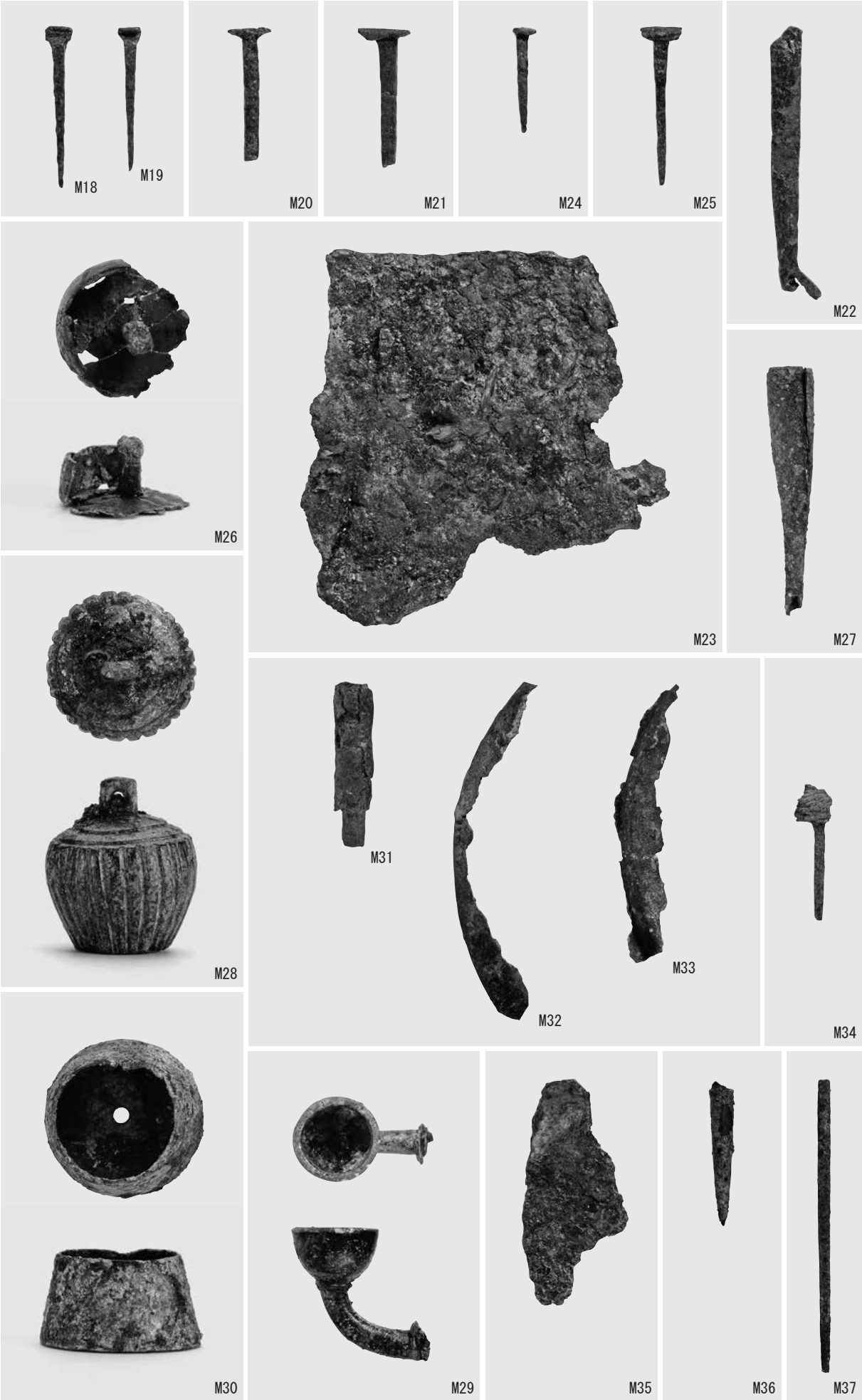

174

各地区出土の木製品

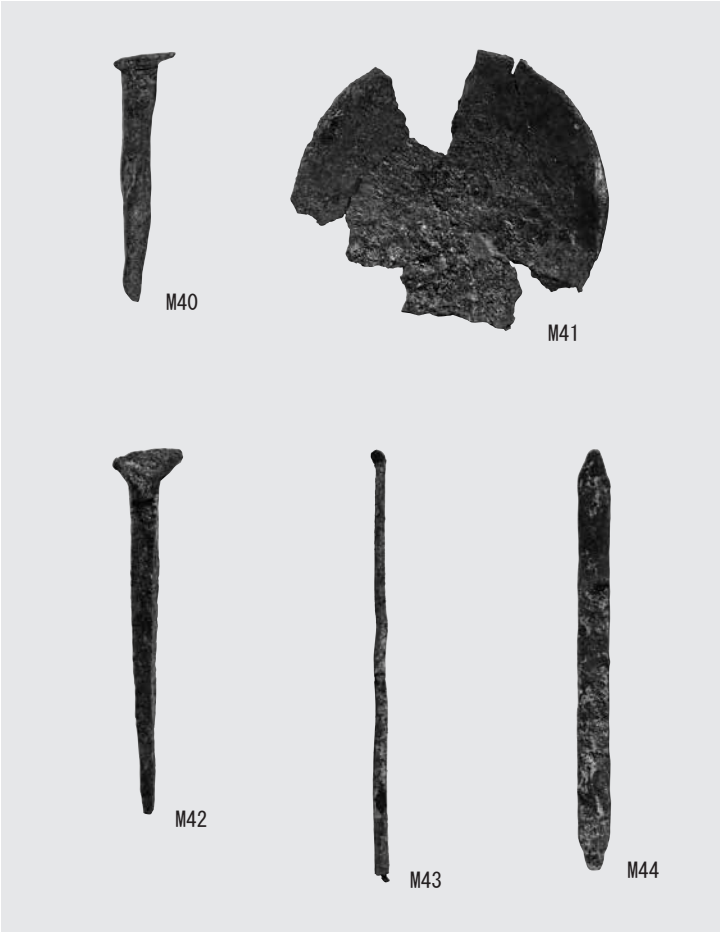




各地区出土の金属製品（1）

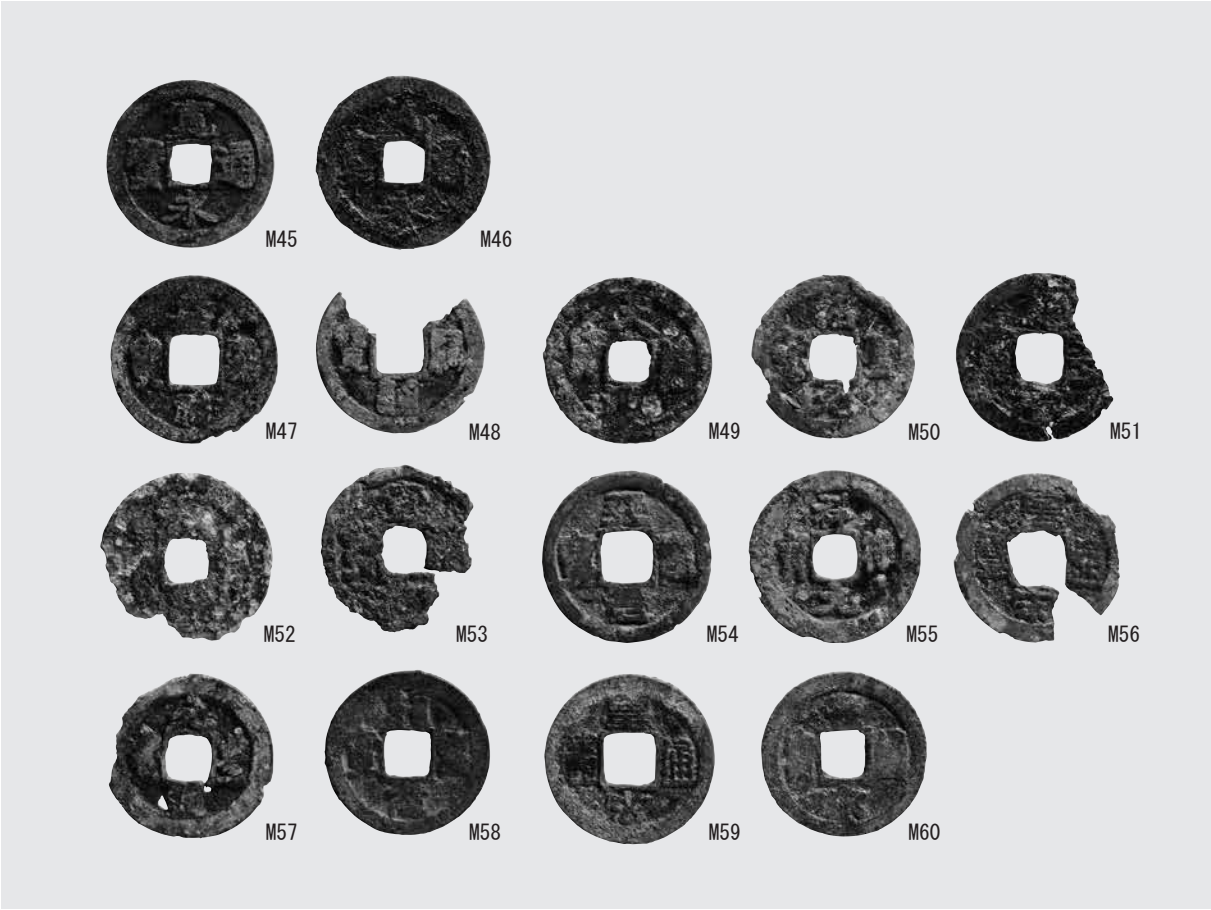


各地区出土の金属製品（2）

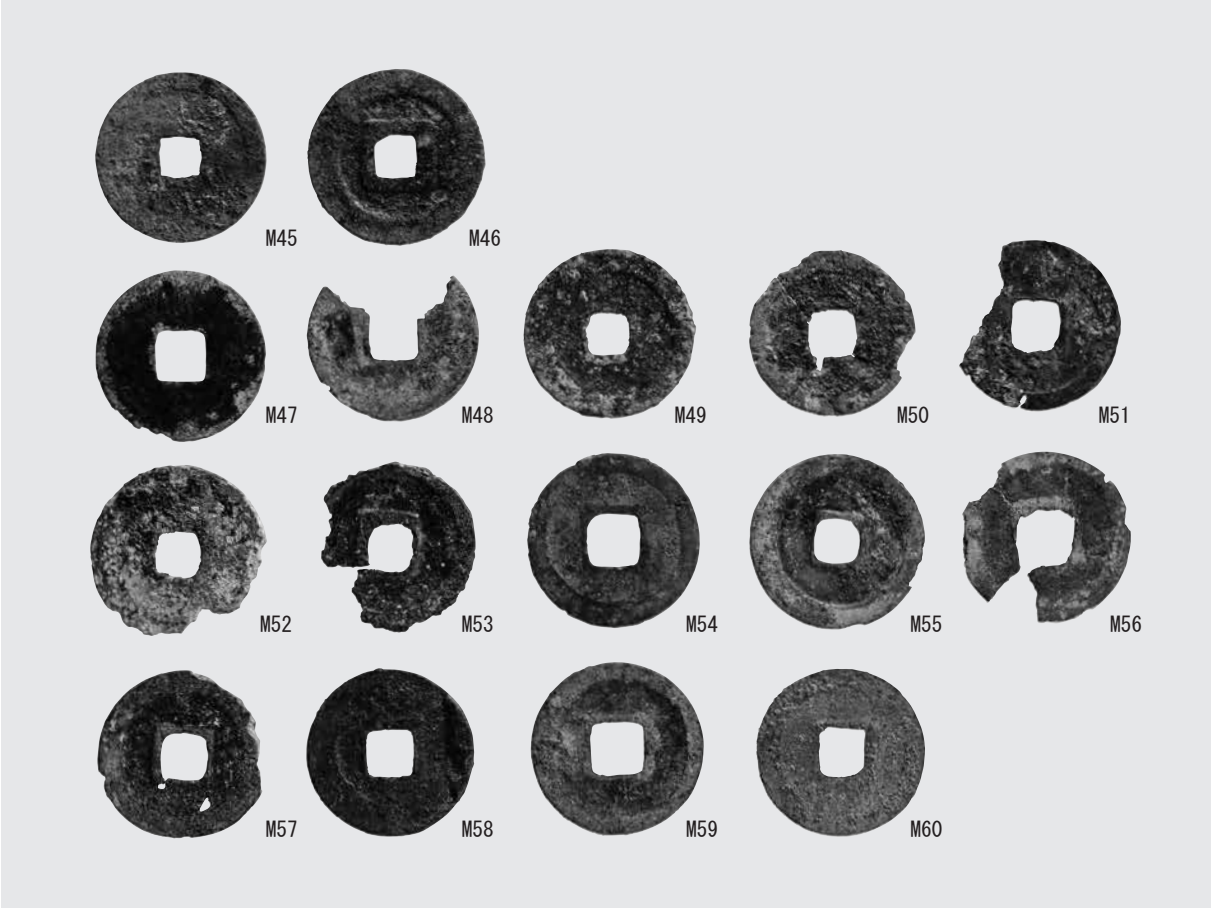


各地区出土の金属製品（3）　各地区出土の石製品（1）

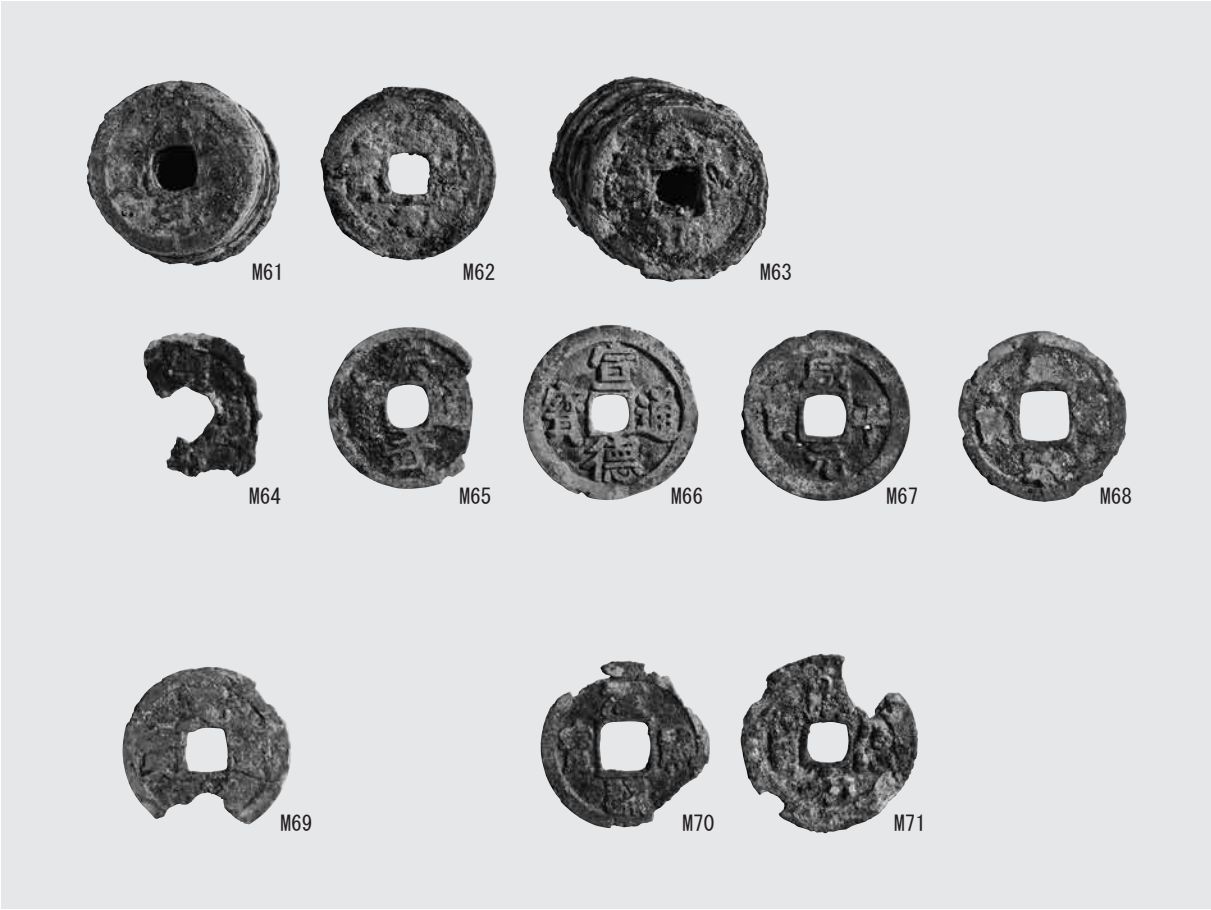
各地区出土の石製品（2）



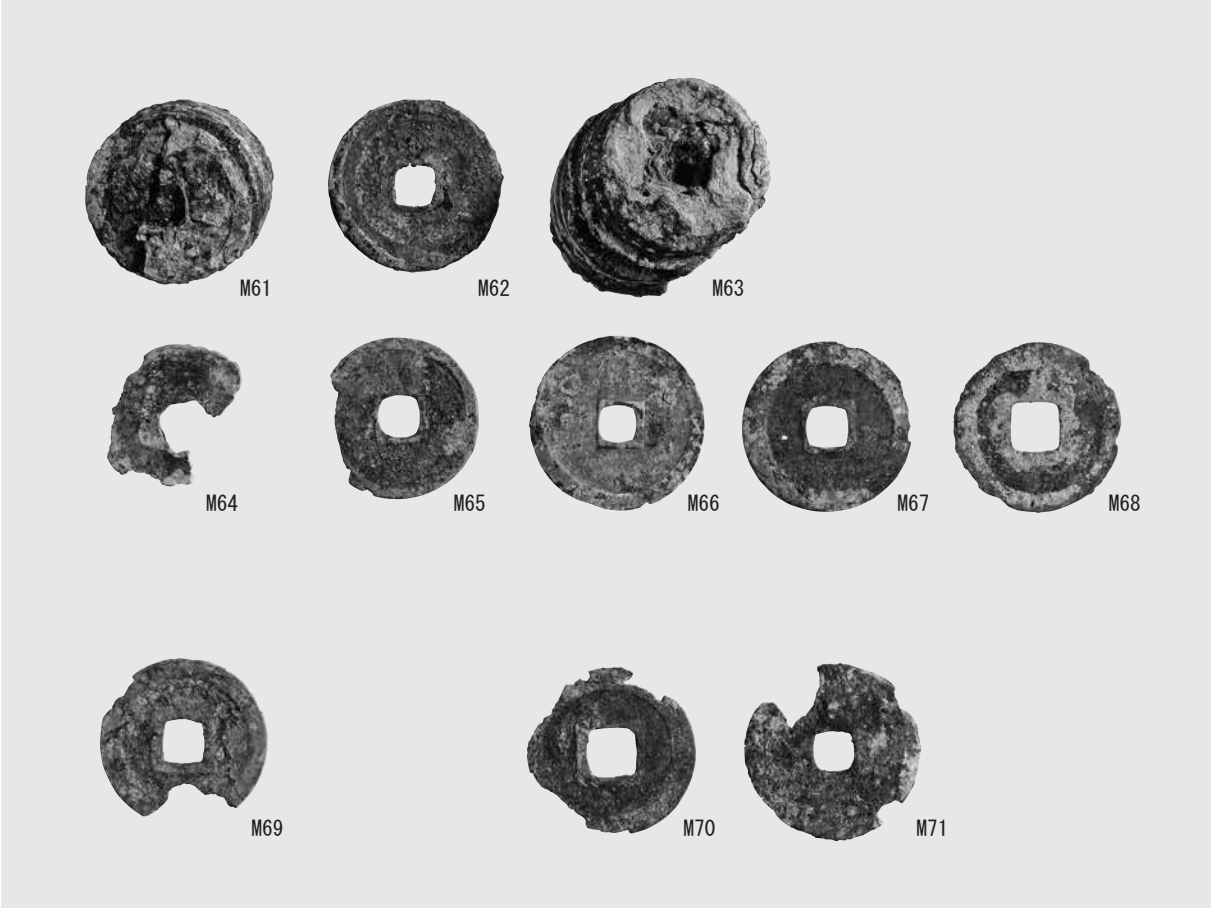
T6・東区および１区出土銅銭（1）　表面



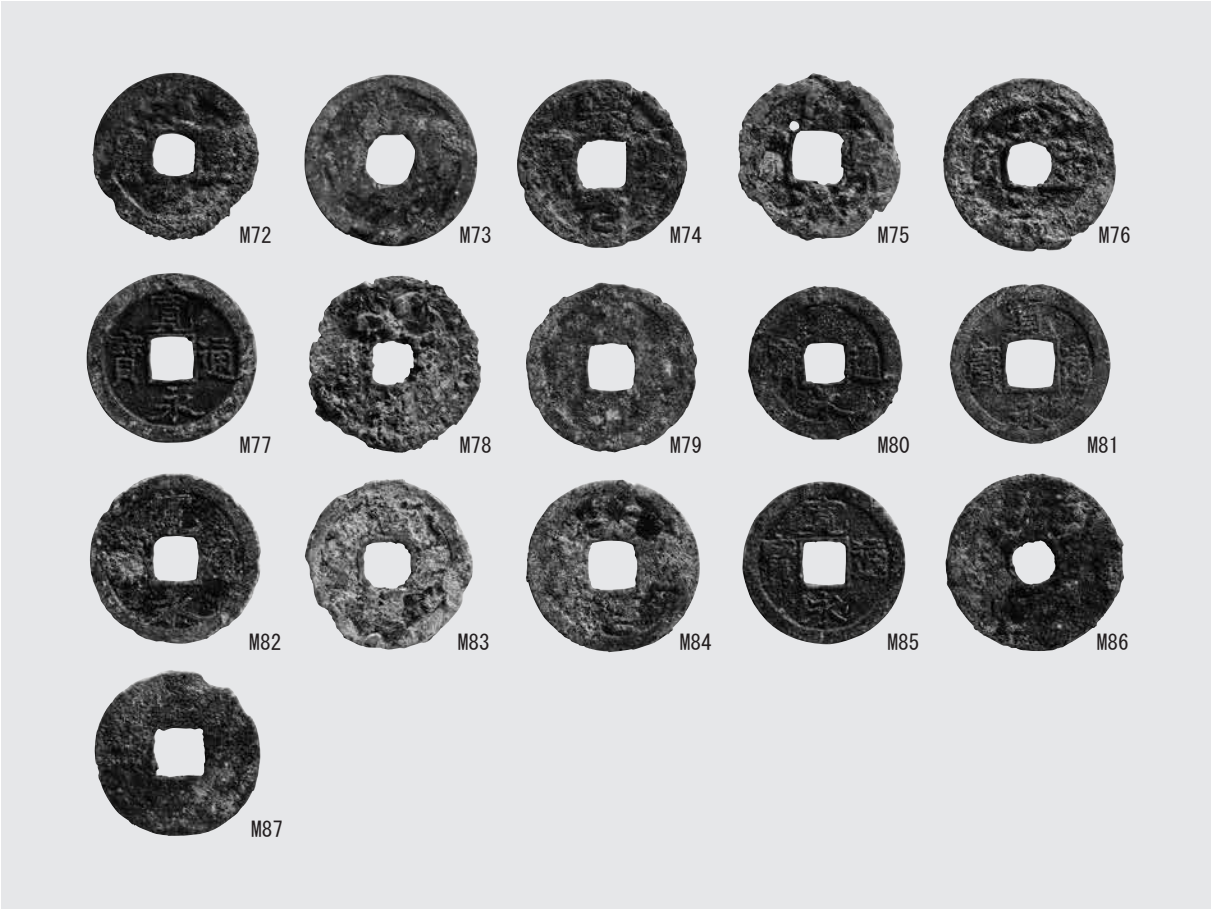
T6・東区および１区出土銅銭（1）　裏面



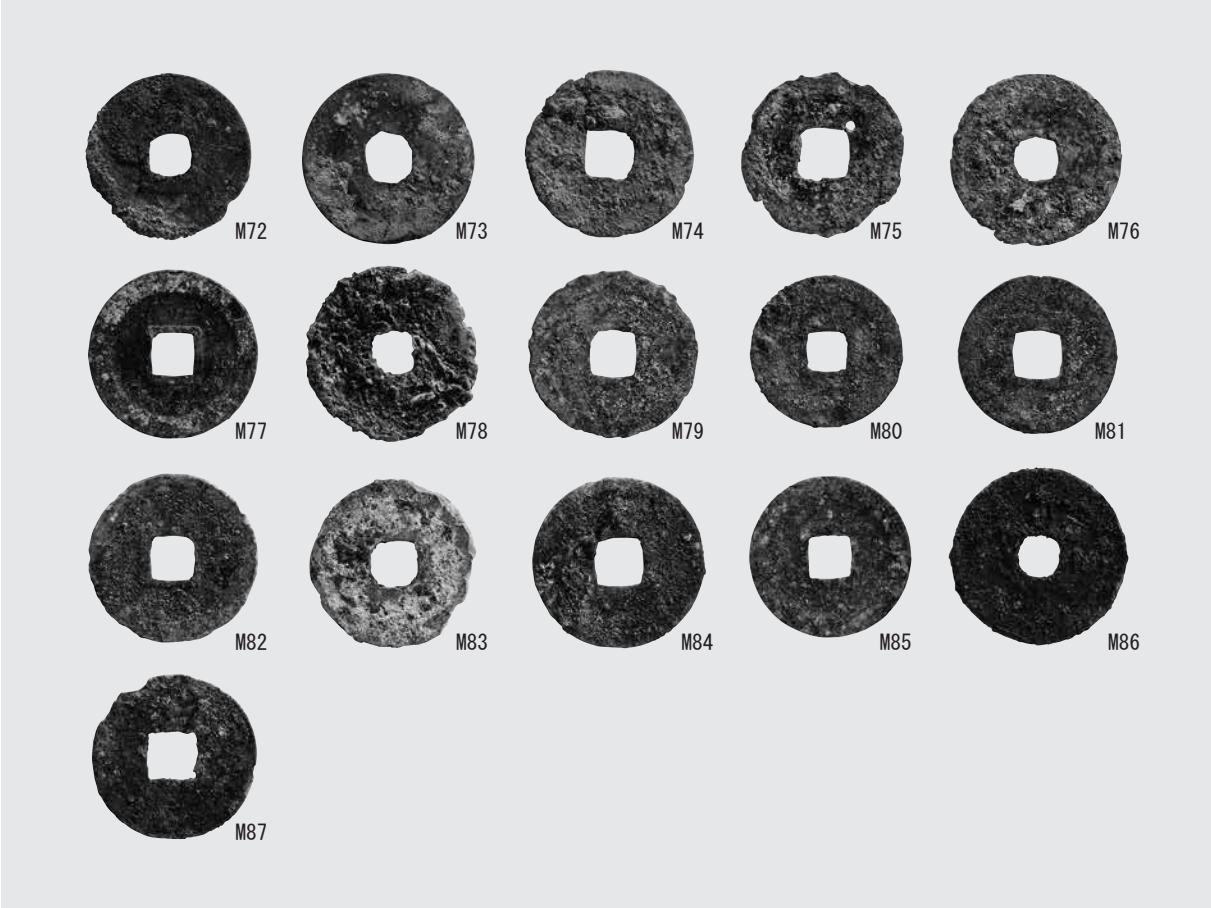
１区出土銅銭（2）　２区出土銅銭　表面



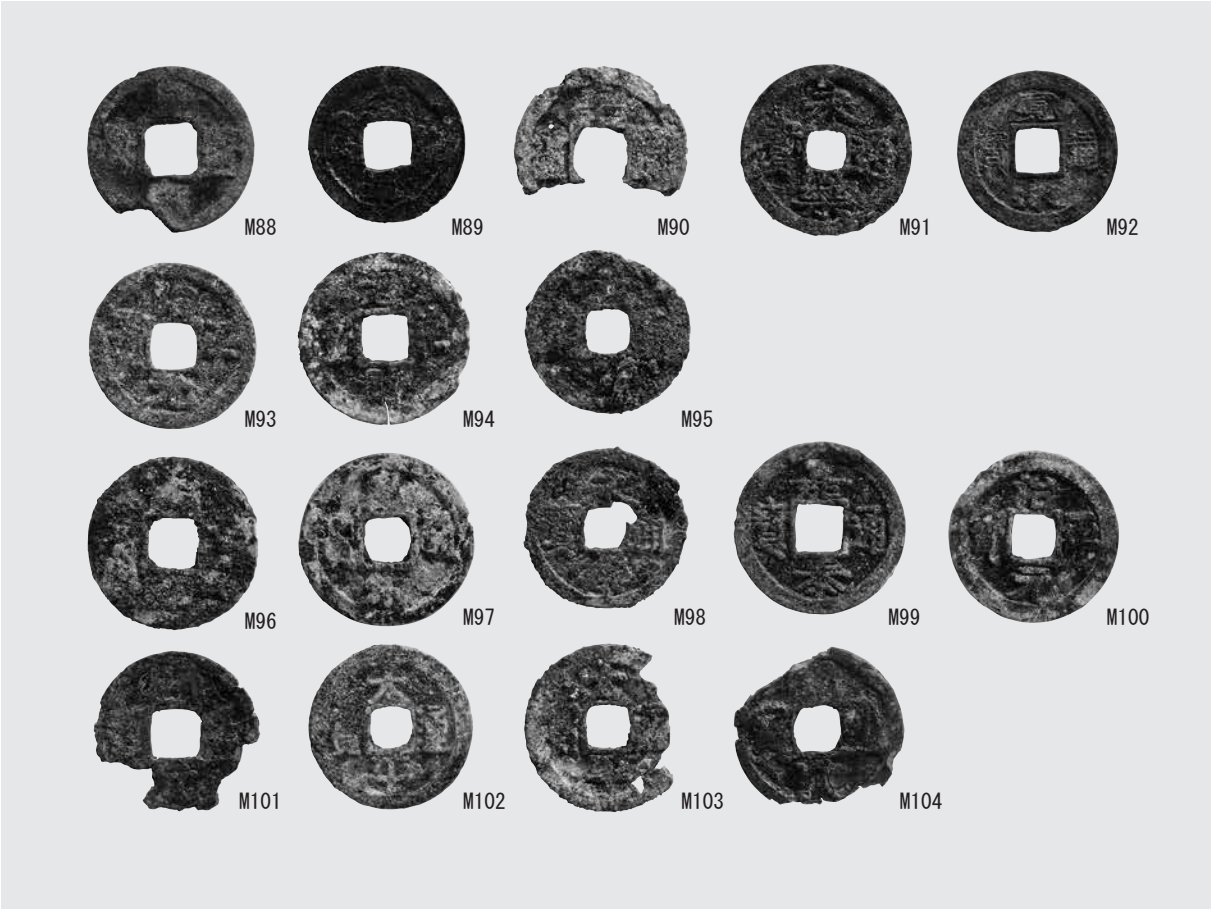
１区出土銅銭（2）　２区出土銅銭　裏面



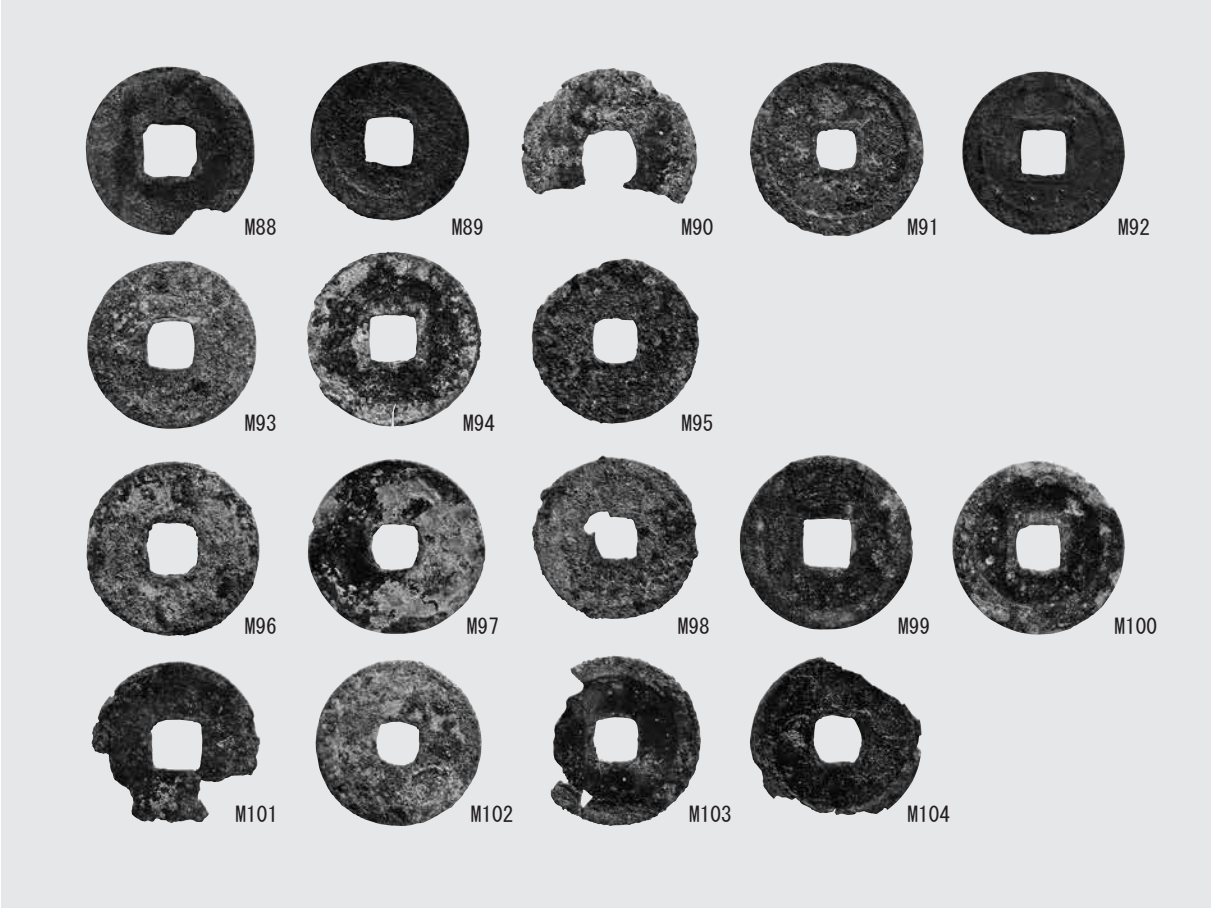
３・４区出土銅銭　表面



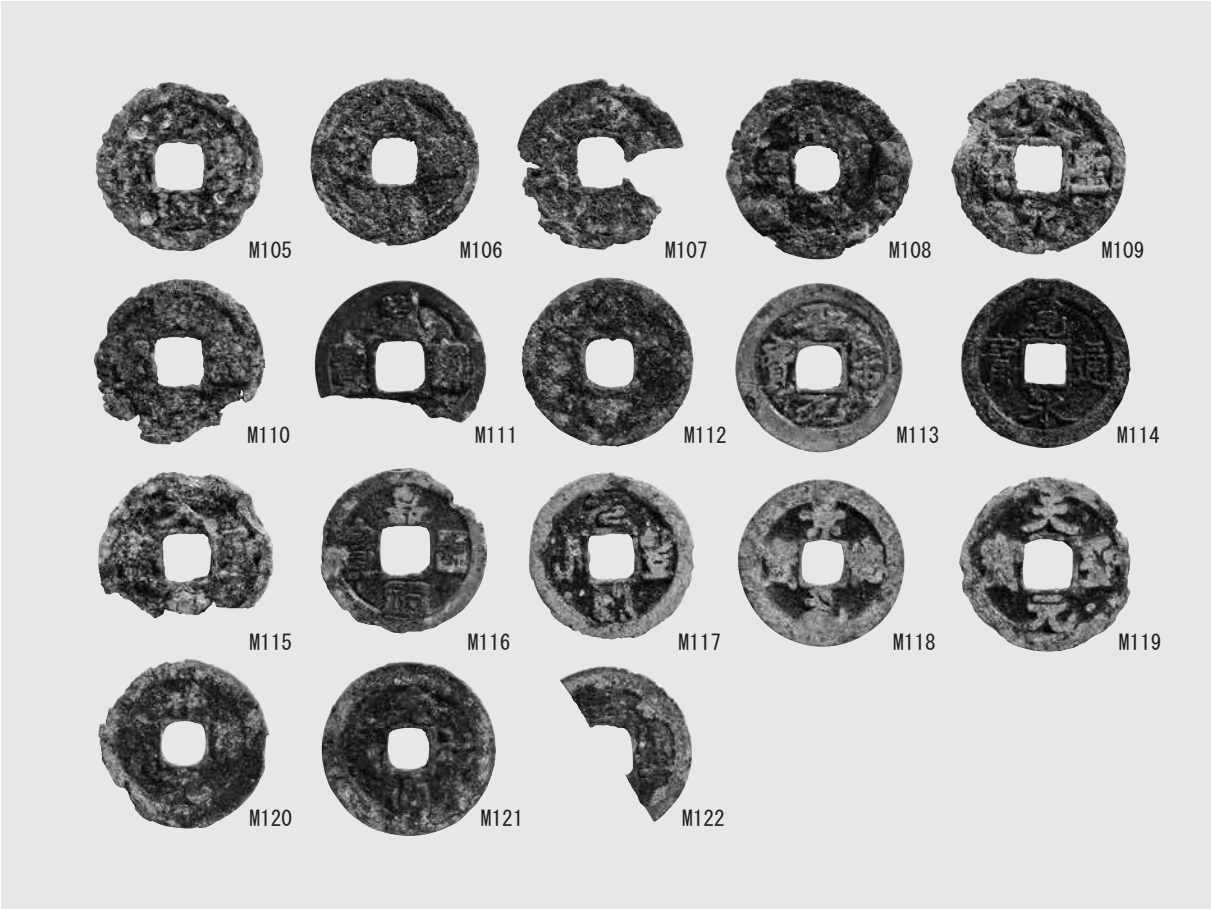
３・４区出土銅銭　裏面



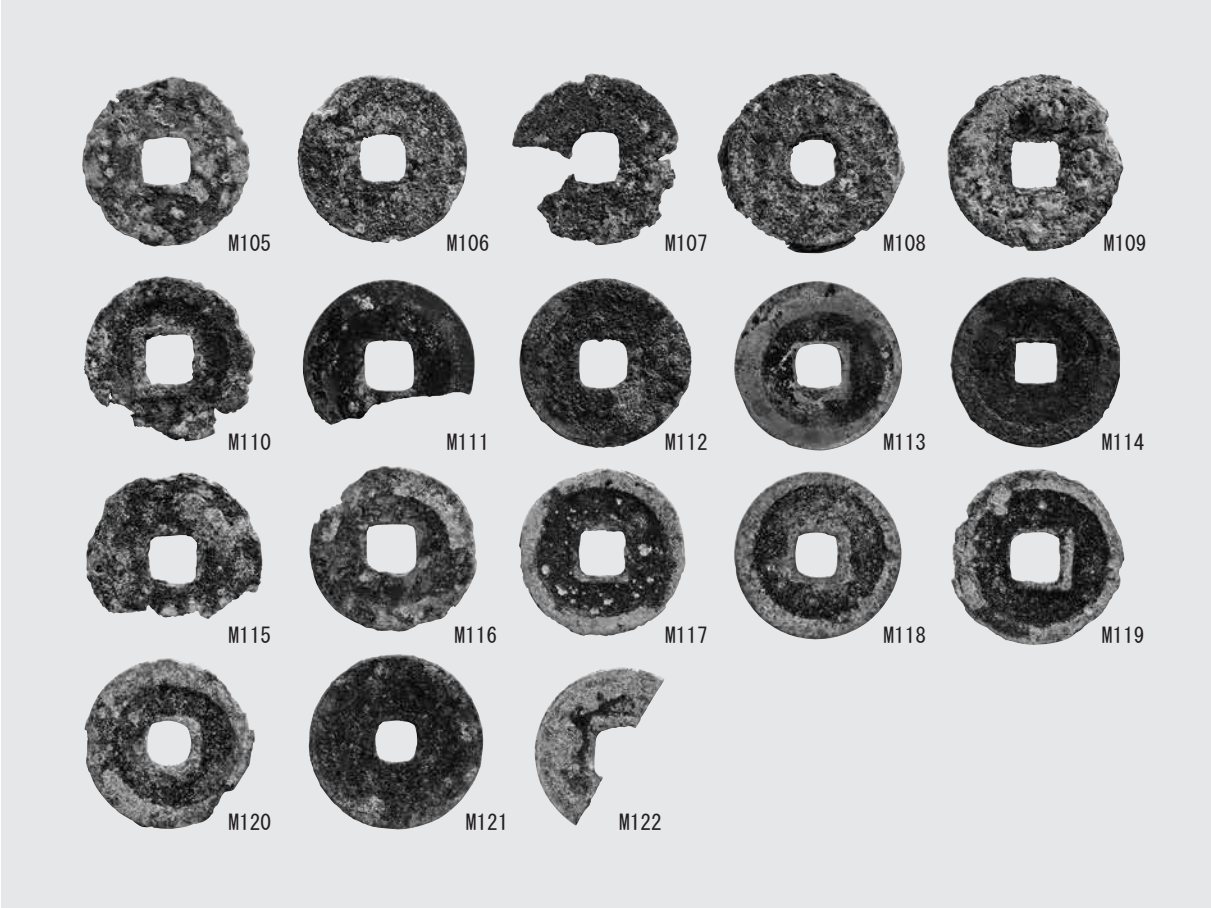
５区出土銅銭（1）　表面



５区出土銅銭（1）　裏面



５区出土銅銭（2）　表面



５区出土銅銭（2）　裏面

報告書抄録 （Outline of the Report）

ふりがな	いくのだいかんしょあとかんれんいせき	About the Report
書　名	生野代官所跡関連遺跡発掘調査報告書	Excavation report of the Ikuno deputy official archaeological site
副書名	一般国道 429 号電線共同溝・歩道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告	Report of the Archaeological Sites of Hyogo prefecture vol. 482
シリーズ番号	第482冊	
編著者名	久保弘幸	The Author/Editor : Hiroyuki Kubo
編集機関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部	Hyogo Construction Technology Center for Regional Development Archeological Research Department Address : 1-1-1 Onaka, Harima-cho, Hyogo pref. Japan
所 在 地	兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1 （兵庫県立考古博物館内）　TEL 079-437-5561	
発行機関	兵庫県教育委員会	Hyogo prefectural Board of Education
所 在 地	〒 650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1 TEL 078-362-3784	Address : 5-10-1 shimoyamate St., chuo-ku, Kobe,Hyogo pref. Japan
発行年月日	平成 28（2016）年 3 月 25 日	Publication : March 25, 2013
資料保管機関	兵庫県立考古博物館	Hyogo prefectural museum of Archaeology
所 在 地	〒 675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1 TEL 079-437-5589	Address : 1-1-1 Onaka, Harima-cho, Hyogo pref. Japan

所収遺跡名	所 在 地	コード		北　緯	東　経
生野代官所跡関連遺跡	朝来市生野町口銀谷	市町村	遺跡番号	northern latitude	east longitude
		28225	720003	35° 10′ 02″	134° 47′ 39″

遺跡調査番号	調査の種別	調 査 期 間	調査面積（㎡）	調 査 原 因
2011239	本発掘調査	2011 年 6 月 27 日・6 月 28 日・7 月 4 日	90 ㎡	記録保存調査
2013002		2013 年 5 月 17 日～ 9 月 12 日	290 ㎡	

遺跡の種別	集落遺跡・生産遺跡	主な遺構	礎石建物跡・土坑・溝・精錬遺構
遺跡の時代	織豊時代 江戸時代	主な遺物	陶磁器・土師器・金属器

要　約	織豊期末～江戸時代前期の遺構・遺物が検出された。織豊期～江戸時代初頭の遺物は、当時比較的高価であったと推定される中国産陶磁器を多く含み、この時期の調査地付近は、生野鉱山に関連する商取引などをおこなう富裕な商人屋敷などが営まれていたと推定される。その後、調査地付近には精錬関係の工房が設けられたことが、多量に堆積した炭および焼土層などから推定される。
Abstract	Remains of old structures and the remains from the end of 16th century to 17th century were excavated. In the remains, Chinese (Soong) imported ceramics are included a lot. Therefore, I can estimate that there were wealthy merchant mansions around the excavation area. They would do a transaction in conjunction with Ikuno silver mine. After the mansions disappeared, studios for copper refinement were established.

Address of the site	Kuchiganaya, Ikuno-cho, Asago, Hyogo pref. Japan	Date of the Excavation	2011/06/27・06/28・07/04 2013/05/17 ～ 2013/09/12
Category	Remains of mansion Remains of refinement studio	Archaeological Features	Pit holes, Pits for disposal, Furnaces, Furnaces for refinement
Period	Aduchi-Momoyama ～ Early Edo period Late 16th century ～ Early 17th century	Main Relics	Ceramic ware(Domestic and China production /Haji-ware/Iron tools/ Bronze coins(Imported from China)

兵庫県文化財調査報告　第 482 冊

朝来市

生野代官所跡関連遺跡

－　一般国道 429 号電線共同溝・歩道整備事業に伴う発掘調査　－

平成 28（2016）年 3 月 25 日　発行

編集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒 675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号
（兵庫県立考古博物館内）

発行：兵庫県教育委員会
〒 650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号

印刷：株式会社 北星社
〒 668-0061　兵庫県豊岡市上佐野 1620